

ユーザーマニュアル



Altova SchemaAgent 2019

ユーザーマニュアル

All rights reserved. No parts of this work may be reproduced in any form or by any means - graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, recording, taping, or information storage and retrieval systems - without the written permission of the publisher.

Products that are referred to in this document may be either trademarks and/ or registered trademarks of the respective owners. The publisher and the author make no claim to these trademarks.

While every precaution has been taken in the preparation of this document, the publisher and the author assume no responsibility for errors or omissions, or for damages resulting from the use of information contained in this document or from the use of programs and source code that may accompany it. In no event shall the publisher and the author be liable for any loss of profit or any other commercial damage caused or alleged to have been caused directly or indirectly by this document.

発行日: 2019

(C) 2019 Altova GmbH

目次

1	Altova SchemaAgent 2019	3
2	このドキュメントについて	6
3	はじめに	8
3.1	システムの必要条件	9
3.2	SchemaAgent の主要な機能	10
3.3	検索パスの構成	12
3.3.1	検索パスの追加と編集	14
3.3.2	ファイル拡張子の構成	16
3.3.3	検索パスの再ロードとリセット	17
3.3.4	構成ファイルのビュー	17
4	SchemaAgent チュートリアル	20
4.1	SchemaAgent Client のセットアップ	21
4.1.1	LocalServer への接続	21
4.1.2	サンプルフォルダーへ検索パスを構成する	22
4.2	XML スキーマ間のリレーションシップの作成	25
4.2.1	インクルードリレーションシップの作成	25
4.2.2	再定義リレーションシップの作成	27
4.2.3	インポートリレーションシップの作成	28
4.3	XMLSpy を SchemaAgent クライアントとして使用する	29
4.3.1	XMLSpy を LocalServer に接続する	29
4.3.2	要素をグローバルな複合型にする	30
4.3.3	インクルード型	31
4.3.4	型の再定義	32
4.3.5	再定義型の使用	35
4.3.6	インポート型	37
4.3.7	XMLSpy のみを使用して型をインクルードする	38
4.4	アップデートされたリレーションシップの表示	42
4.5	MapForce デザイン (MFD) ファイルの表示	44

5 SchemaAgent Server 48

5.1	SchemaAgent Server のインストール	49
5.2	SchemaAgent Server の開始	52
5.3	SchemaAgent Server の非表示	53
5.4	SchemaAgent Server の終了	54
5.5	SchemaAgent Server ユーザーインターフェイス	55
5.5.1	環境ウィンドウ	55
5.5.2	ログウィンドウ	56
5.6	SchemaAgent Server GUI の構成	58
5.7	ユーザーレファレンス	60
5.7.1	ファイルメニュー	60
5.7.2	表示メニュー	60
5.7.3	設定メニュー	60
5.7.4	ヘルプメニュー	60
	目次	61
	キーワード	61
	検索	61
	サポートセンター	62
	Web 上の FAQ	62
	インターネット上の SchemaAgent Server.....	62
	SchemaAgent Server について.....	62

6 SchemaAgent Client 64

6.1	SchemaAgent Client のインストール	65
6.2	SchemaAgent Client の開始	66
6.3	SchemaAgent Client ユーザーインターフェイス	67
6.3.1	エクスプローラー ウィンドウ.....	67
6.3.2	概要ウィンドウ	69
6.3.3	デザインウィンドウ	70
6.3.4	メニューバー、ツールバー、ステータスバー.....	70
6.3.5	情報ウィンドウの整理	71
6.4	サーバーへの接続	73
6.4.1	ローカルでの作業	74
6.4.2	ネットワークサーバーへの接続.....	74
6.5	Explorer との作業	75
6.5.1	ファイルとフォルダーの作成.....	76

6.5.2	ファイルとフォルダーの名前の変更.....	78
6.5.3	ファイルとフォルダーの削除.....	78
6.5.4	ファイルの編集	79
6.6	デザインウィンドウ内でのファイルの表示	80
6.6.1	デザインの作成と保存	82
6.6.2	ファイルとフォルダーの挿入.....	83
6.6.3	関連するフォルダーの挿入.....	84
	直接関連付けられたファイル.....	85
	間接的に関連付けられたファイル.....	86
	リンクされているファイル.....	87
6.6.4	デザイン内でファイルを整理する.....	87
6.6.5	スキーマの表示	88
6.6.6	XML インスタンスファイルの表示.....	90
6.6.7	XSL/ XSLT スタイルシートの表示.....	91
6.6.8	WSDL ファイルの表示	93
6.6.9	リレーションの表示	94
	スキーマリレーションシップ.....	97
	XML インスタンス.....	97
	スタイルシートのリレーションシップ.....	98
	WSDL リレーションシップ.....	99
	MapForce デザイン リレーションシップ.....	100
6.6.10	関連したコンポーネントの表示.....	102
6.6.11	MFD ファイルの表示	104
6.6.12	クイック情報の表示	105
6.7	デザインとの作業	110
6.7.1	ファイルの選択	110
6.7.2	ファイルの削除	112
6.7.3	ゴーストスキーマと正確ではないパス.....	112
	参照パスの修正.....	114
	ゴーストファイルとXML インスタンスの再作成.....	116
6.7.4	ファイルの再ロード	116
6.7.5	デザインオプション	116
	デザイン内でファイルを配置する.....	121
	デザイン内のファイルの並べ替え.....	125
6.7.6	コネクタのオプション	125
6.7.7	デザインの印刷	126
6.7.8	デザインをイメージとしてエクスポートする.....	128
6.8	IIR リレーションシップのデザイン	129

6.8.1	III リレーションの作成.....	129
6.8.2	III リレーションシップの移動.....	131
6.8.3	III リレーションの削除.....	131
6.9	ユーザーレファレンス	132
6.9.1	ファイルメニュー	132
	新規作成	133
	開く	133
	閉じる	133
	保存	133
	名前を付けて保存.....	133
	イメージをエクスポートする.....	133
	印刷	133
	印刷プレビュー.....	133
	プリンタの設定.....	133
	前回使用したファイル.....	134
	終了	134
6.9.2	編集メニュー	134
	切り取り	134
	コピー	134
	貼り付け	134
	削除	135
	再作成	135
	同期の選択	135
	選択	135
6.9.3	表示メニュー	137
	ツールバー	137
	ステータスバー.....	137
6.9.4	レイアウトメニュー	137
	グリッドの表示.....	138
	グリッドにあわせる.....	138
	ズーム	138
	レイアウト	139
	端へ整列	140
	1列に並べる	141
	順序	141
	サイズ変更	142
	均等	142
	並べ替え	143
6.9.5	拡張機能	143

	サーバーへの接続.....	143
	検索パスの再ロード.....	144
	正確な参照パス.....	144
	全ての参照パスを修正.....	145
6.9.6	ツールメニュー	146
	カスタマイズ	146
	コマンド	146
	ツールバー	147
	ツール	148
	キーボード	150
	メニュー	152
	オプション	154
	オプション	155
	デザイン	155
	フォント	158
	色	159
	リレーション	161
	その他	162
6.9.7	ウィンドウ メニュー	164
	重ねて表示	164
	水平方向に並べて表示.....	164
	垂直方向に並べて表示.....	164
	現在開かれているウィンドウのリスト.....	164
6.9.8	ヘルプメニュー	164

7 XMLSpy と SchemaAgent 172

8 ライセンス情報 174

8.1	電子的なソフトウェアの配布	175
8.2	ソフトウェアのアクティベーションとライセンスの計測	176
8.3	エンドユーザー使用許諾契約書	177

インデックス 179

チャプター 1

Altova SchemaAgent 2019

1 Altova SchemaAgent 2019

Altova SchemaAgent 2019 は複数のスキーマを管理し、GUI 内から W3C XML スキーマ間のリレーションシップをビルドすることができる Altova の技術です。SchemaAgent は Altova MapForce デザイン (MFD) ファイルとその関連付けられたスキーマと XSL、または、XSLT スタイルシートと WSDL ファイル間のリレーションシップの表示をおこないます。

Altova の SchemaAgent テクノロジーは 2つのコンポーネントにより構成されています:

- SchemaAgent サーバーはサポートされるファイルをネットワーク上の1つまたは複数の SchemaAgent Client にサブします。ローカル サーバーは SchemaAgent Client と共にインストールすることができ、また、独立した Altova SchemaAgent Server インストール、または、サービスとして作動します。
- SchemaAgent Client は、SchemaAgent サーバーによりサブされるファイルへのアクセスを提供する GUI を持つアプリケーションです。貼り付けとドラッグアンドドロップなどの標準の GUI メカニズムを使用して SchemaAgent Client ユーザーは、ファイル間のリレーションシップを簡単にビルドし、複数のファイル間での、パス参照などの大きな規模の変更を行うことができます。



最終更新日: 2019 年 03 月 28 日

チャプター 2

このドキュメントについて

2 このドキュメントについて

このドキュメントでは、SchemaAgent テクノロジーのしくみ、SchemaAgent サーバーとSchemaAgent Client の使用方法に関する概要の説明がされています。また、Altova の XMLSpy アプリケーション (Enterprise と Professional Edition) が SchemaAgent テクノロジーを活用することによりおこなうことのできる、パワフルなスキーマ編集と管理機能の概要の説明がされています。

どのドキュメントは以下のパートに整理されています:

- SchemaAgent への**はじめに** にとそのメカニズム。
- SchemaAgent の**主要な機能**の概要。
- SchemaAgent のために**検索パスの構成**する方法の説明
- SchemaAgent **チュートリアル**。
- インストール、構成、**SchemaAgent Server** の使用方法の説明。
- インストール、構成、**SchemaAgent Client** の使用方法の説明。
- SchemaAgent クライアントとして **XMLSpy Enterprise** と Professional Edition を使用する概要。

チャプター 3

はじめに

3 はじめに

Altova の SchemaAgent テクノロジーは 2つのコンポーネントから構成されています: SchemaAgent サーバーと SchemaAgent Client。SchemaAgent サーバーは以下にインストールされます。

- 特定のクライアント (**LocalServer** バージョンとしてサーブする SchemaAgent Client として同じマシン上に SchemaAgent Client)と共にインストールする。
- 複数のクライアント (**SchemaAgent Server** にサーブすることのできるネットワーク上に SchemaAgent Client とは個別にインストールする。

SchemaAgent テクノロジーを Altova の **XMLSpy® 2019** 製品 (Enterprise と Professional Edition) 内で使用することもできます。XMLSpy は、LocalServer、または、SchemaAgent Server を使用して SchemaAgent Client を介して通信します。

Altova 製品内の SchemaAgent

SchemaAgent Server と SchemaAgent Client は、Altova Web サイトの SchemaAgent ダウンロードページから個別にダウンロードし個別にインストールすることができます。SchemaAgent Server を無料で使用することができますが、SchemaAgent Client は Altova から購入するライセンスを必要とします。

Altova® MissionKit™ 2019 には SchemaAgent 製品 とライセンスキーが含まれています。SchemaAgent Server アプリケーションは、しかしながら、Altova® MissionKit™ 2019 パッケージの一部として含まれておらず、Altova Web サイトのか SchemaAgent ダウンロードページからダウンロードされる必要があります。

SchemaAgent を XMLSpy と使用するためには、SchemaAgent Client は XMLSpy と同じマシン上にインストールされる必要があります。SchemaAgent Server は、ネットワーク上の陰々の場所にインストールすることができます。SchemaAgent Server と SchemaAgent Client が正確にインストールされると XMLSpy は必要な関連付けを自動で行います。(Altova® MissionKit™ 2019 アプリケーションとは個別に購入された場合) XMLSpy Enterprise Edition と XMLSpy Professional Edition は SchemaAgent を使用することができます。

重要点: SchemaAgent、または、SchemaAgent に関連した (XMLSpy を含む) Altova の製品は、バージョン 2005 リリース 3 から、SchemaAgent、または、SchemaAgent に関連した前の製品のバージョンとの互換性を持ちません。

ファイルパス

このドキュメント内で提供されているファイルパスは、すべてのオペレーティングシステムで同様ではありません。次の点に注意してください:

- **ドキュメントフォルダー:** サンプル ファイルは以下の場所に存在します: フォルダー C:\Users \<username>\Documents\Altova。
- **アプリケーション フォルダー:** アプリケーション フォルダーは、Altova アプリケーションが作成されたフォルダーです (デフォルトで、C:/Program Files/Altova)。SchemaAgent 32 ビットが 64 ビット オペレーティングシステムにインストールされている場合、パスは C:/Program Files (x86)/Altova です。

3.1 システムの必要条件

Altova SchemaAgent Client と SchemaAgent Server は次のオペレーティングシステムで作動します:

- プラットフォーム更新済みの Windows 7 SP1、Windows 8、Windows 10
- プラットフォーム更新済みの Windows Server 2008 R2 SP1 または以降

32-ビット および 64-ビットプラットフォームがサポートされています。

3.2 SchemaAgent の主要な機能

SchemaAgent Server は、スキーマ IIR (インクルード、インポート、と再定義)を作成、更新、または、削除するためにクライアントのリクエストを処理し、クライアント?サーバー 通信を管理します。また、すべてのファイルベースの操作を処理します: 作成、削除、移動、および、名前の変更。

インストールのオプション

SchemaAgent Server を GUI を持つスタンドアロン アプリケーションとして、または、インタラクティブな、または、インタラクティブではないサービスとしてインストールすることができます。

視覚的なユーザーインターフェイス

SchemaAgent Server の視覚的なユーザーインターフェイス (GUI) は現在接続されているクライアントとすべての定義済み検索パスのリストを含む環境情報を提供します。環境ウィンドウは、階層型ツリー構造としてのすべての定義済み検索パスとスキーマ、MFD、XML、XSL/XSLT、と WSDL ファイル、のためのすべての定義済みファイル拡張子を表示します。また、エクスプローラー型ブラウザー機能を使用して使用が簡単な検索パスの選択を表示します。SchemaAgent Server の右側のエリア内のメインウィンドウは、検索パス内で検出されたファイルの拡張子の定義を持つすべてのファイルを表示します。

ログ機能

ユーザーインターフェイスは詳細な通信アクティビティを表示するログウィンドウを提供します。ログレポートを構成することができ、CSV ファイルに書き込むことができます。

Web 上でのスキーマへのアクセス

SchemaAgent Server により UNC パスとドライブ文字を持つ(安全な) WebDAV サーバー上の WebDAV フォルダー内に存在するスキーマにアクセスできるようになります。

SchemaAgent Client は、スキーマリレーションシップをビルドし、多数のスキーマの管理を可能にする GUI を提供します。MFD ファイルとその関連付けられたスキーマ間のリレーションシップを確認することも可能にします。これらが SchemaAgent テクノロジーの主要な機能です。更に、SchemaAgent Client にはユーザーフレンドリな GUI 機能が搭載されています。

SchemaAgent デザイン

スキーマデザインは、スキーマコレクションを直感的に整理する手伝いをします。これらのデザインを後で編集するために SchemaAgent デザインファイルとして保存することができます。You can 作成、アップデート、または、ドラッグアンドドロップを使用して、SchemaAgent デザイン内で直接操作することによりスキーマ間の IIR (インクルード、インポート、と再定義)を作成、アップデートまたは、削除することができます。SchemaAgent デザイン内で IIR リレーションシップが作成されると、そのリレーションシップは、関連したスキーマ (XSD) ファイルと関連付けられたスキーマファイル内に物理的に書き込まれます。リレーションシップへの変更を元に戻すには、SchemaAgent デザインを必要に応じて編集する必要があります。

XSLT スタイルシートのために、SchemaAgent Client により、インポートとインクルードを作成し、既存のインラインのスキーマを作成し表示することができます。

デザインウィンドウは、WSDL ファイルのコンテンツを確認できる箇所で、WSDL ファイルを表示し、内部のスキーマとすべてのメッセージ、ポートの種類、バインド、およびサービスを表示します。XML スキーマ、または、異なる WSDL ファイルをインポートすることも可能です。

ファイルの管理

ファイルの名前が変更、または、ファイルが移動されると、変更されたファイルを参照するワークスペース内のすべての他のファイルに変更はパスされます。利点は個別のファイルをそれぞれ編集すること

く、SchemaAgent Client GUI 内で複数のファイルを管理 できます。

構造 とリレーシ ョンの表示

デザインウインドウ内 では、MFD ファイル、 とそのソースとターゲットスキーマ、 ソースとターゲットスキーマ に関連したすべてのスキーマ間のリレーシ ョンシ ョップの視 覚 的 なビ ューを取 得 する ことが でき ます。IIR をす ぐ に確 認 する ことが でき、スキーマコンポーネ ントの詳 細 と要素 と複 合 型 などのスキーマコンポーネ ントの詳 細 な構 造 も表 示 され ます。

XML インスタ ンス、XSLT スタイルシ ョートとWSDL ファイルにもこれを適 用 する ことが でき ます。これら の ファイルのそれ ぞ れ のた め に、デ ザ イ ン ウ イ ン ド ウ 内 で、SchemaAgent Client はファイルボ ックスを 表 示 し ます。これら のファイルボ ックスには、特 定 のファイルのた め のす べ て の関 連 し た情 報 が含 ま れ、デ ー タの詳 細 をビ ューするた め に展 開 する折 りた た ま れ たセ ク シ ョ ン に整 理 され て い ます。

関 連 するフォルダ ーの挿 入 または選 択

SchemaAgent Client は、ファイルボ ックスを選 択 する、または、ワークプレ ース内 で他 のファイル を参 照 するファイル を挿 入 する複 数 のオプシ ョ ンを提 供 し ます。

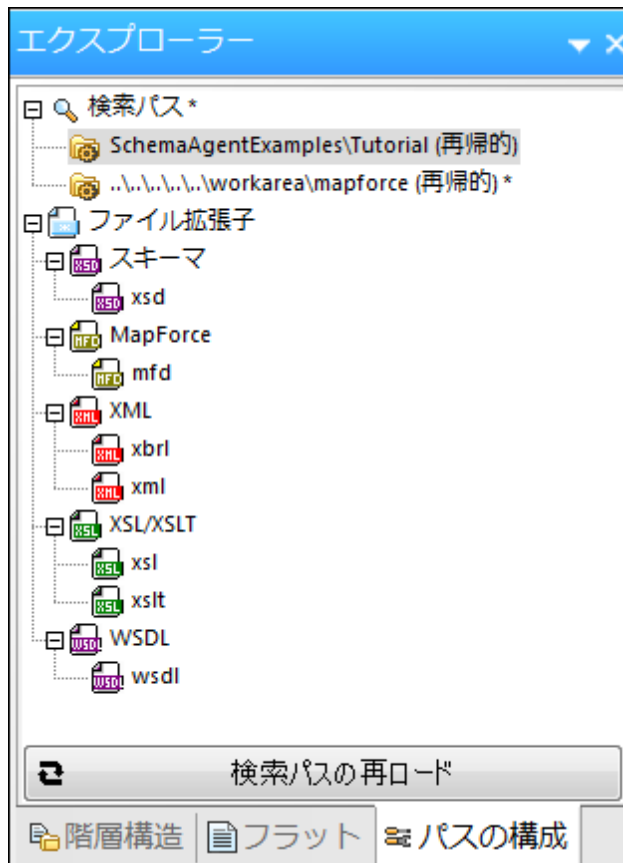
XMLSpy との統 合

SchemaAgent との作 業 のた め にセ ッ ト ア ッ プ され て い る 場 合、Altova の XMLSpy には、スキーマを編 集 するた め のパワフルな編 集 機 能 が搭 載 され て い ます。XMLSpy のスキーマ WSDL ビ ュー内 でスキ ーマが編 集 され る と、SchemaAgent Server 内 のす べ て のスキーマのコンポーネ ントの 検 索 パス は入 力 ヘルパー内 にリ ス ト され、編 集 され て い るスキーマ内 で変 更 し、再 利 用 する ことが でき ます。作 成 さ れ た、または、スキーマ WSDL ビ ュー内 で変 更 され た IIR に関 する情 報 は関 連 付 け ら れ たスキーマ に書 き込 ま れ ます。

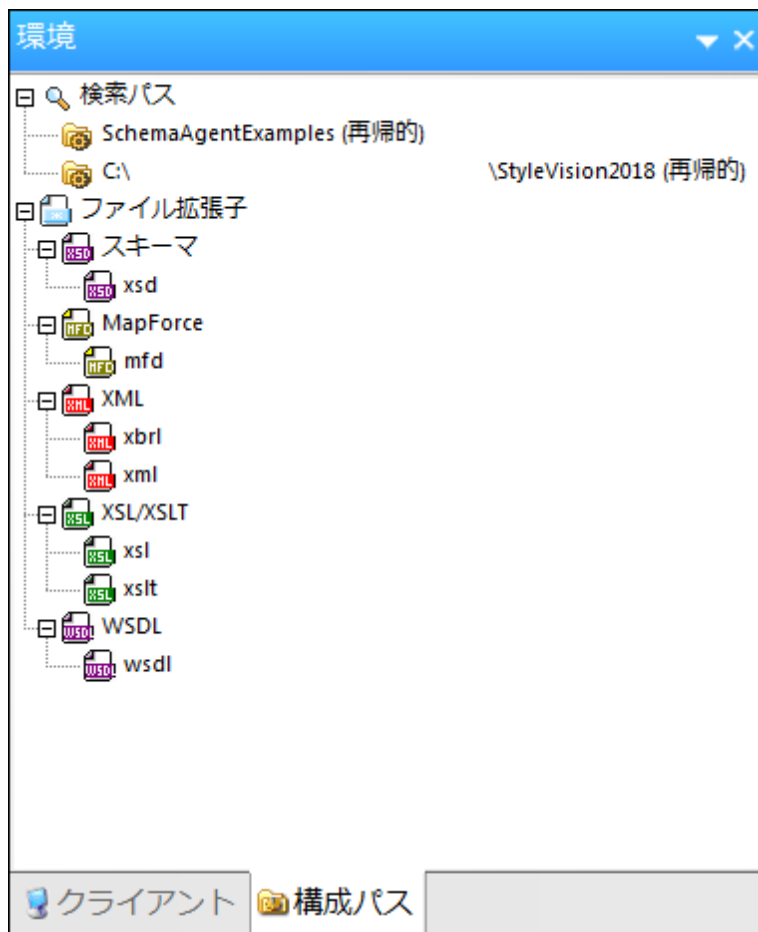
3.3 検索パスの構成

検索パスは XML スキーマ、MapForce デザイン (MFD) ファイル、と XML ファイルのためにスキャンされているパス、または、フォルダーです。SchemaAgent インストールにより、SchemaAgent Client、または、SchemaAgent Server のパスの構成 タブ内の検索パス(すなわち、追加、編集、または、削除)を構成することができます。

LocalServer と作業する場合、パスの構成 タブは SchemaAgent Client アプリケーションのエクスプローラーウインドウ内の追加のタブとして表示されます。



SchemaAgent Server がローカル、または、ネットワーク内にインストールされている場合、パスの構成 タブは SchemaAgent Server の環境ウインドウ内に表示されます。SchemaAgent Server に接続されている場合、SchemaAgent Client 内のエクスプローラーウインドウにはパスの構成 タブは存在しません。



ロケーションとは別に、パスの構成タブは上記の両方のケースで同様です。

検索パスの考慮する点

SchemaAgent のインストールのロケーションにより 特定のファイルへのアクセスとパスの制約が適用される場合があります。ネットワークシェア上のスキーマにアクセスする場合、SchemaAgent アプリケーションにアクセスするための正確なパーミッションが存在することを確認してください。

ファイルシステムのサポートは以下のとおりです:

- UNC パスがサポートされています。スキーマパスは UNC パス、または、相対パスであることができ、スキーマ内に UNC パス、または、相対パスを含むことができます。
- WebDAV フォルダー がサポートされています。ロケーション パスは、WebDAV フォルダー、または、相対パスであることができ、スキーマ内での参照は WebDAV フォルダー、または、相対パスを含むことができます。
- FTP 接続 がサポートされています。ファイルへ FTP を使用して直接アクセスすることができます。
- マップされたドライブがサポートされています。検索パス内でドライブ文字が使用されている場合、SchemaAgent クライアントをホストしているマシンは同じ共有されたフォルダーにマップされているドライブ文字を有する必要があります。
- ローカルのドライブディレクトリは **直接サポートされません**。ネットワークとLocalServer 上の検索パスがネットワークの共有を使用するように構成され、でローカルのディレクトリが共有されている場合、ローカルのディレクトリ、または、リソースへのアクセスは可能です。

3.3.1 検索パスの追加と編集

SchemaAgent Client 内のファイルと作業するために、エクスプローラー ウィンドウの階層型とフラットタブ内に表示されている検索パスの1つにファイルが含まれている必要があります。SchemaAgent Client の外部からファイルを開くこと、または、デザインウィンドウ内にドラッグすることはできません。

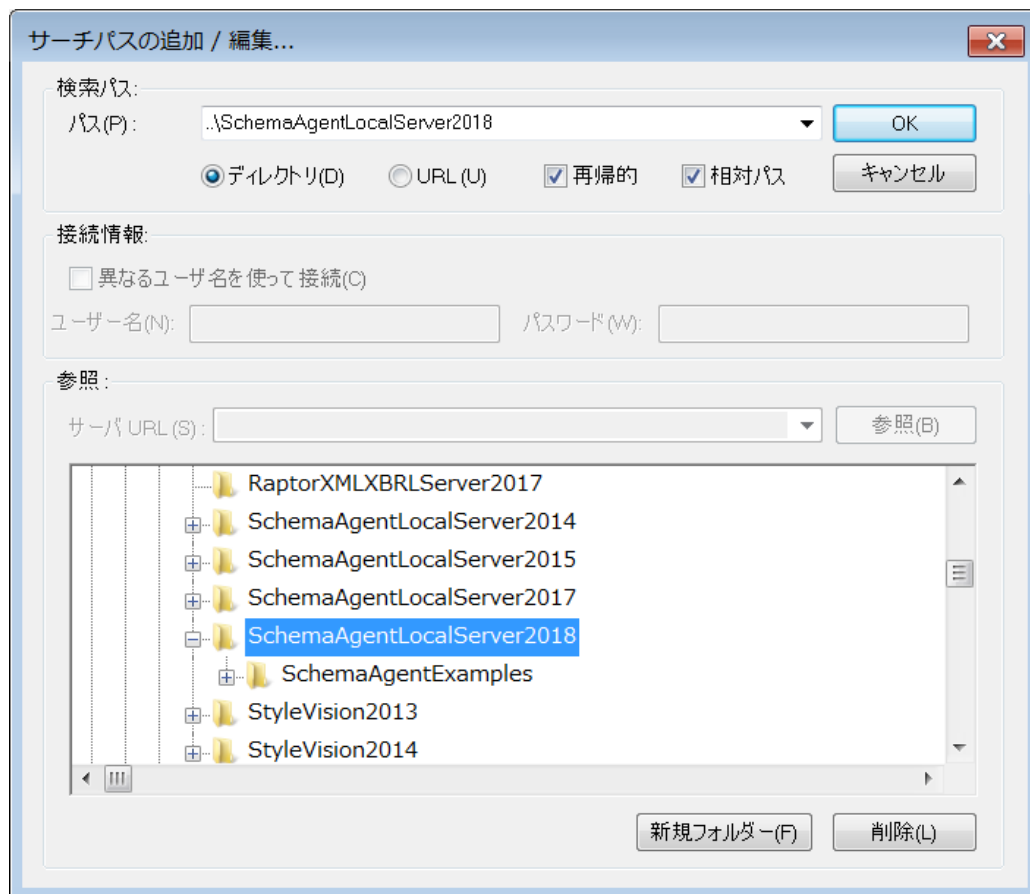
注意点: 下記のプロセスは SchemaAgent Client と SchemaAgent Server 内の環境ウィンドウ内のエクスプローラーウィンドウ内のパスの構成タブに適用することができます。接続済みの SchemaAgent インストールとサーバーはそれぞれ、表示されるウィンドウパスの構成タブを決定します。

相対パス

SchemaAgent 内では、構成ファイルの場所に相対させて検索パスを表示するように定義できます。これにより、フォルダーの構成が複雑な場合、短い検索パスを使用することができます。SchemaAgent LocalServer 各ユーザーは、\マイドキュメント\Altova\SchemaAgent LocalServer2019 内に個別の構成ファイルを有することに注意してください。

検索パスの追加または編集方法:

1. SchemaAgent アプリケーションのパスの構成タブ内で、以下の内の1つを行ってください:
 - 検索パスを追加するには、検索パス フォルダーを右クリックし、コンテキストメニューから「**検索パスの追加**」を選択します。フォルダーをクリックして、「**挿入**」キーを押します。
 - 検索パスを編集するには、既存の検索パスの1つを右クリックし、コンテキストメニューから「**検索パスの編集**」を選択します。
- 「**検索パスの追加 編集**」ダイアログボックスが開かれます。



2. 検索パスグループボックス内で、検索パスがディレクトリ または、URL であるかを選択します。
- 検索パスがディレクトリの場合、以下を行います：
1. ディレクトリラジオボタンを選択し、パステキストボックスに直接検索パスを入力します。または、「参照」ペイン内で必要とされるディレクトリを参照します。パステキストボックスに選択されたディレクトリが入力されます。
 2. 「パスの構成」ペイン内の検索パスエントリを相対的にするために相対的パスチェックボックスを選択します。絶対パスを使用するためにチェックボックスのチェックを解除したままにします。
- 検索パスがURLの場合、以下を行います：
1. 参照ペインのサーバー URL テキストボックス内にサーバー URL を入力します。
 2. 認証が必要な場合、識別グループボックス内で、「異なるユーザー名を使用して接続」チェックボックスを選択して、ユーザー名とパスワードを入力します。
 3. 参照グループボックス内で、必要とされるディレクトリを参照するために「参照」ボタンをクリックします。検索パスグループボックス内のパステキストボックスに選択されたディレクトリが入力されます。
3. 選択されたディレクトリのサブディレクトリを検索する場合、「再帰的」チェックボックスを選択します。このチェックボックスが選択されていない場合、サブディレクトリは検索されません。
 4. 「OK」をクリックします。

検索パスの削除方法:

1. それぞれの SchemaAgent アプリケーションパスの構成 タブ内 で、削除するパスを選択し、以下の内の1つを行ってください:
 - 右クリックし、コンテキストメニューから「**検索パスを削除**」を選択します。
 - 「**削除**」キーを押します。
2. 表示されるメッセージボックス内の「**はい**」をクリックします。

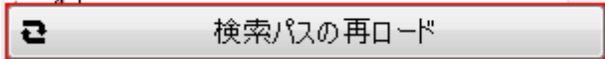
3.3.2 ファイル拡張子の構成

デフォルトで、SchemaAgent Client は、エクスプローラーウィンドウの階層型とフラットタブ内の次のファイル型を表示します:

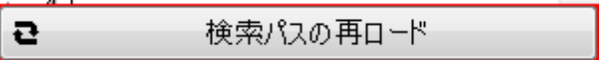
- W3C XML スキーマ
- MapForce デザインファイル
- XML ファイル
- XSL とXSLT スタイルシート
- Web サービス記述言語 (WSDL) ファイル

パスの構成 タブ内のファイル拡張子 フォルダーには、従って、以下の5つのサブフォルダーが存在します スキーマ、MapForce、XML、XSL/XSLT、とWSDL。これらのフォルダーの3つはそれぞれ単一のエン트리(xsd、mfd、または、wsdl)を含みますが、XSL/XSLT とXML フォルダーにはそれぞれ2つのエン트리? XSL とXSLT、とxbrl とxml、がそれぞれ表示されます。サポートされるファイルのために追加のファイル拡張子を定義することができます。

ファイル拡張子の追加方法:

1. 相対する SchemaAgent アプリケーションのパスの構成 タブ内 で、ファイル拡張子 フォルダーのサブフォルダーの1つのファイル拡張子を選択し、以下の内の1つを行ってください:
 - 右クリックし、コンテキストメニューから「**ファイル拡張子の追加**」を選択します。
 - 「**挿入**」キーを押します。
2. それぞれの フォルダーに「newextension」という名前のエントリが追加され、編集のために選択されます。 ボタンが点滅する赤い枠と共に表示されます。
3. 希望するファイル拡張子を入力し「**Enter**」を押します。
4. 「**検索パスの再ロード**」ボタンをクリックして、エクスプローラーウィンドウ内で新規に追加されたファイル拡張子を持つファイルを表示します。

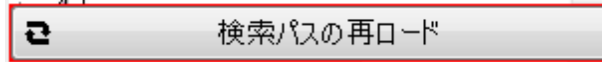
ファイル拡張子の編集方法:

1. 相対する SchemaAgent アプリケーションのパスの構成 タブ内 で、ファイル拡張子 フォルダーのサブフォルダーの1つのファイル拡張子を選択し、以下の内の1つを行ってください:
 - 右クリックし、コンテキストメニューから「**ファイルの拡張子の編集**」を選択します。
 - 「**F2**」を押します。ファイル拡張子の名前が編集のために選択されます。
2. ファイル拡張子の名前を必要に応じて編集し、「**Enter**」を押します。 ボタンが点滅する赤い枠と共に表示されます。

3. 「検索パスの再ロード」ボタンをクリックして、エクスプローラーウィンドウ内で変更されたファイル拡張子を持つファイルを表示します。

ファイル拡張子の削除方法:

1. 相対する SchemaAgent アプリケーションのパスの構成 タブ内で、ファイル拡張子フォルダーのサブフォルダーの1つのファイル拡張子を選択し、以下の内の1つを行ってください:
 - 右クリックし、コンテキストメニューから「ファイルの拡張子の削除」を選択します。
 - 「削除」を押します。
2. 表示されるメッセージボックス内の「はい」をクリックします。



ボタンが点滅する赤い枠と共に表示されます。

3. 「検索パスの再ロード」ボタンをクリックして、エクスプローラーウィンドウから削除されたファイル拡張子を持つファイルを削除します。

3.3.3 検索パスの再ロードとリセット

検索パスの再ロード コマンドは検索パスを更新します。SchemaAgent の外部でファイルが変更された場合この機能は役に立ちます。XMLSpy 内で

、または、検索パスの構造が変更された場合などが挙げられます。検索パス、または、ファイル拡張子が追加、編集、削除された後、検索パスの右側にアスタリスクが表示されます。ファイル拡張子と  **検索パスの再ロード** ボタンはパスの構成タブの下に表示されます。これは現在ロードされている検索パスが更新される必要があることを示しています。

検索パスのリセット コマンドは最後に保存された設定への検索パスをリセットします。

検索パスの再ロード方法:

以下の内の1つを行ってください:

- それぞれの SchemaAgent アプリケーションのパスの構成 タブ内で、右クリックし、コンテキストメニューから「検索パスの再ロード」を選択します。
- メニューオプション「拡張機能 | 検索パスの再ロード」を選択します。
- 「拡張機能」ツールバー内の「検索パスの再ロード」  アイコンをクリックします。

検索パスのリセットの方法:

- それぞれの SchemaAgent アプリケーションのパスの構成 タブ内で、右クリックし、コンテキストメニューから「検索パスのリセット」を選択します。

3.3.4 構成ファイルのビュー

LocalServer、または、SchemaAgent Server により管理されるサポートされるファイルのセットはそれぞれデフォルトで **マイドキュメント** フォルダー内に保管される SchemaAgentServerConfig.xml という名前のファイル内で定義されています。

このファイルは **検索パス** と **スキーマファイル** のためにスキャンされるパス、または、フォルダーを定義します。SchemaAgentServerConfig.xml ファイルは以下ようになります:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<SearchPaths XMLSchema="xsd" MapForce="mf" XML="xml" XSL="xsl,xslt"
WSDL="wsdl">
```

```
<Path recursive="1" user="" auth="000000">s:\schemas-mydir\</Path>
<Path recursive="0" user="" auth="000000">X:\schemas\</Path>
<Path recursive="1" user="" auth="000000">http://test.webdav.org/dav</Path>
<Path recursive="1" user="" auth="000000">\\Server1\Share1\Dir1\SchemaData</Path>
<Path recursive="1" user="jmh" auth="k04EKS">ftp://myftpserver</Path>
</SearchPaths>
```

定義することのできる検索パスの数量には制限がなく、検索パスはローカルマシン、ネットワークパス(マップされたドライブ文字とUNCパス)、とWebDAVサーバーとFTPアクセス上のフォルダー上のパスを含むことができます。

検索パスの定義後、LocalServer、または、SchemaAgent Serverはそれぞれ個別の検索パス内のファイルの拡張子の定義を取得し、検索パス内でサポートされるファイル間のリレーションシップの内部マップをビルドします。SchemaAgentクライアントがファイルのリレーションシップについてデータを表示するようにするリレーションシップのマッピングが視覚的に表示されます。更に、このマッピングはIIR、または、ファイル操作への変更がSchemaAgentクライアント内で行われると、検索パス内で関連付けられたファイル内でこのような変更を自動的に更新できるようにするマッピングでもあります。

チャプター 4

SchemaAgent チュー トリアル

4 SchemaAgent チュートリアル

このチュートリアルでは W3C XML スキーマの短い概要が与えられており、SchemaAgent の機能をフルに活用するための複数のタスクについての説明がされています。

以下について学習します:

- SchemaAgent Client の正確な**セットアップ**する方法。
- XML スキーマ間のリレーションシップであるインクルード、インポート、と再定義を作成する方法。
- インクルード、再定義、とインポート型
- **XMLSpy のみを使用して型をインポートする方法**
- **更新された** リレーションシップをビューする方法
- **MapForce デザイン** (MFD) ファイルをビューする方法

インストールと構成ファイル

このチュートリアルは、使用中のコンピュータに SchemaAgent が成功裏にインストールされており、無料の評価 キーコードを受信済み、または、登録済みのユーザーであることが前提とされています。SchemaAgent の評価バージョンは、全ての機能を使用することができますが、トライアル期間は30日間です。安全な Web サーバーから標準のライセンスをリクエストすることができます。または、販売店で購入してください。

チュートリアルとサンプルファイル

チュートリアルファイルは `マイ ドキュメント\Altova\SchemaAgentLocalServer2019\SchemaAgentExamples\Tutorial` フォルダーで使用することができます。サンプル フォルダーには、実験するための多種の XML スキーマおよびこのチュートリアルで使用される全てのファイルはチュートリアルフォルダー含まれています。各 Windows ユーザーアカウントのために、個別の SchemaAgentExamples フォルダー と構成 ファイル が SchemaAgent が最初に起動された時に作成されます。これにより コンピューター上の各ユーザーは個別の SchemaAgent 検索パスとサンプルファイルを持つことができます。

4.1 SchemaAgent Client のセットアップ

このチュートリアル内では、SchemaAgent Client により自動的にインストールされる LocalServer と作業します。XML スキーマ間のリレーションシップを作成するために使用するために SchemaAgent Client を使用前に LocalServer に接続する必要があります。

SchemaAgent と作業するには、少なくとも1つのフォルダーへのパスを構成する必要があります。SchemaAgent サーバー上に構成されたパスは保管されます (この場合、LocalServer)。SchemaAgent Client を使用してこれらのパス内の既存のスキーマ間のリレーションシップを作成します。XMLSpy を使用して、後で完成することのできる新規のスケルトン XML スキーマを作成することもできます。

目標

チュートリアルはこのセクションでは、サーバーに接続し、検索パスを定義する方法について学習します。具体的には、以下の方法について学習します:

- LocalServer に接続するために、SchemaAgent Client を開始します。
- このチュートリアルのためのサンプルを含むフォルダーへの検索パスを構成します。

このセクションで使用されるコマンド

チュートリアルはこのセクションでは、エクスプローラー ウィンドウが排他的に使用されます。次のコマンドが使用されます:



サーバーへの接続: このアイコンは「拡張機能」ツールバー内にあります。このアイコンをクリックして、接続するサーバーを選択することのできる「SchemaAgent Server に接続」ダイアログボックスを開きます。

検索パスの追加: このコマンドは、エクスプローラーウィンドウのパスの構成タブを右クリックすると開かれるコンテキストメニュー内にあります。このコマンドを選択し、現在の SchemaAgent サーバーに新規の検索パスを追加します。



検索パスの再ロード: このアイコンは「拡張機能」ツールバーに存在し、検索パス内に変更が反映されると、エクスプローラーウィンドウの下に



検索パスの再ロード

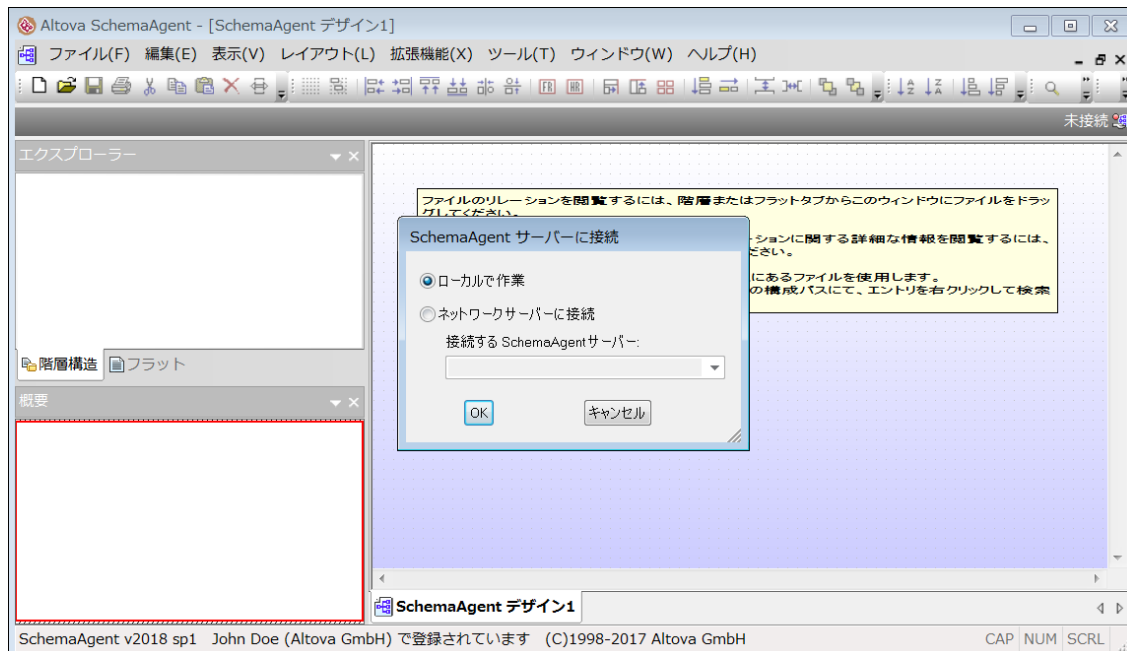
ボタンが表示されます。

4.1.1 LocalServer への接続

SchemaAgent Client をインストールする場合、クライアントと LocalServer がインストールされます。SchemaAgent Client の起動プロセス中に LocalServer への接続が確立されます。

SchemaAgent Client を開始する方法

SchemaAgent Client を開始するには、SchemaAgent アイコンをデスクトップ上でダブルクリック、または、「開始」|「全てのプログラム」メニューを使用して、SchemaAgent プログラムにアクセスします。SchemaAgent Client はインターフェイス内で開かれているドキュメントが存在しない状態で開始され、「SchemaAgent Server に接続」ダイアログボックスがポップアップします。



インターフェイスの主要な部分に関するメモ: エクスプローラーと概要 ウィンドウは左側に、メインウィンドウは中央に表示されます。

LocalServer に接続する方法:

- 以下の内の1つを行ってください:
 - SchemaAgent アイコンをデスクトップ上でダブルクリック、「開始 | 全てのプログラム」メニューを使用して、「Altova SchemaAgent 2019 | Altova SchemaAgent」を選択します。
 - SchemaAgent Client が既に作動している場合、メニューオプション「拡張機能 | サーバーへの接続」を選択、または、「拡張機能」ツールバーから「サーバーへの接続」アイコンを選びます。
- 「SchemaAgent Server に接続」ダイアログボックスが表示されます。
- 「ローカルで作業」を選択します。
 - 「OK」をクリックします。

4.1.2 サンプルフォルダーへ検索パスを構成する

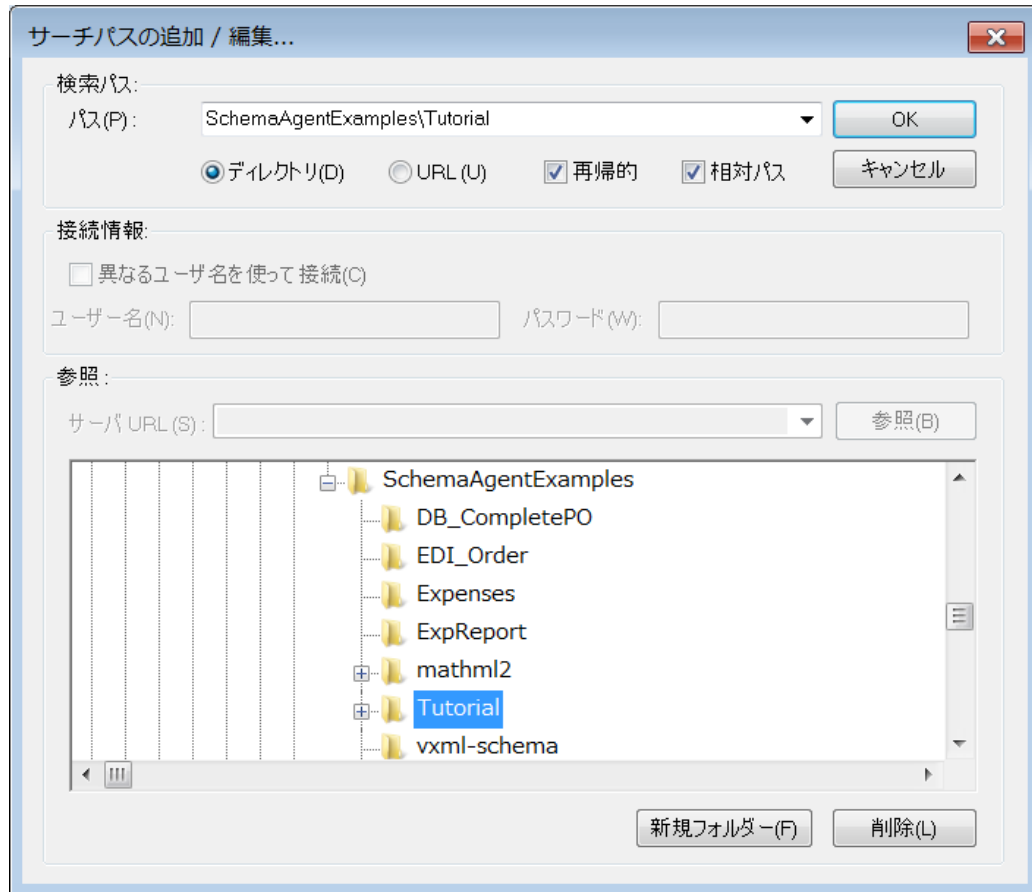
SchemaAgent Client は、エクスプローラーウィンドウの階層型とフラットタブ内で SchemaAgent サーバー内の定義済みのパスを表示します。SchemaAgent Client を使用してスキーマファイルを編集し、現在接続されている SchemaAgent サーバーが XMLSpy の場合 ファイルが開かれていると XMLSpy はスキーマファイルを再ロードするようにプロンプトします。

このセクションでは、このチュートリアル内で使用されるファイルを含むフォルダーへのパスを構成します。

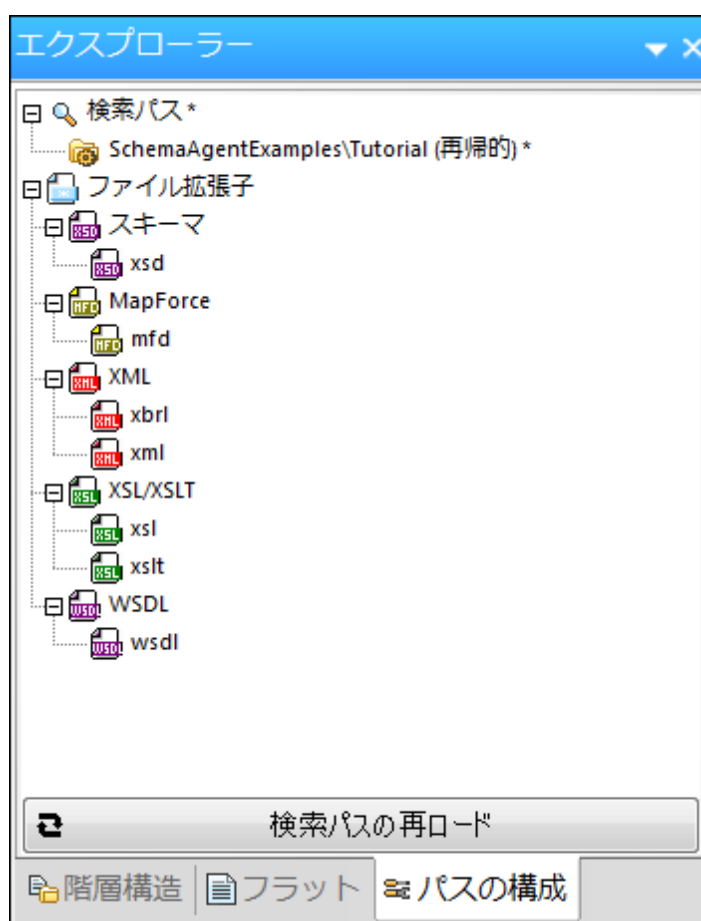
チュートリアルフォルダーへの検索パスの構成方法:

- SchemaAgent Client のエクスプローラー ウィンドウ内で、「パスの構成」タブをクリックします。
- エクスプローラー ウィンドウ内を右クリックし、コンテキストメニューから「検索パスの追加」を

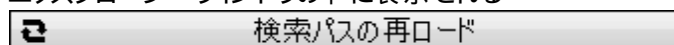
選択します。または、エクスプローラー ウィンドウ内で検索パスエントリを選択します、「挿入」キーを押します。
「検索パスの追加 編集」ダイアログボックスが開かれます。



3. 検索パスグループボックス内で、ディレクトリラジオボタンを選択し、「再帰的」チェックボックスを有効化して、サブフォルダーも表示されるように設定します。
4. 参照グループボックス内で、\マイドキュメント\Altova\SchemaAgent LocalServer2019\SchemaAgentExamples\Tutorial サブフォルダーへナビゲートします。
5. 任意で、パスが長い場合、検索パスグループボックス内で相対的パスチェックボックスを有効化します。
6. 「OK」をクリックします。
エクスプローラー ウィンドウ内に検索パスが表示されます。



7. エクスプローラー ウィンドウの下に表示される



ボタンをクリックします。

4.2 XML スキーマ間のリレーションシップの作成

このセクションでは、インクルード、再定義、とインポートスキーマ間のリレーションシップを作成するために SchemaAgent Client を使用します。

目標

チュートリアルはこのセクションでは、IIR スキーマ間のリレーションシップの作成方法について学びます。具体的には、以下の方法について学習します:

- SchemaAgent Client のデザインビュー内のスキーマの表示方法
- 2つのスキーマ間にインクルードリレーションシップを作成する方法
- 2つのスキーマ間に再定義リレーションシップを作成する方法
- 2つのスキーマ間に異なる名前空間を使用してインポートリレーションシップを作成する方法

このセクションで使用されるコマンド

チュートリアルはこのセクションでは、デザインウィンドウを排他的に使用します。次のコマンドが使用されます:



「新規作成」(Ctrl+N): このアイコンは標準のツールバー内にあり、「ファイル」メニュー内のオプションとしても使用することができます。このコマンドを使用して、新規のデザインウィンドウを開きます。

4.2.1 インクルードリレーションシップの作成

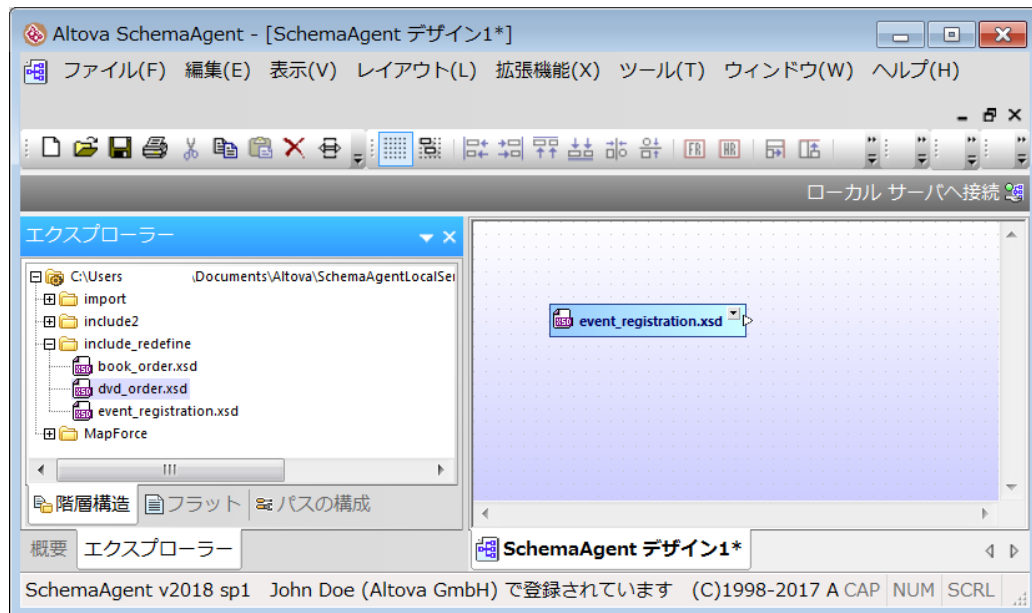
このセクションでは、SchemaAgentExamples\Tutorial フォルダの include_redefine サブフォルダ内にある次のスキーマ間のインクルードリレーションシップが作成されます:

- **event_registration.xsd:** このスキーマはスポーツイベントのために登録されている参加者に関する情報を含むように構成されています。これらのイベントは参加費を必要とするため、このスキーマ内でクレジットカード情報を含む型も定義されます。
- **dvd_order.xsd:** このスキーマはDVDの通信販売と顧客の配送情報に関する詳細を含むように構成されています。

このサンプルを実行する過程では、顧客とクレジットカードデータを保管する event_registration.xsd からの型が dvd_order.xsd に含まれるようにインクルードリレーションシップが作成されます。

デザインウィンドウ内でスキーマを表示する方法:

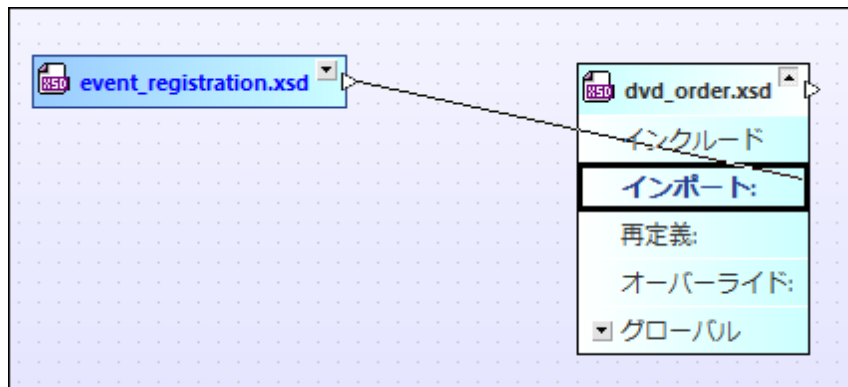
1. メニューオプション「ファイル | 新規作成」を選択、または、「新規作成」 アイコンをクリック、または「Ctrl+N」を押して、新規のデザインウィンドウを開きます。
2. エクスプローラーウィンドウ内で、include_redefine フォルダから event_registration.xsd と dvd_order.xsd を選択し、デザインウィンドウにドラッグします。



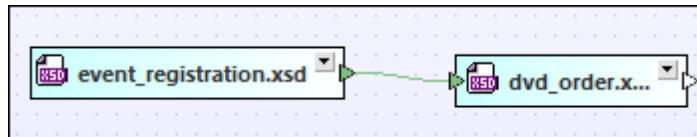
注意点: 1つ以上のファイルを同時にドラッグアンドドロップし、「Ctrl」キーを押しながら、ファイルをクリックしてファイルを選択します。デザインウインドウ内で、フォルダーをドラッグアンドドロップし、含まれる全てのファイルを配置します。

インクルード リレーションシップの作成方法:

1. event_registration.xsd のファイルボックスの右側の小さな白色の三角形をクリックし、dvd_order.xsd ファイルボックスに接続線をドラッグします。



2. マウスボタンを文字「インクルード」の上でリリースします。
event_registration.xsd からdvd_order.xsd を指す緑の矢印が表示されます。



この矢印はこれらのスキーマ間にインクルード リレーションシップが作成されたことを示しています。

4.2.2 再定義リレーションシップの作成

このセクションでは、SchemaAgentExamples\Tutorial フォルダーの include_redefine サブフォルダー内にある次のスキーマ間の再定義 リレーションシップが作成されます:

- **event_registration.xsd**
- **book_order.xsd**: このスキーマは書籍の通信販売に関する詳細を含むように構成されています。

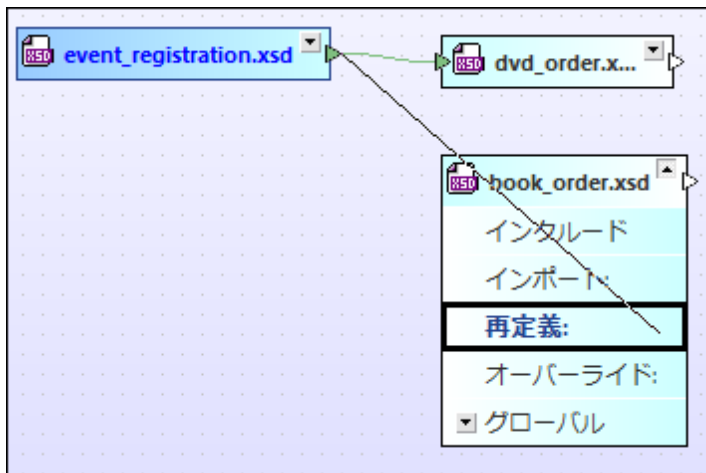
このサンプルを実行する過程では、顧客とクレジットカードデータを保管する event_registration.xsd からの型が dvd_order.xsd に含まれるように再定義 リレーションシップが作成されます。

スキーマの再定義は、明示的なインクルードスキーマ間のリレーションシップを作成し、参照されたスキーマ内で全ての要素にアクセスできるようになります。これにより参照されたスキーマの個別のコンポーネントを再定義(すなわち、制約、または、拡張)することができます。

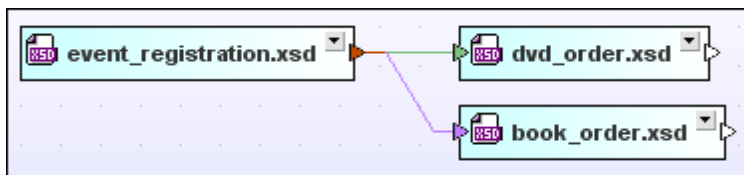
注意点: SchemaAgent Client 内では、これらのスキーマ間では再定義 リレーションシップのみが作成されることに注意してください。個別のコンポーネントの実際の再定義を XMLSpy 内で行うことができます。

再定義 リレーションシップの作成方法:

1. エクスプローラー ウィンドウ内では、include_redefine フォルダーから book_order.xsd を選択して、ファイルを既に含んでいるデザインウィンドウにドラッグします。event_registration.xsd と dvd_order.xsd。
2. event_registration.xsd のファイルボックスの右側の小さな緑色の三角形をクリックし、接続線を book_order.xsd のファイルボックスにドラッグします。



3. マウスボタンを文字「再定義」の上でリリースします。event_registration.xsd から book_order.xsd を指す紫の矢印が表示されます。



この矢印はこれらのスキーマ間に再定義 リレーションシップが作成されたことを表示しています。

event_registration.xsd ファイルボックス内の三角形の色が異なる型のリレーションシップはこのファイルボックスを持ち既存であることを示すために変更されていることに注意してください。

4.2.3 インポートリレーションシップの作成

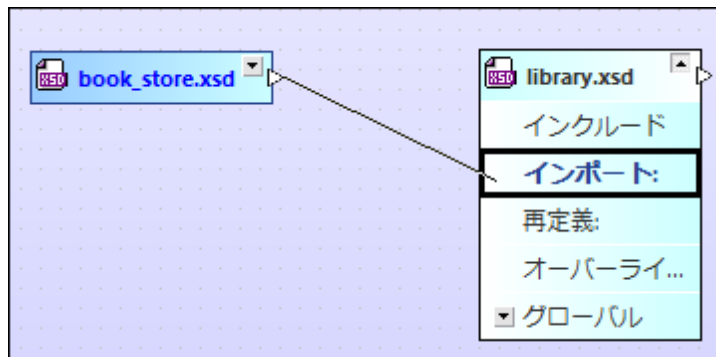
インポート リレーションシップは、異なる名前空間を持つスキーマ内のスキーマからコンポーネントを再利用する際に使用されます。このセクションでは、SchemaAgentExamples\Tutorial フォルダのインポートサブフォルダ内に存在する次のスキーマ間のインポートリレーションが作成されます:

- **book_store.xsd**: このスキーマは書店の住所、在庫の書く書籍の詳細アドレスを含むように構成されています。
- **library.xsd**: このスキーマは図書館の住所、および、図書館内の各書籍の詳細(カード、カタログ番号、書籍の現在の貸出状況)を含むように構成されています。

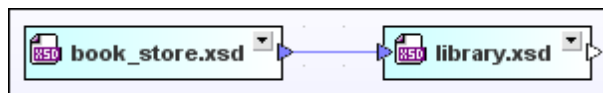
このサンプルを実行する過程で、book_store.xsd から他の書籍の情報を含む library.xsd インポート型が含まれるインポート リレーションシップが作成されます。

インポート リレーションシップの作成方法:

1. メニューオプション「ファイル | 新規作成」を選択します。または、標準ツールバー内の「新規作成」 アイコンをクリックします。または、「Ctrl+N」を押して、新規のデザインウィンドウを開きます。
2. エクスプローラー ウィンドウ内で、import フォルダからbook_store.xsd と library.xsd を選択し、新規のデザインウィンドウにドラッグします。
3. book_store.xsd のファイルボックスの右側の小さな白色の三角形をクリックし、接続線を library.xsd のファイルボックスにドラッグします。



4. マウスボタンを文字「インポート」の上でリリースします。



book_store.xsd から library.xsd を指す青色の矢印が表示されます。この矢印はこれらのスキーマ間にインポート リレーションシップが作成されたことを示しています。

4.3 XMLSpy を SchemaAgent クライアントとして使用する

チュートリアル内の前のセクションでは、インクルード、インポートと再定義スキーマ間のリレーションシップを作成します。SchemaAgent Client を使用してリレーションシップを作成すると、対応するインクルード、インポート、または、再定義ステートメントは、自動的に XML スキーマに追加されます。

目標

チュートリアル内のこのセクションでは、XMLSpy を使用して、スキーマの個別のコンポーネントの実際のインクルード、インポート、および、再定義する方法について学びます。具体的には、以下の方法について学習します：

- SchemaAgent サーバーにXMLSpy を接続します。
- コンテンツモデルの要素をグローバルな複合型にします。
- 異なるスキーマ内のインクルード複合型
- XMLSpy 内の型の再定義
- 異なる名前空間を使用してスキーマから複合型をインポートします。
- XMLSpy 内に直接複合型をインクルードします。

このセクションで使用されるコマンド

チュートリアル内のこのセクションでは、XMLSpy のスキーマ WSDL ビューを排他的に使用し、次のコマンドを使用することができます：



SchemaAgent Server へ接続：このアイコンはスキーマデザイン ツールバー内にあります。このアイコンをクリックして、接続するサーバーを選択することのできる「SchemaAgent Server へ接続」ダイアログボックスを開きます。



ダイアグラムの表示 (または、コンテンツモデル ビューの表示)：このアイコンはスキーマ概要内の全てのグローバルコンポーネントの左側にあります。このアイコンをクリックして、関連付けられたグローバルコンポーネントのコンテンツモデルを表示します。

グローバル化：このコマンドは、コンテンツモデルビュー内の要素を右クリックすると開かれるコンテキストメニュー内に含まれています。このコマンドを使用して、この要素を新規のグローバル要素にします。

子の追加 | 要素：このコマンドは、コンテンツモデルビュー内のシーケンス要素を右クリックすると開かれるコンテキストメニュー内に含まれています。このコマンドを使用して、コンテンツモデルに新規の子要素を追加します。



挿入：このアイコンはスキーマ概要の左上の角にあります。アイコンをクリックすると、選択された要素の前にグローバルコンポーネントを挿入することができます。



全てのグローバルを表示：このアイコンはコンテンツモデルビューの左上の角にあります。アイコンをクリックすると、全てのグローバルコンポーネントを表示するスキーマ概要のビューに切り替えられます。

4.3.1 XMLSpy を LocalServer に接続する

SchemaAgent Client のプロセスを開始して、または、後に、適切なメニューオプション、または、ツールバー アイコンを使用して LocalServer に接続することができます。

XMLSpy を開き、SchemaAgent LocalServer に接続する方法：

1. SchemaAgent Client 内で event_registration.xsd のファイルボックスを右クリックし、コンテキストメニューから「XMLSpy 内で編集」(Ctrl+Y)を選択します。
2. XMLSpy 内でメニューオプション「スキーマ設計 | SchemaAgent Server に接続」を選

択、または、スキーマ デザイン ツールバー内の「SchemaAgent Server へ接続」アイコンをクリックします。

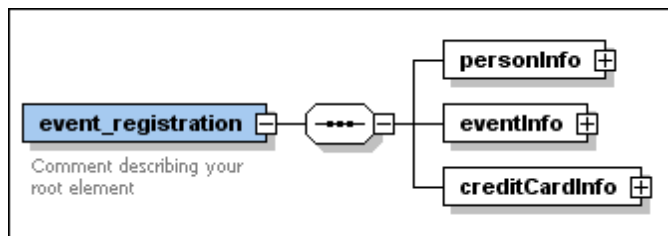
3. 「SchemaAgent Server へ接続」ダイアログボックスから、「ローカルで作業」ラジオボタンを選択し、「OK」をクリックします。
4. ポップアップされる情報 ウィンドウ内の「OK」をクリックします。

4.3.2 要素をグローバルな複合型にする

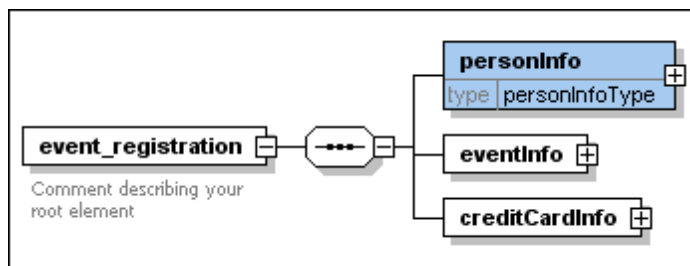
IIR リレーションシップの作成により、スキーマの要素を他のスキーマで使用できるようになります。しかしながら、グローバルな要素のみが他のスキーマで使用することができます。チュートリアルこのセクションでは、XMLSpy を使用して、要素を異なるスキーマ内に含むことのできるグローバルな複合型にする方法について学びます。

要素をグローバルに含まれるようにする方法：

1. XMLSpy 内でイベント_registration.xsd を開きます。
2. XMLSpy 内で、要素 event_registration のための「ダイアグラムの表示」アイコンをクリックしてコンテンツモデルを表示します。



3. personInfo 要素を右クリックし、コンテキストメニューから「グローバル化 | 複合型」を選択します。
personInfoType と呼ばれる新規のグローバル複合型が作成されます。

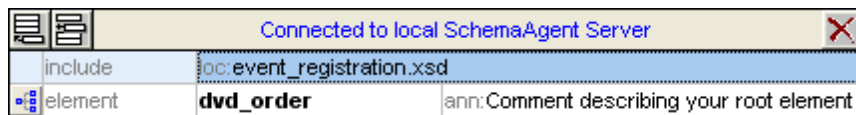


注意点：上のスクリーンショットで、「type」が表示されると「表示されない場合、以下のように続きます：

1. メニューオプション「スキーマ設計 | 表示設定」を選択します。
2. 「スキーマ表示構成」ダイアログボックス内で、「定義済み」ボタンをクリックします。
3. 「OK」をクリックして確認します。
4. 同様に、creditCardInfo 要素をグローバルな複合型にします。
これによりcreditCardInfoType という名前の型が作成されます。
5. ファイルを保存します。

4.3.3 インクルード型

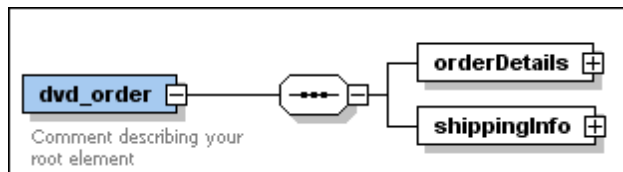
このセクションでは、ターゲットスキーマ内でインクルードされているスキーマの要素を使用する方法について学習します。この目的のために、ターゲットスキーマを開き、編集する必要があります。例えば、XMLSpy 内の dvd_order.xsd など。



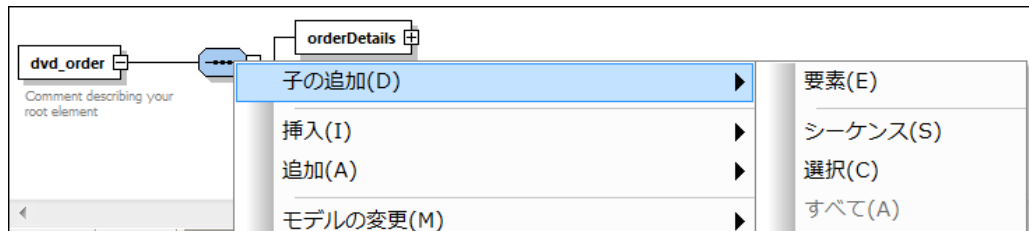
スキーマにはインクルードセクションで説明されているとおり、2つのスキーマが接続されると自動的に追加されるインクルードステートメントが含まれます。チュートリアル前のセクションで作成されたグローバルな複合型は、dvd_order.xsd 内で使用することができます。

dvd_order.xsd 内に personInfoType と creditCardInfoType をインクルードする方法:

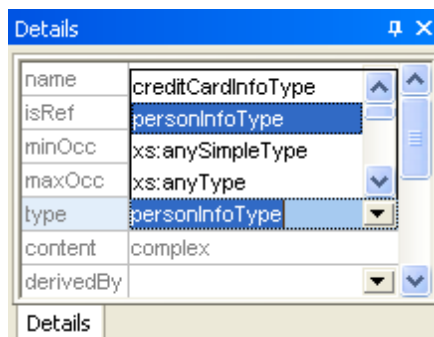
1. XMLSpy 内で dvd_order.xsd を開きます。
2. XMLSpy 内で、要素 dvd_order のための「ダイアグラムの表示」  アイコンをクリックしてコンテンツのモードを表示します。



3. シーケンス要素をクリックして、「子の追加 | 要素」を選択します。



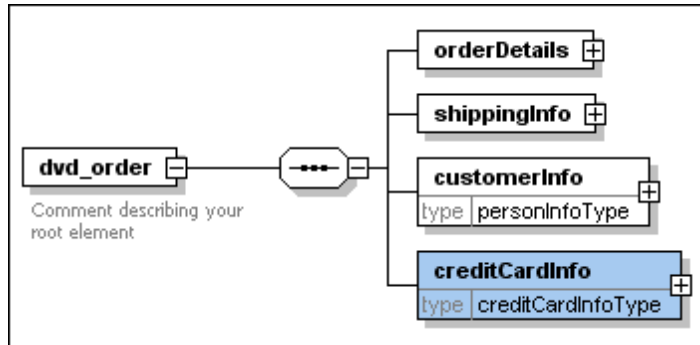
4. 「customerInfo」をこの要素のための名前として入力します。
5. この要素を選択したままで、詳細の入力ヘルパー内で、personInfoType を型ドロップダウンリストから選択します。2つのスキーマ間のリレーションの一部であるコンポーネントは黒色で表示され、その他は青色で表示されます。



6. シーケンス要素を右クリックし「子の追加 | 要素」を選択します。
7. 「creditCardInfo」をこの要素のための名前として入力します。

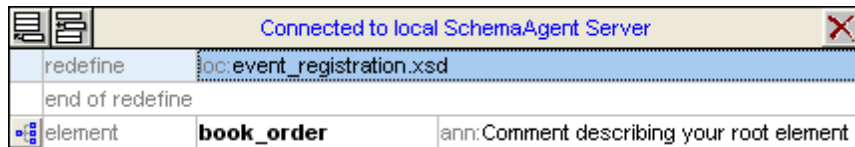
8. この要素を選択したままで、詳細の入力ヘルパー内で、creditCardInfoType を型 ドロップダウンリストから選択します。
9. ファイルを保存します。

スキーマ dvd_order.xsd 内のスキーマ event_registration.xsd から2つの型がインクルードされました。



4.3.4 型の再定義

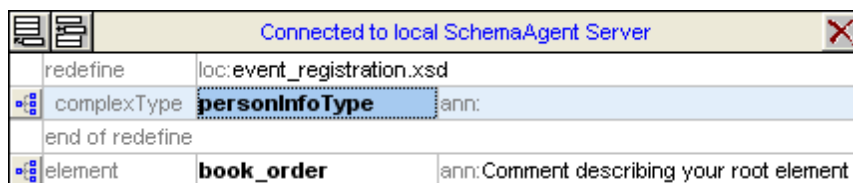
このセクションでは、別のスキーマ内で1つのスキーマから型を再定義する方法について学習します。また、再定義された型に新規の要素を追加する方法についても学習します。この操作を XMLSpy 内でおこなうこともできます。このチュートリアルの目的のために、スキーマ book_order.xsd をサンプルとして使用します。



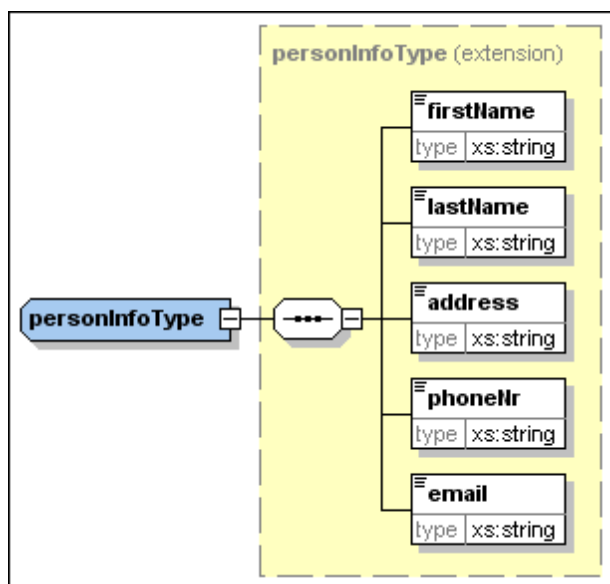
スキーマには再定義セクションで説明されているとおり、2つのスキーマが接続されると自動的に追加される再定義ステートメントが含まれます。再定義ステートメントが含まれています。

型 PersonInfoType の再定義の方法:

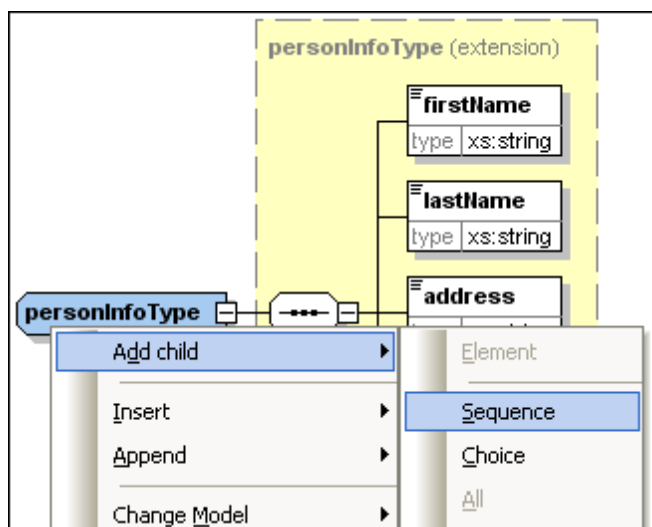
1. XMLSpy 内で book_order.xsd を開きます。
2. "end of redefine" と表示するラインを選択し、「挿入」アイコンをクリックします。
3. **ComplexType** をポップアップされたメニューから選択し、「personInfoType」をこの型のための名前として入力します。



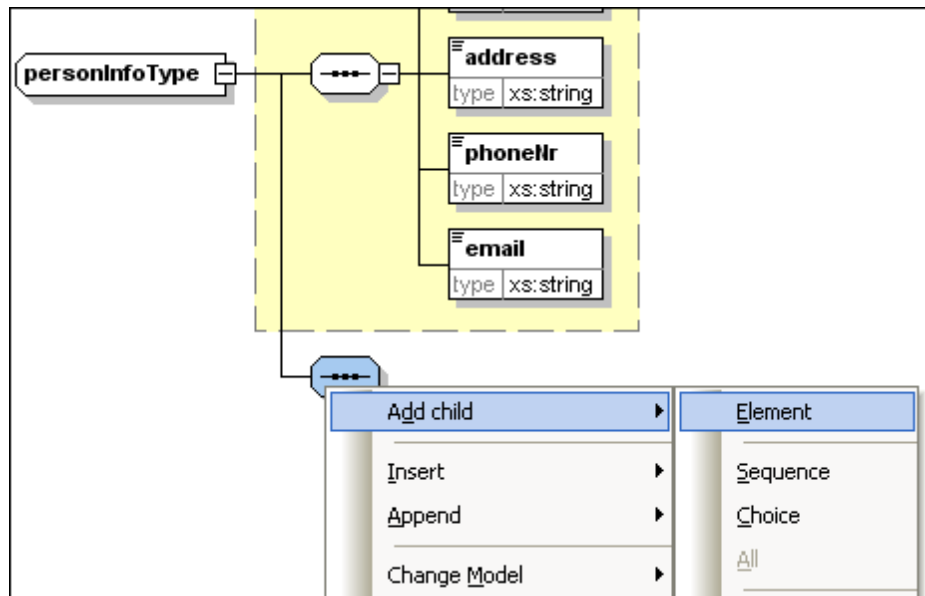
4. personInfoType のための「**ダイアグラムの表示**」アイコンをクリックします。
event_registration.xsd 内で定義されるとおり personInfoType のコンテンツが表示されます。



5. **personInfoType** を右クリックし、コンテキストメニューから「子の追加 | シーケンス」を選択します。



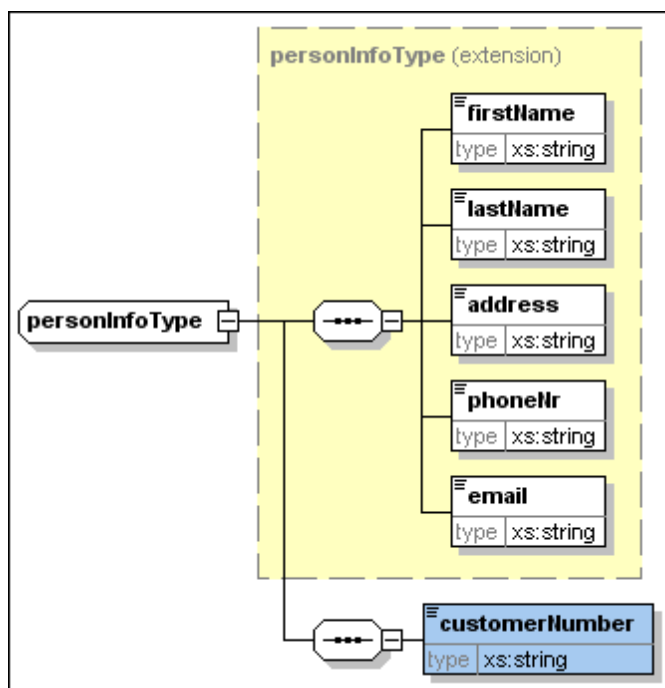
6. 新規のシーケンスアイコンを右クリックし、コンテキストメニューから「子の追加 | 要素」を選択します。



7. "customerNumber" をこの要素のための名前として入力します。
8. 詳細の入力ヘルパー内で、xs:string を型 ドロップダウンリストから選択します。

9. ファイルを保存します。

XML スキーマ book_order.xsd 内で型として使用される personInfoType が再定義されました。



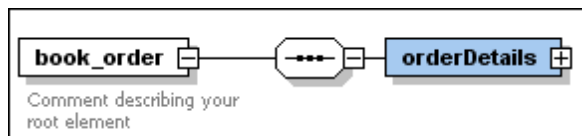
4.3.5 再定義型の使用

前のセクション内では、スキーマbook_order.xsd内のスキーマevent_registration.xsdを、複合型 personInfoType にカスタム番号を追加することにより再定義しました。このセクションでは、スキーマbook_order.xsd内でこの再定義された複合型の使用方法について学習します。

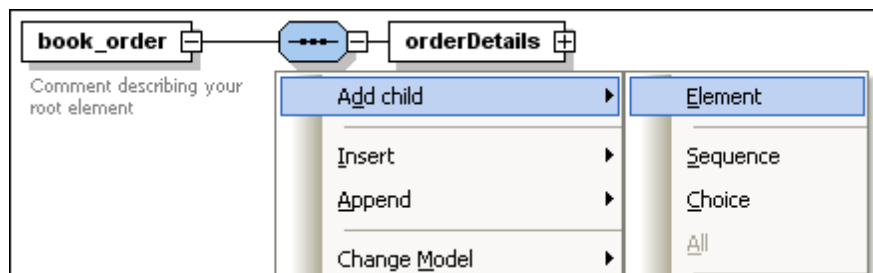
Connected to local SchemaAgent Server		
redefine	loc:event_registration.xsd	
complexType	personInfoType	ann:
end of redefine		
element	book_order	ann:Comment describing your root element

ターゲットスキーマ内で再定義された型を使用する方法:

1. book_order.xsdのためのスキーマ概要内では、ルート要素 book_order の「ダイアグラムの表示」アイコンをクリックします。

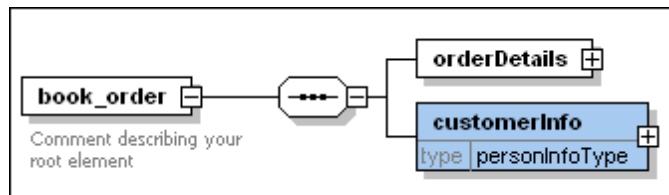


2. シーケンス要素をクリックして、コンテキストメニューから「子の追加 | 要素」を選択します。



3. 「customerInfo」をこの要素のための名前として入力します。
4. この要素を選択したままで、詳細の入力ヘルパー内で、personInfoType を型 ドロップダウンリストから選択します。両方のスキーマからのコンポーネントは黒色で表示され、その他は青色で表示されます。

再定義済み型は、book_order.xsd 内の要素として使用されています。



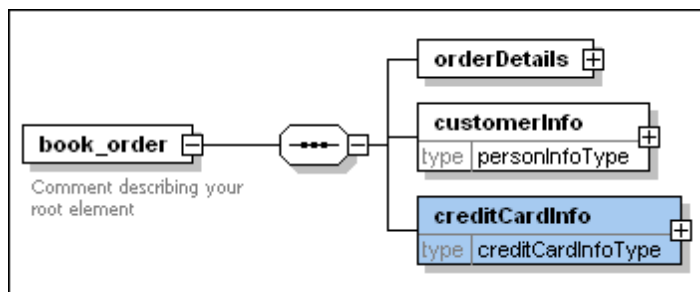
再定義無しの型の使用方法

再定義リレーションシップ内で、ターゲットスキーマ内で再定義することなくソーススキーマからの型を使用することもできます。

ターゲットスキーマ内で型をそのまま使用する方法：

1. 要素 book_order のための「ダイアグラムの表示」では、内では、シーケンス要素を右クリックし、コンテキストメニューから「子の追加 | 要素」を選択します。
2. "creditCardInfo" をこの要素のための名前として入力します。
3. この要素を選択したままで、詳細の入力ヘルパー内で、creditCardInfoType を型 ドロップダウンリストから選択します。
4. ファイルを保存します。

型 creditCardInfoType は、book_order.xsd 内の要素の型として使用されています。



4.3.6 インポート型

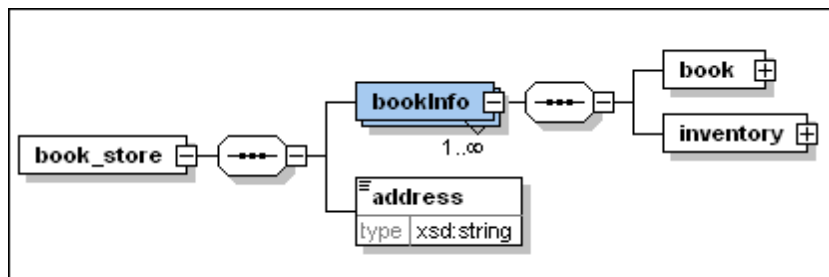
チュートリアルサンプル内では、スキーマ `book_store.xsd` は、スキーマ `library.xsd` からの異なる名前空間を持ちます。従って、`library.xsd` 内の `book_store.xsd` から要素を使用するには、これらの要素はインポートされる必要があります。このセクションでは、`book_store.xsd` から `library.xsd` に書籍に情報を保管する型をインポートする方法について学びます。



インポートステートメントを含むスキーマは、前述のインポートセクション内の2つのスキーマに接続すると自動的に追加されます。または、インポートステートメントの `ns` フィールド内で名前空間は指定されています。このセクションでは、スキーマをインポートする際、インポートされたスキーマから型を使用します。

コンポーネント `book` をグローバルな複合型にする方法:

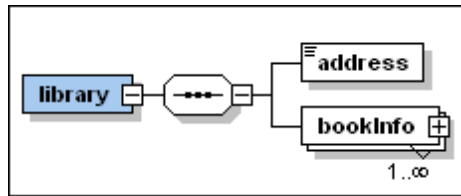
1. XMLSpy 内で `book_store.xsd` スキーマを開きます。
2. XMLSpy 内で、要素 `book_store` のための「ダイアグラムの表示」アイコンをクリックして、コンテンツモデルを表示します。
3. 「+」アイコンをクリックして、`bookInfo` 要素を展開します。



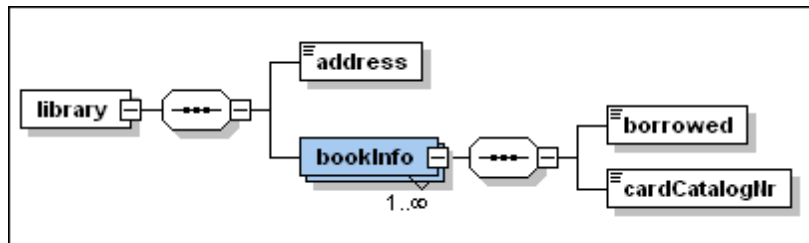
4. `book` 要素を右クリックし、コンテキストメニューから「グローバル化 | 複合型」を選択します。
5. ファイルを保存します。

`bookType` を `library.xsd` にインポートする方法:

1. XMLSpy 内で `library.xsd` スキーマを開きます。
2. XMLSpy 内で、要素 `library` のための「ダイアグラムの表示」アイコンをクリックし、コンテンツモデルを表示します。

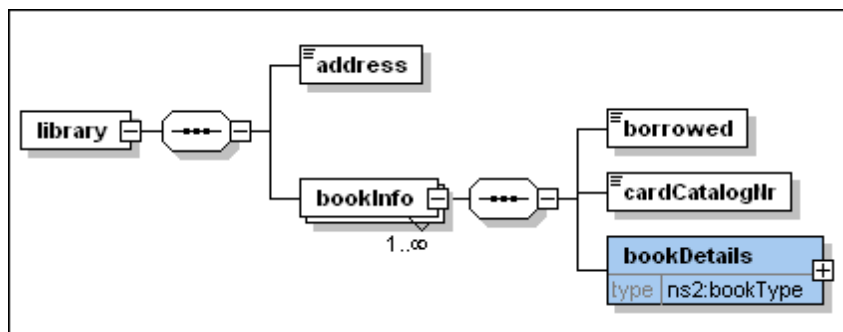


3. 「+」アイコンをクリックして、「bookInfo」要素を展開します。



4. bookInfo 要素を右クリックした後にシーケンスアイコンを右クリックし、コンテキストメニューから「子の追加 | 要素」を選択します。
5. 「bookDetails」を要素の名前として入力します。
6. 要素を選択したままで、詳細の入力ヘルパー内で、型ドロップダウンリストから ns2:bookType を選択します。両方のスキーマからのコンポーネントは黒色で表示され、その他は青色で表示されます。

7. 保存し、XMLSpy 内で現在開かれている全てのファイルを閉じます。
スキーマ book_store.xsd からスキーマ library.xsd へ型がインポートされました。



4.3.7 XMLSpy のみを使用して型をインクルードする

このセクションでは、SchemaAgent LocalServer に接続されたクライアントとして XMLSpy のみを SchemaAgentExamples\Tutorial フォルダのサブフォルダ内の次のスキーマ間のインクルードリレー

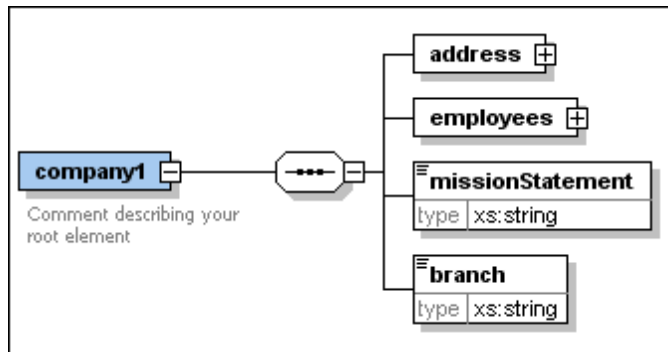
シヨシシップを作成するために使用します:

- **company1.xsd**: このスキーマは企業とその社員に関する情報を含むように構成されています。
- **company2.xsd**: このスキーマは企業の製品に関する情報を含むように構成されています。

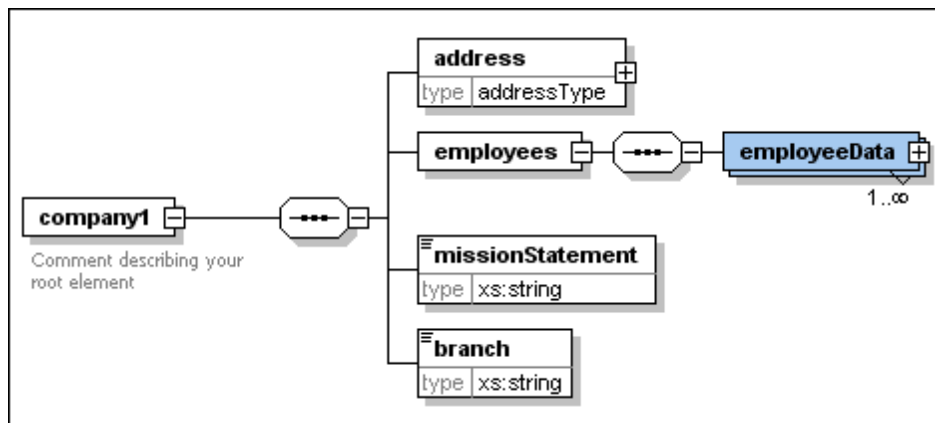
このサンプルを実行する過程で、アドレスと社員コンポーネントを company2.xsd 内の company1.xsd からインクルードします。

グローバルな複合型にコンポーネントを含む方法:

1. XMLSpy 内で company1.xsd スキーマを開きます。
2. SchemaAgent LocalServer に接続されていることを確認してください。
3. XMLSpy 内でルート要素のための「**ダイアグラムの表示**」 アイコン company1 をクリックしてコンテンツモデルを表示します。



4. address 要素を右クリックし、コンテキストメニューから「**グローバル化 | 複合型**」を選択します。
「addressType」と呼ばれる新規のグローバル複合型が作成されます。
5. employees 要素を展開するために「+」アイコンをクリックします。

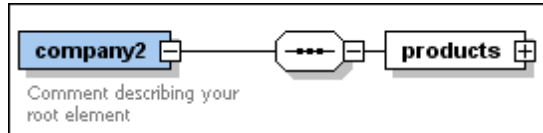


6. 同様に、employeeData 要素をグローバルな複合型にします。
これによりemployeeDataType という名前の型が作成されます。
7. ファイルを保存します。

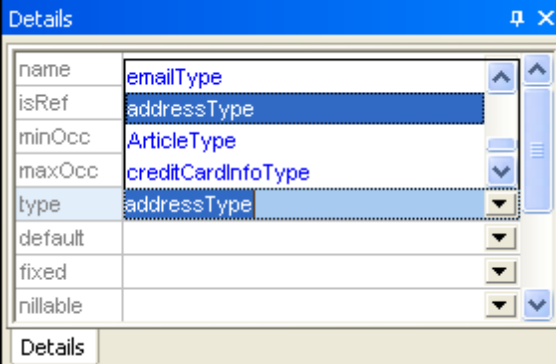
XMLSpy のみを使用してグローバルな複合型をスキーマにインクルードする:

1. このサンプル内の company2.xsd のターゲットスキーマ、XMLSpy 内で開きます。

2. SchemaAgent LocalServer に接続 されていることを確認 してください。
3. XMLSpy 内 で、ルート要素 company2 のための「**ダイアグラムの表示**」 アイコンをクリックして、コンテンツモデルを表示 します。

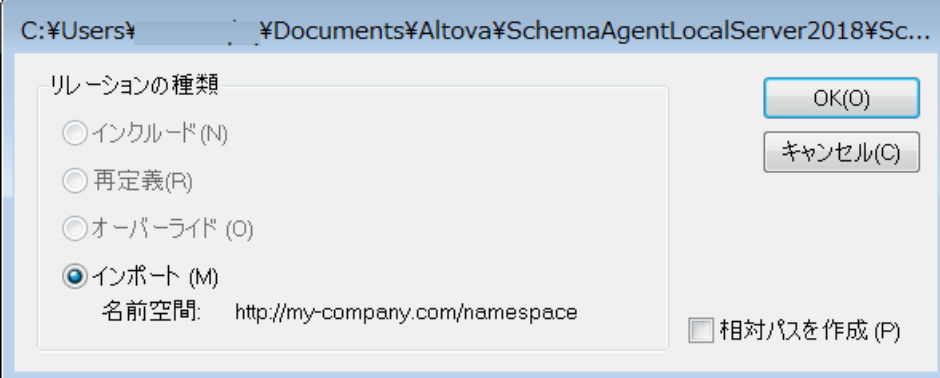


4. シーケンス要素をクリックして、コンテキストメニューから「**子の追加 | 要素**」を選択 します。
5. 「companyAddress」をこの要素のための名前 として入力 します。
6. この要素を選択 したままで、詳細の入力ヘルパー内で、型 ドロップダウンリストから「addressType」を選択 します。インクルード、インポートまたは、再定義 スキーマ間のリレーションシップが存在 しないため、用語「addressType」は青色で表示 されます。



name	emailType
isRef	addressType
minOcc	ArticleType
maxOcc	creditCardInfoType
type	addressType
default	
fixed	
nullable	

7. 2つのスキーマ間のリレーションシップの型を選択 することのできるダイアログが開 きます。



C:\Users* Documents\Altova\SchemaAgentLocalServer2018\Sc...

リレーションの種類

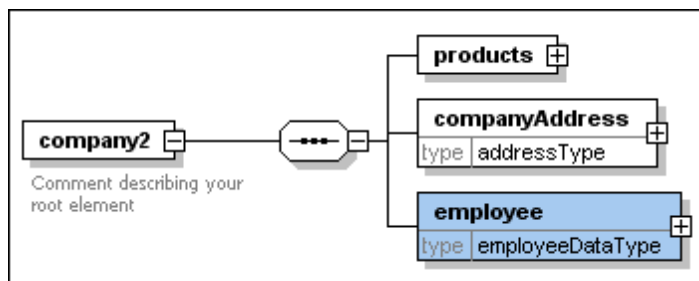
☐ インクルード (N)
☐ 再定義 (R)
☐ オーバーライド (O)
☒ インポート (M)

名前空間: http://my-company.com/namespace

☐ 相対パスを作成 (P)

OK(O) キャンセル(C)

8. インクルードを選択 し、「OK」をクリックして確認 します。
これはインクルードステートメントを company2.xsd スキーマに挿入 します。
9. 名前「employee」と型「employeeDataType」を持つ要素を更に作成 するためにステップ3から5を繰り返 します。
詳細の入力ヘルパー内で employeeDataType を型 ドロップダウンリストから選択 すると、インクルードスキーマ間のリレーションシップが存在 するため、黒色で表示 されることに注意 してください。



10. ファイルを保存します。

スキーマ company1.xsd から2つの型がスキーマ company2.xsd にインクルードされました。

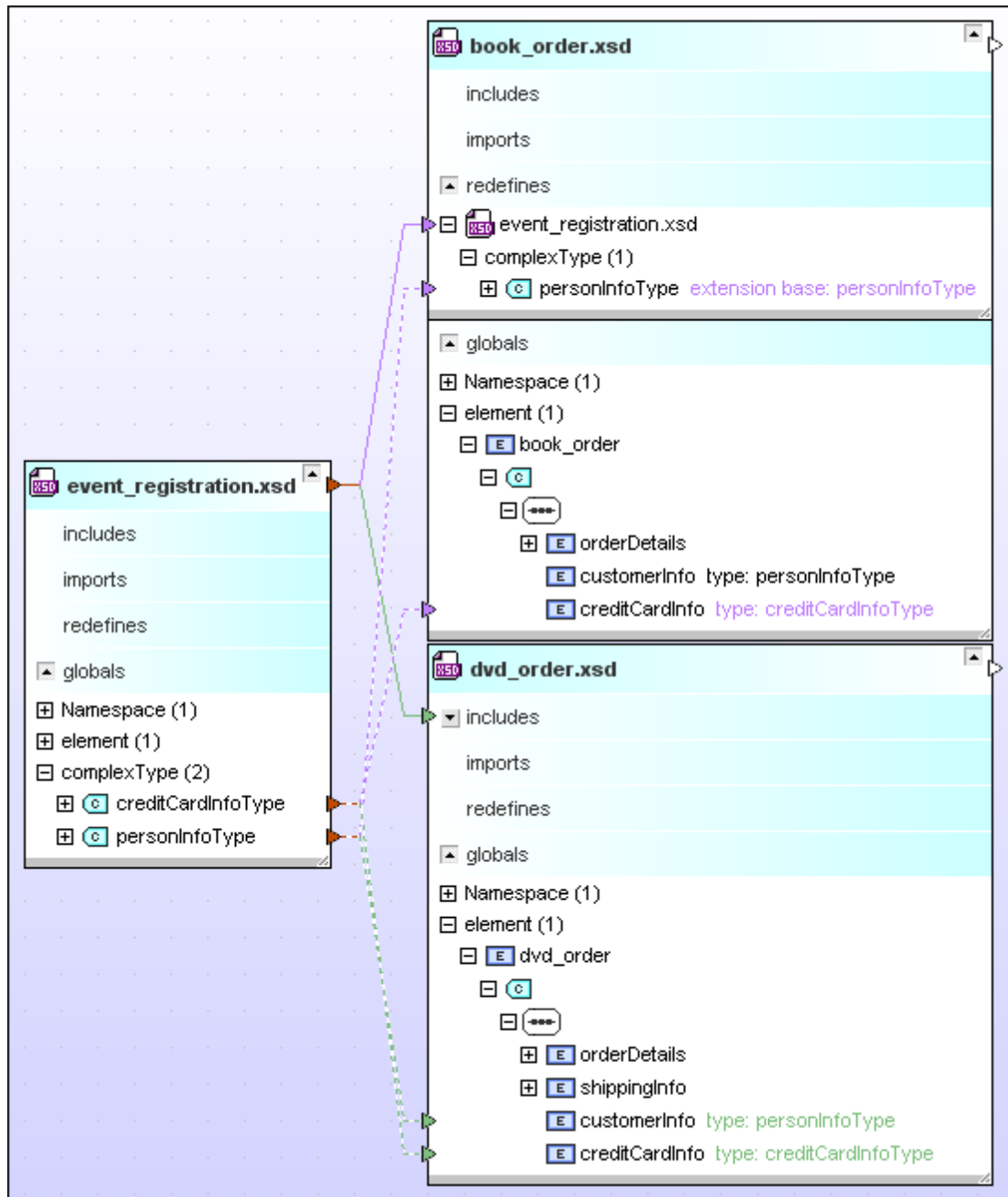
挿入されたインクルードステートメントを確認する方法：

- 「全てのグローバルを表示」  アイコンをクリックします。

ローカルの SchemaAgent Server と接続			
import	loc:C:\Users	\Documents\Altova\SI	ns:http://my-company.com/namespace
element	company2		ann:Comment describing your root element

4.4 アップデートされたリレーションシップの表示

このセクションでは、このチュートリアルの中でスキーマ間で作成されたリレーションシップをインクルードし再定義するために SchemaAgent Client を使用します。



アップデートされたリレーションシップの確認方法:

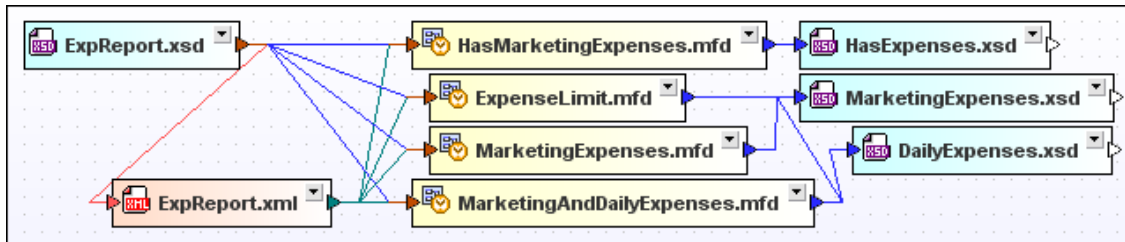
1. SchemaAgent Client 内で、ファイル event_registration.xsd、dvd_order.xsd、と book_order.xsd を含むデザインタブをアクティブにします。
2. ファイルボックスのそれぞれ内で展開 アイコンを使用して展開します。
3. ファイルボックスのそれぞれで、「globals」展開 アイコンをクリックします。

4. event_registration.xsd 内で、「complexType」を展開します。
5. dvd_order.xsd 内で、「要素」をクリックして、「customerInfo」と「creditCardInfo」が表示されるまでサブ要素を展開し続けます。
6. book_order.xsd 内で、「再定義」を展開し、「personInfoType」が表示されるまで、サブ要素を展開し続けます。

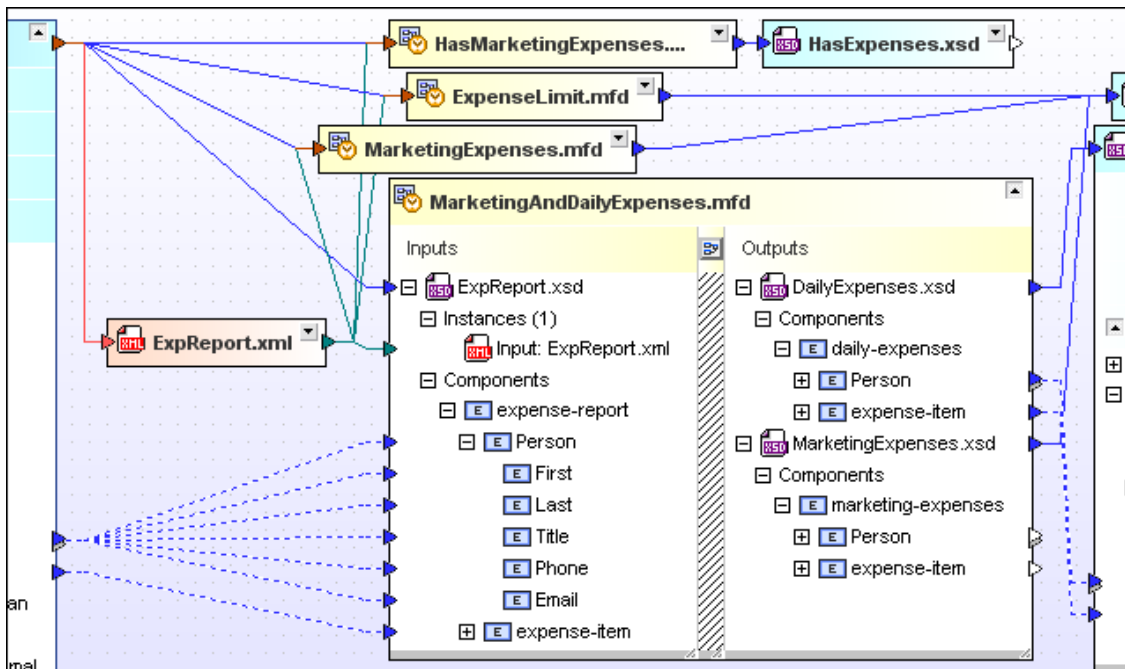
他のスキーマ内でインクルードされた、または、再定義された要素を確認することができます。

4.5 MapForce デザイン (MFD) ファイルの表示

このセクションでは、SchemaAgent Client を使用して、MapForce デザイン (MFD) ファイルのコンポーネントをビューする方法について学習します。MFD ファイルをエクスプローラーからドラッグし、デザインウィンドウにドロップします。コンテキストメニュー内でこのオプションを使用すると (直接) すべての参照されている、または、リンクされているファイルをデザインに挿入することができます。



MFD ファイルボックスと個別のセクションを展開すると、MFD ファイル、XML スキーマ、とXML インスタンス間の IIR リレーションの詳細を確認することができます。コンテキストメニューを使用して、全ての展開された詳細を表示するためにファイルボックスのサイズを適用するために子を展開、または、折りたたみます。



SchemaAgent 内で MapForce デザイン (MFD) ファイルをビューする方法:

1. SchemaAgent Client 内で、select メニューオプション「ファイル | 新規作成」、または、標準ツールバー内の「新規作成」  アイコンをクリック、または、「Ctrl+N」を押して、新規のデザインウィンドウを開きます。
2. エクスプローラー ウィンドウ内で、ExpenseLimit.mfd、HasMarketingExpenses.mfd、MarketingAndDailyExpenses.mfd、と MarketingExpenses.mfd を MapForce フォルダから選択し、デザインウィンドウにドラッグします。

3. ファイルを右クリックして、コンテキストメニューから「挿入 | 直接参照付けられているすべて | ファイル」を選択します。
関連した XML スキーマとそのリレーションシップがデザインウィンドウ内に表示されます。
4. MFD ファイルのそれぞれのファイルボックスを展開するために、展開  アイコンをクリックします。
MapForce デザインファイルとその関連付けられた XML スキーマを確認することができます。
5. XML スキーマの前の展開ボタンをクリックして、XML インスタンスとコンポーネントを表示します。アイテムの全ての子を展開するために、アイテムを右クリックし、コンテキストメニューから「全ての子の展開」を選択します。
6. ファイルボックスのサイズを調整し、全ての展開されたアイテムを確認するには、ファイルボックスの白いエリアを右クリックし、コンテキストメニューから「フィットするサイズ」を選択します。
7. 任意で、MapForce ファイルボックスのタイトルバーにカーソルをかざすと、ファイルの情報を表示するクイック情報バブルが表示されます。

チャプター 5

SchemaAgent Server

5 SchemaAgent Server

SchemaAgent Server は、識別するフォルダー内のサポートされるフォルダー(フォルダーのサブフォルダー内の任意の)? 検索パスに関する情報を読み取ります。SchemaAgent Server は、リレーションシップを決定し、これらのファイルの内部マップとそのコンポーネントを作成します。複数の検索パスを定義することができます。

SchemaAgent Client GUI 内から定義済みの検索パス内の1つまたは複数のファイル間のリレーションシップを管理することができます。ファイル間のリレーションシップは、SchemaAgent クライアントを使用して変更することができ、変更されたリレーションシップは影響を受けたファイルを介して SchemaAgent Server を使用して伝達されます。検索パスとリレーションシップ間のファイル内のファイルに関する情報は、SchemaAgent Server に接続されている SchemaAgent クライアントにサーブされます。SchemaAgent Server は、スキーマ IIR (インクルード、インポート、と再定義) サポートされるファイル間の参照を作成、アップデート、または削除するクライアントのリクエストを処理し、SchemaAgent Server とクライアント間の通信を管理します。ファイル間の IIR (インクルード、インポート、と再定義) リレーションシップを変更することができ、SchemaAgent クライアント内のファイルを削除することもできます。

これらの変更と削除は、SchemaAgent Server を介して実際のファイルに対して実装されます。SchemaAgent Server は、スキーマ IIR (インクルード、インポート、と再定義) サポートされるファイル間の参照を作成、アップデート、または削除するクライアントのリクエストを処理し、SchemaAgent Server とクライアント間の通信を管理します。

SchemaAgent クライアントは、SchemaAgent Server 内で作成された内部のマップを使用します。このマップは以下の場合作成、または、更新されます: (i) 新規の検索パスが作成される場合。 (ii) 既存の検索パス is modified within SchemaAgent Server 内で既存の検索パスが変更された場合。または、 (iii) 定義済みの検索パスを使用して SchemaAgent Server が開始された場合。フォルダーのコンテンツが物理的に変更されると (例えば、SchemaAgent クライアント内からではなく、レポートリからファイルが物理的に削除された場合) after SchemaAgent Server の開始後、SchemaAgent Server の内部のスキーママップは自動的に**更新されません**。SchemaAgent クライアントは最初のマップを使用し続けます。

注意点: SchemaAgent Server とそのクライアントは**ポート 2799** を介して UDP と TCP を使用しデータを転送します。

5.1 SchemaAgent Server のインストール

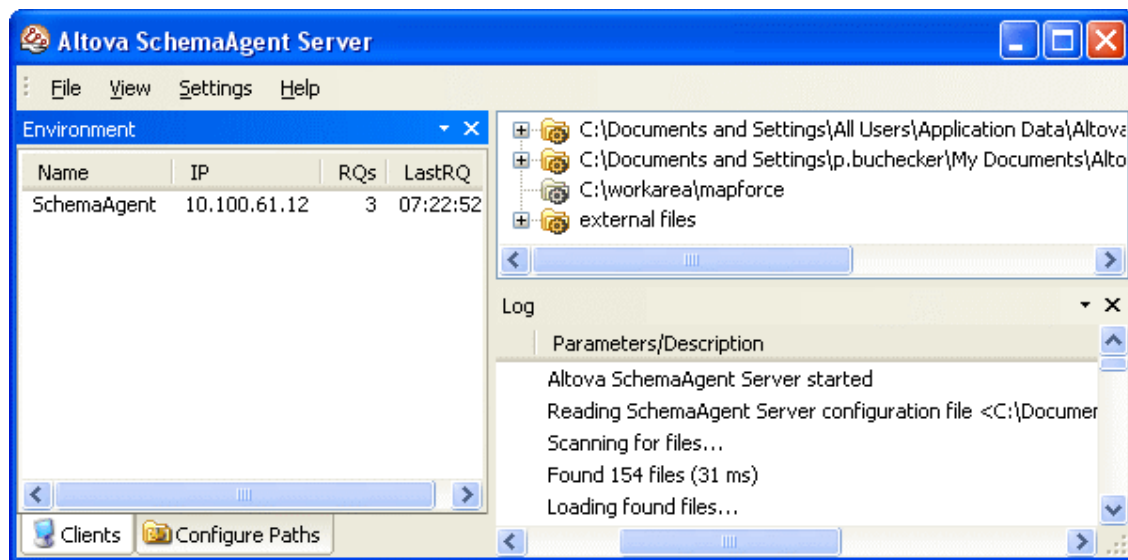
SchemaAgent Server インストールパッケージを SchemaAgent ダウンロードページから無料でダウンロードすることができます。

SchemaAgent Server のインストールの方法:

1. SchemaAgent Server インストーラーファイルをダブルクリックします。
2. 画面上の命令に従います。インストール中、ダイアログボックスは、SchemaAgent Server がスタンドアロンサーバーとして、または、サービスとしてインストールするかを選択するようにプロンプトします。これらのオプションは下で説明されています。
3. 必要であれば、サーバーを開始します (次を参照: SchemaAgent Server の開始)。

スタンドアロンサーバーとして SchemaAgent Server のインストール

スタンドアロンサーバーとしてインストールされると、「開始 | 全てのプログラム」メニューまたはデスクトップショートカットから SchemaAgent Server を開始することができます。アプリケーションにより GUI が開かれ、起動されるとシステムトレイ内でアプリケーションアイコン  が表示されます。SchemaAgent Server を直接 GUI 内で構成することができます (すなわち、定義済み検索パスが存在します)。このインストールはローカルマシン上でのインストールに適しています。



SchemaAgent Server をサービスとしてインストールする

サービスとしてインストールされている場合、SchemaAgent Server をサービスとして「コントロールパネル | 管理ツール | サービス」内で使用することができ、他の Windows サービスと同様に管理することができます。システムが起動する際に自動的に構成されることが利点です (このオプションはインストールウィザード上でも使用することができます)。SchemaAgent Server のサービスとしてのインストールは複数のクライアントのためにネットワークサーバーとしての役割を果たすシナリオに適しています。

このシナリオでは SchemaAgent Server は、される GUI を持たず、「開始 | 全てのプログラム」メニューから、または、デスクトップショートカットから起動することはできません。または、システムトレイ

アイコンを使用することができません。SchemaAgent Server を構成 (すなわち、検索パスを定義) するには、最初に SchemaAgent Server をインストールして、構成し、コマンドラインからインストールメソッドを変更する必要があります (下の指示を参照してください)。

コマンドラインを使用してインストールメソッドを変更する方法

プログラムのインストール後、SchemaAgent Server のインストールメソッドを変更するには、コマンドラインを使用して、SchemaAgentServer.exe を呼び出します。それ以外の場合、SchemaAgent Server をアンインストールし、異なるインストールメソッドを選択して、再インストールします。

下にリストされるコマンドは、コマンドラインラインから SchemaAgentServer.exe を呼び出す際に使用することができます。実行可能ファイルは、コマンドラインモードで作動する際、常にリターンコードを返します。パラメーターのインストールと削除を使用しエラーが発生した場合、返されたエラーコードはオペレーティングシステムから与えられたコードと同一です。

コマンドライン パラメーターなし	GUI アプリケーションとして開始します。
/install or -install	(非 インタラクティブな) サービスとしてインストールします (SCM Database*内でエントリを作成します)。
/install:interactive or -install:interactive	インタラクティブなサービスとしてインストールします (SCM Database*内でエントリを作成します)。 メモ: このオプションはインタラクティブなサービスのためのサポートは、セキュリティ上の理由からこれらのオペレーティングシステムから削除されているため、Windows Vista と Windows 2008 Server (および、以降)のためには無効です。SchemaAgent Server をこれらのオペレーティングシステム上でインタラクティブなサービスとして作動する場合、システムエラーが発生します (Windows Event Viewer 内でログされます): 「SchemaAgent Server サービスはインタラクティブなサービスとしてマークされていますが、システムはインタラクティブなサービスを許可しないように構成されています。このサービスは正確に作動しない可能性があります」。詳細に関しては、次を参照してください: https://technet.microsoft.com/en-us/library/cc756339(v=ws.10).aspx .
/remove or -remove	サービスをアンインストールします (SCM-Database* からエントリを削除します)。
/quiet or -quiet	インストール、または、削除 コマンドを使用する際に発生するエラーを表示するメッセージボックスを抑制します。

* サービス コントロール マネージャー (SCM) はインストールされたサービスとドライバサービスのデータベースを管理し、統一され、安全な管理方法を提供します。データベースには、各サービスとドライバサービスの情報が含まれます。システム管理者が各サービスのためのセキュリティの必要条件をカスタマイズしサービスへのアクセスを管理することができます。(ソース: MSDN ライブラリ)

「スタンドアロン」から「サービス」にインストールメソッドを変更する方法:

1. SchemaAgent Server が作動していないことを確認してください。作動中の SchemaAgent

Server サーバーを終了するには、システムトレイ内の **Altova SchemaAgent Server**  アプリケーション アイコンを右クリックし、コンテキストメニューから**シャットダウン**を選択します。

2. **コマンド プロンプト** ウィンドウ (管理者として)を開き、現在のディレクトリを SchemaAgent Server のインストール フォルダーに変更します (デフォルトでは **C:\Program Files\Altova\SchemaAgentServer2019**)。
3. コマンドプロンプトで、SchemaAgent Server サービスとしてインストールするために **SchemaAgentServer.exe /install** を入力します。
4. SchemaAgent Server をサービスとして開始します (次を参照: SchemaAgent Server の開始)。
- 5.

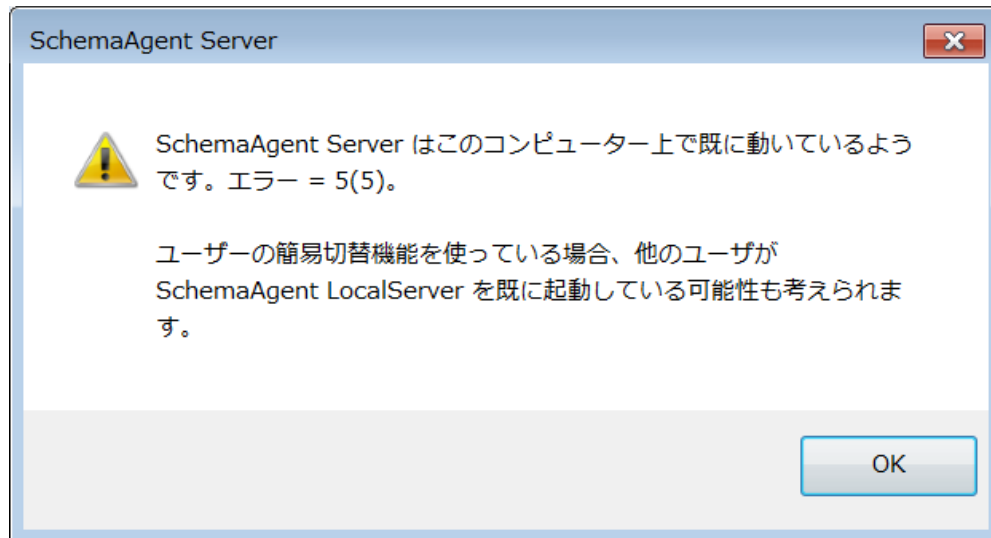
「サービス」から「スタンドアロン」へインストールメソッドを変更する方法:

1. SchemaAgent Server が作動していないことを確認してください。実行中の SchemaAgent Server サービスを終了するには、「**コントロールパネル | 管理 ツール | サービス**」から **SchemaAgent Server サービス** を右クリックし、コンテキストメニューから「**終了**」を選択します。
2. 「**コマンド プロンプト**」ウィンドウ (管理者として)を開き、現在のディレクトリを SchemaAgent Server のインストール フォルダーに変更します (デフォルトでは **C:\Program Files\Altova\SchemaAgentServer2019**)。
3. コマンドプロンプトで、**SchemaAgentServer.exe /remove** を入力して既存の SchemaAgent Server サービスをアンインストールします。
4. コマンドプロンプトで、**SchemaAgentServer.exe** を入力しスタンドアロン インストールを開始します。

5.2 SchemaAgent Server の開始

スタンドアロン サーバーとして SchemaAgent Server をインストールした場合、サーバー アプリケーションは SchemaAgent Client を接続する前に開始される必要があります。SchemaAgent Server がサービスとしてインストールされている場合、インストールの際のオプションにより、既にサービスとして開始されている場合があります。次も参照してください: SchemaAgent Server のインストール。

メモ: 1度 に開始 することのできる SchemaAgent Server のインスタンスは1つです。SchemaAgent Server が既に作動している場合、開始使用 と試みると エラーメッセージ が表示 されます。



SchemaAgent Server がサービスとして既に作動しているかチェックする方法:

1. 「コントロールパネル | 管理 ツール | サービス」を開きます。
2. SchemaAgent Server サーバー サービスをリスト内 から検索 し、ステータスをチェックしてください。

スタンドアロン サーバーとして SchemaAgent Server を開始する方法:

- 「開始」メニュー内で、「全てのプログラム | Altova SchemaAgent Server 2019 | Altova SchemaAgent Server」を選択します。SchemaAgent Server GUI が表示 されます。

SchemaAgent Server をサービスとして開始する方法:

1. 「コントロールパネル | 管理 ツール | サービス」を開きます。
2. SchemaAgent Server サーバー サービスを右 クリックして、「開始」を選択します

5.3 SchemaAgent Server の非表示

スタンドアロン SchemaAgent Server の 検索パス とファイル拡張子 を構成すると サービスとして再構成 することができ、システムと例内 で、ユーザーが使用 できないように設定 し、アプリケーションを非表示 にすることができます。

システムトレイ内 で SchemaAgent Server を非表示 にする方法：

- システムトレイ内の **Altova SchemaAgent Server**  アプリケーション アイコンを右 クリック し、コンテキストメニュー内の 「非表示」 を有効化 します。

システムトレイ内 で非表示 の場合、SchemaAgent Server を表示 するには 以下の内の1つ を行 ってください：

- システムトレイ内の **Altova SchemaAgent Server**  アプリケーション アイコンを右 クリック し、コンテキストメニュー内の 「非表示」 を無効化 します。
- システムトレイ内のアプリケーション アイコンをダブルクリック します。

5.4 SchemaAgent Server の終了

スタンドアロンサーバーとして SchemaAgent Server が作動している場合、下の命令を使用して終了することができます。SchemaAgent Server がサービスとして作動する場合、「コントロールパネル | 管理 ツール | サービス」から代わりに停止することもできます。

クライアントに接続中に SchemaAgent Server を終了する場合、これらのクライアントは SchemaAgent Server への接続を失い、SchemaAgent Server への接続による処理コマンド(例えば、SchemaAgent デザイン内での IIR リレーションシップの作成、および、変更などのコマンド)を実行することができなくなります。従って、ダイアログボックスは、現在接続されているクライアントの数を表示し、シャットダウンの継続を問います。

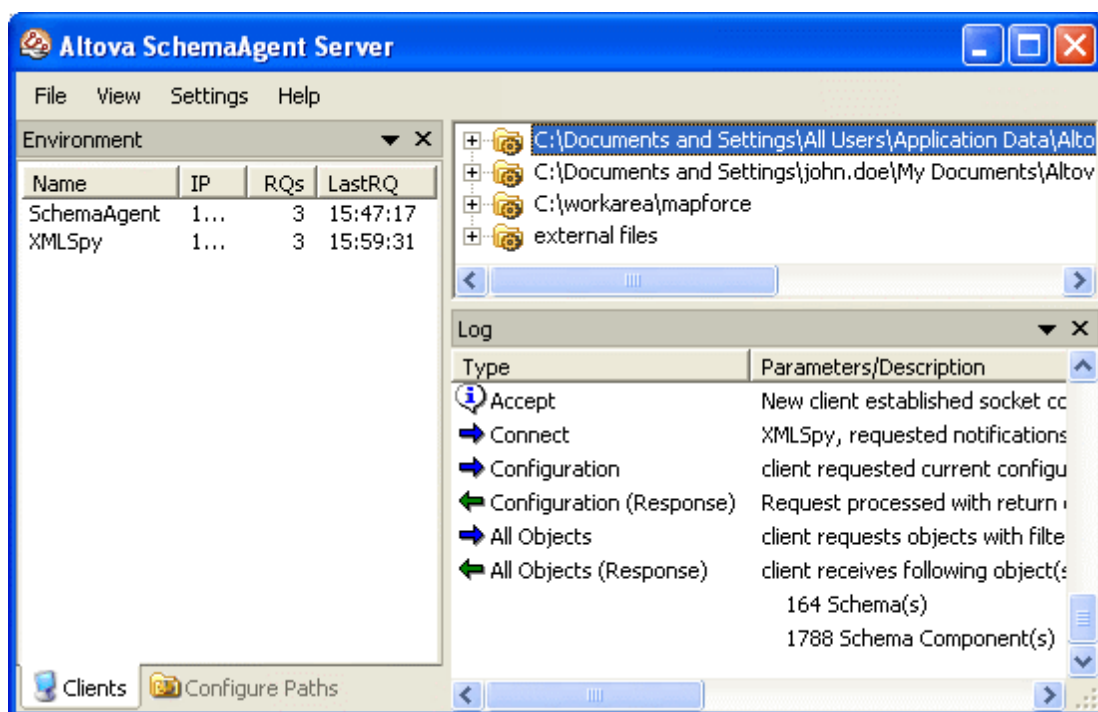
SchemaAgent Server を終了するには、以下の内の1つを行ってください:

- SchemaAgent Server GUI 内で、メニューオプション「ファイル | シャットダウン」を選択します。
- システムトレイ内の **Altova SchemaAgent Server**  アプリケーションアイコンを右クリックし、コンテキストメニューから「シャットダウン」を選択します。

5.5 SchemaAgent Server ユーザーインターフェイス

スタンドアロンサーバーとして SchemaAgent Server がインストールされている場合、視覚的なユーザーインターフェイス (GUI) を使用することができます (次を参照: SchemaAgent Server のインストール)。SchemaAgent Server をサービスとしてインストールし開始した場合、GUI を使用することができません。視覚的なインターフェイスを3つの部分に大まかに整理することができます:

- **環境ウィンドウ** ではここで使用することのできる検索パスとファイルに関する情報が表示されています。
- (アプリケーションの右上にある) **メインウィンドウ** は検索パス内で定義されているフォルダーのコンテンツを表示します。
- **ログウィンドウ** ではクライアントのリクエスト、サーバーレスポンス、と他のサーバーに関連したデータが表示されています。



5.5.1 環境ウィンドウ

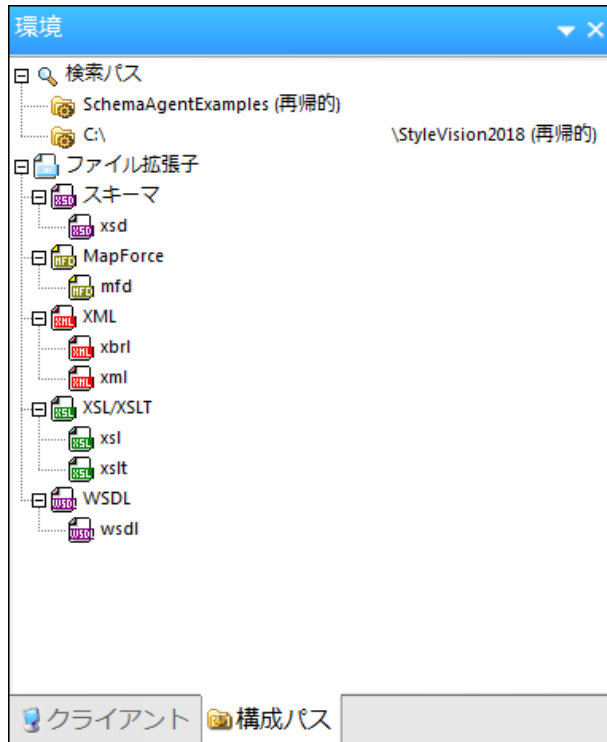
「クライアント」タブでは SchemaAgent Server に現在接続されているクライアントに関する詳細が表示されています。SchemaAgent Server への接続がクライアントからのリクエストにより開始され、リクエストはクライアントから送信される必要があります。

Environment			
Name	IP	RQs	LastRQ
SchemaAgent	10.100.61.12	5	13:15:36
XMLSpy	10.100.61.12	5	13:15:39

上のスクリーンショットは、2つのクライアント、SchemaAgent Client とXMLSpy、が SchemaAgent Server に現在接続されていることを表示しています。現在接続されている接続されているクライアント

トの IP アドレスが表示されています。クライアントからのリクエストの数量が RQ カラム内に表示されており、各クライアントの最後のリクエストは LastRQ カラムに表示されています。

「パスの構成」タブでは、パスが検索されているファイルのファイル拡張子と検索パスが表示されています。SchemaAgent 内の検索パスの構成に関する詳細のためのチャプター 検索パスの構成 を参照してください。



SchemaAgent Server への接続をビューする方法：

- 環境ウインドウ内で、「クライアント」タブをクリックします。

SchemaAgent Server 内での検索パスの構成方法：

- SchemaAgent ドキュメント内の次のチャプターの詳細を参照してください:
 - 検索パスの追加と編集
 - ファイル拡張子の構成
 - 検索パスの再ロードとリセット

5.5.2 ログウインドウ

ログウインドウは、クライアントのリクエスト、サーバー レスポンス、および、他のサーバーに関連したデータを表示します。このデータは、(アクションの場合) 実行の時刻、または、(通知の場合)データ転送の時刻と共に表示されます。情報にクライアントが含まれる場合、クライアントは IP アドレスと共に表示されます。

Log					
Type	Parameters/Description	Source/Target	IP	Time	
➡ Relation Change	client requests relation change	SchemaAgent	10.100.61.12	15:26:58	
	Redefine - ipo2.xsd in address2.xsd			15:26:58	
	Schema C:\Program Files\Altova\Schem...			15:26:58	
	Schema C:\Program Files\Altova\Schem...			15:26:58	
← Relation Change (Response)	Request processed with return code 0	SchemaAgent	10.100.61.12	15:26:58	
➡ Single Object	client requests objects with filter 0 and ...	SchemaAgent	10.100.61.12	15:26:58	
← Single Object (Response)	client receives following objects: 1 R...	SchemaAgent	10.100.61.12	15:26:58	
❗ Disconnect	Client closed the socket	SchemaAgent	10.100.61.12	15:28:49	
	Last client disconnected			15:28:49	
❗ Accept	New client established socket connection		10.100.61.12	15:29:18	
➡ Connect	XMLSpy, requested notifications 0xFFFF...	XMLSpy	10.100.61.12	15:29:18	
➡ Configuration	client requested current configuration	XMLSpy	10.100.61.12	15:29:18	
← Configuration (Response)	Request processed with return code 0	XMLSpy	10.100.61.12	15:29:18	
➡ All Objects	client requests objects with filter 4 and ...	XMLSpy	10.100.61.12	15:29:18	
← All Objects (Response)	client receives following objects:	XMLSpy	10.100.61.12	15:29:55	
	0 Config Paths			15:29:55	
	0 Directories			15:29:55	
	458 Schemas			15:29:55	
	0 MapForce Mappings			15:29:55	
	7643 Schema Components			15:29:55	
	0 Relations			15:29:55	
	0 Schema Component Relations			15:29:55	

次のシンボルはログウィンドウ内で使用されています:

- ➡ クライアントからのリクエスト (青色、右向きの矢印)
- ← サーバーからのレスポンス (緑色、左向きの矢印)
- ❗ クライアントへの接続、または、接続の中断についての情報が表示されます。

(リクエストの)ソース クライアントと(レスポンスの) ターゲット クライアントはソース ターゲット カラム内に表示されます。パラメーター 記述 カラムはアクションの種類を表示し、時刻カラムはアクションの時刻を表示します。

SchemaAgent Server 内で検索パスが変更される都度(例えば、検索パスのために「再帰的」オプションが無効化されている場合)、SchemaAgent Server により変更されたファイル構造が全ての接続されたクライアントに送信されます。

検索パス内のフォルダーが、自身の構造を SchemaAgent Server の外部で変更された場合、(例えば、サブフォルダーがレポジトリから削除されている場合)この情報は SchemaAgent Server 内で、検索パスが再ロードされるまで更新されません。

「<ファイル型> ファイルの読み取りに失敗しました」メッセージは、指定された場所で見つからないファイルをインクルード、または、インポートする場合に表示されます。

5.6 SchemaAgent Server GUI の構成

SchemaAgent Server の視覚的なユーザーインターフェイスにより、アプリケーションの外観とログオプションを構成することができます。

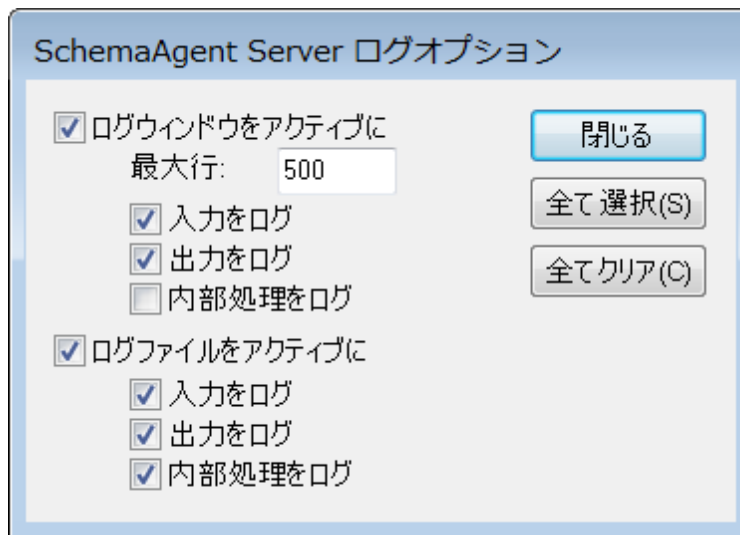
ウィンドウの表示の変更方法

環境とログウィンドウを、それぞれのペインの右上の「閉じる」ボタンをクリックして、または、環境ウィンドウの「クライアント」タブをクリックして、ポップアップするコンテキストメニュー内の必要とするウィンドウを無効化します。

環境とログウィンドウのタイトルバーをダブルクリックすると、アプリケーションウィンドウ内でこれらの2つのウィンドウをドック、または、アンドックすることができます。ウィンドウのタイトルバーをドラッグすると、ワークスペース内でウィンドウを自由に移動することができます。ウィンドウをドラッグする際に、SchemaAgent Server アプリケーションウィンドウ内に青色の配置矢印が表示されます。これらの配置矢印の1つにウィンドウをドラッグすると、配置矢印により示される場所にウィンドウがドックされます。4つの外側の配置矢印は、4つのエッジにそれぞれウィンドウをドックします。4つの内側の配置矢印は、ペインに相対したウィンドウをエッジにドックします。

ログオプションの設定方法

SchemaAgent Server のアクションを、ログウィンドウ内、または、ログファイルに書き込むかを選択することができます。ログオプションは **SchemaAgent Server ログオプション** ダイアログボックス内で構成することができます（スクリーンショット参照）。



「ログウィンドウをアクティブに」チェックボックスを選択すると、ログウィンドウ内に SchemaAgent Server アクションが表示されます。「ログファイルをアクティブに」チェックボックスの選択により、SchemaAgent Server アクションがログファイル内に書き込まれます。

ログファイルは、SchemaAgentServerLog.csv という名前のコンマにより区切られた Comma separated Values (CSV) ファイルで、SchemaAgent Server セッションを開始する都度 SchemaAgent Server と同じファイルに作成されます。これは「ログファイルをアクティブに」チェックボックスが有効化されていることが前提です。

- ログ入力オプションは受信したリクエストの表示を有効化/無効化します。
- ログ出力オプションは送信されるレスポンスの表示を有効化/無効化します。

- ログ 内部 オプションは内部の SchemaAgent Server 情報の表示を有効化 無効化します。

SchemaAgent Server 内の個別のウィンドウをオンとオフに切り替える方法:

1. 以下の内の1つを行ってください:
 - メニューオプション「表示 | ツールバー」を選択します。
 - ログウィンドウ、または、環境ウィンドウのクライアントタブをクリックします。
2. 表示、または、非表示にするウィンドウをそれぞれ有効化、または、無効化にします。ペインの表示をオン オフに切り替えます。

ログオプションの構成方法:

1. メニューオプション「設定 | ログオプション」を選択します。
「ログオプション」ダイアログボックスが開かれます。
2. ログウィンドウを有効化する方法:
 1. 「ログウィンドウをアクティブに」チェックボックスを有効化します。
 2. ログウィンドウ内に表示されるラインの数を指定します。
 3. 入力、出力をログ、または、ログファイルの内部のそれぞれのチェックボックスを有効化します。
3. ログファイルを有効化する方法:
 1. 「ログファイルをアクティブに」チェックボックスを有効化します。
 2. 入力、出力をログ、または、ログファイルの内部のそれぞれのチェックボックスを有効化します。
4. 任意で、「すべて選択」、または、「全てクリア」をクリック、または、クリアをそれぞれ選択します。
5. 「閉じる」をクリックします。

5.7 ユーザーレファレンス

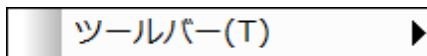
「ユーザーレファレンス」セクションには、すべての SchemaAgent Server メニューコマンドの完全な記述が含まれています。このユーザーマニュアルは限りなく包括的になるように作成されていますが、ユーザーレファレンス内で取り上げられていない、または、このドキュメントの他の部分で説明されていない場合は、Altova Web サイトの良くなる質問とディスカッションフォーラムを参照してください。問題について満足する回答が得られない場合、Altova Web サイト上のサポートセンターにお問い合わせください。

5.7.1 ファイルメニュー

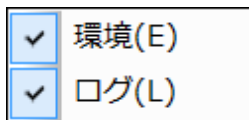


「ファイル | シャットダウン」コマンドにより SchemaAgent Server を終了することができます。クライアントへの全ての接続が失われることに注意してください。

5.7.2 表示メニュー

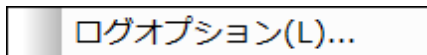


「表示 | ツールバー」コマンドでは環境とログウィンドウの表示のオンとオフを切り替えることができ、サブメニューを開くことができます。



それぞれのメニューオプションの選択を解除して対応するウィンドウを非表示にします。

5.7.3 設定メニュー



「設定 | ログオプション ...」コマンドは SchemaAgent Server のログオプションの構成をおこなうことのできる「SchemaAgent Server ログオプション」ダイアログボックスを開きます。

5.7.4 ヘルプメニュー

「ヘルプ」メニューには、上でヘルプを取得するために必要とされるコマンドなど、および Web サーバー上の SchemaAgent の情報とサポートページへのリンクが含まれています。



目次



F1

「目次」コマンドは、オンラインのヘルプシステムに含まれるすべてのチャプターとトピックの階層型を表示しています。このコマンドを使用して、SchemaAgent 内から直接目次に移動することができます。

ヘルプウィンドウが開かれると、3つのタブを使用して、目次、インデックス、と検索 ペイン間をナビゲートします。お気に入りタブによりヘルプシステム内のページをブックマークすることができます。

キーワード



「インデックス」コマンドによりオンラインのヘルプの「キーワード インデックス」にアクセスすることができます。オンラインのヘルプシステムの左側のペイン内のインデックス タブも使用することができます。

インデックスは、すべての関連付けられたキーワードをリストし、それぞれのキーワードをダブルクリックすることによりトピックに移動することができます。1つ以上のトピックが選択されたキーワードに一致する場合があります。選択可能なトピックのリストが表示され、リストからトピックを選択することができます。

検索



「検索」コマンドはフルテキスト検索をオンラインのヘルプシステム上で実行します。

1. クエリフィールドに検索用語を入力し、「Enter」を押します。

オンラインのヘルプシステムは、入力された検索用語を含むトピックのリストを表示します。

2. 対応するトピックを表示するために、リスト内のアイテムをダブルクリックします。

サポートセンター ...

製品に関する質問がある場合は、このコマンドを使用して、Altova サポートセンターに質問を送信してください。これはよくある質問、サポートフォーム、直接サポートスタッフに連絡を取るための電子メールアドレスへのリンクが含まれるページです。

Web 上の FAQ

よりよいサポートをお届けするために、ユーザーから寄せられた新規の問題が挙げられると問題についてのサポートが継続的に更新される良くなる質問 (FAQ) のリストがインターネット上に掲示されています。

FAQ を技術サポートチームに連絡をとる前に確認してください。この方法によりヘルプを素早く得ることができます。

電話での技術サポートは現在おこなわれておらず、サポートスタッフが営業日に電子メールリクエストに対して対応します。

SchemaAgent Server のバージョンのために機能の提案がある場合は、他の一般的なフィードバックとして、質問フォームを記入して送信してください。

インターネット上の SchemaAgent Server

「インターネット上の SchemaAgent Server」コマンドを使用して製品のアップデートや Altova チームからの追加情報などについての情報が掲載される Altova Web-サーバーに直接移動することができます。

SchemaAgent Server について

「SchemaAgent Server について」コマンドは、SchemaAgent スプラッシュスクリーンと製品の番号と SchemaAgent ロゴを示す著作権情報ダイアログボックスを表示しています。SchemaAgent の 64 ビットバージョンを使用する場合、アプリケーション名の後にサフィックス (x64) を持つステータスバーにより表示されます。32 ビットバージョンのためのサフィックスは存在しません。

チャプター 6

SchemaAgent Client

6 SchemaAgent Client

SchemaAgent Client によりスキーマとサポートされた ファイル型 間のリレーションとの間の IIR リレーションシップ (インポート、インクルード、と再定義) を作成、または、変更 する SchemaAgent デザイン をビルドすることができます。

SchemaAgent デザイン内 で、スキーマ、スキーマ ベースの MapForce デザイン (MFD) ファイルとその関連付けられたスキーマリレーションシップを確認 することができます。更に、XSLT スタイルシートと WSDL ファイルを表示 し、スキーマファイルを持つファイル、XML インスタンス、MFD ファイル間のリレーションを確認 することができます。SchemaAgent デザインは後に SchemaAgent Client 内 で開き、編集 することのできる SAD ファイルとして保存 されます。SchemaAgent Client にはドラッグアンドドロップなどの標準 の GUI 技術を使用したサポートされるファイルを簡単にリンクすることのできる使用 が簡単な 視覚的なユーザーインターフェイス が搭載 されています。

変更されたファイルへの参照は関連付けられたファイル内 でグローバルに更新 するために、SchemaAgent Client によりスキーマとその関連するファイルを (名前の変更、移動、削除 して) 管理 することができます。この機能により SchemaAgent Client は、多数の複雑な、関連付けられたスキーマを管理 し、これらのスキーマ間のリレーションシップとリンクされる他のサポートされるファイルを編集 する、パワフルなワークスペースとしての役割 を果たす ことができます。

SchemaAgent Client の作動のしくみ

SchemaAgent Client を SchemaAgent サーバーに接続 します。SchemaAgent 製品にインストールされている LocalServer、または、Altova の 無料の SchemaAgent Server 製品に接続 することができます。これらの 2つのサーバーの主要な差分は、LocalServer がローカルマシンインストールされており、同じマシン上のクライアントにサブスクリプションし、while SchemaAgent Server はネットワークマシン上にインストールし、複数のクライアントにサブスクリプションし、詳細なログ情報を提供 します。

サーバに接続後、SchemaAgent Client は、それぞれのサーバー の検索パス内でモニターされたファイルに関する情報を取得 し、SchemaAgent Client のエクスプローラー ウィンドウ内でツリー構造 (階層型タブ、および、フラット) として検索パス内のフォルダーを表示 します。SchemaAgent Client 内では、デザインウィンドウ内の SchemaAgent デザインにツリーからドラッグしてドロップ することができます。

デザインウィンドウ内 で、スキーマとその関連するファイルの構成をビューし、SchemaAgent デザインでサポートされるファイル間のリレーションシップをビルド することができます。2つのスキーマ間のリレーションシップをビルドし変更すると、新規の情報と共に実際のスキーマファイルが更新 されるだけでなく、リレーションシップにより影響を受ける他のリンクされたスキーマも更新 されます。

6.1 SchemaAgent Client のインストール

ソフトウェアをインストールする前に、Altova Web サイトにある [SchemaAgent ダウンロードページ](#) から SchemaAgent 2019 インストールパッケージをダウンロードする必要があります。Altova® MissionKit™ 2019 を購入済みの場合、SchemaAgent 2019 製品がパッケージ内に含まれています。

LocalServer と呼ばれるローカル SchemaAgent サーバーが SchemaAgent Client ソフトウェア インストールの一部としてインストールされます。インストール中、SchemaAgent を (LocalServer を介して) ローカルで使用するか、または、SchemaAgent Server を使用するかと問われます。選択は、起動時にどのサーバークライアントに接続されるかデフォルトの設定を決定します。「**拡張機能 | サーバーへの接続**」メニューオプションを使用してこの設定を変更することがいつでもできます。

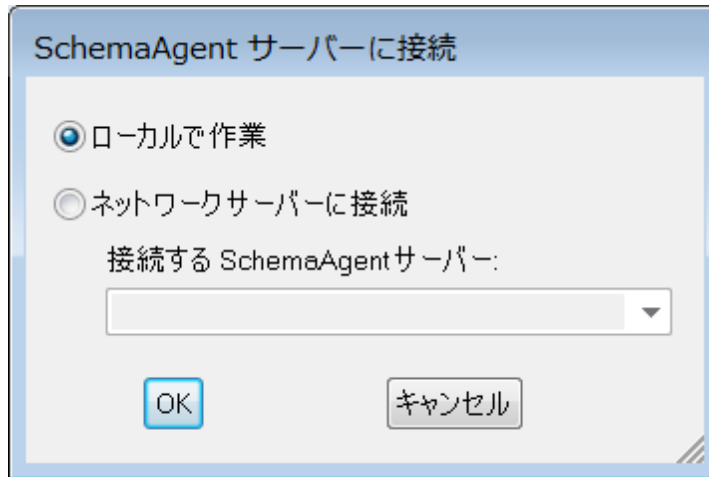
SchemaAgent Client ライセンスは Altova Web サイトの Altova ショップで購入する必要があります。Altova® MissionKit™ 2019 を購入した場合、SchemaAgent Client のためのライセンスは、パッケージ内に既に含まれています。

SchemaAgent Client のインストール方法：

1. インストールプロセスを実行するために、インストーラーファイルをダブルクリックします。
2. 製品のライセンスを認証するために、ライセンスの情報を入力し保存します。

6.2 SchemaAgent Client の開始

SchemaAgent Client のインストールに成功した後、アプリケーションはワークステーションのプログラムリストに表示されます（「開始 | 全てのプログラム」）。ライセンスの情報が SchemaAgent に登録されていない場合、SchemaAgent の起動時に登録をプロンプトされます。登録済みの有効なライセンスを持つ場合、「SchemaAgent Server に接続」ダイアログボックスが表示されます。



SchemaAgent と作業するには次の2つのオプションを使用することができます：

- ローカルで作業
- ネットワークサーバーへの接続

これらの2つのオプション間の差分の詳細な記述に関しては、このドキュメント内の後の関連したチャプターを参照してください。

SchemaAgent Client の開始方法：

1. 「全てのプログラム」リスト内で Altova SchemaAgent エントリをクリックし、または、クイックランチトレイ内の Altova SchemaAgent  アイコンをクリックします。
「SchemaAgent Server に接続」ダイアログボックスが表示されます。
2. 以下の内の1つを行ってください：
 - LocalServer に接続するために、「ローカルで作業」を選択します。
 - 必要とされるサーバーが既に起動されていることを確認し、「ネットワークサーバーへの接続」、ドロップダウンリストから（ネットワークで作動中の）SchemaAgent Server を選択します。
3. 「OK」をクリックして確認します。

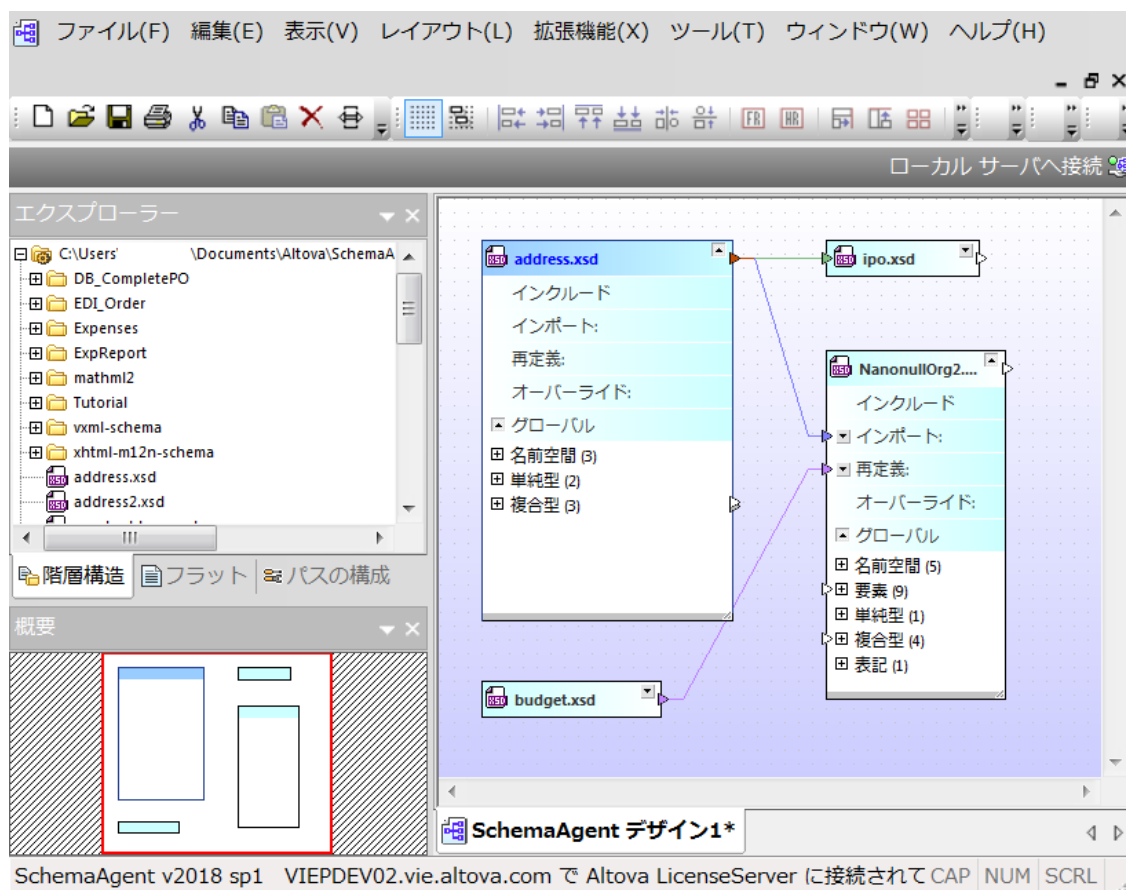
SchemaAgent Client の終了方法：

- メニューオプション「ファイル | 終了」を選択します。

6.3 SchemaAgent Client ユーザーインターフェイス

SchemaAgent Client には2つのおおまかな部分に整理することのできる視覚的なインターフェイスです:

- 使用することのできる検索パスとファイルに関する情報を提供する**エクスプローラー ウィンドウ**。メインウィンドウ内で現在表示されているアクティブなデザインの箇所を表示する**概要 ウィンドウ**。
- **デザインウィンドウ** はサポートされたファイル型の構造、および、スキーマ間の既存のインクルード、インポート、再定義 (IRR)、または、サポートされるファイルの間のリレーションシップ、をそれぞれ視覚的に表示します。



エクスプローラーと概要 ウィンドウを、メニューバーとツールバーの下にドックすることができ、また、メニューバーとツールバーの下で自由に整理することもできます(スクリーンショット参照)。位置とサイズは、ドラッグ、または、サイズ調整をして変更することができます。

このセクションでは、インターフェイスの広義な説明が行われています。多種のインターフェイスの詳細はこのドキュメントの後のセクションで記述されています。

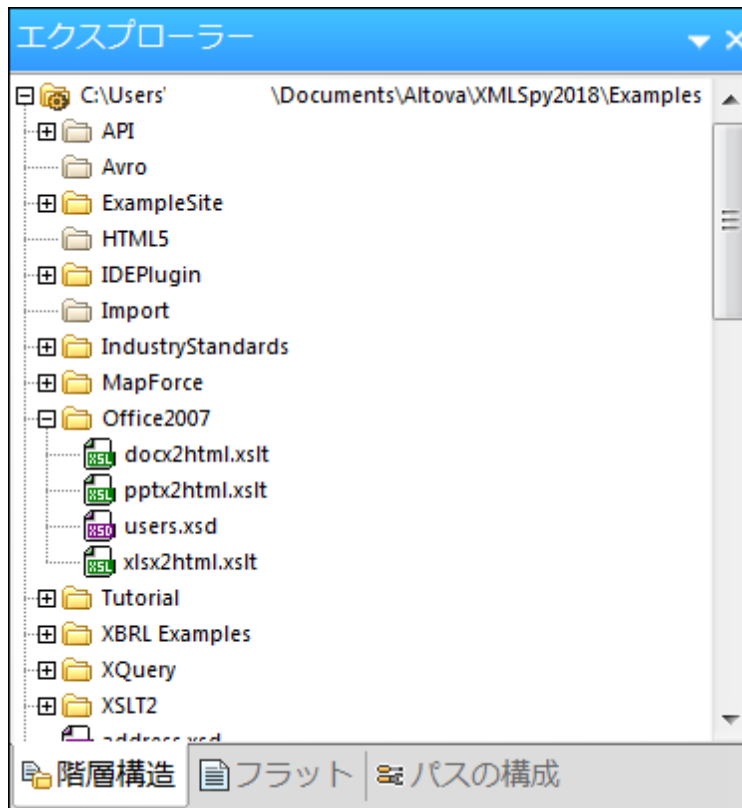
6.3.1 エクスプローラー ウィンドウ

(LocalServer に接続されている場合)、または、(ネットワークベースのサーバーに接続されている場合) SchemaAgent Server 内でエクスプローラー ウィンドウは選択された SchemaAgent Server と含まれている関連するファイルのための全ての定義済みの検索パスを表示しています。インストールにより、これらの検索パスはエクスプローラー ウィンドウのパスの構成タブ内で直接構成することができます。

す したがって、LocalServer に接続 されている場合 のみ、パスの構成 タブは可視化 されます。

階層型 タブ

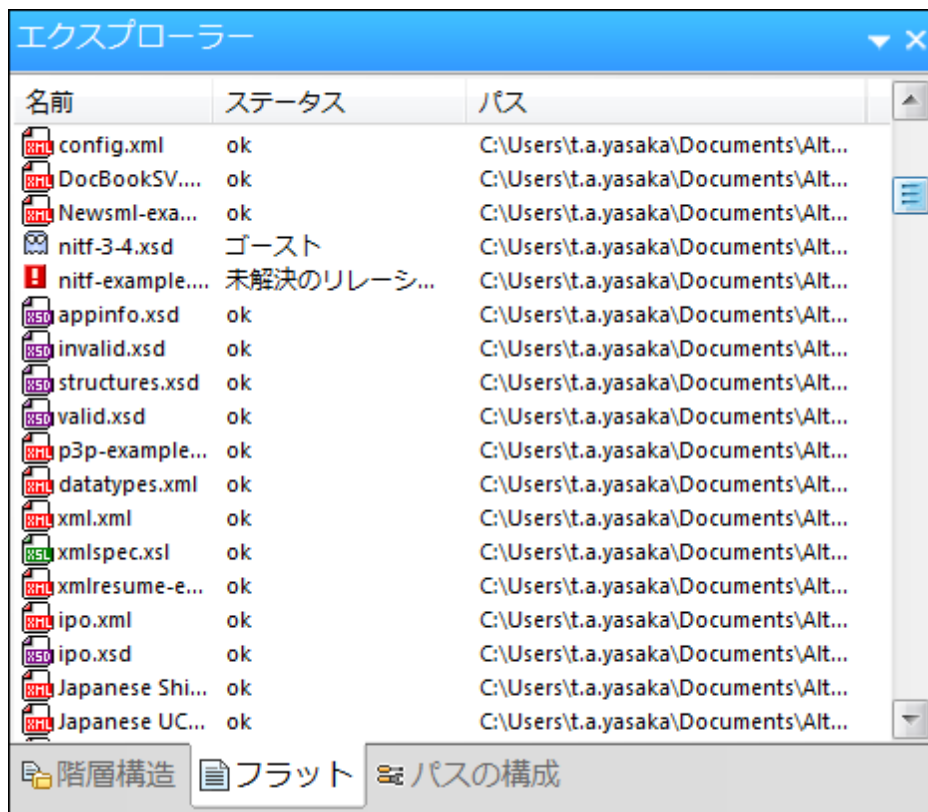
ツリー構造 内の階層型 タブは、を表示 しています。選択 された SchemaAgent Server 内の定義 済み検索 パス内の定義 済みのファイル拡張子 のための全 体のファイルを表示 しています(スクリーン ショット参照)。サポートされるファイルを含むフォルダーは、濃い黄色 で表示 されています。 このよう なファイルを含 まないフォルダーは、薄い黄色 で表示 されます。



コンテキストメニュー内 でオプション「空 のフォルダーの表示 」の選択 を解除 し、サポートされるファイルを含 まないフォルダーを非表示 にすることができます。

フラット タブ

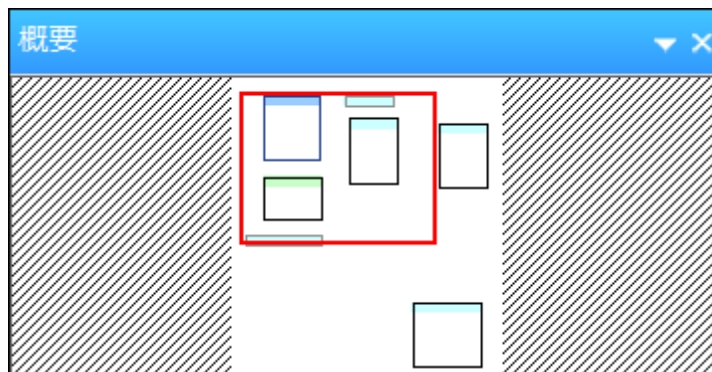
フラット タブ(スクリーンショット参照) は、選択 された SchemaAgent Server 内の全 体の定義 済み検索 パス内の監視 されているファイルのフラットリスト、および、外部 ファイルフォルダー内のすべてのスキーマを表示 します。このようなスキーマが存在 する場合(すなわち、検索 パス内 ではない検索 パス内 でスキーマにより参照 されているスキーマ)。各 ファイルエントリはロケーションとそのステータスと共に表示 されています。



上のスクリーンショットでは、異なるアイコンがゴーストファイル  と未解決のリレーション  を持つファイルを表示するために使用されていることに注意してください。

6.3.2 概要ウィンドウ

概要ウィンドウは、デザインウィンドウ内で使用できるスペースを占める大きなデザインファイルのためのナビゲーターの役割を果たします。概要ウィンドウはデザイン内で現在表示されているエリアを表示し、デザインファイル内の必要とするロケーションに三角形をクリックしてフォーカスを移動することができます。



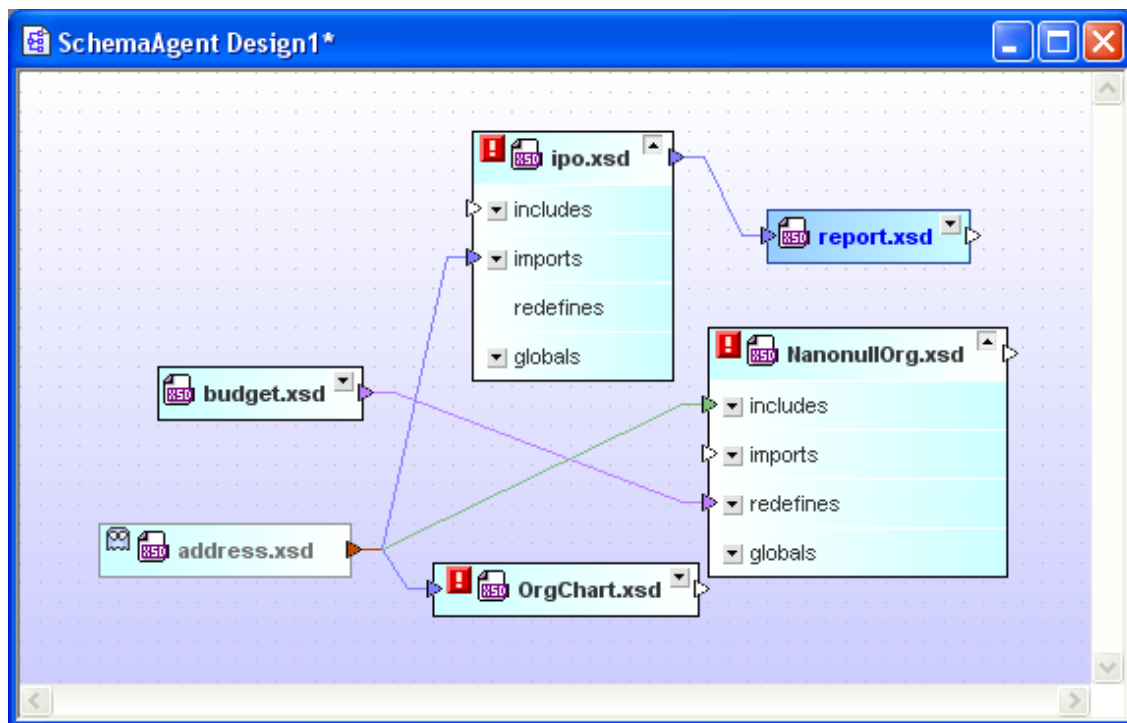
デフォルトで、概要ウィンドウは、アプリケーションの左下にドックされていますが、ウィンドウをアンドックし、ドラッグしてアプリケーション内で希望する場所に移動することができます。

6.3.3 デザインウィンドウ

デザインウィンドウで関連したファイル拡張子が定義されたファイルをビューし編集します。次のファイルが現在 SchemaAgent 内でサポートされています:

- W3C XML スキーマ
- MapForce デザインファイル
- XML インスタンスファイル
- XSL/XSLT スタイルシート
- Web サービス 記述 言語 (WSDL) ファイル

ファイルとその既存の インクルード、インポート、と再定義 (IIR) の視覚的に表示するには、エクスプローラー ウィンドウからファイルをドラッグして、デザインウィンドウにドロップします。ファイルは、必要に応じて 整列 と並べ替えすることができ、または、デザインから削除することもできます。削除済みのファイルを再作成 することもでき、指定されている場所に存在しないファイルの参照パスを修正することもできます。



スキーマ、または、スキーマとMFD ファイル間のインクルード、インポート、と再定義、はそれぞれ、カスタム化することのできる色の接続線により表示されています。IIR はドラッグアンドドロップを使用して、編集 と追加 することができ、後で再利用するために各 デザインを SAD ファイルとして保存することができます。複数のデザイン デザインウィンドウ内で複数のデザインを開くことができ、それぞれが個別のデザインタブに表示されます。

6.3.4 メニューバー、ツールバー、ステータスバー

「メニューバー」には多種のアプリケーション メニューが含まれています。次のコンベンションが適用されます:

- メニュー内のコマンドを使用することはできません。
- 一部のメニューコマンドは、追加のオプションをリストするサブメニューをポップアップします。サブメニューを持つメニューコマンドはコマンド名の右側の右向きの矢印の先端 (三角形) により表示されています。

- メニューコマンドの一部は選択されたコマンドを実行するために必要とされる更なる情報をプロンプトするダイアログをポップアップする場合があります。このようなコマンドは コマンド名の後の省略記号 (...) により表示されています。
- メニューコマンドにアクセスするには、メニュー名をクリックし、コマンドをクリックします。メニューアイテムのためにサブメニューが存在する場合、メニュー アイテムにマウスポインターをポイントするとサブメニューが開かれます。
- メニューはキーボードから適切なキーの組合せ、を押して開くことができます。各メニューのためのキーの組合せは「KEY」がメニュー名内の下線の引かれた文字である箇所の「Alt+KEY」です。例えば、「ファイル」メニューのためのキーの組合せは is 「Alt+F」です。
- メニューコマンド(メニュー内のコマンド)は、以下を順番に選択することにより選択することができます (i) キーの組合せを持つメニュー (前のポイントを参照)、(ii) 特定のコマンドのためのキーの組合せ (「KEY」がコマンド名内の下線の引かれた文字である「Alt+KEY」)。例えば、ファイルを開くには (「ファイル | 開く」、 「Alt+F」を押し、 「Alt+O」を押します。
- 特別なショートカット キー、または、キーの組合せ (Ctrl+KEY) を押して、直接メニューコマンドの一部を選択することができます。関連したショートカットを持つコマンドは、ショートカットキー、または、コマンドの右側にリストされるキーの組合せにより示されています。例えば、ショートカットキーの組合せ「Ctrl+N」を使用して、新規のファイルを作成することができます。エクスプローラー ウィンドウ内のファイルまたはフォルダーをショートカットキー「F2」を使用して名前を変更することもできます。

ツールバー

ツールバー にはメニュー内で見つかったコマンドのためのショートカットであるボタンが含まれています。コマンド名はボタンにマウスポインターが置かれる则表示されます。コマンドを実行するために、ボタンをクリックします。

ツールバー ボタンはグループ別に整理されます。「ツール | カスタマイズ | ツールバー」ダイアログ内、または、ツールバーを右クリックし「カスタマイズ」を選択すると表示されるツールバーグループを指定することができます。GUI 内で、ハンドル(または、タイトルバー)をスクリーン上の場所にドラッグすることにより、ツールバーグループを移動することもできます。ハンドルをダブルクリックすると、ツールバーがアンロックされ、フロートした状態になります。タイトルバーをダブルクリックすると、ツールバーが前のロケーションにドックされます。

ステータスバー

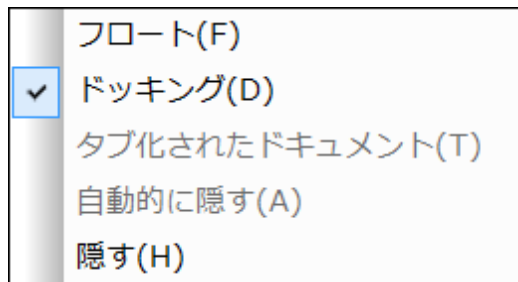
ステータスバーはアプリケーション ウィンドウの下に表示され (i) ファイルのロードに関するステータス情報、と(ii) マウスのカーソルがポイントされると使用することのできるメニューコマンドとツールバー内のコマンドショートカットに関する情報。SchemaAgent の 64 ビットバージョンを使用する場合、アプリケーション名の後に サフィックス (x64) を持つステータスバーにより表示されます。32 ビットバージョンのためのサフィックスは存在しません。

6.3.5 情報ウィンドウの整理

タイトルバーをダブルクリックして、すべての情報 ウィンドウをドック/アンドックすることができます。

コンテキストメニュー

コンテキストメニューはウィンドウのタイトルバーを右クリックして、または、ウィンドウの右上の部分内の小さな矢印をクリックしてアクセスすることができます。



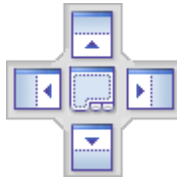
必要とされるオプションをクリックして、ウィンドウをフロートした、ドックされた、または、非表示の状態にします。

ドラッグアンドドロップ

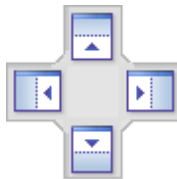
タイトルバーからウィンドウをドラッグし、希望する場所に配置します。

更に、ウィンドウをドラッグすると表示される配置コントロールを使用して、ウィンドウを他のウィンドウ、または、インターフェイスにドックすることができます。

- 他のウィンドウにウィンドウをドラッグすると、丸い配置コントロールが表示されます (下のスクリーンショット参照)。このコントロールは5つの配置セクターから構成されています。マウスキーをセクターの1つ上でリリースすると、これらのセクターがドラッグされたウィンドウにドックされます。4つの矢印のセクターはドラッグされたウィンドウをターゲットウィンドウのそれぞれのサイドにドックします。中央のボタンはドラッグされたウィンドウをターゲットウィンドウのタブとしてドックします。タブバーをドラッグし、ドロップすることにより、他のウィンドウ内のタブとして、ウィンドウをドックすることができます。



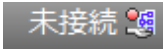
- ウィンドウをドラッグすると4つの矢印から構成された配置コントロールが表示されます。各矢印は、デザインウィンドウの1つのサイドに対応します。ドラッグされたウィンドウを矢印の1つの上でリリースすると、ドラッグされたウィンドウはデザインウィンドウのサイズにドックされます。

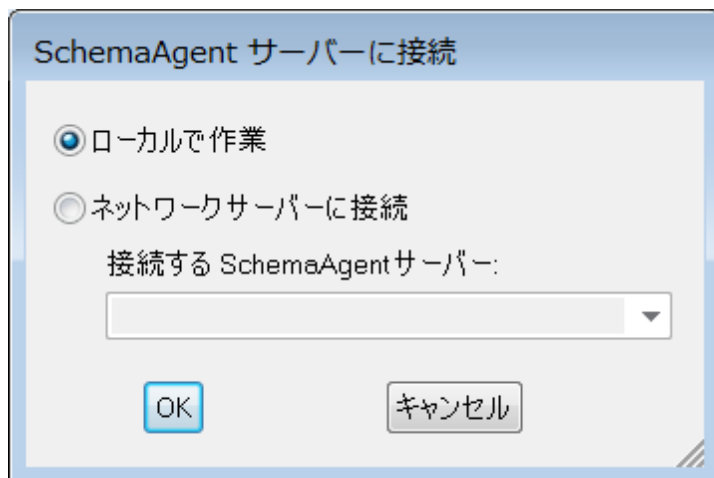


ウィンドウのタイトルバーをダブルクリックして、ドックされた状態とフロート状態のを切り替えることができます。

6.4 サーバーへの接続

SchemaAgent Client を使用するには、アプリケーションをサーバーに最初に接続する必要があります。

SchemaAgent Client を起動すると  アイコンがアプリケーションの右上に表示され、「SchemaAgent Server に接続」ダイアログボックスがポップアップします。



SchemaAgent Client を使用するために2つのオプションを使用することができます:

- ローカルで作業: スタンドアロン LocalServer を SchemaAgent Client 内から構成することのできる使用中のコンピュータで起動します。
- ネットワークサーバーへの接続: 既に作動している複数のユーザーが接続しているネットワークベースの SchemaAgent Server へ接続します。SchemaAgent Server を構成するにはサーバーアプリケーションを開く必要があります。この構成を全ての接続されたクライアントで使用することができます。

SchemaAgent サーバー接続が既存の場合、新規の接続を作成する前にこの接続を閉じる必要があります。

サーバーへの接続方法:

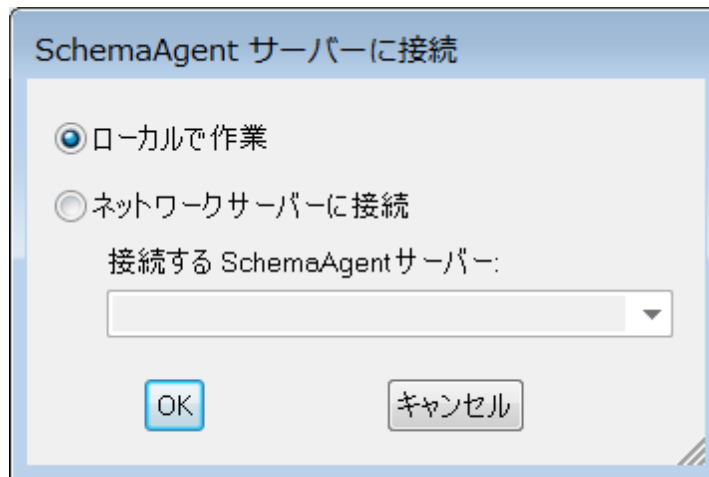
1. メニューオプション「ツール | サーバーへの接続」を選択します。または、「拡張機能」ツールバー内の「サーバーへの接続」 アイコンをクリックします。「SchemaAgent Server に接続」ダイアログボックスが開かれます。
2. 以下の内の1つを行ってください:
 - 起動しスタンドアロン LocalServer に接続するには、「ローカルで作業」を選択します。パスの構成タブがエクスプローラー ウィンドウに追加されます。
 - ネットワークサーバーへの接続を選択し、ドロップダウンリストから、接続する SchemaAgent Server を選択します。検索パスがエクスプローラー ウィンドウ内に表示されます。
3. 「OK」をクリックします。

接続を切断する方法:

- システムトレイ内の Altova SchemaAgent Server  アプリケーション アイコン(スクリーンの右下)をクリックし、「シャットダウン」コマンドを選択します。

6.4.1 ローカルでの作業

ローカルのスタンドアロン サーバーに接続を選択する場合 LocalServer が自動的に起動され、パスの構成 タブがエクスプローラー ウィンドウに追加されます。ローカル サーバへ接続 アイコンがアプリケーションの右上に表示され、システムトレイは、LocalServer アイコンを表示します。LocalServer がユーザーがログインすると自動的に開始されるように定義することができます。



「ユーザーがログインする際に起動 (スタートアップフォルダーに追加)」チェックボックスが有効化されていると SchemaAgentLocalServer.exe が Windows Startup フォルダーに追加され、Windows にユーザーがログインする都度、LocalServer は自動的に開始されます。

LocalServer を自動的に開始する方法:

1. メニューオプション「ツール | オプション」を選択し、「その他」タブに移動します。
2. SchemaAgent LocalServer グループボックス内で、「ユーザーがログインする際に起動 (スタートアップフォルダーに追加)」チェックボックスを有効化します。
3. 「OK」をクリックします。
ユーザーが Windows に次回ログインすると SchemaAgent LocalServer は自動的に開始されます。

LocalServer をシャットダウンする方法:

- システムトレイ内の Altova SchemaAgent Server アプリケーション アイコン(スクリーンの右下)をクリックし、「SchemaAgent LocalServer のシャットダウン」を選択します。

6.4.2 ネットワークサーバーへの接続

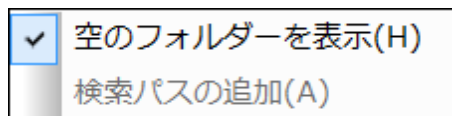
接続するネットワークサーバーをセットアップすると ネットワークサーバーへの接続 オプションを選択し、ドロップダウンリストから適切なサーバーを選択します。SchemaAgent Client が接続できるように、サーバーが既に作動済みである必要があることに注意してください(すなわち、SchemaAgent Server アイコンがシステムトレイ内で表示されている必要があります)

connected to TECHWRITER2 アイコンがアプリケーションの右上に表示され、接続されているサーバーの名前が表示されます。SchemaAgent Server 内で直接検索パスを構成することができ、全ての接続されたクライアントに対して有効です。従って、エクスプローラー ウィンドウ内でパスの構成タブを使用することはできません。

6.5 Explorer との作業

エクスプローラー ウィンドウの階層型タブ、および、フラットタブでは、ファイルの拡張子の定義と定義済みの検索パスを持つファイルが全て表示されます。階層型タブ内では、既存のファイルまたはフォルダーを更に、新規に作成、名前を変更、削除 することができます。また、各エントリパスの下の他のポジションにファイルとフォルダーを移動 することができ、ゴースト ファイルを再作成 することができます。

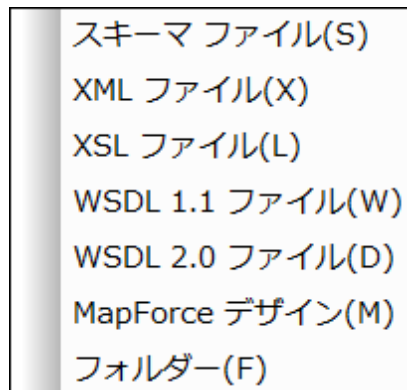
エクスプローラー ウィンドウ内の全てのアクションは、コンテキストメニューを使用して、または、ドラッグアンドドロップを使用して操作 されます。コンテキストメニューのコンテンツはファイル、フォルダー、または、エリアが呼び出される場所により異なります。エクスプローラー ウィンドウ内の空白のエリアを右クリックすると、次のメニューが表示 されます：



- **空のフォルダーの表示**：このコマンドはパスの構成タブ内の定義済みファイル拡張子を使用して、ファイルを含まないフォルダーの表示をオンとオフに切り替えることができます。
- **検索パスの追加**：このコマンドは LocalServer に接続している場合使用 することができます。パスの構成タブに変更され、新規の検索パスの設定を定義 することのできる「検索パスの追加」ダイアログボックスが開かれます。



- **名前の変更 (F2)**：選択されたファイル、または、フォルダーの名前の変更をします。
- **削除 (削除)**：選択されたファイルまたはフォルダーをファイルシステムから削除 します。
- **新規作成**：新規のファイル、または、ディレクトリの作成を選択 することのできるサブメニューを開きます。



- **再ロード**: 選択されたファイルを再ロードします。複数のファイルを選択して、「再ロード」コマンドを選択して、ファイルを単一のステップで再ロードすることができます。
- **再作成**: 少なくとも1つのゴーストファイルが選択されている場合のみこのコマンドを使用することができます。ゴーストファイル名を持つ新規の基本的なファイルが作成されます。
- **参照パスの修正 (Ctrl+R)**: このコマンドはゴーストファイルへの参照が少なくとも1つあるファイルを選択している場合のみ使用することができます。異なる場所内のゴーストファイルを検索する「参照パスの修正」ダイアログボックスが開かれます
- **同期の選択**: デザインウィンドウ内でデザインが開かれている場合、このコマンドはデザインウィンドウ内で、同じファイルをエクスプローラー内で選択されたとおり選択します。
- **MapForce 内でファイルを編集 (Ctrl+M)**: 編集のために MapForce 内で選択された MFD ファイルを開きます (MapForce がインストールされていることが条件です)。
- **XMLSpy 内でファイルを編集 (Ctrl+Y)**: 編集のために XMLSpy 内で選択されたファイルを開きます (XMLSpy がインストールされていることが条件です)。
- **ファイルをクリップボードに挿入 (Ctrl+C)**: 選択されたファイルをクリップボードにコピーします。
- **ファイルを現在のデザインに挿入 (Insert)**: 選択されたファイルはデザインウィンドウ内で現在開かれているデザインに追加します。

注意点: 変更されたファイルの参照に影響を与える、IIR (インクルード、インポート、再定義) の名前の変更、削除、または、変更などのアクションがファイルに対しておこなわれた場合、変更されたファイル、または、フォルダーを参照するファイルの全てのリレーションシップは**すく**に自動的に更新され、一部の場合、変更は検索パスにまで伝達される場合があります。

警告: 階層型タブ、および、フラットタブ内での変更は変更されたファイルの参照を自動的に影響します。これらのアクションのために元に戻るコマンドが存在しないため、SchemaAgent Client と作業する際はバックアップシステム、または、ソース管理ソフトウェアを使用することが奨励されます。

6.5.1 ファイルとフォルダーの作成

エクスプローラー ウィンドウ内で、新規のファイル、または、フォルダーが作成されると、それぞれのファイル拡張子を持つフォルダーが現在階層型タブ内でフォーカスされているフォルダー内に作成され、階層型タブ内に対応するエントリが作成されます。

新規のスキーマをXMLSpy 内で開くと、以下ようになります:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<xs:schema xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  elementFormDefault="qualified"
  attributeFormDefault="unqualified" />
```

新規の XML ファイルには次のコンテンツが存在します:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<root />
```

新規の XSLT ファイルは以下 のようになります:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<xsl:stylesheet version="2.0"
  xmlns:xsl="http://www.w3.org/1999/XSL/Transform"
  xmlns:fo="http://www.w3.org/1999/XSL/Format"
  xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  xmlns:fn="http://www.w3.org/2005/ xpath-functions" />
```

新規の WSDL 1.1 ファイルの追加を選択すると 次のコンテンツを持つファイルが作成 されます:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<wsdl:definitions
  xmlns:wsdl="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/"
  xmlns:soap="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/soap/"
  xmlns:http="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/http/"
  xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  xmlns:soapenc="http://schemas.xmlsoap.org/soap/encoding/"
  xmlns:mime="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/mime/"
  xmlns:tns="http://new.webservice.namespace"
  targetNamespace="http://new.webservice.namespace" />
```

新規の WSDL 2.0 ファイルの追加を選択すると 次のコンテンツを持つファイルが作成 されます。:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<wsdl:description
  targetNamespace="http://new.webservice.namespace"
  xmlns:wsdl="http://www.w3.org/ns/wsdl"
  xmlns:wsoap="http://www.w3.org/ns/wsdl/soap"
  xmlns:whhttp="http://www.w3.org/ns/wsdl/http"
  xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  xmlns:tns="http://new.webservice.namespace" />
```

新規のフォルダーが作成されると、「新規」フォルダーと呼ばれる空のフォルダーが階層タブ内でフォーカスを持つフォルダー内に作成され、階層型タブ内にこのフォルダーのためのエントリが作成されます。

注意点: エクスプローラー コンテキストメニュー内で「空のフォルダーの表示」オプションの選択を解除すると、新規のフォルダーはスキーマを含まないため、階層型タブで表示されません。

エクスプローラー ウィンドウ内で新規のファイル、または、フォルダーを作成する方法:

1. 階層型タブ内で、ファイルまたはフォルダーを作成するフォルダーを選択します。
2. 以下の内の1つを行ってください:
 - 右クリックして、コンテキストメニューから「新規作成 | スキーマファイル」を選択します。「挿入」キーを押して新規のスキーマを作成します。
 - 新規のXML ファイルを作成するために、右クリックして、コンテキストメニューから「新規作成 | XML ファイル」を選択します。
 - 新規のXSLT ファイルを作成するために、右クリックして、コンテキストメニューから「新規作成 | XSL ファイル」を選択します。
 - 新規のWSDL 1.1 ファイルを作成するために、右クリックして、コンテキストメニューから「新規作成 | WSDL 1.1 ファイル」を選択します。
 - 新規のWSDL 2.0 ファイルを作成するために、右クリックして、コンテキストメニューから「新規作成 | WSDL 2.0 ファイル」を選択します。
 - 新規のMFD ファイルを作成するために、右クリックして、コンテキストメニューから「新規作成 | MapForce デザイン」を選択します。
 - 右クリックして、コンテキストメニューから「新規作成 | フォルダー」を選択します。「Shift + Insert」を押して、新規のサブフォルダーを作成します。
3. 詳細な名前を入力し「Enter」を押します。

6.5.2 ファイルとフォルダーの名前の変更

エクスプローラー ウィンドウ内で、ファイルの名前を変更すると、SchemaAgent は、自動的に変更された名前への参照を修正し、デザインウィンドウ内で現在開かれているデザインに名前が変更されているアイテムが含まれているかを表示します。

注意点: ファイルの名前を変更する際、ファイル拡張子を変更することができますが、ファイル型は変更されませんが、SchemaAgent により表示される警告を無視するとファイルを使用できなくなる可能性があります。

ファイルまたはフォルダーの名前の変更の方法:

1. エクスプローラー ウィンドウ内で、ファイルまたはフォルダーを選択し、以下の内の1つを行ってください:
 - 右クリックして、コンテキストメニューから「名前の変更」を選択します。
 - 「F2」を押します。
2. 名前を希望するとおりに変更します。変更された名前への参照は自動的に更新されます。

6.5.3 ファイルとフォルダーの削除

エクスプローラー ウィンドウにより物理的にファイル、または、フォルダーをハードディスクから削除することができます。

注意点: 削除されたファイルは Windows ゴミ箱に存在しないため、このステップを元に戻すことはできません。

削除されたファイルがデザイン タブ内に存在すると、ファイルが物理的に削除されており、SchemaAgent Server が削除について既知ではないため、**未知のファイル** として表示されます(スクリーンショット参照)。SchemaAgent Client は、デザインウインドウ内でエントリを有するために、黄色の警告アイコンが表示されます。



ファイルまたはフォルダーの削除方法:

1. エクスプローラー ウインドウ内で、ファイルまたはフォルダーを選択し、以下の内の1つを行ってください:
 - 右クリックして、コンテキストメニューから「**削除**」を選択します。
 - 「**削除**」キーを押します。
2. メッセージボックス内で「**はい**」をクリックして、削除を確認します。

6.5.4 ファイルの編集

インクルード、インポート、と再定義の定義以外に、SchemaAgent 内でファイルを直接編集することはできません。しかしながら、エクスプローラー ウインドウとデザインウインドウのコンテキストメニューは、XMLSpy、または、MapForce 内の選択されたファイルを編集するオプションを提供します。それぞれのプログラムが使用中のコンピューターにインストールされている場合のみこれらのオプションを使用できるように注意してください。

XMLSpy 内でファイルを編集する方法:

- デザインウインドウ、または、エクスプローラー ウインドウ内で、編集するファイルを選択し、以下の内の1つを行ってください:
 - 右クリックして、コンテキストメニューから「**XMLSpy 内で編集する**」を選択します。
 - 「**Ctrl+Y**」を押します。
- XMLSpy がインストールされている場合、選択されたファイルは、XMLSpy 内で開かれます。

MapForce 内で MFD ファイルを編集する方法:

- デザインウインドウ、または、エクスプローラー ウインドウ内で、編集する MFD ファイルを選択し、以下の内の1つを行ってください:
 - 右クリックして、コンテキストメニューから「**MapForce 内での編集**」を選択します。
 - 「**Ctrl+M**」を押します。

MapForce がインストールされている場合、選択された MFD ファイルは、MapForce 内で開かれます。

6.6 デザインウィンドウ内でのファイルの表示

デザインウィンドウには、XML スキーマ、MapForce デザインファイル、XML ファイル、XSL/XSLT スタイルシート、WSDL ファイル と IIR リレーションの最適な表示を促進するために構成することのできる複数のグリッドとズーム オプションが搭載されています。

グリッドの表示 と非表示

デザインウィンドウ内でグリッドを表示することにより、ファイルボックスを正確に配置する手助けになります。各戸別のデザインウィンドウのためにグリッドの表示をオフとオンに切り替えることができます。

SchemaAgent デザインウィンドウ内でグリッドの表示をオフとオンに切り替える方法:

以下の内の1つを行ってください:

- メニューオプション「**レイアウト | グリッドの表示**」を選択します。
- デザインペイン内を右クリックし、コンテキストメニューから「**配置 | グリッドの有効化**」を選択します。
- 「Alt+G」を押します。
- 「**グリッドの有効化 無効化**」 アイコンを配置ツールバーから選択します。

グリッド上のファイルボックスの配置

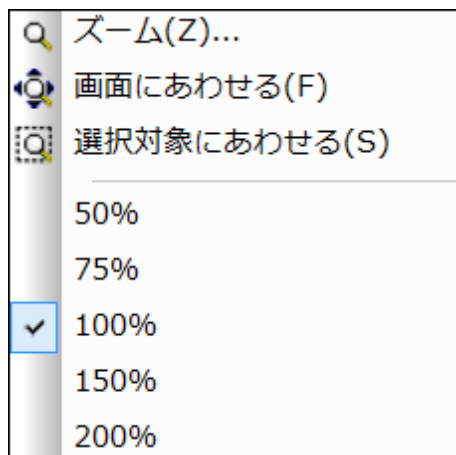
グリッドが表示されていると、グリッド上でファイルボックスの左上の端をそろえることができます。

グリッド上のファイルボックスの配置方法:

1. グリッドが表示されていない場合は、グリッドの表示をオンに切り替えます
2. 揃えるファイルボックスを選択します。
3. 以下の内の1つを行ってください:
 - メニューオプション「**レイアウト | グリッドにあわせる**」を選択します。
 - デザインペイン内を右クリックし、コンテキストメニューから「**配置 | グリッド**」を選択します。
 - 配置ツールバーから「**グリッドにあわせる**」 アイコンを選択します。

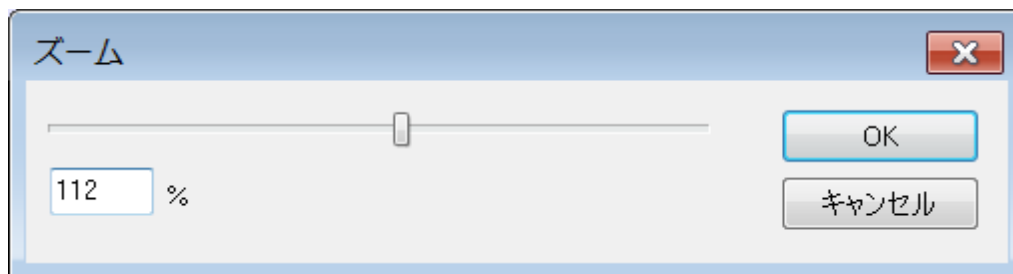
ズームインとアウト

デザインのズームは、各デザインウィンドウのために調整することができます。SchemaAgent は、この目的を達成するために、「レイアウト」メニュー内の「**ズーム**」サブメニューと「ズーム」ツールバーを搭載しています。



メニューから「ズーム」コマンドを選択、「ズーム」ツールバー内で「ズームの表示」ダイアログ

 アイコンをクリックすると、スライダーを使用してズームを調整する「ズーム」ダイアログが開かれます。



更に、(マウスのスクロールホイールを使用して)「Ctrl」キーを押したままで、デザイン内外をスクロールによりズームすることができます。これにより、特定のデザインビュー内のファイルボックスのサイズを拡大、または、縮小することができます。

デザインビュー内外でズームする方法:

1. 以下の内の1つを行ってください:
 - メニューオプション「レイアウト | ズーム」を選択し、「ズーム」をサブメニューから選択します。
 - 「ズーム」ツールバーから「ズームの表示」ダイアログ  アイコンを選択します。
「ズーム」ダイアログボックスが表示されます。
2. 「ズーム」ダイアログボックス内で、以下の内の1つを行ってください:
 - スライダーを使用してズーム機能を調節します。
 - スライダーの下ボックスに特定の倍率を入力します。
3. 「OK」をクリックします。
または、「ズーム」ツールバー内のドロップダウンリストからズームの倍率を選択、または、入力することもできます。

デザインウインドウ内で、すべてのファイルボックスを画面に合わせる方法:

- 以下の内の1つを行ってください:

- メニューオプション「レイアウト | ズーム」を選択し、「画面にあわせる」をサブメニューから選択します。

- 「ズーム」ツールバーから「画面にあわせる」アイコンを選択します。

ズーム機能が調整され、デザインウィンドウ内の全てのファイルボックスが画面内に表示されます。

選択するためにズームする方法:

1. 1つまたは複数のファイルボックスを選択します。
2. 以下の内の1つを行ってください:
 - メニューオプション「レイアウト | ズーム」を選択し、「選択対象にあわせる」をサブメニューから選択します。

- 「ズーム」ツールバーから「選択対象にあわせる」アイコンを選択します。

ズーム機能が調整され、デザインウィンドウ内の全てのファイルボックスが画面内に表示されます。

6.6.1 デザインの作成と保存

デザインウィンドウ内で、複数のデザインタブを開くことができます。各デザインタブは W3C XML スキーマ間の IIR (インクルード、インポート、または、再定義)と呼ばれるリレーションシップのデザインと管理を視覚的におこない XSLT スタイルシート、Web サービス記述 (WSDL) ファイル、MapForce デザイン (MFD) ファイル または XML ファイル、とその関連付けられたスキーマ間のリレーションシップを表示することのできる SchemaAgent デザインが含まれています。このように、スキーマ (と MFD、または、XML ファイル) を関連付けられたファイルのコレクションに整理することができます。

デザインの保存方法

SchemaAgent デザインを後で編集するために SAD ファイルとして保存することができます。これは後で、SchemaAgent デザイン内でリレーションシップを変更する際に役に立ちます。ファイルのセット (従って、そのリレーションシップ) が複数の SchemaAgent デザイン内に含まれることができます。SchemaAgent デザイン内で作成された IIR リレーションシップは、リレーションシップが作成されるとそれぞれのファイルに伝達されます。

SchemaAgent デザインウィンドウを開く方法:

- メニューオプション「ファイル | 新規作成」(Ctrl+N) を選択します。または、標準ツールバー内の「新規作成」ボタンをクリックします。新規のデザインウィンドウが表示されます。

既存の SchemaAgent デザイン (ファイル)を開く方法:

1. メニューオプション「ファイル | 開く」(Ctrl+O) を選択します。または、標準ツールバー内の「開く」ボタンをクリックします。「開く」ダイアログボックスが表示されます。
2. 「開く」ダイアログボックス内で、必要とするファイルを選択し「開く」をクリックします。

前回使用されたデザインファイルを開く方法:

- メニューオプション「ファイル」を選択し、メニューのしたに表示されている最近開かれたファイルの1つをクリックします。

デザインの保存方法:

1. メニューオプション「**ファイル | 保存 (Ctrl+S)**」を選択し、または、標準ツールバー内の「**保存**」 ボタンをクリックします。
または、ファイルを異なるファイル名、または、パス名で保存する場合、メニューオプション「**ファイル | 名前を付けて保存**」を選択します。
2. デザインがまだ保存されていない場合、パスを選択して「**名前を付けて保存**」ダイアログボックスにファイル名を入力します。

現在アクティブなデザインファイルを閉じる方法:

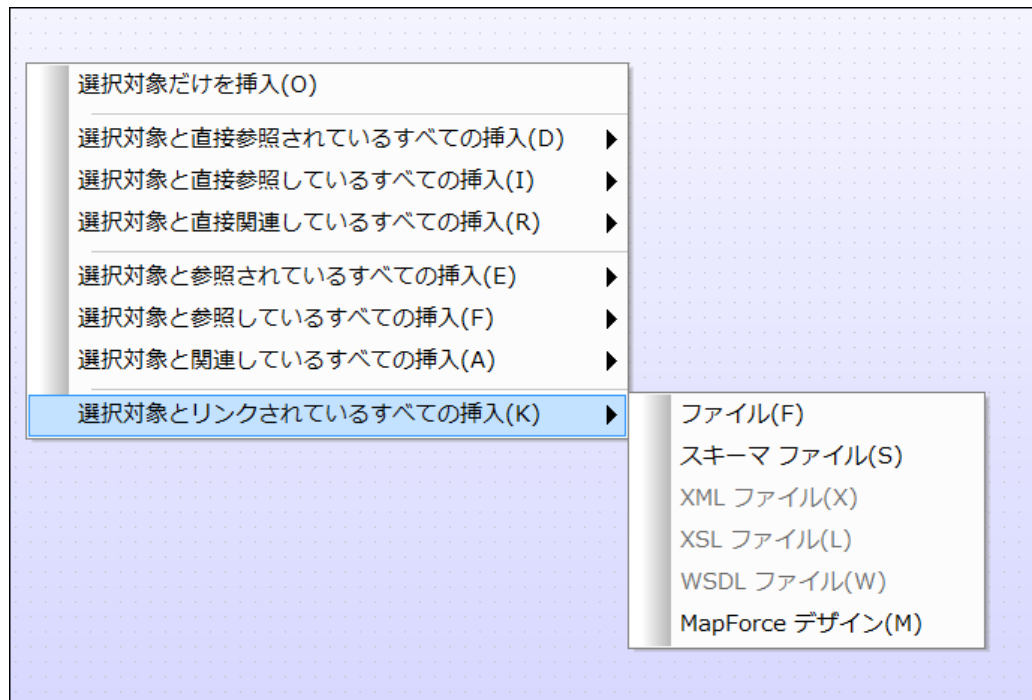
1. 閉じるデザインファイルのために、SchemaAgent デザインウィンドウを選択します。
2. メニューオプション「**ファイル | 閉じる**」を選択します。

6.6.2 ファイルとフォルダーの挿入

エクスプローラー内のコンテキストメニューを使用して、または、エクスプローラーウィンドウからデザインウィンドウ内にドラッグして、XML スキーマ、MFD、XML、XSLT、と WSDL ファイルをデザインに追加することができます。各ファイルはファイルボックスとして表示され、ファイル間の既存のリレーションシップは色がついたラインで表示されています。

デザインウィンドウにファイルを挿入するには、いくつかのオプションがあります:

- エクスプローラー内で1つまたは複数のファイルを選択し、右クリックして、コンテキストメニューから「**現在のデザインへ挿入する**」を選択します。
- 左側のマウスボタンを使用してエクスプローラーウィンドウからファイルをドラッグすると、選択されたファイルのみが挿入されます。
- 右側のマウスボタンを使用してエクスプローラーウィンドウからファイルをドラッグすると、コンテキストメニューがマウスボタンをリリースすると表示されます:



選択されたファイルの挿入だけでなく、選択されたファイルにより直接、または、間接的に

参照された全てのファイルを挿入することができます。更に単一のファイル型 (XSD, MFD, XML, XSLT、または、WSDL) の選択を制限することができます、または、全てのファイルを選択することのできるオプション サブメニューのそれぞれを開きます。

- エクスプローラーウィンドウ内でフォルダーを選択し、選択されたフォルダー内に含まれる全ての関連するファイルがデザインウィンドウ内にドラッグします。
- ファイルボックス デザインウィンドウ内で展開するには、含まれている、または、インポートされたファイルを右クリックし、**現在のデザインへ挿入する**を選択すると、このファイルのためのファイルボックスがデザインに挿入されます。

ファイル、または、フォルダーをデザインに挿入する方法:

- エクスプローラー ウィンドウ内で、以下の内の1つを行ってください:
 - 1つまたは複数の個別のファイルを挿入するには、必要とするファイルを選択し、左側のマウス ボタンを使用して、デザインウィンドウにドラッグします。
 - フォルダー内に含まれているすべてのファイルを挿入するには、フォルダーをデザインウィンドウにドラッグします。

ファイル、または、ドラッグされたフォルダーに含まれるファイルはそれぞれデザインウィンドウに表示されます。または、1つまたは複数のファイル、または、フォルダーを選択することもできます。コンテキストメニューから **現在のデザインへ挿入する**を選択します。または **挿入**を押します。

- ファイルとすべてのディレクトリ、または、間接的に参照されたファイルを挿入するには、1つまたは複数のファイルを選択し、右側のマウスボタンを使用して、デザインウィンドウにドラッグし表示されるコンテキストメニューから必要とするオプションを選択します。

選択されたファイルとそれぞれの参照されたファイルはデザインウィンドウに表示されます。

- ファイルのために異なるファイルのボックス内の関連付けられたファイルを表示するファイルボックスを選択するには、ファイルボックスの関連したセクション内のファイルを右クリックし、コンテキストメニューから **現在のデザインへ挿入する**を選択、または **挿入**を押します。

6.6.3 関連するフォルダーの挿入

スキーマをドラッグすると、デザインウィンドウ、コンテキストメニューを使用してすべての関連付けられた MFD、または、XML ファイルをデザインに追加することができます。 **挿入** サブメニュー内で複数のオプションを使用することができます:

- 直接参照付けられているすべて
- 直接参照するすべて
- 直接関連付けられているすべて
- 参照されるすべて
- 参照しているすべて
- 関連しているすべて
- リンクされているすべて

ファイル、スキーマファイル、XML ファイル、XSLT ファイル、WSDL ファイル、または、MapForce デザインを選択することのできる、これらのメニューオプションのサブメニューを開きます。 **「ファイル」** オプションは、必要条件を満たすすべてのファイルを挿入し、残りのオプションは選択されたファイル型に挿入されるファイルを制限します。

右側のマウスボタンを使用してエクスプローラーウィンドウからドラッグしてデザインウィンドウ内にファイルを挿入する際にもこれらのオプションを使用することができます。

関連した基になるファイルをデザインに挿入する方法:

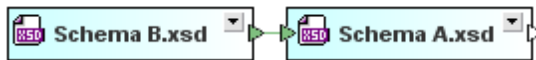
1. ファイルボックスのタイトルバーを右クリックし、コンテキストメニューの「挿入」サブメニューから次のオプションを選択します：
 - 直接参照付けられているすべて
 - 直接参照するすべて
 - 直接関連付しているすべて
 - 参照されるすべて
 - 参照しているすべて
 - 関連しているすべて
 - リンクされているすべて
2. サブメニューから、**ファイル** を選択して、すべてのファイルを挿入、または、使用することのできるファイル型の1つから選択します。

直接関連付けられたファイル

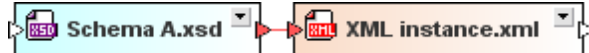
直接関連付けられたファイルは、デザインウインドウ内で実線の接続線により表示されます。

直接参照されたファイル

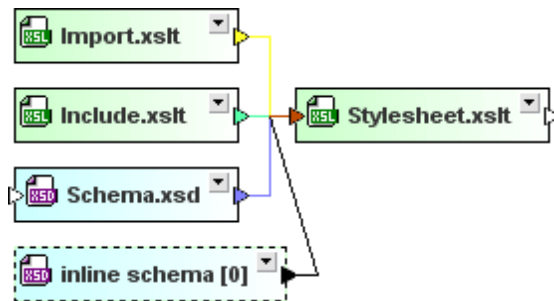
IIR ステートメントと共に直接参照されているファイルが存在します。例えば、スキーマ B を参照するスキーマにインクルードステートメントが存在する場合、スキーマ B は直接スキーマ A により参照されます。



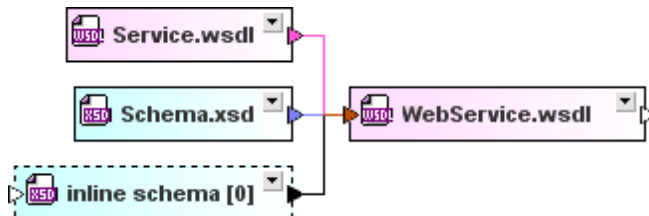
XML ファイルは、1つまたは複数の XML スキーマ、または、XSLT スタイルシートを参照することができます。



XSLT ファイルは XML スキーマをインポートすることができます。他の XSLT ファイルにインポート、または、インクルードすることができます。更に、定義済みの1つまたは複数のインラインのスキーマを持つことができます。これらのリレーションは直接的な参照です。



WSDL ファイルは、存在する他のインポートされた WSDL ファイルと XML スキーマとインラインのスキーマを直接参照することができます。



MFD ファイルは、ソースとターゲットスキーマとXML インスタンスを直接参照することができます。



ファイルを直接参照する方法

この場合、挿入されるファイルは、挿入されるファイルにより参照されている選択されたファイルである、IIR ステートメントを持つ選択されたファイルを参照します。上のサンプルでは、スキーマ A はスキーマ B を直接参照しており、target.xsd は、Design File.mfd を直接参照しています。

すべての関連するディレクトリ

このオプションは直接的、及び、間接的に参照されているファイルに適用されます。

間接的に関連付けられたファイル

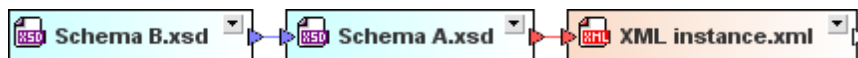
ファイルが間接的に互いに関連付けられている場合、直接的な接続線はファイルボックス間に表示されません。リレーションは、3番目のファイルボックスを介して、これらのファイルへの直接的なリレーションとして作成されます。

参照されたファイル

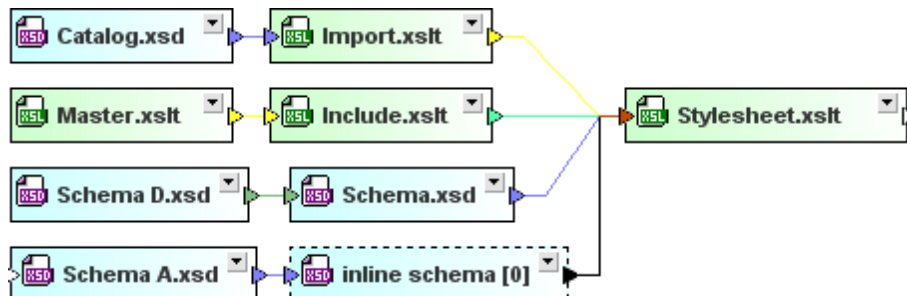
直接、または、間接的に参照されるファイルが存在します。例えば、スキーマ A がスキーマ B を参照するインクルードステートメントを持つ場合、スキーマ B がスキーマ C を参照するインクルードステートメントを持つ場合、(i)スキーマ A は、スキーマ B を直接参照しています (ii)スキーマ B はスキーマ C を直接参照しています (iii) (スキーマ A がスキーマ C を参照するスキーマ B を参照するため)スキーマ A はスキーマ C を間接的に参照しています。



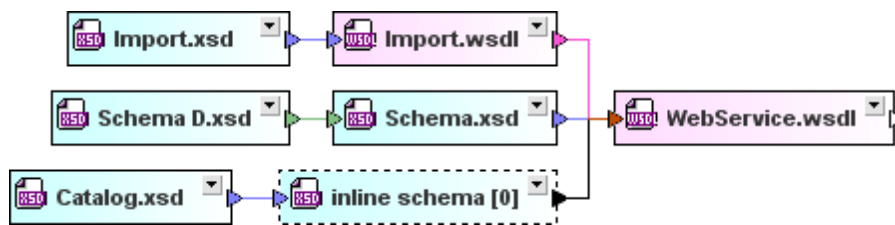
XML ファイルにより直接参照されるスキーマが(スキーマ A によりスキーマ B がインポートされているなどの)別のスキーマを参照する場合、このスキーマ(このサンプルではスキーマ B)が XML ファイルにより間接的に参照されていると考えられます。



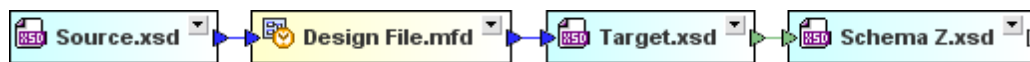
XSLT スタイルシートにより直接参照されるファイル内にインクルードまたはインポートされるスキーマとXSLT ファイルは、これらのスタイルシートにより間接的に参照されていると考えることができます。Stylesheet.xslt 内に含まれている Import.xslt 内にインポートされているため、下のサンプルでは、Catalog.xsd は直接 Stylesheet.xslt により参照されています。



WSDL ファイルは、(インライン) スキーマおよびまたはこれらの(インライン) スキーマがインクルード、インポート、または、再定義することのできる他のスキーマを含むことができます。(下のサンプル内のスキーマインポート、D とカタログなど)スキーマ内でインクルードされる、インポートされる、または、再定義されるスキーマは、WSDL ファイルにより間接的に参照されます。



「MFD ファイル」の場合、直接参照されているソースとターゲットスキーマに加え、ソーススキーマが参照するスキーマ、または、参照されているターゲットスキーマ (このサンプルではスキーマ Z) は MFD ファイルにより参照されていると考えられます。



ファイルの参照

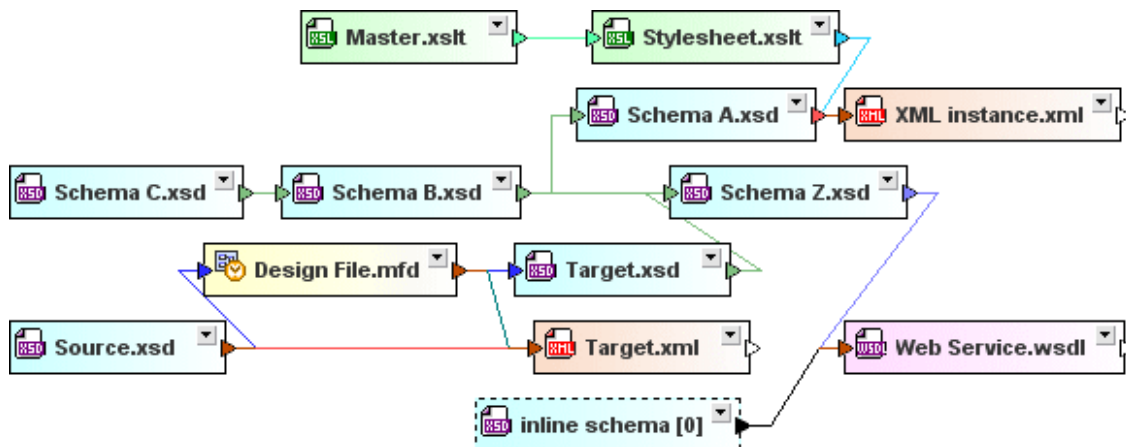
選択されたファイルを直接、または、間接的に参照するファイル

関連しているすべて

このオプションは直接的、または、間接的な参照を持つファイルを参照する、または、ファイルにより参照する項目に適用されます。

リンクされているファイル

直接、及び、間接的に参照されているスキーマ、および、参照されているスキーマにより直接、または、間接的にリンクされているスキーマが存在します。例えば、前のサンプルを展開して、スキーマ Z がスキーマ B を含むと (スキーマ A にはスキーマ B が含まれるため) スキーマ Z はスキーマ A にリンクされます。更に、スキーマ A にリンクされているスキーマ Z は MFD ファイルのターゲット、または、ソーススキーマになり、その MFD ファイルはスキーマ A にリンクされているものと考えられます。スキーマ B を含むスキーマ Z を使用するし、スキーマ A はスキーマ B を含むため、Web Service.wsdl はスキーマ A にリンクされています。スキーマ A を参照するXML instance.xml により参照されているため、Stylesheet.xslt はスキーマ A にリンクされています。

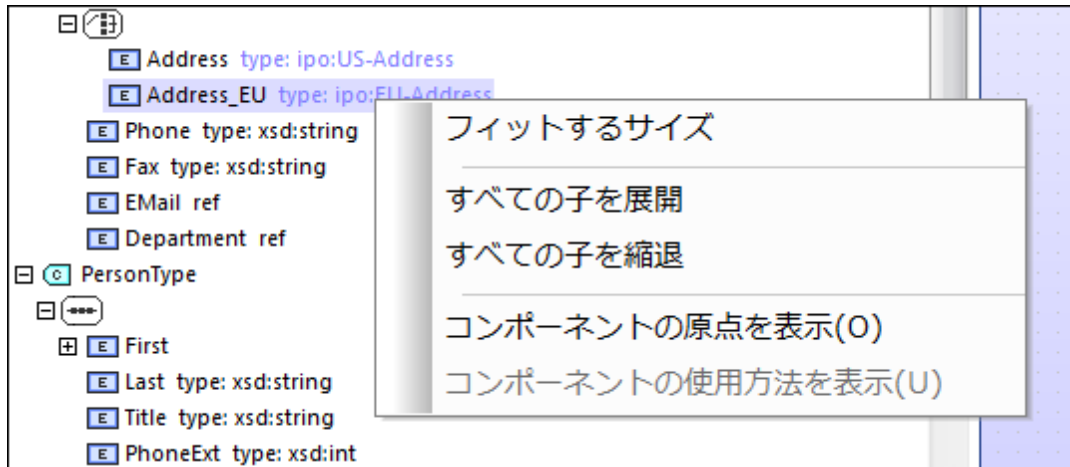


6.6.4 デザイン内でファイルを整理する

デザインウインドウ内にファイルを挿入すると、マウスを使用して必要とするロケーションにドラッグして、デザインペイン上でファイルボックスを整理することができます。多数のファイルを含むデザインに関しては、概要ウインドウは概要を提供し、デザイン内で表示することのできる部分を一瞥することができます。

ボックスボーダーをドラッグ、および、ボックスのタイトルバー内の展開 ☐ ボタンをクリックして展開、または、折りたたむことによりボックスのサイズを調整することができます。

ツリーエントリの左側のプラスとマイナスシンボルをクリックして、ボックス内のツリー構造を展開、および、折りたたむことができます。ファイルボックス内のアイテムを右クリックすると、表示されるコンテキストメニューは、ツリーレベルを展開し、折りたたむ、およびファイルボックスをフィットするようにサイズ調整するコマンドを提供します(下のスクリーンショット参照)。



選択されたアイテムの全ての子を展開、または、折りたたむことができ、または、選択されたアイテムが存在するツリー全体を展開、または、折りたたむことができます。「フィットするサイズ」コマンドは全て可視化されているアイテムをスクロールバーのないファイルボックスを使用せずに、ファイルボックスのサイズを調整することができます。

デザインウィンドウ内でナビゲートする方法

デザインウィンドウ内で、ファイルボックスから次のファイルボックスにナビゲートするには、カーソルキー(上、下、左、右)を使用します。

ファイルボックスを展開し折りたたむ方法:

- タイトルバー、または、ファイルボックス内の展開 ボタンをクリックします。

ファイルボックス内のツリー構造を展開し折りたたむ方法:

以下の内の1つを行ってください:

- 個別のアイテムを展開、または、折りたたむには、アイテムの左側のプラスまたはマイナスアイコンをクリックします。
- 個別のアイテムとその子を展開、または、折りたたむには、アイテムを右クリックして、コンテキストメニューから「全ての子の展開」、または、「全ての子を折りたたむ」を選択します。
- ファイルボックス内の全てのアイテムを展開、または、折りたたむには、ボックス内のアイテムを右クリックし、コンテキストメニューから「全て展開する」、または、「全て折りたたむ」を選択します。

ファイルボックス内のすべての展開されたアイテムを表示する方法:

- ファイルボックスの展開されているセクション内を右クリックし、コンテキストメニューから「フィットするサイズ」を選択します。

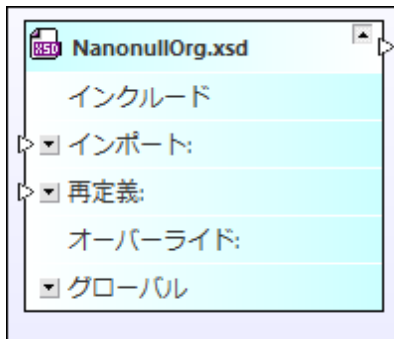
6.6.5 スキーマの表示

デザインウィンドウ内で、各スキーマは折りたたみ、展開することのできるボックスとして表示されています。スキーマがデザイン内に挿入されると、折りたたまれたスキーマボックスとして表示されます。

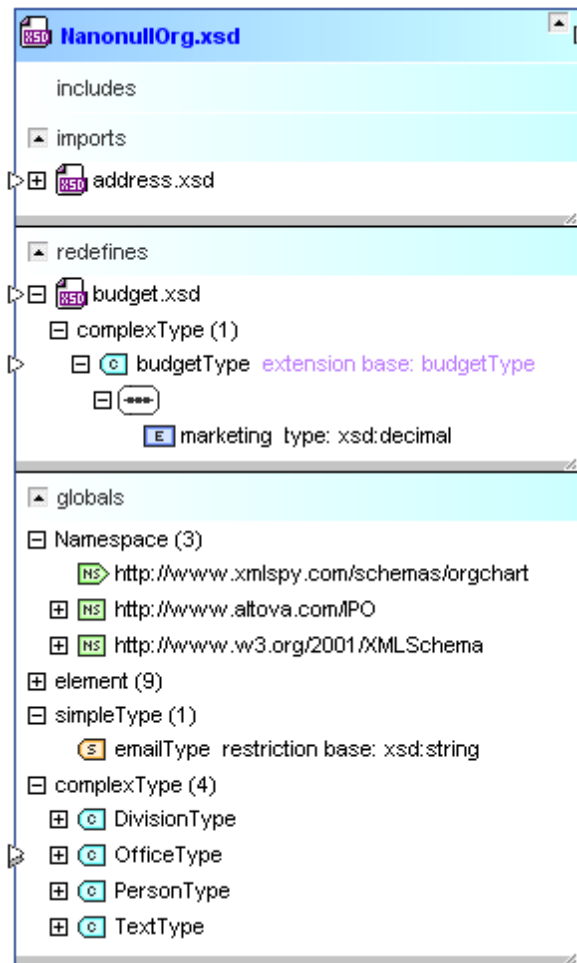


上のスキーマ内では、展開  ボタン内の矢印の先端 (三角形) 以外に、2つの矢印の先端 (三角形) が存在します。左側の矢印は、このスキーマが他のスキーマ、または、スキーマコンポーネントをインクルード、インポート、または、再定義することを示しています。スキーマボックスを展開することにより、他のスキーマ、または、スキーマコンポーネントがインクルード、インポート、または、再定義される力を決定することができます。右側の矢印の先端 (三角形) はこのスキーマ、または、他のスキーマ内のスキーマコンポーネントをインクルード、インポート、または、再定義する IIR を作成するために使用されます。

タイトルバー内のボタンをクリックして、最小化されたスキーマボックスを展開することができます (下のスクリーンショット参照)。4つのセクションに展開されます: インクルード、インポート、再定義、およびグローバル。下のスクリーンショットでは、インポートと再定義セクションの左側の矢印はこのスキーマインポートには少なくとも1つのスキーマと再定義、少なくとも1つの外部スキーマからのスキーマコンポーネントが存在していることを示しています。



サブ構造が存在する場合、スキーマボックスの (スキーマボックスの右上にある展開  ボタンにより表示されている) 各セクションを更に展開することができます。このサブ構造は自由に展開することのできる IIR とグローバルコンポーネントのツリー構造として表示されます。



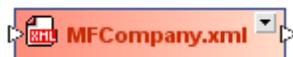
個別のセクションを展開することにより表示される詳細のレベルにより矢印を移動することができます。OfficeType 複合型の横の二重の矢印の先端 (三角形) は、このセクションに2つのリレーションシップが含まれていることを示しています。

スキーマの表示方法:

1. エクスプローラー ウィンドウからビューするスキーマをデザインウィンドウにドラッグアンドドロップします。または、コンテキストメニューを使用してファイルを現在のデザインに追加します。
2. 任意で、サブセクションを展開し、IIR または、コンポーネントの詳細情報を表示します。

6.6.6 XML インスタンスファイルの表示

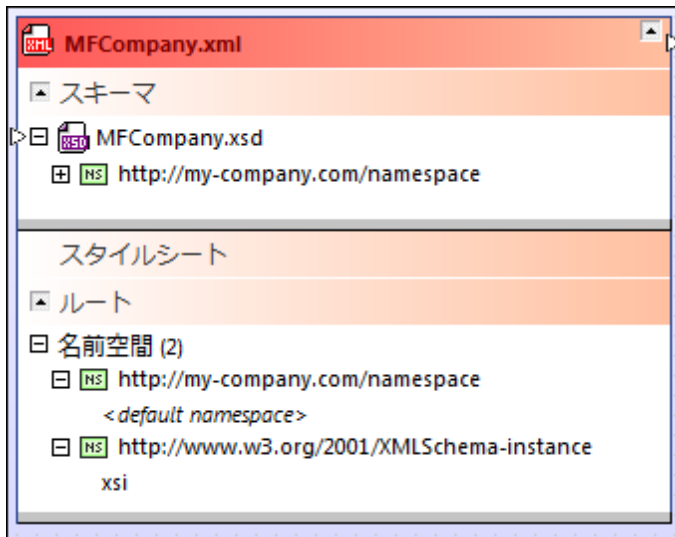
デザイン内に挿入された XML ファイルは、折りたたまれた XML ボックスとして表示されます。



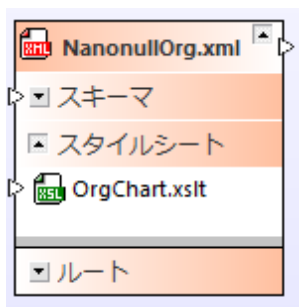
XML ボックスのデザインはスキーマボックスのデザインと同様にデザインされています。ボックスを展開することができ、3つのサブセクションが表示されます。下のスクリーンショットでは、スキーマセクションの左側の矢印の先端 (三角形) は、この XML インスタンスに定義済みの XML スキーマが存在することを示しています。



XML ボックスのスキーマとルートセクションを更に展開し、XML ファイルのためにどの XML スキーマと名前空間が定義されているかを確認することができます。



XML インスタンスに定義済みの XSLT スタイルシートが存在する場合、スタイルシートセクションを展開することができ、XSLT ファイル上の情報を確認することができます。

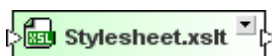


XML ファイルの表示方法:

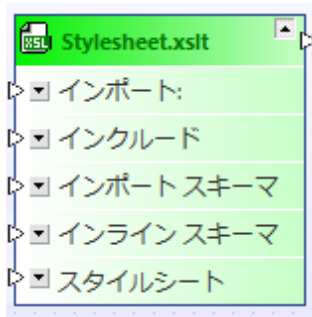
1. エクスプローラー ウィンドウから XML ファイルをデザインウィンドウにドラッグアンドドロップ、または、コンテキストメニューを使用して現在のデザインに追加します。
2. 任意で、サブセクションを展開し、スキーマ、スタイルシート、または、名前空間の詳細情報を表示します。

6.6.7 XSL/ XSLT スタイルシートの表示

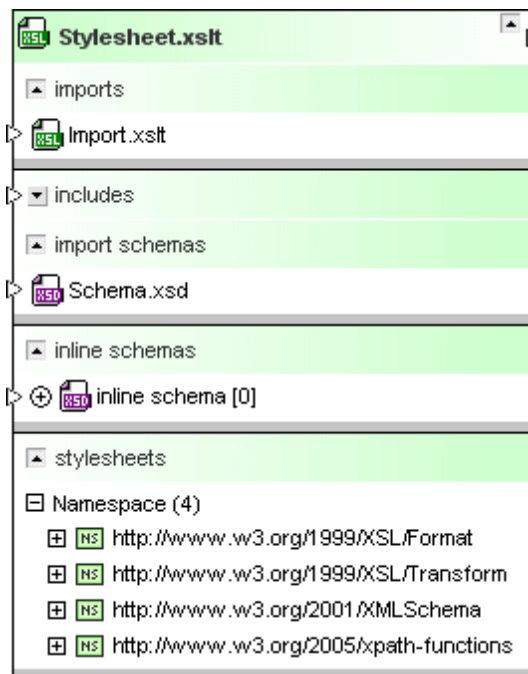
デザインウィンドウに挿入されると XSLT スタイルシートは、折りたたまれた XSLT ボックスとして表示されます。



展開されたボックスは、インポートされている、または、インクルードされている XSLT ファイル、インポートされたスキーマ、インラインのスキーマ、とスタイルシートのために、5つのサブセクションを表示します。



サブセクションを展開すると、スタイルシートのために定義されているインポートされた、または、インクルードされたファイル、と名前空間の名前が表示されます。



注意点: バージョン 1.0 のスタイルシート ファイルは、スキーマ、または、インラインのスキーマのインポートをサポートしないため、関連したセクションはこれらのファイルのファイルボックス内に表示されません。スタイルシートファイルのバージョンは、ファイルボックスのクイック情報内に表示されています。

XSLT ファイルの表示方法:

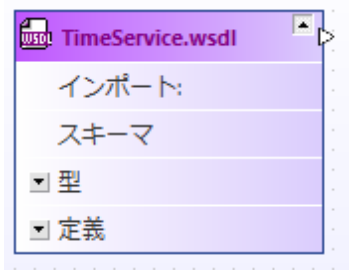
1. エクスプローラー ウィンドウから表示する XSLT ファイルをデザインウィンドウにドラッグアンドドロップ、または、コンテキストメニューを使用して、現在のデザインにファイルを追加します。
2. 任意で、サブセクションを展開し、インポート、または、インクルード、インポートされた、または、インラインのスキーマ、または、名前空間の詳細情報を表示します。

6.6.8 WSDL ファイルの表示

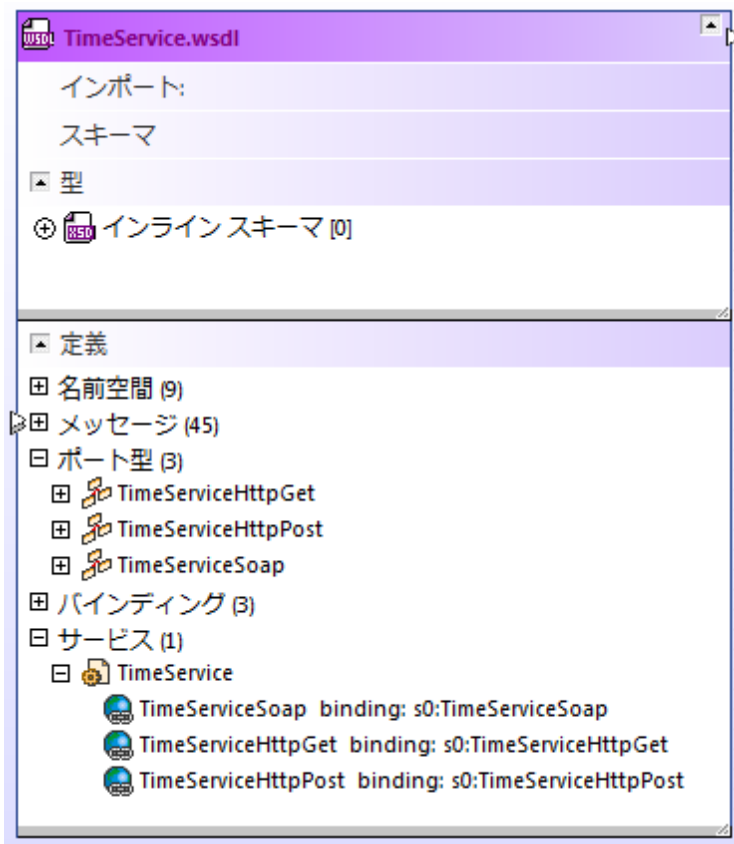
WSDL ファイルをデザインウインドウに追加すると、折りたたまれた WSDL ファイルボックスとして表示されます。



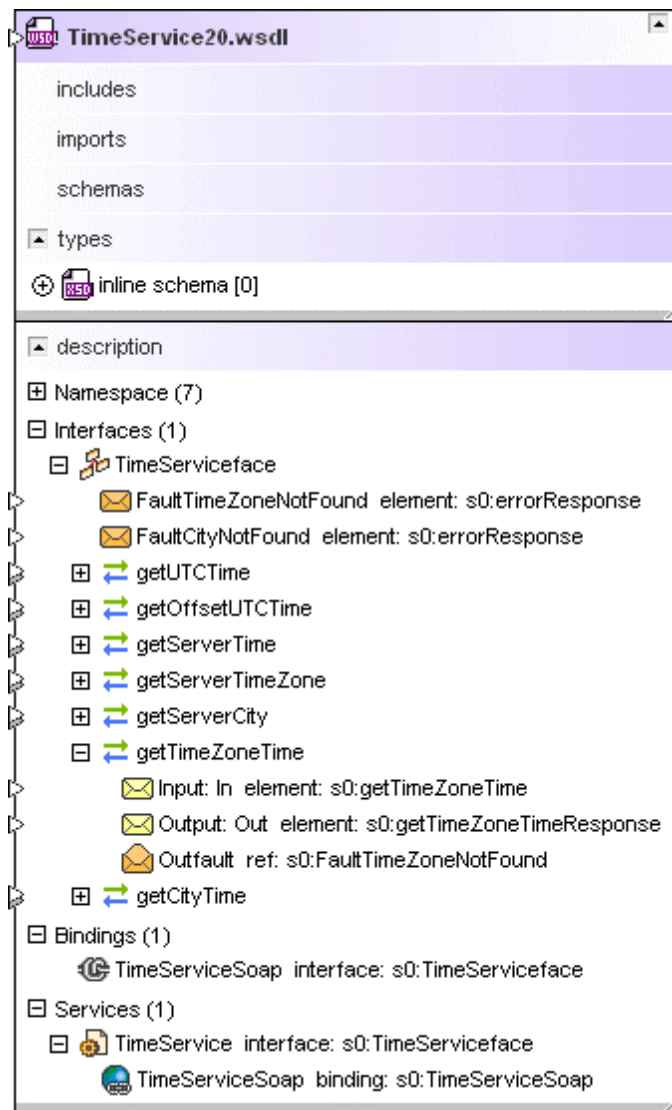
展開されたボックスはインポートされた WSDL または XML スキーマファイル、インラインのスキーマ、と定義のための4つのサブセクションを表示しています。



サブセクションを更に展開する場合、インポートされた WSDL ファイルのサブセクション、または、XML スキーマ、インラインのスキーマ、および Web サービスの個別の定義の詳細を確認することができます。



バージョン 2010 リリース 2 から、SchemaAgent は WSDL 2.0 がサポートされています。



WSDL ファイルの表示方法:

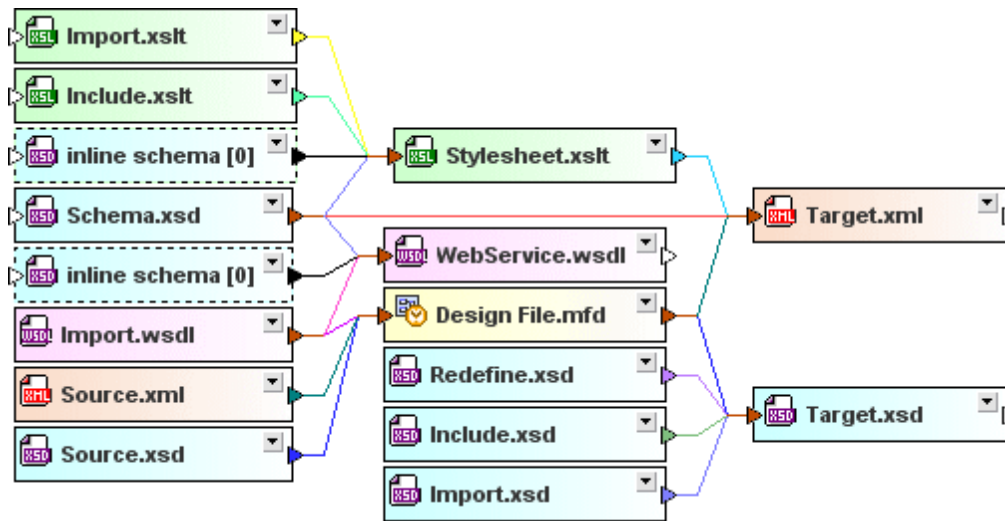
1. エクスプローラー ウィンドウからビューする WSDL ファイルをデザインウィンドウにドラッグアンドドロップ、または、コンテキストメニューを使用して現在のデザインにファイルを追加します。
2. 任意で、インポートされた WSDL、または、スキーマファイル、インラインのスキーマ、または、Web サービス記述言語 (WSDL 1.1)、または、Web サービス記述言語 (WSDL 2.0) の詳細情報を確認するために、それぞれのサブセクションを展開してください。

6.6.9 リレーションの表示

SchemaAgent は、サポートされるファイル間の多数の異なるリレーションを表示します。

- between XML スキーマ間の IIR リレーション(インクルード、インポート、と再定義)
- XML インスタンスとXML スキーマ、または、XSLT スタイルシート間のリレーション
- XSLT スタイルシート間のインクルードとインポートリレーション、および、リレーション XSLT スタイルシートとXML スキーマ間のリレーション
- WSDL ファイル間のリレーションとWSDL ファイルとXML スキーマ間のリレーションをインポートします。
- MapForce デザイン (MFD) ファイルとXML スキーマ、XML インスタンス、または、WSDL ファイル間のリレーション

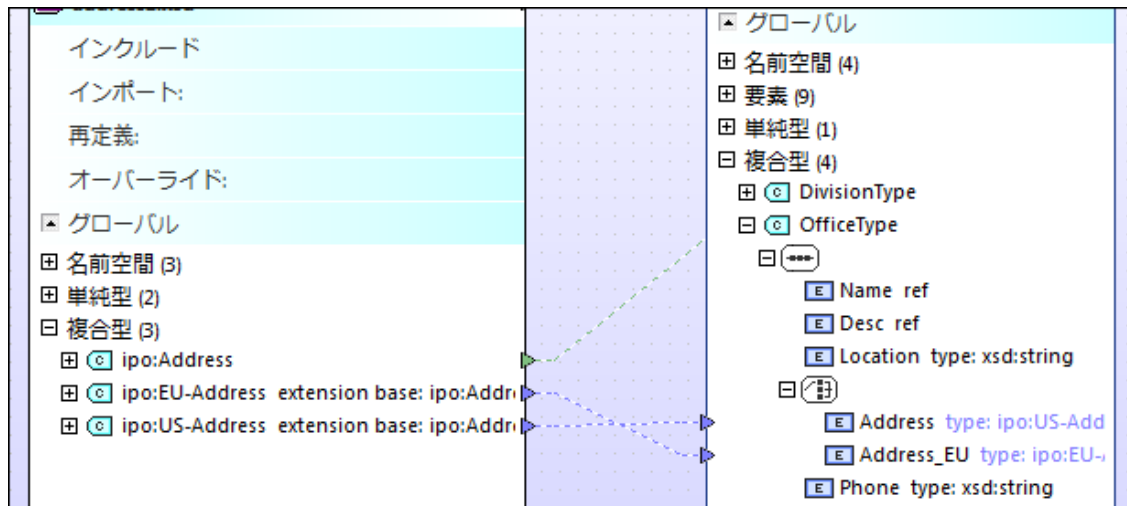
ファイル間のリレーション



これらのリレーションはデフォルトでは個別のファイルボックス間を実線の接続線で示しています。接続線は特定のファイル間に存在するリレーションを示す異なる色で表されています。**オプション** ダイアログ (メニューオプション「ツール | オプション」) の色とリレーションタブで接続線の外観をカスタマイズすることができます。

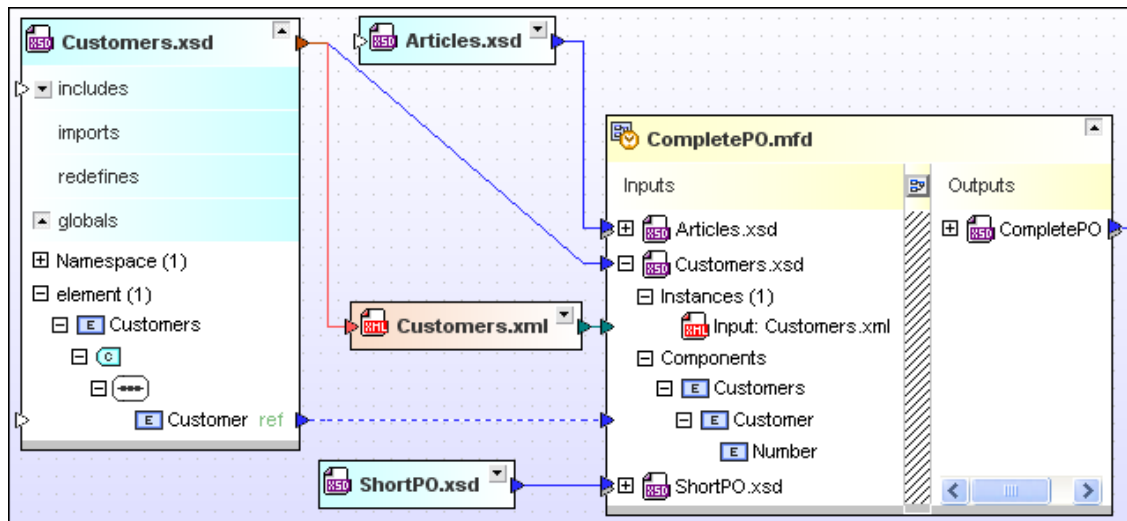
コンポーネントのリレーション

2つのスキーマ内のグローバルコンポーネント間のリレーションシップ、または、MFD ファイルとソースまたはターゲットスキーマ間のリレーションシップがそれぞれ、点線の接続線で示されています。このようなラインが2つのスキーマボックスを接続する場合、グローバルなセクション内のそれぞれのコンポーネントから、2番目のスキーマのグローバルなセクション内の関連したコンポーネントが接続されます。



注意点: 2つのスキーマのコンポーネント間のリレーションシップを表示するには、両方のスキーマのグローバルなセクションが展開されている必要があります。

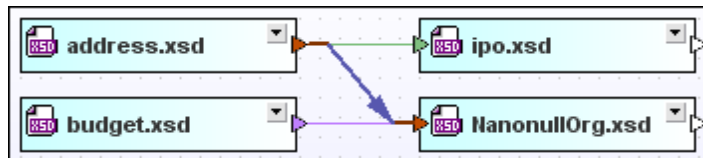
MFD ファイルとそのソースとターゲットスキーマのリレーションのコンポーネントは、接続線 ソース スキーマボックスのグローバルなセクションとMFD ファイルの入力 セクション、MFD ファイルの出力 セクションとターゲット スキーマボックスの対応するグローバル セクション間の接続線は点線の接続線により示されています。



注意点: MFD ファイルのコンポーネントそのスキーマ間のリレーションシップを表示するには、スキーマのグローバルなセクションとMFD ファイルの入力、または、出力 セクションがそれぞれ展開されている必要があります。

接続線をハイライトする方法

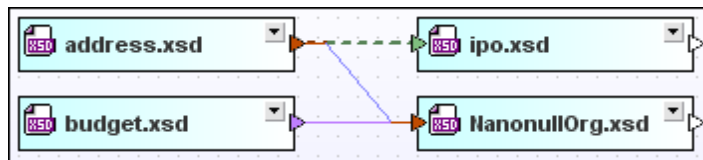
接続線にカーソルをポイントすると、接続線がハイライトされます。表示される矢印の先端 (三角形) はリレーションシップの「方向を」示し、リレーションシップの詳細を表示するクイック情報 ボックスと共に表示されます。



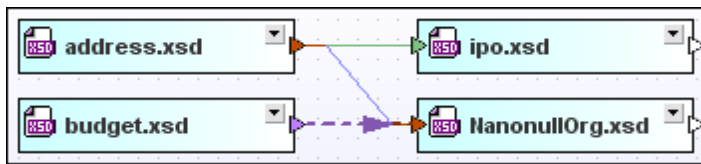
上のスクリーンショットでは、青色のインポートリレーションがハイライトされ、NanonullOrg.xsd 内に address.xsd がインポートされたことを示します。ハイライトされた接続線の外観はオプションダイアログのリレーションタブ内でも構成することができます。

接続線の選択

接続線をクリックすると、選択され、複数のオプションをコンテキストメニュー内で使用することができます。

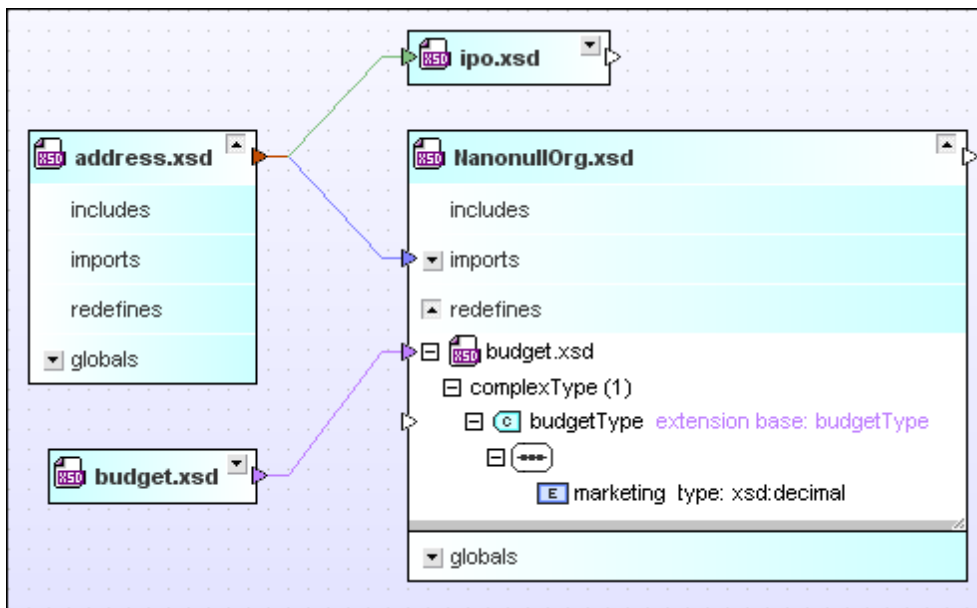


上のスクリーンショットでは、緑色のインクルードリレーションが選択されています。選択されたラインの外観は、オプションダイアログのリレーションにより構成することもできます。選択されたラインもハイライトできることに注意してください (下のスクリーンショット参照)。



スキーマリレーションシップ

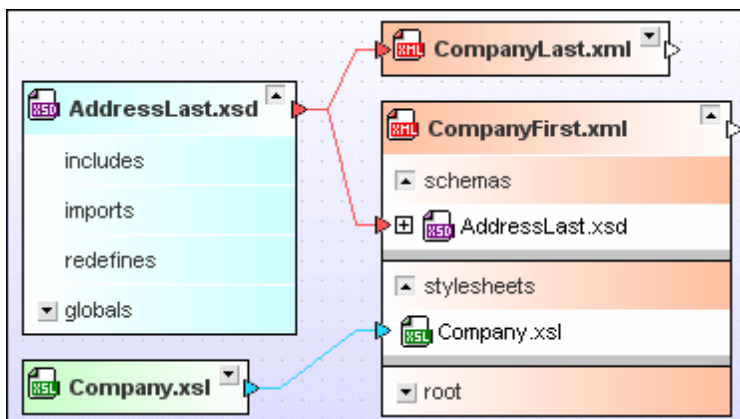
スキーマ間のリレーションシップを示すラインは、デフォルトでは、実線で示されます。スキーマボックスが折りたたまれていると、スキーマボックスのタイトルバーから他のスキーマボックスのタイトルバーに接続されて、スキーマボックスが展開されていると、他のスキーマボックスのタイトルバー、または、スキーマボックス内のインクルード、インポート、または、再定義 セクションに接続されています。異なる色が使用され、インポート、インクルード、と再定義が区別されています。デフォルトの設定は、インポートを青色で、インクルードを緑色で、再定義を紫色で表示しています。



スキーマボックス内のセクションも展開した場合、コネクタは参照されたコンポーネントをポイントすることに注意してください。

XML インスタンス

XML スキーマ間に存在するリレーションシップ、または、XSLT スタイルシートと対応する XML インスタンスが SchemaAgent 内に表示されています。

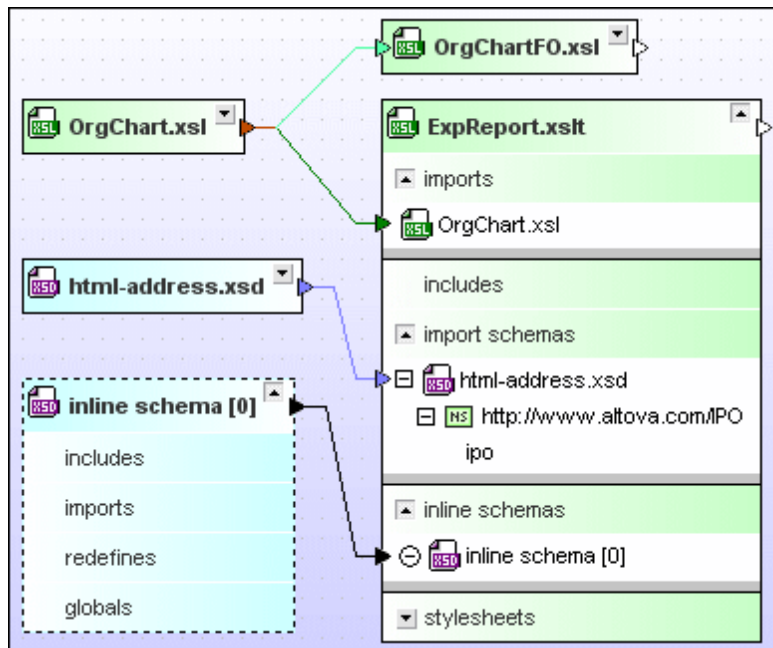


XML ボックスが折りたたまれている場合、XML スキーマ ボックスのタイトルバーから、XML インスタンス ボックスのタイトルバーへの接続線が描かれます。XML ボックスが展開されている場合、XML ボックス内のスキーマセクションに接続線が描かれます。スキーマリレーションのためのデフォルトの色は赤色です。

XML ボックスが XSLT スタイルシート と XML インスタンス間のリレーションシップは、スタイルシート ボックスのタイトルバーから、XML インスタンス ボックスのタイトルバーに接続線が描かれます。XML ボックスが展開されていると XML ボックス内のスタイルシートセクションに接続線が描かれます。スタイルシートのリレーションのためのデフォルトの色はシアンです。

スタイルシートのリレーションシップ

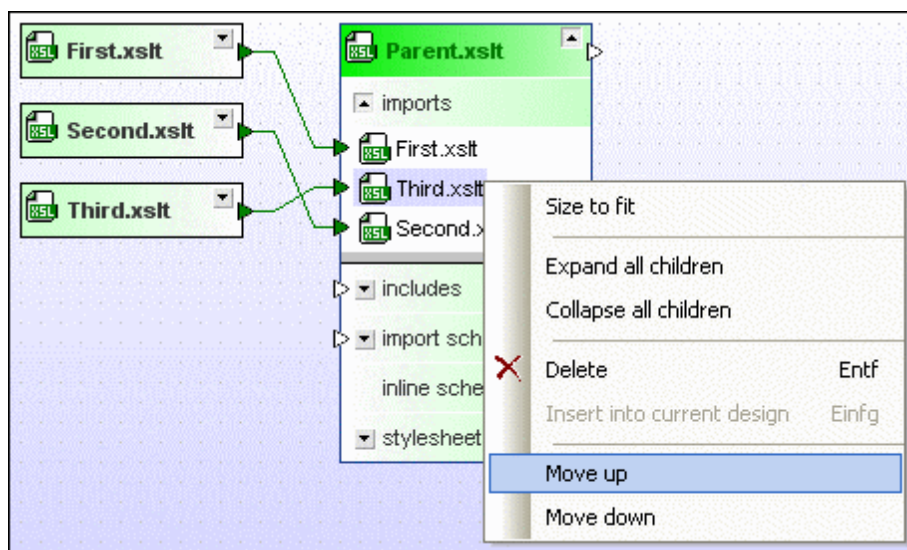
XSLT スタイルシート ファイルは他の XSLT ファイルまたは XML スキーマをインポート、または、インクルードすることができます。更に、1つまたは複数のインラインのスキーマが XSLT ファイル内に存在する可能性があります。SchemaAgent はこれらのリレーションシップを異なる色で示しています。



XSLT ボックスが折りたたまれていると、XML スキーマのタイトルバー、または、XSLT スタイルシート ボックスから XSLT ボックスのタイトルバーへ接続線が描かれます。XSLT ボックスが展開されていると XSLT ボックス内で、インポート、インクルード、または、インポートスキーマセクションに接続線が描かれます。インポートのデフォルトの色は緑色、インクルードのデフォルトの色は薄い緑色、スキーマリレーションは薄い青色で表示されています。

順序の変更

XSL 変換内では、インポートされた、または、インクルードされたスタイルシートの適用されるシーケンスは重要で、これらのファイルはファイルボックス内でアルファベット順に並べ替えられていません。しかしながら、後で XSLT ファイルボックスのコンテキストメニュー内の並べ替え オプションを使用してこの順序を変更することができます。



インポートされている、または、インクルードされている XSLT ファイルの順序を変更する方法:

1. 関連した XSLT ファイルを表示するためにインポートまたはインクルードセクションを展開します。
2. 位置を変更するファイルを右クリックし、コンテキストメニューから次のオプションを選択します:
 - 上に移動する
 - 下に移動する
3. 任意で、ファイルが必要とするポジションに表示されるまで、ステップ2を繰り返します。

インラインのスキーマ

XSLT ボックス内でインラインのスキーマセクションが展開されるとインラインのスキーマが表示されます。インラインのスキーマのためのファイルボックスを表示することもできます。インラインのスキーマのためのファイルボックスは、点線の枠で表示されますが、他の XML スキーマボックスと同様に処理することができます。

インラインのスキーマのためにスキーマボックスを表示する:

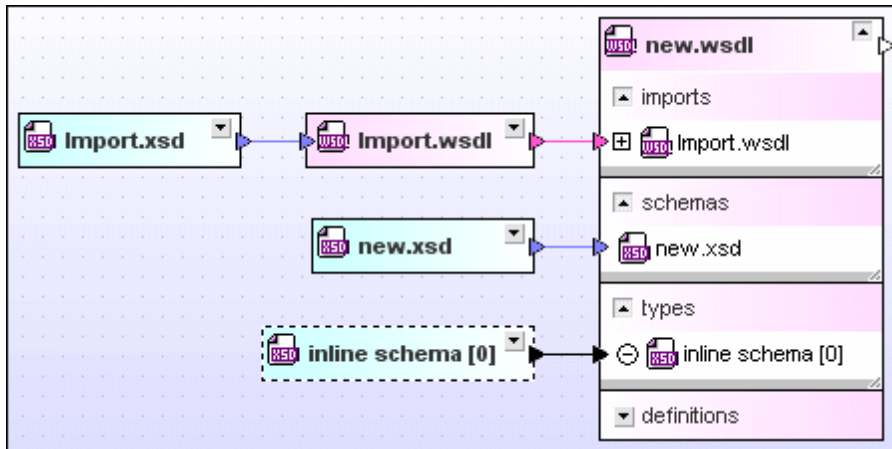
1. インラインのスキーマがインラインのスキーマセクションの下にリストされるまで展開します。
2. インラインのスキーマを右クリックし、コンテキストメニュー内の**インラインの表示**オプションを無効化、または、スキーマ名の左側の ⊕ アイコンをクリックします。または、インラインスキーマセクション内のインラインスキーマエントリをダブルクリックします。
インラインのスキーマは XSLT ファイルボックスのインラインのスキーマセクションに接続されている個別のスキーマボックス内に表示されます。

インラインのスキーマのためにスキーマボックスを非表示にする:

- WSDL ボックス内にスキーマボックスが表示されているインラインのスキーマを右クリックし、コンテキストメニュー内の**インラインの表示**オプションを有効化します。または、スキーマ名の左側の ⊖ アイコンをクリックし、インラインのスキーマセクション内のインラインのスキーマエントリをダブルクリックします。

WSDL リレーションシップ

WSDL ファイルは他の WSDL ファイル、または、XML スキーマをインポートすることができます。更に、1つまたは複数のインラインのスキーマが WSDL ファイル内に存在する場合があります。SchemaAgent はこれらのリレーションシップを異なる色で表示します。



WSDL ボックスが折りたたまれていると XML スキーマ、または、WSDL ボックスのタイトルバーから WSDL ボックスのタイトルバーに接続線が描かれます。WSDL が折りたたまれていると インポート、または、スキーマセクションに接続線が描かれます。インポートのためのデフォルトの色は赤紫色で表示され、スキーマリレーションは薄い青色で表示されています。

WSDL ボックス内の型セクションが展開されていると インラインのスキーマが表示されます。インラインのスキーマのためのファイルボックスを表示することもできます。インラインのスキーマのためのファイルボックスは、点線の枠で表示されますが、他の XML スキーマボックスと同様に処理することができます。

インラインのスキーマのためにスキーマボックスを表示する:

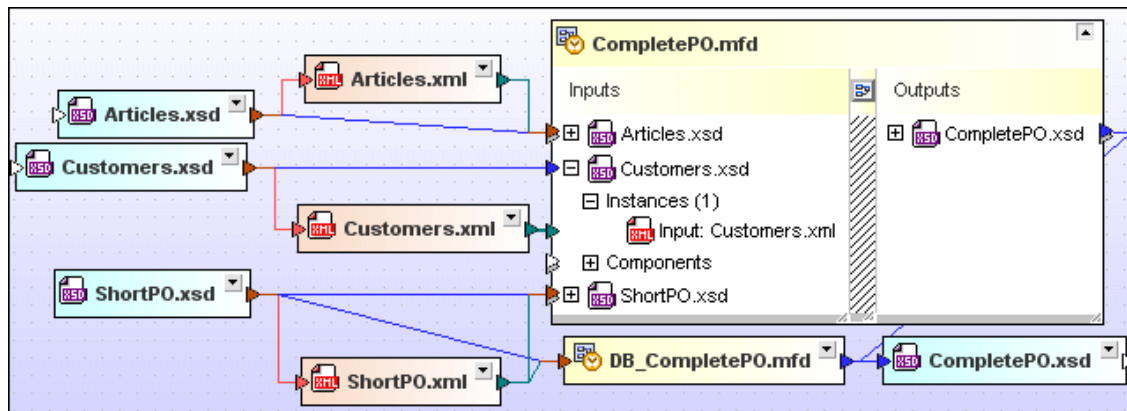
1. WSDL ボックスをインラインのスキーマが型セクションの下にリストされるまで展開します。
2. インラインのスキーマを右クリックし、コンテキストメニュー内で **インラインの表示** オプションを無効化、または、スキーマ名の左側の ☉ アイコンをクリックします。または、型セクション内のインラインのスキーマエントリをダブルクリックすることができます。
インラインのスキーマは WSDL ファイルボックスの型セクション接続されている個別のスキーマボックス内に表示されます。

インラインのスキーマのためにスキーマボックスを非表示にする:

- WSDL ボックス内にスキーマボックスが表示されているインラインのスキーマを右クリックし、コンテキストメニュー内のインラインの表示オプションを有効化します。または、スキーマ名の左側の ☉ アイコンをクリック、または、型セクション内のインラインスキーマエントリをダブルクリックします。

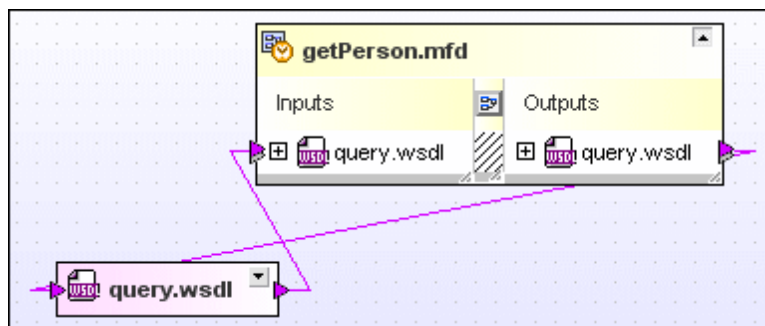
MapForce デザイン リレーションシップ

MFD ファイルに関しては、MFD ファイルの入力と出力 ハンドルから、それぞれのソースとターゲットスキーマボックスのタイトルバー、または、既存の XML インスタンスに実線の接続線が描かれます。MFD ファイルが展開されていると MFD ファイルの入力と出力 セクションに含まれるスキーマを接続線はポイントします。インスタンスセクション内に含まれている XML インスタンスを表示するために各スキーマを更に展開することができます。



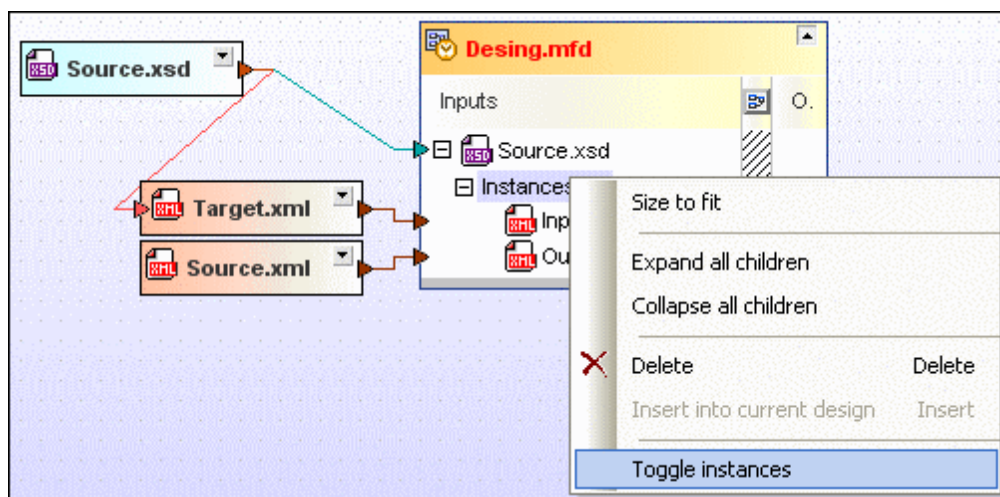
MFD ファイルとスキーマ (デフォルトの色: 青色)、または、XML インスタンス (デフォルトの色: 緑色) 間のリレーションを表すために SchemaAgent は異なる色を使用しています。

MFD ファイルと WSDL ファイル間のリレーションは、MFD ボックスが折りたたまれていると WSDL ボックスのタイトルバーから MFD ボックスのタイトルバーへの赤紫色の接続線で示されており、MFD ボックスが展開されていると MFD ボックス内の入力と出力セクションに接続線は描かれています。



入力および出力インスタンスの切り替え

MFD ボックス内の XML スキーマにドラッグすると、通常、最初の XML インスタンスが入力として扱われ、2番目の XML インスタンスが出力として扱われます。コンテキストメニュー内の「インスタンスの切り替え」オプションを使用して、デフォルトの割り当てを変更してこれを変更することができます。

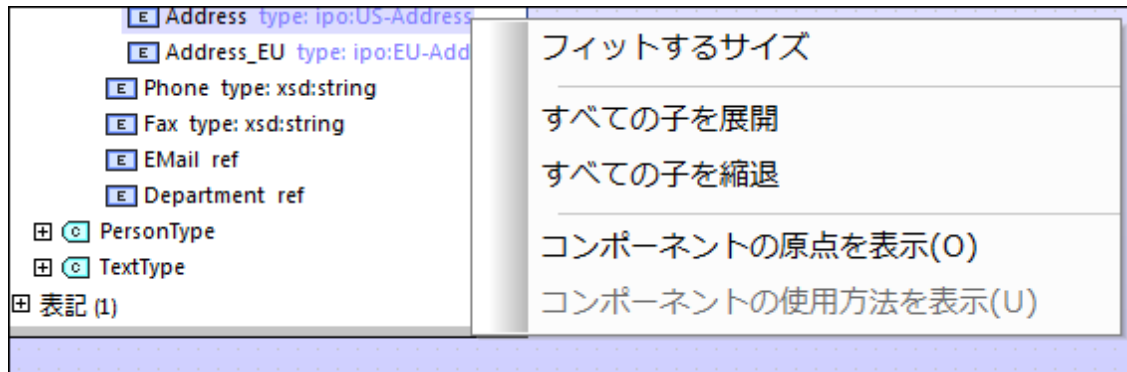


入力と出力インスタンスを切り替える方法:

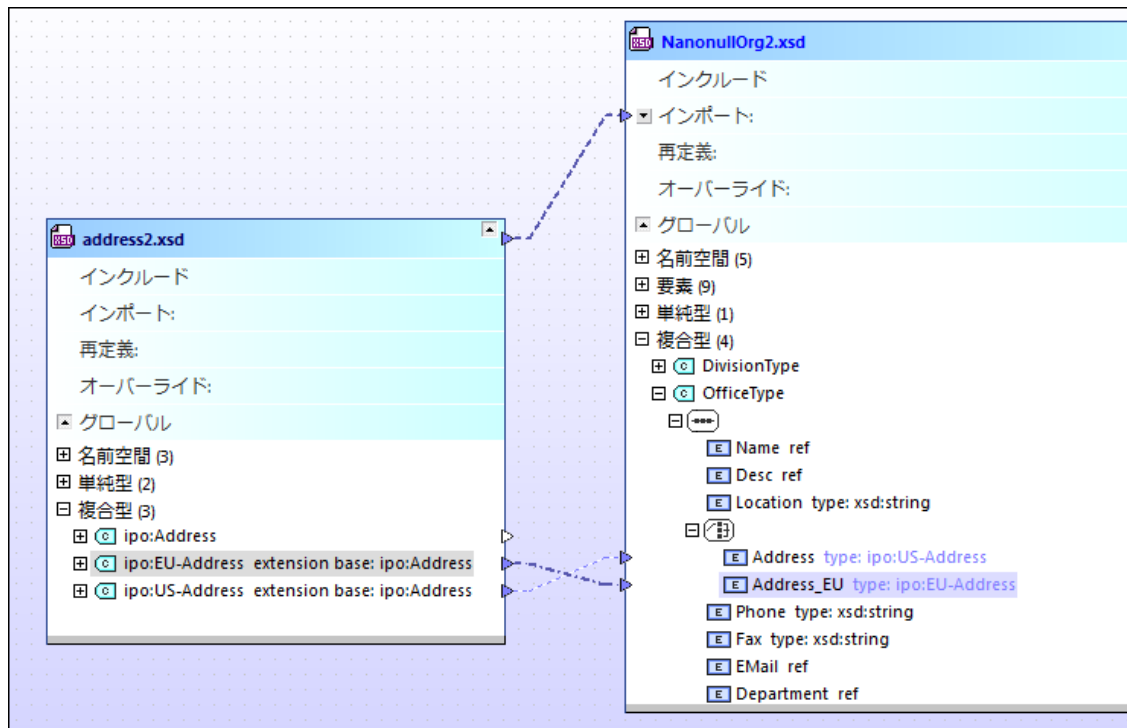
1. XML インスタンスを確認するために、MFD ボックスを展開します。
2. 親 XML スキーマを右クリックし、インスタンスノード、または、XML インスタンス、コンテキストメニューから「インスタンスの切り替え」を選択します。

6.6.10 関連したコンポーネントの表示

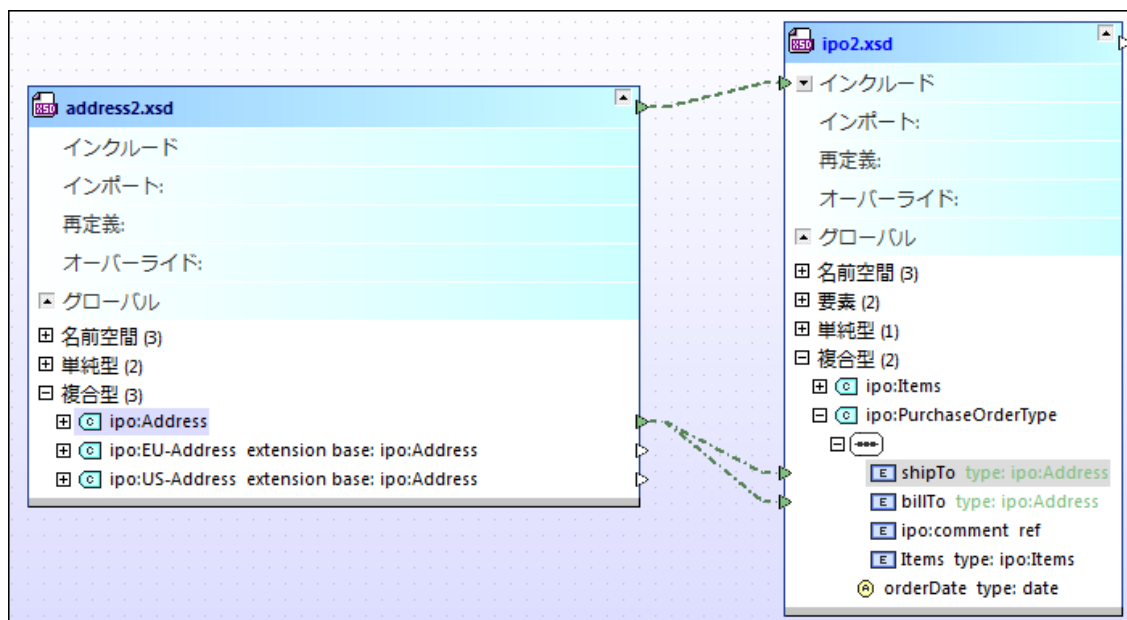
コンポーネント、または、その型(コンポーネントの左側の矢印の先端(三角形)により表示されている)が別のスキーマ内で定義されていると、または、(コンポーネントの右側の矢印の先端(三角形)により表示されている)他のスキーマにより使用されている場合、コンポーネントを右クリックするとコンテキストメニューは「コンポーネントの原点の表示」(下のスクリーンショット参照)と「コンポーネントの使用方法の表示」オプションを提供します。スクリーンショット内では、複合型 ipo:US-Address (青色)のテキストの色は、(デフォルトの配色に従い)この複合型がインポートであることを示しています。



「コンポーネントの原点の表示」コマンドをコンテキストメニューから選択すると、ソーススキーマ内で関連した定義への接続線が選択され、両方のスキーマ間のリレーション(インクルード、インポート、または、再定義)を表示します。関連したスキーマボックス、または、セクションが折りたたまれているために、接続線が表示されていない場合、SchemaAgent は、必要とされる接続線を表示するためにデザインを展開します。定義を含むスキーマボックスがデザイン内に存在しない場合、デザイン内では、メッセージが表示され、デザインにこのスキーマボックスを含むか否かが問われます。



一方、address.xsd のスキーマボックス内で、コンポーネント ipo:Address (複合型を右クリックし、)「コンポーネントの使用方法の表示」を選択し、ipo.xsd スキーマボックスがデザインに追加され、ipo.xsd 内の Address 要素へのリンクが選択されます。



コンポーネントの原点を表示する方法：

1. スキーマボックスのグローバルなセクション内で、MFD ファイルボックスの入力、または、出力セクション内でコンポーネントを右クリックし、コンテキストメニューから「コンポーネントの原点の表示」を選択します。

- 現在のデザイン内にソースコンポーネントのスキーマが存在しない場合ポップアップされるメッセージボックス内の「はい」任意でをクリックします。

SchemaAgent は、関連したコンポーネントとスキーマ間のリレーションの型を表示する接続線の間の接続線を選択します。コンポーネントソースのスキーマボックスが折りたたまれていると、リレーションを表示するために必要とされるレベルまで展開されます。

コンポーネントの使用方法を表示する方法:

- スキーマボックスのグローバルなセクション内で、コンポーネントを右クリックし、コンテキストメニューから「コンポーネントの使用方法の表示」を選択します。
- 現在のデザイン内にソースコンポーネントのスキーマが存在しない場合ポップアップされるメッセージボックス内の「はい」任意でをクリックします。

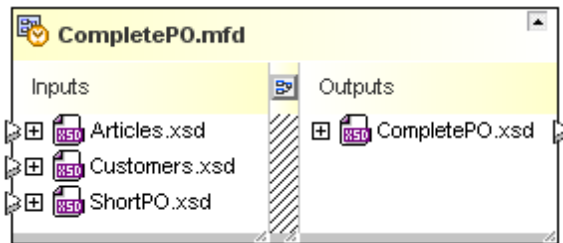
SchemaAgent は、関連したコンポーネントとスキーマ間のリレーションの型を表示する接続線の間の接続線を選択します。ターゲットコンポーネントのスキーマボックスが折りたたまれていると、リレーションを表示するために必要とされるレベルまで展開されます。

6.6.11 MFD ファイルの表示

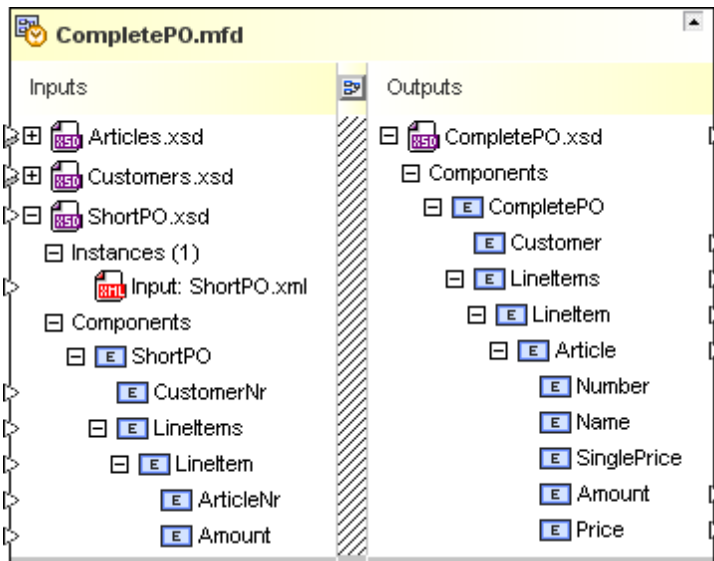
1つまたは複数の MFD ファイルをデザインウィンドウにドラッグすると、SchemaAgent は、各個別の MFD ファイルのコンテンツと MFD ファイル内に含まれるスキーマのマッピングを表示します。

コンテンツ

MFD ファイルボックス内で MFD ファイルのコンテンツが表示されています。入力と出力ファイルは、ボックスが展開されるとリストされます。ファイル名の右側の展開  ボタンをクリックして MFD ファイルボックスを展開し、MFD ファイル内に含まれるファイルを確認します。

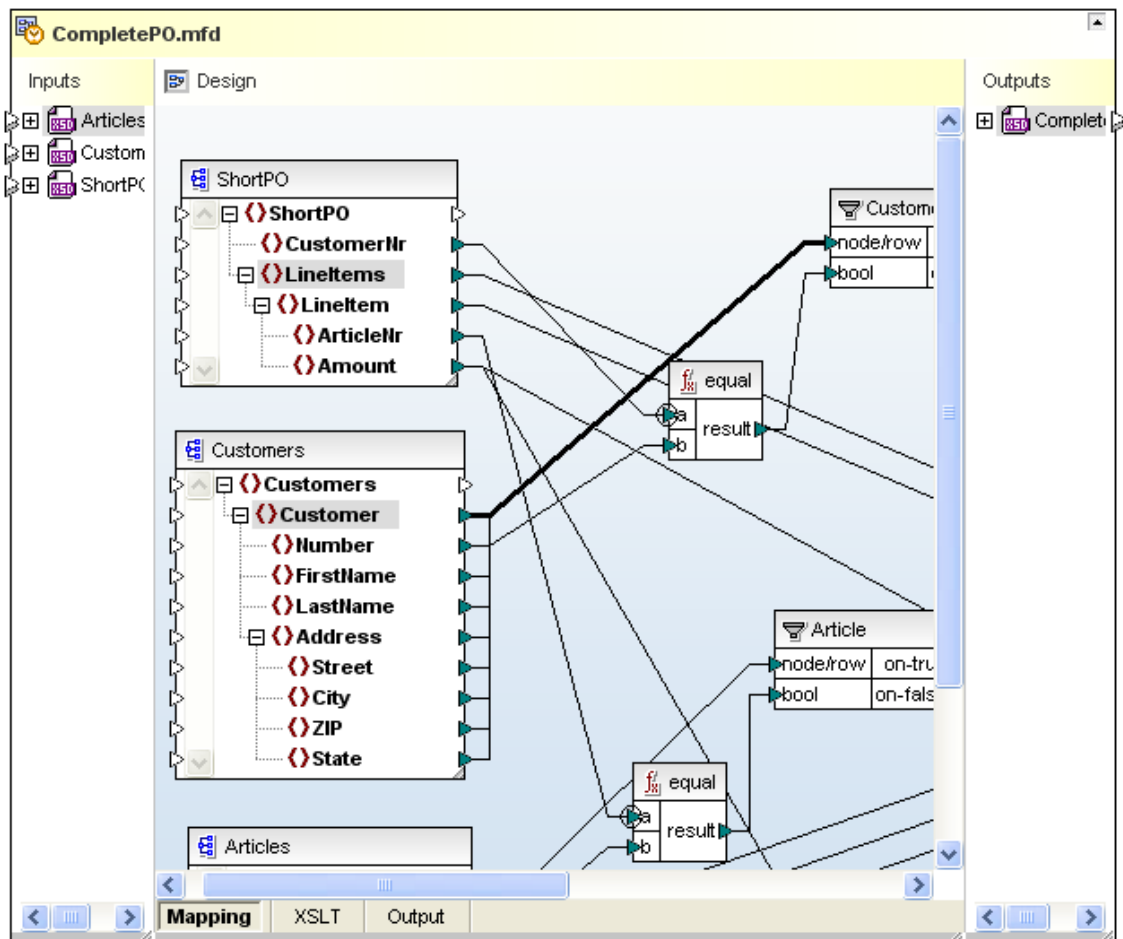


入力と出力ファイル名の左側の展開ボタンをクリックして、MFD ファイル内に含まれている個別のファイルの構造を掘り下げます。



マッピング

MFD ファイル内に含まれている入力と出力ファイルのマッピングは入力と出力ファイルの間の **MapForce デザイン** アイコンをクリックして確認することができます。



MapForce マッピングとXSLT 出力の XSLT ファイルを表示するために、MapForce デザイン ペインのそれぞれのタブをクリックします。ペインを閉じるために、**MapForce デザイン** アイコンをクリックします。

注意点: MapForce デザイン ペインを表示するために、MapForce 2019 が使用中のコンピューターにインストールされている必要があります。SchemaAgent 内で MFD ファイルを直接編集することはできません。コンテキストメニューから「**MapForce 内での編集**」コマンドを選択します。または「**Ctrl +M**」を押し MapForce 内のファイルを開きます。

MapForce デザイン (MFD) ファイルの表示方法:

- MFD ファイルをエクスプローラー ウィンドウからデザインウィンドウヘドラッグアンドドロップします。

6.6.12 クイック情報の表示

マウスポインターをファイルのタイトルバーに移動すると、デザインウィンドウ内で接続線をハイライトすると、SchemaAgent はファイルのロケーション、ターゲット名前空間、IIR 情報などを含むクイック情報ボックスを表示します。情報の型と量はマウスポインターのフォーカスとなるオブジェクトにより異なります。

クイック情報 ボックスは次のオブジェクトのために提供されます:

- スキーマボックス
- 他のスキーマボックスの個別のセクション内に含まれたスキーマ
- MFD ファイルボックス
- MFD ファイルボックスの入力、または、出力セクション内に含まれるスキーマ
- XML インスタンス
- IIR 接続線
- MapForce 接続線
- コンポーネントリレーションコネクタ
- XML インスタンスへの参照

スキーマ

スキーマボックスのタイトルバーにマウスポインターを移動すると、次の情報を含むクイック情報ボックスが表示されます:

- スキーマのロケーション
 - ターゲット名前空間
 - スキーマに関する IIR 情報。例えば、そのスキーマに含まれるスキーマ、そのスキーマ自身がどのスキーマに含まれるなどの情報が表示されます。
- 注意点:** クイック情報ボックスを IIR 情報を検索パス内で決定されているとおりに表示します。

```
Quickinfo XML Schema <NanonullOrg.xsd>
C:\...\Altova\XMLSpy2019\Examples\NanonullOrg.xsd

Target namespace: http://www.xmlspy.com/schemas/orgchart
Prefix: <default namespace>

imports: (2 entries)
    address.xsd
    TextState.xsd

referenced by:
    NanoNullOrg.xml
```

通知  アイコンにテキストカーソルをポイントすると、スキーマボックス内で表示されている場合、関連したエラーメッセージ内で、クイック情報ボックス内で関連したメッセージが開かれます。

スキーマボックスを展開し、マウスポインターをインクルード済み、インポート済み、または、再定義済みの外部スキーマのファイル名にポイントすると、クイック情報ボックスは外部スキーマに関する次の情報が表示されます:

- スキーマのロケーション
- ターゲット名前空間

MapForce デザインファイル

MFD ファイルボックスのタイトルバーにマウスポインターを移動すると、次の情報を含むクイック情報ボックスが表示されます:

- MFD ファイルのロケーション
- ソースファイル
- ターゲットファイル

```
Quickinfo MapForce Design <CompletePO.mfd>

C:\...\Altova\MapForce2019\MapForceExamples\CompletePO.mfd

reading from:      (3 entries)
                  ShortPO.xsd
                  Articles.xsd
                  Customers.xsd

writing to:
                  CompletePO.xsd
```

MFD ファイル内に含まれているスキーマのファイル名にマウスポインターを移動すると、次の情報を含むクイック情報ボックスが表示されます:

- スキーマのロケーション
- ターゲット名前空間

XML インスタンス

XML インスタンス ファイルボックスのタイトルバーにマウスポインターを移動すると、次の情報を含むクイック情報ボックスが表示されます:

- XML ファイルのロケーション
- 参照されたファイル
- XML インスタンスに書き込むファイル
- XML インスタンスを読み取るファイル

```
Quickinfo XML Instance <input.xml>

C:\...\Altova\MapForce2019\MapForceExamples\Tutorial\input.xml

references:
          Input.xsd

written by:
          Summing-nodes.mfd

read by:
          Summing-nodes.mfd
```

XSLT スタイルシート

XSLT スタイルシート ボックスのタイトルバーにマウスポインターを移動すると、次の情報を含むクイック情報ボックスが表示されます:

- XSLT ファイルのロケーション
- XSL バージョン
- インポートされた XSLT ファイル
- 既に含まれている XSLT ファイル
- インポートされた XML スキーマ
- XSLT ファイルを含むファイル
- XSLT ファイル内に含まれたインラインのスキーマ

```

Quickinfo XSL <ExpReport.xslt>

C:\...\Altova\XMLSpy2019\Examples\ExpReport.xslt
version = 2.0

imports:
    OrgChart.xsl

includes:
    OrgChartFO.xsl

imports:
    html-address.xsd

imported in:
    Master.xslt

contains:
    inline schema [0]

```

Web サービス 記述 ファイル

WSDL ファイルボックスのタイトルバーにマウスポインターを移動すると、次の情報を含むクイック情報ボックスが表示されます:

- WSDL ファイルのロケーション
- WSDL バージョン
- ターゲット名前空間
- インポートされた WSDL ファイル
- インポートされた XML スキーマ
- WSDL ファイルを含むファイル
- WSDL ファイルを読み取るファイル
- WSDL ファイル内に含まれているインラインのスキーマ

```

Quickinfo WSDL <WebService.wsdl>

C:\...\Altova\MapForce2019\UPSRates.wsdl

version = 1.1

Target namespace http://www.mackeybros.com/WebServices/
Prefix: tns

is written by:
    Complete POws.mfd

is read by:
    Complete POws.mfd

contains:
    inline schema [0]

```

リレーション

スキーマ、MFD ファイル、XML インスタンス、またはコンポーネント、および、それぞれのソースまたはターゲットアイテム間の接続線がハイライトされている場合、クイック情報ボックスが表示されます。クイック情報ボックスのコンテンツは、ハイライトされたコネクタの型により異なります。

リレーションのために以下が表示されます:

- 型 (インポート、インクルード、再定義、MapForce、または参照)

- ソース
- ターゲット

Quickinfo <Relation>

Type: MapForce
Source: Customers.xsd
Target: CompletePO.mfd

コンポーネントリレーションにマウスポインターを移動すると、クイック情報ボックスには、MapForce アイテムが読み取る入力コンポーネントの情報、または、出力コンポーネントが書き込まれる MapForce アイテムが含まれています。

Quickinfo <Component Relation>

MapForce: ArticleNr (CompletePO.mfd) reads from ArticleNr (ShortPO.xsd)

Quickinfo <Component Relation>

MapForce: Customer (CompletePO.xsd) is written by Customer (CompletePO.mfd)

スキーマボックス内でネストされているコンポーネントのためのクイック情報ボックスは以下ようになります。

Quickinfo <Component Relation>

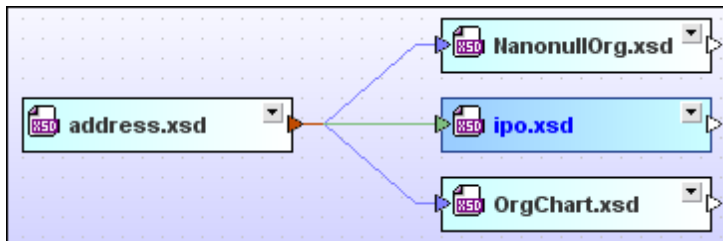
Import: Address (NanonullOrg.xsd) uses ipo: US-Address (address.xsd)

6.7 デザインとの作業

デザインウインドウ内で SchemaAgent デザインと作業する場合、ファイルボックスを選択するだけではなく、整理、または、削除し SchemaAgent Client 外で変更されたロードされたファイルを印刷し、デザインをエクスポートすることができます。コンテキストメニューはデザイン自身、ファイルボックスと接続線のために使用することができます。参照パスの修正とゴーストファイル再作成することができます。

6.7.1 ファイルの選択

デザインウインドウ内で単一のファイルを選択する場合、ファイルボックスは色を変更し、選択されたボックスはタイトルを異なる色で表示することによりフォーカスされます(スクリーンショット参照)。オプション内の選択されたファイル内のために色を変更することができます。下の記述では、選択メカニズムはスキーマの参照を用いて説明されています。同じメカニズムが MFD ファイルと XML、WSDL、と XSL ファイルに適用されることに注意してください。



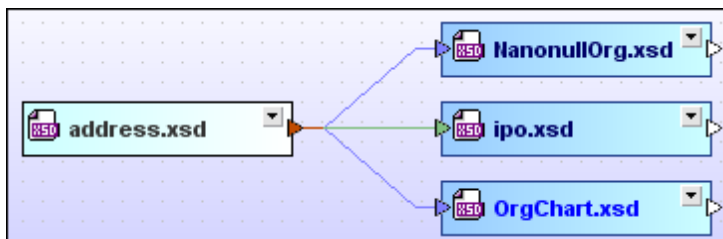
デザインウインドウ内でスキーマを選択する方法:

- スキーマボックス内の任意の箇所をクリックします。

複数のファイルを選択する方法

デザインウインドウ内で、複数のスキーマ MFD、または、XML ファイルを選択することができます。選択されたファイルのタイトルバーは色を変更します。ファイルの選択方法により、ファイルがどのようにフォーカスされるかが決定されます:

- 複数のファイルボックスを選択するために、「Ctrl+click」メソッドを使用すると、最後に選択されたファイルボックスがフォーカスされます。
- マーキーの選択メソッドを使用すると、カーソルが最後にパスするファイルボックスがフォーカスされます。
- マーキーをファイルボックスをパスしないようにドラッグすると、ファイルはフォーカスを受け取りません。



デザインウインドウ内で複数のスキーマを選択する方法:

以下の内の1つを行ってください:

- 「Ctrl」キーが押されている間に選択するスキーマのスキーマボックスを選択します。
- スキーマのスキーマボックス上のマーキーの選択テクニックを使用します(必要とされるスキーマ)

マボックスの周りのマーキーの三角形をクリックしてドラッグします)。

フォーカスの変更方法

選択されたファイルがフォーカスを持つファイルに対して整列されるため、整列などの一部のアクションのために、フォーカスを設定することは重要です。並べ替えなどの他のアクションのためにはフォーカスは役に立ちません。

複数の選択内のフォーカスを変更する方法:

- 「Ctrl」を押し、フォーカスを与えるファイルのボックスを2回クリックします。

関連付けられたファイルの選択方法

「コンボートの原点の表示」、コンポーネントの使用方法的表示とリレーションパスの表示コマンドが使用されるとスキーマボックスも選択されます。

デザイン内の関連付けられたファイルを選択する他の方法は、ファイルを右クリックして、次のオプションの1つをコンテキストメニューの「選択」サブメニューから選択します。オプションのそれぞれに特定のファイル型へ選択を制限することの出来る、または、全てのファイルを選択するためにファイルを選択するサブメニューが存在します。

- **直接参照付けられているすべて:** 選択されたファイルにより直接参照付けられているすべてのファイルを選択します。
- **直接参照するすべて:** 選択されたファイルを直接参照するすべてのファイルを選択します。
- **直接関連付いているすべて:** 選択されたファイルにより直接参照される、または、選択されたファイルを直接参照するすべてのファイルを選択します。
- **参照されるすべて:** 選択されたファイルにより直接、または、間接的に選択されるすべてのファイルを選択します。
- **参照しているすべて:** 選択されたファイルを直接、または、間接的に参照するすべてのファイルを選択します。
- **関連しているすべて:** 選択されたファイルを直接、または、間接的に参照する、または、選択されたファイルにより参照されるすべてのファイルを選択します。
- **リンクされているすべて:** 選択されたファイルを直接、または、間接的に参照する、または、選択されたファイルによりリンクされるすべてのファイルを選択します。

または、デザインウインドウ内でファイルを選択し、メニューオプション「編集 | 選択」を選択します。適切なサブメニュー内のオプションを使用して、デザインウインドウ内で必要とするファイルを選択します。

メニューに加え、アクティブなデザインウインドウ内の全てのファイルを選択するためにキーボードショートカット「Ctrl+A」を使用することができます。

選択をコピーし貼り付ける方法

デザイン全体に選択範囲をコピーして張り付けることができます。パスを使用すると、関連したスキーマを含む新規のデザインを作成する便利な方法となります。

選択項目を同期化する方法

選択されたファイルボックスのコンテキストメニューは、デザインウインドウとエクスプローラーウインドウ内の選択を同期するオプションを提供します。デザインウインドウ内のファイルの名前を変更、削除、または、移動することができないため、デザインウインドウがアクティブの場合このコマンドはとても役に立ちます。ですから、デザインウインドウ内で、「同期の選択」コマンドを選択すると、デザインウインドウ内で現在選択されているファイルは、エクスプローラーウインドウの階層型タブ、および、フラットタブ内でも選択され、エクスプローラーペインを切り替え、必要とされるアクションが取られます。

注意点: 「同期の選択」は現在選択されているデザインウインドウのみに適用され、開かれている全

でのデザインウィンドウには適用されません。

選択を同期する方法:

以下の内の1つを行ってください:

- 階層型、または、エクスプローラー ウィンドウのフラットタブ、または、デザインウィンドウタブ内でファイルをダブルクリックします。
ファイルは他の2つのタブ内でも選択されます。
- メニューオプション「編集 | 同期の選択」を選択します。
- デザインウィンドウ内で、ファイルボックスを右クリックし、コンテキストメニューから「同期の選択」を選択します。
- 標準ツールバー内の「同期の選択」 ボタンをクリックします。

6.7.2 ファイルの削除

エクスプローラーウィンドウ内でファイルを削除と比較すると、デザインから削除されたファイルは使用中のコンピュータのファイルシステム内に、および、このファイルを含む他のデザイン内に残ります。

注意点: デザインからファイルを削除する場合、デザインウィンドウ上の選択されたファイルのフォーカスが、エクスプローラーウィンドウ内ではないことに注意してください。それ以外の場合、デザインからファイルは削除されず、SchemaAgent サーバーが与えられた名前のファイルを検索パス内で見つけることができず、**未知のファイル**として表示されます。このようなファイルはデザインウィンドウ内で黄色の感嘆符と共に表示されています。



削除済みのファイルを再度利用できるようにする唯一の方法としては、(黄色の感嘆符を削除するには) ファイルを物理的に再作成、または、バックアップからコピーして正確な場所にコピーします。

ファイルをデザインから削除する方法:

以下の内の1つを行ってください:

- デザインウィンドウ内のファイルを右クリックし、コンテキストメニューから「削除」を選択します。
- デザインウィンドウからファイルを選択し、メニューオプション「編集 | 削除」を選択、または、「削除」キーを押します。
- 標準ツールバー内の「削除」 ボタンをクリックします。

ファイルはデザインから削除されます。

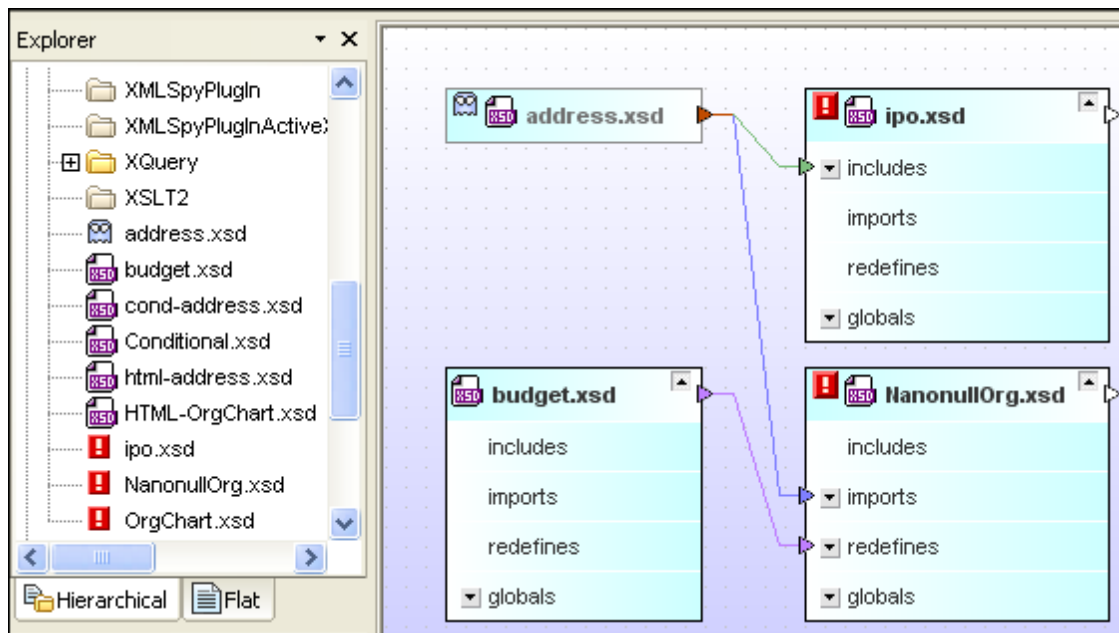
6.7.3 ゴーストスキーマと正確ではないパス

ファイルが、指定されている場所に存在しない他のファイルへの参照を含む場合、(この種類のファイルはゴーストファイルと呼ばれます) エラー  アイコンはタイトルバーの左上に表示されます。ゴーストファイルは、タイトルバー内でゴースト  アイコンにより示されています。

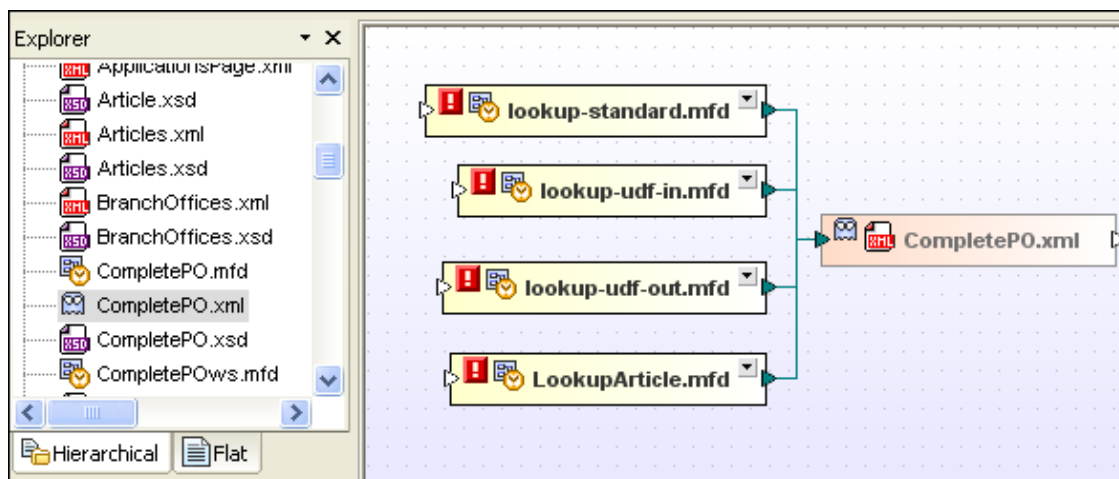
下のスクリーンショットでは、スキーマ address.xsd をポイントする、ipo.xsd には、インクルードステートメントがインクルードステートメント内で指定されている場所で見つけることができません。

この場合、address.xsd はゴーストスキーマファイルです。IIR ステートメント内で address.xsd を参照するすべてのファイルは、スキーマボックスとエクスプローラー ペイン内でエラー  アイコンにより

表示されています (スクリーンショット参照)。



MFD ファイル内で指定された場所でファイルが見つからない場合、XML インスタンスはゴーストファイルとして扱われます。



複数の理由によりスキーマがゴーストスキーマになる場合があります。最も頻繁な理由は以下のとおりです：

- スキーマがなんらかの理由で指定されている場所に存在しない場合。例えば、移動済みの場合など。
- Web サーバー、または、ネットワーク ノードを使用することができないため、スキーマをロードすることができません。

(レファレンス内で指定されている場所に存在しない場合でも)ゴースト ファイルはエクスプローラーとデザインウィンドウ内で表示されることに注意してください。デザイン内では、ゴースト ファイルとターゲットスキーマ間の接続線も表示されています。

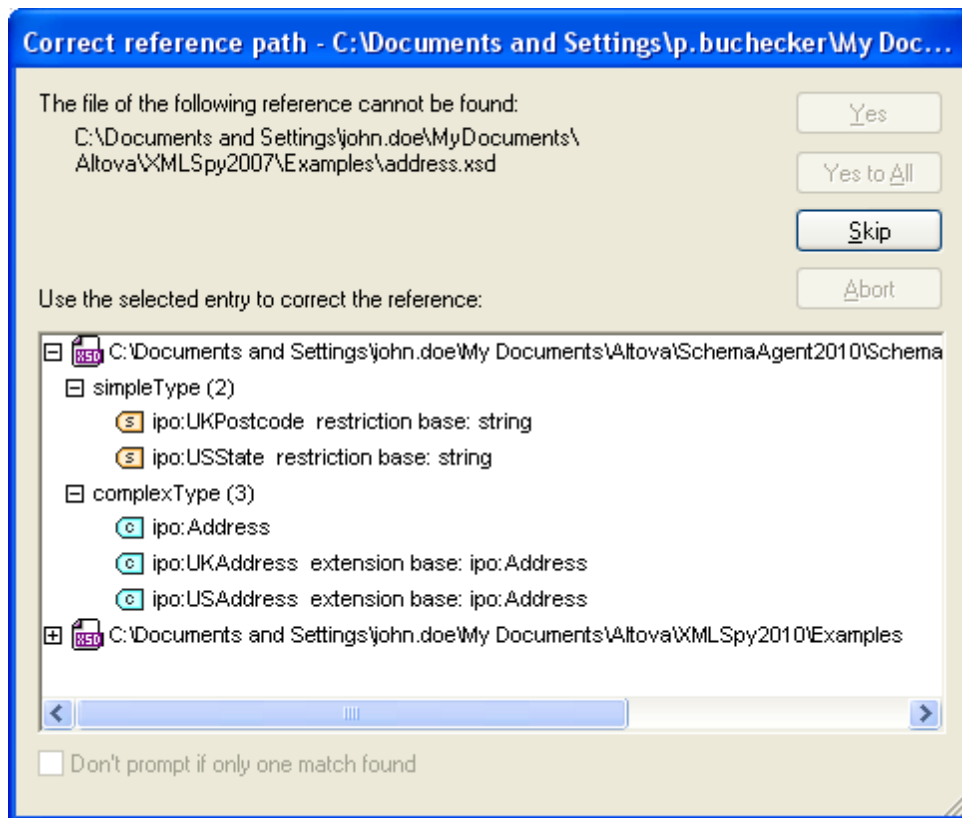
正確では内参照とゴーストファイルが発生した場合、問題を解決するために2つの方法を使用することができます:

- 参照へのパスの修正
- ゴーストファイルの再作成

参照パスの修正

SchemaAgent Client は正確では内参照を持つファイルを右クリックすると「参照パスの修正」コマンドを提供します。このアクションによりSchemaAgent Client は、検索パス内で同じ名前のファイルを検索します。ゴーストファイルが検索パス内の他の場所に移動された場合、理想的な解決策となります。このような場合、SchemaAgent Client は、検索パス内で検索されたゴーストファイルの名前を持つ全てのファイルをリストします。

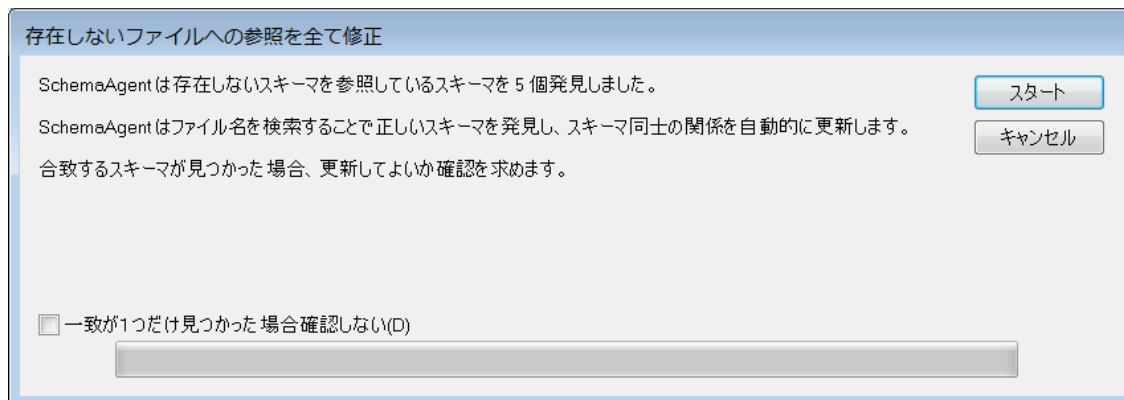
ファイル内の参照 (スキーマ内の IIR ステートメント、または、MFD ファイル内のスキーマの仕様) が指定された場所で見つからないファイルを指す場合、「参照パスの修正」コマンドを使用して、検索パス内の他のロケーションで参照されたファイルに一致する名前のファイルを SchemaAgent は検索します。1つまたは複数の一致が存在する場合、使用することのできる代替のパスを表示するダイアログボックスが表示されます。



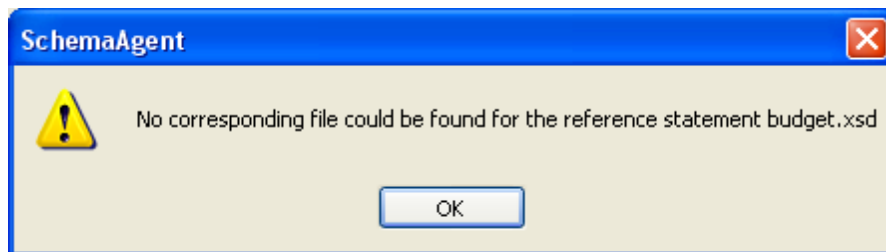
「参照パスの修正」ダイアログボックス内で、検索されたファイルの構造が不足するファイルと同一かそれぞれの一致をチェックすることができます。長いパスを表示、または、複雑なスキーマの詳細をスクロールバーで確認できるようにダイアログボックスのサイズは調整されます。

この単一のステップ内で全ての無効なパスを修正しようと試みることができます。この場合、SchemaAgent は一致するスキーマが1つのみ見つかった場合プロンプトせずパスを修正することのできるダイアログボックスを表示します。

注意点: メニューオプション「拡張機能 | 全ての参照パスの修正」は、デザインウィンドウ内に表示されているファイルに関わらず SchemaAgent 内の全てのパスを修正します。デザインウィンドウが開かれていない場合でも、この操作をおこなうことができます。



プロセスを開始すると、個別の「参照パスの修正」ダイアログボックスがデザイン内に存在するゴーストファイルのそれぞれのために表示されます。特定のゴーストファイルに一致するスキーマが見つからない場合、これはメッセージボックスでレポートされます。



単一の参照パスを修正する方法:

- エクスプローラー ウィンドウ、または、デザインウィンドウ内で、エラー アイコンを持つファイルを右クリックし、コンテキストメニューから「参照パスの修正」を選択します。ファイルを選択し「Ctrl+R」を押します。または、「拡張機能」ツールバー内の「参照パスの修正」 ボタンをクリックします。

全ての参照パスを修正する方法:

- メニューオプション「拡張機能 | 全ての参照パスを修正する」を選択します。
「存在しないファイルへの参照を全て修正」ダイアログボックスが開かれます。
- 任意で、「一致が1つだけ見つかった場合確認しない」チェックボックスを有効化し、1つの代替パスのみが見つかった場合、自動的にパスを修正します。
- 「開始」をクリックします。
「参照パスの修正」ダイアログボックスが最初のゴーストファイルのために表示されます。
以下の内の1つを行ってください:
 - 一致するパスを選択し「はい」を選択して修正を確認します（「一致が1つだけ見つかった場合確認しない」チェックボックスが有効化されている場合、「参照パスの修正」ダイアログボックスを表示することなく単一の一致が自動的に確認されます）。
 - 「全てにはい」をクリックして、プロンプト無しに全ての単一の一致を確認します。

- 「スキップ」をクリックして、現在のパスを修正することなく次のゴーストファイルに移動します。
- 「アボート」をクリックして、残りのパスを修正することなくプロセスを中断します。

ゴーストファイルとXML インスタンスの再作成

SchemaAgent Client 内で、参照内で指定されたロケーションで基本的なスキーマとしてゴーストスキーマを作成することができます。基本的なスキーマは xs:schema 宣言のみを宣言するスキーマです。ゴースト XML インスタンスは空の <root /> 要素を含む基本的な XML ファイルとして再作成されます。

参照ステートメント内で定義されている場所で指定されているフォルダーが存在しない、または、検索パス内に存在しない場合、「再作成」コマンドを使用することはできません。このソリューションにより IIR、または、参照パスは正確に指定されているスキーマ、または、XML ファイル、を指すように修正されます。しかしながら、再作成された基本的なファイルに適切なコンテンツを追加する必要があります。

スキーマの再作成の方法:

1. エクスプローラー ウィンドウ、または、デザインウィンドウ内で、ゴーストスキーマを選択し、以下の内の1つを行ってください:
 - メニューオプション「編集 | 再作成」を選択します。
 - 右クリックして、コンテキストメニューから「再作成」を選択します。
 同じ名前の基本的なスキーマは、IIR ステートメント内で指定されている場所にあります。
2. XMLSpy 内で基本的なスキーマを開き、適切なコンテンツを追加します。

XML ファイルの再作成の方法:

1. エクスプローラー ウィンドウ内で、ゴースト XML ファイルを右クリックして、コンテキストメニューから「再作成」を選択します。
同じ名前の基本的な XML ファイルが参照内で指定されている場所に作成されます。
2. XMLSpy 内で基本的な XML ファイルを開き、適切なコンテンツを追加します。

6.7.4 ファイルの再ロード

ファイルが外部プログラム内で編集されている場合、(例えば、XMLSpy、または、MapForce)、SchemaAgent Client 内で変更は自動的に反映されません。SchemaAgent Client 内で変更されたファイルの構造をビューするには、それぞれのファイルを再ロードする必要があります。

ファイルの再ロードの方法:

- エクスプローラー ウィンドウ内のファイル、または、デザインウィンドウ内で必要とされるフォルダーを右クリックし、コンテキストメニューから「再ロード」を選択します。

6.7.5 デザインオプション

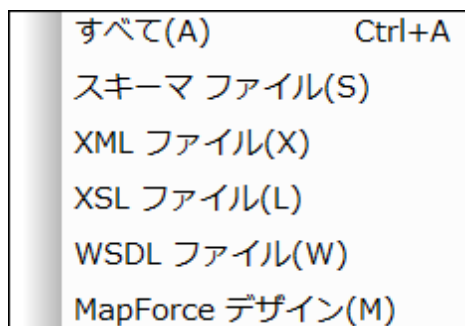
デザインウィンドウ ペイン内を右クリックすると開かれるコンテキストメニューは、SchemaAgent デザインのレイアウトを編集し変更するための一連のコマンドを提供します。デザインウィンドウ内で右クリックされる場所によりメニューのコンテンツは動的に変更されます:

- デザインウィンドウ 背景
- ファイルボックス、または、セクション キャプション (コンテンツはファイルの型により異なります)
- セクション内の空白のエリア
- セクション内のアイテム (コンテンツはアイテムの型により異なります)

デザインウィンドウ 背景



- **ファイルの選択**: 型別にファイルボックスを選択するためのサブメニューを開きます。



- **貼り付け (Ctrl+V)**: エクスプローラーからクリップボードにコピーされているファイルボックスを貼り付けます。
- **グリッドの表示 (Alt+G)**: グリッドの表示を オンとオフに切り替えます。

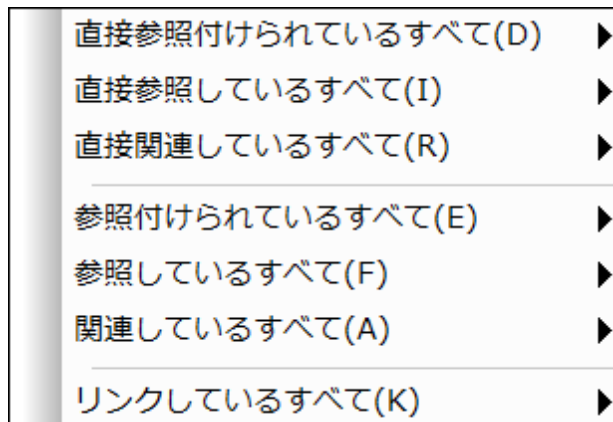
ファイルボックス、または、セクション キャプション

	切り取り(T)	Shift+Delete
	コピー(C)	Ctrl+C
	削除	Delete
	すべて展開	
	すべて縮退	
	フィットするサイズ	
	選択対象の同期(S)	
	選択(E)	▶
	挿入(I)	▶
	整列(A)	▶
	並べ替え	▶
	再ロード(L)	
	再度作成(T)	
	参照パスの修正(R)	Ctrl+R
	XMLSpy で編集(Y)	Ctrl+Y
	MapForce でファイルを編集(M)	Ctrl+M

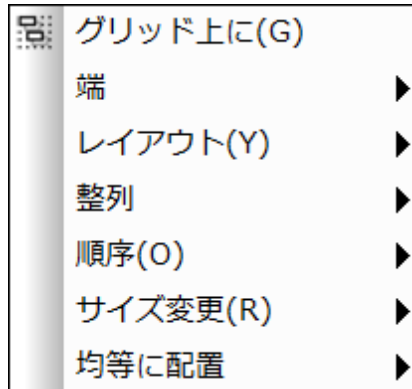
- **切り取り (Shift+Delete):** 選択されたファイルをクリップボードにコピーし、デザインから削除します。
- **コピー (Ctrl+C):** 選択されたファイルをクリップボードにコピーします。このコマンドを使用して、デザインウインドウからファイルを他のデザインウインドウにコピーすることができます。
- **貼り付け (Ctrl+V):** アクティブなデザインウインドウにクリップボードのコンテンツを貼り付けます。
- **削除:** デザインから選択されたファイルを削除します。システムファイルからファイルは削除されないのでご注意ください。
- **全て展開する:** 選択されたファイルボックスのすべてのサブセクションを展開します (インクルード、インポート、再定義、グローバル 入力 出力、スキーマ、スタイルシート、ルート、スキーマのインポート、インラインのスキーマ、スタイルシート、型、定義)。
- **全て折りたたむ:** 選択されたファイルボックスのすべての展開されたサブセクションを折りたたみます。
- **フィットするサイズ:** すべての展開されたコンテンツが可視化されるようにファイルボックスのサイズを調整します。
- **再ロード:** 選択されたファイルの表示を更新します。1つ以上のファイルが選択されていると、コマンドは、「ファイルの再ロード」を読み取ります。
- **再度作成:** ゴーストスキーマの名前を持つ、ゴーストスキーマのためにステートメント内で指

定されている場所で基本的な XML スキーマを作成します。このオプションはゴーストファイルのためにのみ使用することができます。1つ以上のファイルが選択されていると、コマンドは、「ファイルの再作成」を読み取ります。

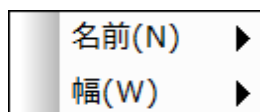
- **同期の選択**：デザインウィンドウ内で選択されているファイルがエクスプローラ内で選択されるように、エクスプローラとデザインウィンドウの同期の選択をおこないます。
- **選択**：複数の選択オプションを与えるサブメニューを開きます。



- **挿入**：関連するフォルダーの挿入のための複数のオプションを提供するサブメニューを開きます。(上記の「選択」サブメニュー同様です)。
- **整列**：選択されたファイルの整列のための複数のオプションを与えるサブメニューを開き、グリッドの表示をオンとオフに切り替えます。



- **並べ替え**：名前、または、幅別に昇順または降順に選択されたファイルを並べ替えることのできるサブメニューを開きます。



- **参照パスの修正 (Ctrl+R)**：定義済みの検索パス内の異なるロケーションで同一のファイルを検索しようとしてみます。このオプションは定義されている IIR ステートメントを持つファイルが指定されている場所に存在しない場合のみ使用することができます。
- **XMLSpy 内で編集**：XMLSpy 内で編集するために選択されてファイルを開きます。このオプションは MFD ファイルに対して使用することができません。1つ以上のファイルが選択されていると、コマンドは、「XMLSpy 内でファイルを編集する」を読み取ります。
- **MapForce 内でファイルを編集**：MapForce 内で編集するために選択されたファイルを開き

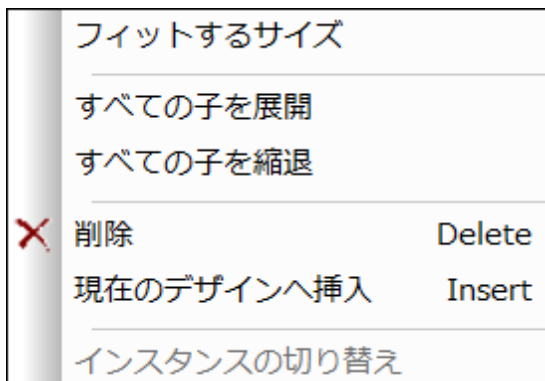
ます。このオプションは MFD ファイルのためにのみ使用することができます。1つ以上のファイルが選択されていると、コマンドは、「MapForce 内でファイルを編集」を読み取ります。

- **ターゲット名前空間の編集**: 選択されたスキーマのグローバルなセクション内の名前空間の定義に追加の名前空間を追加することができます。SchemaAgent はスキーマボックスのグローバルなセクションを展開し、新規の ns 要素をターゲット名前空間の定義に入力できる場所に追加します。ターゲット名前空間が既存の場合、編集のために選択されます。
注意点: インラインのスキーマを含む WSDL ファイル内で、ターゲット名前空間はインラインのスキーマにも適用されます。WSDL ファイル内のターゲット名前空間を編集、または、削除する場合この点を考慮する必要があります。
- **ターゲット名前空間の削除**: ターゲット名前空間を選択されたスキーマから削除します。
- **インラインのスキーマの作成**: 選択された XSLT または WSDL ファイルのためにインラインのスキーマを作成します。このオプションはスキーマ、MFD ファイル、とXML インスタンスのために使用することはできません。

セクション内の空白のエリア

展開されているセクションの空白のエリアを右クリックすると、コンテキストメニューは「フィットするサイズ」、「全て展開する」と「全て折りたたむ」コマンドを提供します。WSDL ファイルボックスの定義セクションは、追加で「ターゲット名前空間の編集」と「ターゲット名前空間の削除」コマンドも提供します。これらのコマンドは、コマンドを呼び出す際、カーソルがポイントされている特定のセクションのみに適用されることに注意してください。

セクション内のアイテム



- **フィットするサイズ**: すべての展開されたアイテムが表示されるようにセクションのサイズを調節します。
- **全ての子の展開**: 選択されたアイテムの使用することのできる子を展開します。
- **全ての子を折りたたむ**: 選択されたアイテムの使用することのできる展開された子を折りたたみます。
- **インラインの表示**: XSLT とWSDL ファイルボックス内で、インラインのスキーマを個別のスキーマボックスとして表示します。
- **削除 (Delete)**: アイテムと親ファイル間の IIR リレーション(すなわち、アイテムが表示されているファイルボックスにより示されているファイル)を削除します。
- **現在のデザインへ挿入する (Insert)**: デザイン内でファイルボックスが既存の場合、現在のデザインにアイテムの対応するファイルボックスを挿入します。このオプションはグレイアウトされています。
- **インスタンスの切り替え**: MFD ファイルボックス内で、入力と出力 XML インスタンス間を切り替えます。このオプションは MFD ファイルの入力と出力スキーマのために個別に使用すること

ができます。このオプションは MFD ファイルのためにのみ使用することができます。

- **コンポートの原点の表示**: 希望する場合、コンポーネントの原点で、または、デザイン内にそのファイルボックスを挿入する箇所で、ファイルボックスを選択し、展開します。
- **コンポーネントの使用方法的表示**: 希望する場合、コンポーネントが使用される箇所、または、デザイン内にそのファイルボックスを挿入する箇所で、ファイルボックスを選択し、展開します。

ドラッグアンドドロップ

コンテキストメニュー内で使用することのできるオプションに加え、ドラッグアンドドロップを使用してデザインウィンドウ内でファイルを移動、または、他のデザインウィンドウにファイルをコピーします。

デザインウィンドウ内でファイルを移動する方法:

- 必要とするポジションにファイルをドラッグします。

デザインウィンドウ内でファイルをコピーする方法:

- 最初のデザインウィンドウからファイルをドラッグし、必要とするデザインウィンドウにドロップします。
ターゲットウィンドウが非表示の場合、デザインウィンドウの下に対応するタブにマウスポインターを移動して、ターゲットウィンドウを有効化しファイルをドロップします。

デザイン内でファイルを配置する

SchemaAgent は、デザインウィンドウ内でファイルボックスを自動的に整列する複数のオプションを提供します。これらのオプションを **レイアウト** メニュー、デザインウィンドウ内で複数のファイルボックスを選択し、右クリック、または、配置ツールバー内で適切なツールバーアイコンをクリックすることにより、選択することができます。

ボックスの端の整列

デザインウィンドウ内で複数のファイルボックスが選択されている場合、メニューオプション **「レイアウト | 端へ整列」**を選択すると開かれるサブメニューにより与えられる整列のオプション、または、デザインペインを右クリックして、コンテキストメニューから **「配置 | 端」**を選択します。

	左寄せ(L)	Ctrl+Left
	右寄せ(R)	Ctrl+Right
	上寄せ(T)	Ctrl+Up
	下寄せ(B)	Ctrl+Down
	垂直方向に中央に並べて配置	
	水平方向に中央に並べて配置	

選択されたファイルボックスはフォーカスを持つファイルボックスに対して整列されます。**Ctrl** キーを押して、ファイルボックスをダブルクリックすると、選択内でフォーカスを変更することができます。選択にファイルを追加すると、フォーカスは自動的に新規に追加されたファイルに設定されます。

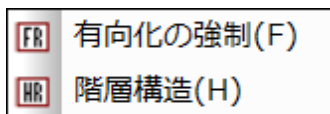
ファイルボックスの端に揃えて整列する方法:

1. 整列するファイルボックスを選択し、他を揃えるファイルボックスにフォーカスを与えます。

2. メニューオプション「レイアウト | 端を揃えて整列」を選択、または、右クリックして、コンテキストメニューから「配置 | 端」を選択します。
サブメニューが表示されます。
3. どのように端に揃えて整列するかこのサブメニューから選択します。
または、ステップ2をスキップして、以下の内の1つを行ってください:
 - **Ctrl+Left** を押す、または、配置ツールバーから「左側に寄せて配置」 アイコンを選択します。
 - **Ctrl+Right** を押す、または、配置ツールバーから「右側に寄せて配置」 アイコンを選択します。
 - **Ctrl+Up** を押す、または、配置ツールバーから「上側に寄せて配置」 アイコンを選択します。
 - **Ctrl+Down** を押す、または、配置ツールバーから「下側に寄せて配置」 アイコンを選択します。
 - 「垂直方向に中央に並べて配置」 アイコンを配置ツールバーから選択します。
 - 「水平方向に中央に並べて配置」 アイコンを配置ツールバーから選択します。

デザインレイアウトの変更の方法

SchemaAgent 内で、自動的にデザインウィンドウのレイアウトを変更することができます。この目的のために1つ以上のファイルボックスが選択されている場合、**レイアウト** サブメニュー内で2つのオプションを使用することができます。

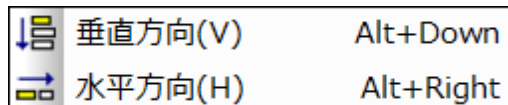


デザイン レイアウトを自動的に変更する方法:

1. デザインウィンドウ内で少なくとも2つのファイルボックスを選択します。
2. メニューオプション「レイアウト | レイアウト」を選択、または、右クリックして、コンテキストメニューから「配置 | レイアウト」を選択します。
サブメニューが表示されます。
3. サブメニューから適切なレイアウトを選択します。
または、ステップ2をスキップして、以下の内の1つを行ってください:
 - **有向化の強制下アルゴリズムを使用したレイアウト**  アイコンを配置ツールバーから選択します。
 - **階層構造としてのレイアウト**  アイコンを配置ツールバーから選択します。

ファイルボックスを1列に並べる方法

「1列に並べる」サブメニュー内のオプションを使用して、選択されたファイルボックスの上の端を、フォーカスを持つファイルボックスの上の端に揃えることができます(水平方向が選択されている場合)、または、フォーカスを持つファイルボックスの左側の端に揃えることができます(垂直方向が選択されている場合)。

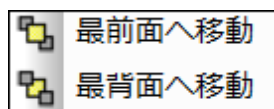


ファイルボックスを1列に並べる方法:

1. 整列するファイルボックスを選択します。
2. メニューオプション「レイアウト|1列に並べる」を選択、または、右クリックして、コンテキストメニューから「配置|1列に並べる」を選択します。
サブメニューが表示されます。
3. このサブメニューから選択されたファイルボックスの整列方法を選択します。
または、ステップ2をスキップして、以下の内の1つを行ってください:
 - **Alt+Down** を押す、または、配置ツールバーから「垂直方向」 アイコンを選択します。
 - **Alt+Right** を押す、または、配置ツールバーから「水平方向」 アイコンを選択します。

ファイルボックスの順序の変更

ボックスのスタック内に存在する場合、特定のファイルボックスを最前面、または、最背面に「順序」サブメニュー内の対応するオプションを選択して移動することができます。

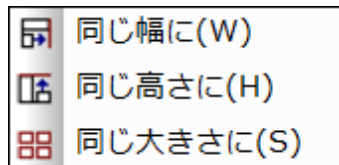


ファイルボックスのスタックを最前面、または、最背面に移動する方法:

1. スタックの位置を変更するファイルボックスを選択します。
2. メニューオプション「レイアウト|順序」を選択、または、右クリックして、コンテキストメニューから「配置|順序」を選択します。
サブメニューが表示されます。
3. サブメニューから適切なオプションを選択します。
または、ステップ2をスキップして、以下の内の1つを行ってください:
 - 「最前面へ移動」 アイコンを配置ツールバーから選択します。
 - 「最背面へ移動」 アイコンを配置ツールバーから選択します。

ファイルボックスのサイズを変更する方法

「サイズ変更」サブメニューでは、デザイン内でファイルボックスの外観を統一する複数のオプションが提供されています。全ての選択されたファイルボックスに適用されるサイズは、フォーカスを持つファイルボックスから取得されます。



注意点: 高さの調節して、フォーカスを持つファイルボックスの高さに揃えるために、ファイルボックス内のコンポーネントを折りたたむ必要がある場合があります。

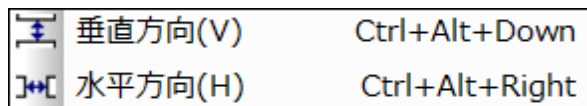
ファイルボックスのサイズ変更の方法:

1. サイズを調整するファイルボックスを選択し、他のファイルボックスが焦点を合わせてサイズ調整をするファイルボックスにフォーカスを与えます。
2. メニューオプション「レイアウト | サイズ変更」を選択、または、右クリックして、コンテキストメニューから「配置 | サイズ変更」を選択します。
サブメニューが表示されます。
3. サブメニューから適切なオプションを選択します。
または、ステップ2をスキップして、以下の内の1つを行ってください:

- 同じ幅にする  アイコンを配置ツールバーから選択します。
- 同じ高さにする  アイコンを配置ツールバーから選択します。
- 同じ大きさにする  アイコンを配置ツールバーから選択します。

ファイルボックスを均等に配置する方法

3つのファイルボックスの選択肢から、そのスペース内でファイルを整列する**均等に配置**サブメニュー内のオプションを使用することができます。



ファイルボックスを均等に配置する方法:

1. デザイン内で3つ以上のファイルボックスを選択します。
2. メニューオプション「レイアウト | 均等」を選択、または、右クリックして、コンテキストメニューから「配置 | 均等」を選択します。
サブメニューが表示されます。
3. サブメニューから適切なオプションを選択します。
または、ステップ2をスキップして、以下の内の1つを行ってください:

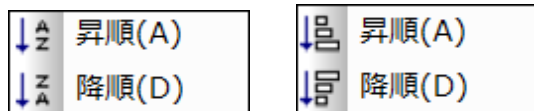
- **Ctrl+Alt+Down** を押す、または、「垂直方向に均等に配置」  アイコンを配置ツ

ールバーから選択します。

- **Ctrl+Alt+Right** を押す、または、「水平方向に均等に配置」 アイコンを配置ツールバーから選択します。

デザイン内のファイルの並べ替え

「並べ替え」サブメニューにより、ファイルボックスをアルファベット順、または、幅に応じて並べ替えるオプションを使用することができます。



注意点: アルファベット順の並べ替えは、大文字と小文字をい別します。

ファイルボックスを名前別に並べ替える方法:

1. 並べ替えるファイルボックスを選択します。
2. メニューオプション「レイアウト | 並べ替える」を選択、または、右クリックし、コンテキストメニューから「並べ替え | 名前」を選択します。
サブメニューが表示されます。
3. サブメニューから適切なオプションを選択します。
または、ステップ2をスキップして、以下の内の1つを行ってください:

- 「昇順に名前を置き換える」 アイコンを並べ替えツールバーから選択します。
- 「降順に名前を置き換える」 アイコンを並べ替えツールバーから選択します。

ファイルボックスを幅別に並べ替える方法:

1. 並べ替えるファイルボックスを選択します。
2. メニューオプション「レイアウト | 並べ替える」を選択、または、右クリックし、コンテキストメニューから「並べ替え | 幅」を選択します。
サブメニューが表示されます。
3. サブメニューから適切なオプションを選択します。
または、ステップ2をスキップして、以下の内の1つを行ってください:

- 「昇順に幅を置き換える」 アイコンを並べ替えツールバーから選択します。
- 「降順に幅を置き換える」 アイコンを並べ替えツールバーから選択します。

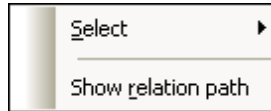
6.7.6 コネクタのオプション

デザインウインドウ内の接続線を右クリックすると、クリックされたコネクタの方により異なるコンテキストメニューが開かれます:

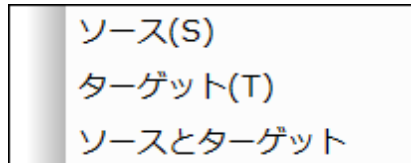
- **リレーション**を右クリックすると、ソースおよびまたはターゲットファイルを選択、または、リレーションを削除することができるコンテキストメニューが開かれます。



- コンポーネントのリリースン のためには、コンテキストメニューを使用すると、ソースおよび / または ターゲットファイルを選択し、リリースンパスを表示し、対応するIIR リレーションとそれぞれのファイルボックスを選択することができます。



- 両方のリリースンの型は同じ「選択」サブメニューを持ちます。



リリースンのためにソースおよび または ターゲット ファイルボックスを選択する方法:

- コンポーネントリリースンの IIR リレーションを右クリックし、次のオプションの1つをコンテキストメニューの「選択」サブメニューから選択します:
 - ソース
 - ターゲット
 - ソース & ターゲット
 対応するファイルボックス がデザインウインドウ内 で選択 されます。

IIR リレーションの削除:

- 以下の内の1つを行ってください:
 - IIR 接続線 を右クリックし、コンテキストメニューから削除 を選択します。
 - IIR 接続線 を選択し、削除 ボタンを押します。
 - IIR 接続線 を選択し、標準ツールバー内の削除  アイコン をクリックします。
 選択されたオブジェクトを本当に削除 するのかを問うメッセージボックスが表示 されます。
- 削除を確認するために、「はい」をクリックします。

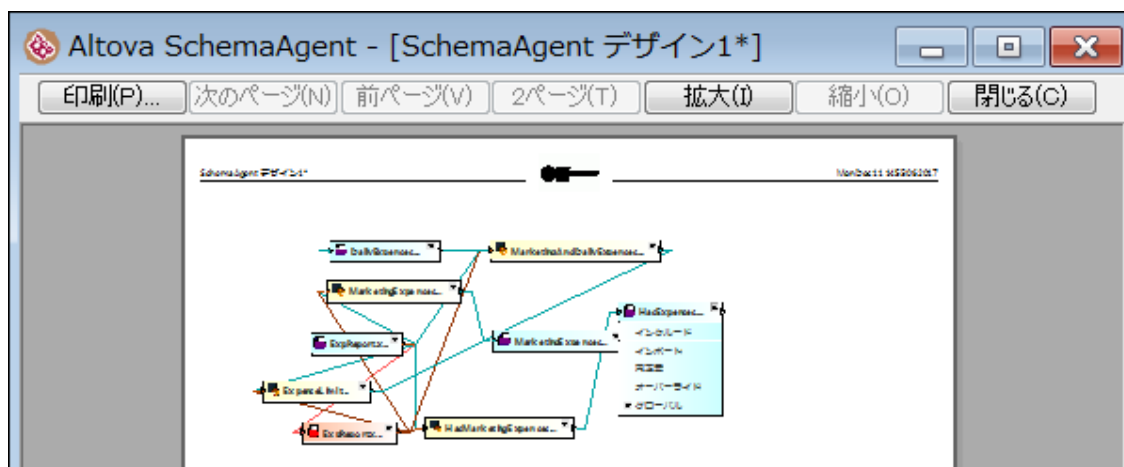
コンポーネントリリースンのリリースンパスを表示する方法:

- コンポーネントリリースンの接続線 を右クリックし、コンテキストメニューから「リリースンパスの表示」を選択します。
- SchemaAgent は、関連したコンポーネントとスキーマ間のリリースンの型を表示する接続線の間の接続線を選択します。ソースのスキーマボックス、または、ターゲットコンポーネントが折りたたまれていると、リリースンを表示するために必要なレベルまで展開されます。

6.7.7 デザインの印刷

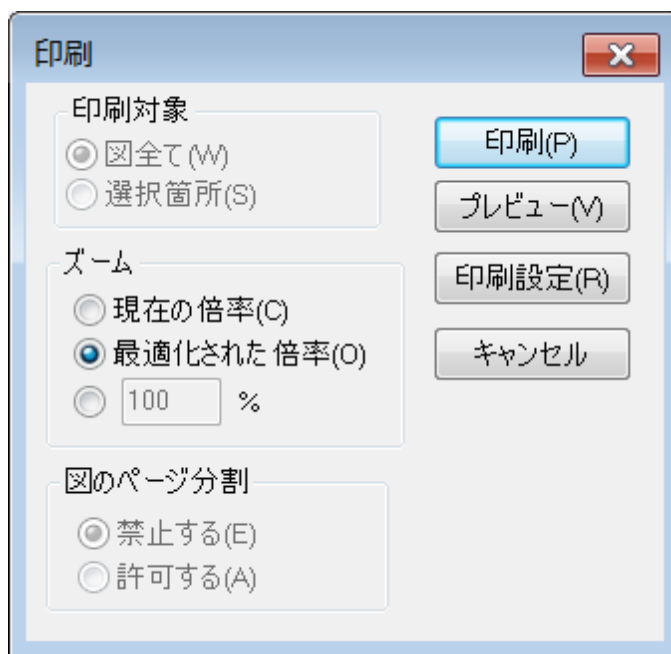
アクティブなデザインウインドウ内のデザインダイアグラムは、ユーザー環境とSchemaAgent アプリケーションに関するメタ情報を提供するヘッダーとフッターを持つと共に印刷 することができます。

プリンターに印刷 されるページを送信する前にレイアウトをチェックする印刷プレビューを使用 することができます。



デザインの印刷方法:

1. 印刷するデザインを選択します。
2. メニューオプション「ファイル | 印刷 ...」を選択、「Ctrl+P」を押し、または、標準ツールバー内の「印刷」 アイコンをクリックします。
「印刷」ダイアログボックスが表示されます。



3. 「ズーム」グループボックス内で適切なズーム倍率を選択します。
「最適化された倍率」オプションによりデザインのページへの印刷を確認することができます。
4. 任意で、「プリンタの設定」ボタンをクリックして、プリンター セットアップを定義します。
5. 任意で、「プレビュー」ボタンを押して、プリンターに送信する前に印刷をプレビューすることができます。
6. 「図のページ分解」グループボックス内で、スキーマボックスが改行の際に分割されるかを選択します。

7. 「印刷」をクリックします。

印刷前にデザインをプレビューする方法:

1. プレビューするデザインを選択します。
2. メニューオプション「ファイル | 印刷 プレビュー」を選択、または、「ファイル | 印刷 ...」、
「Ctrl+P」を押し、または、標準 ツールバー内の「印刷」 アイコンをクリックします。
「印刷」ダイアログボックスが表示されます。
3. 「印刷」ダイアログボックス内で「プレビュー」をクリックします。
4. 印刷 プレビュー 内で以下の内の1つを行ってください:
 - ファイルを印刷するために「印刷」ボタンをクリックします。
 - 「閉じる」をクリックして、「印刷」ダイアログボックスに戻ります。

プリンター セットアップの変更方法:

1. メニューオプション「ファイル | プリンタの設定」を選択します。
「プリンタの設定」ダイアログボックスが開かれます。
2. 希望するとお設定を調整し、「OK」をクリックします。

6.7.8 デザインをイメージとしてエクスポートする

PNG イメージとして保存されているデザインは、任意のピクチャビューアで開くことができます。

PNG イメージ ファイルにデザインにエクスポートする方法:

1. イメージファイルとして保存するデザインを選択します。
2. メニューオプション「ファイル | イメージをエクスポートする」を選択すると
標準の Windows 「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。
3. イメージを保存するフォルダーを選択します。
4. イメージのためにファイル名を入力します。
5. 「保存」をクリックします。

6.8 IIR リレーションシップのデザイン

XML スキーマはスキーマをモジュール化する3つの主要なメソッドを提供します: インポート、インクルード、と再定義の3つのメソッドを略して IIR (Include、Import、Redefine) と称します。これらのメソッドのそれぞれに SchemaAgent Client 内で IIR を作成すると、SchemaAgent により自動的にチェックされる特定の名前空間の必要条件が存在します。

IIR は以下のように使用されます:

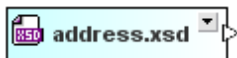
- **インクルード** は同じターゲット名前空間に所属するスキーマコンポーネント、または、ターゲット名前空間を持たないスキーマコンポーネントを含むために使用されます。SchemaAgent デフォルトの色スキーマ内で、インクルードは緑色のラインとして表示されます。
- **インポート** は同じターゲット名前空間に所属するスキーマコンポーネント、または、ターゲット名前空間を持たないスキーマコンポーネントを結合するために使用されます。インポートをしようとして、スキーマロケーションとスキーマのための名前空間を定義します。これにより、ドキュメントインスタンスが両方の名前空間を含むことができるようになります。SchemaAgent デフォルトの色スキーマ内で、インポートは青色のラインとして表示されます。
- **再定義** は同じターゲット名前空間に所属するスキーマコンポーネント、または、ターゲット名前空間を持たないスキーマコンポーネントを結合し変更するために使用されます。再定義により、complexType などの外部スキーマ定義と宣言を取り込み、スキーマの表示内で変更することができます。SchemaAgent デフォルトの色スキーマ内で、再定義は紫色のラインとして表示されます。

SchemaAgent のデザインウインドウ内で、ドラッグアンドドロップを使用して、IIR スキーマ間のリレーションシップを簡単に作成、または、変更することができます。SchemaAgent 内で始めから新規のスキーマを作成することはできません。しかしながら、エクスプローラーウインドウ内で新規のファイルを追加しコンテキストメニューを使用して XMLSpy 内のスキーマを編集することができます。

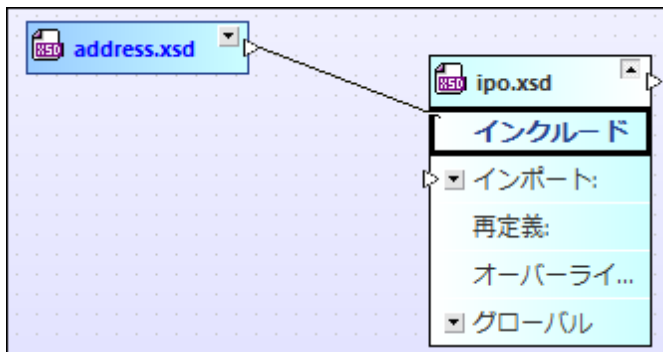
注意点: デザイン内にデザイン内で他のスキーマと既存の IIR リレーションシップを持つスキーマが挿入されるとコネクタが表示されます。

6.8.1 IIR リレーションの作成

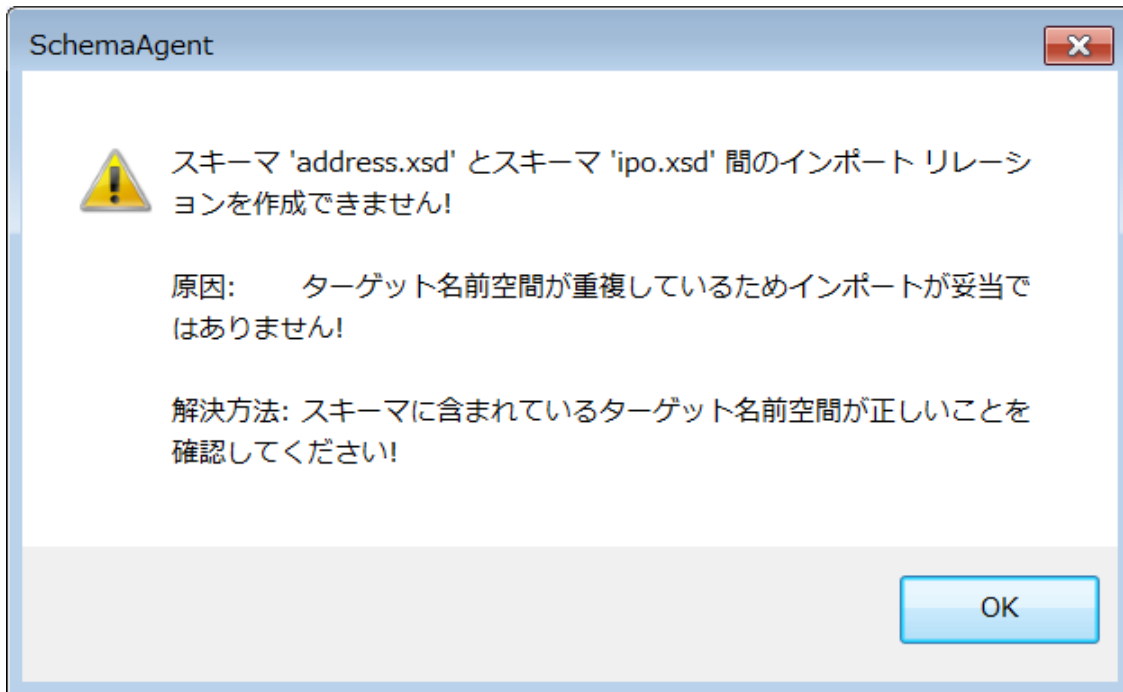
デザインウインドウにスキーマをドラッグすると、参照されたスキーマをドラッグアンドドロップを使用してデザインに追加して、インクルード、インポート、と再定義を作成することができます。この目的のために、各スキーマ、または、MFD ファイルボックスには、タイトルバーの右側のボーダーにハンドルが存在します。



スキーマボックスハンドルをクリックして、カーソルを、ス IIR ステートメントが表示されるスキーマにドラッグすると、IIR リレーションが2つのスキーマ間に作成されます。スキーマボックスにカーソルが置かれると、ターゲットスキーマは自動的に IIR エントリを展開し、を表示します。対応するエントリにカーソルをポイントすると、SchemaAgent は自動的に名前空間をチェックして、ターゲットスキーマボックス内の許可されるリレーションをハイライトします。この操作により、無効な IIR ステートメントがターゲットスキーマ内で作成されないことが保証されます。



ターゲットスキーマの必要とするセクションにカーソルを合わせリリースすると、インクルード、インポート、または、再定義 リレーションが作成されます。コネクタをエントリにドロップしても太字に変更されない場合、選択された IIR リレーションシップが許可されない理由を説明 エラーメッセージが表示されます。



IIR リレーションの作成方法:

1. IIR の作成を希望するスキーマのスキーマボックスハンドルをクリックして、IIR ステートメントが表示されるスキーマにカーソルをドラッグします。
最小化されると、ターゲットスキーマボックスが展開され、IIR エントリの上にコネクタをドロップできるようになります。
2. 必要とする IIR エントリにカーソルをポイントします。
3. 必要とする IIR エントリが太字で表示され、フレームが表示されると、コネクタをドロップします。
IIR コマンドがスキーマに挿入され、IIR エントリの横にドロップダウンシンボルが表示されます。
4. 任意で、スキーマ間で許可されている追加の IIR リレーションシップを作成します。

6.8.2 IIR リレーションシップの移動

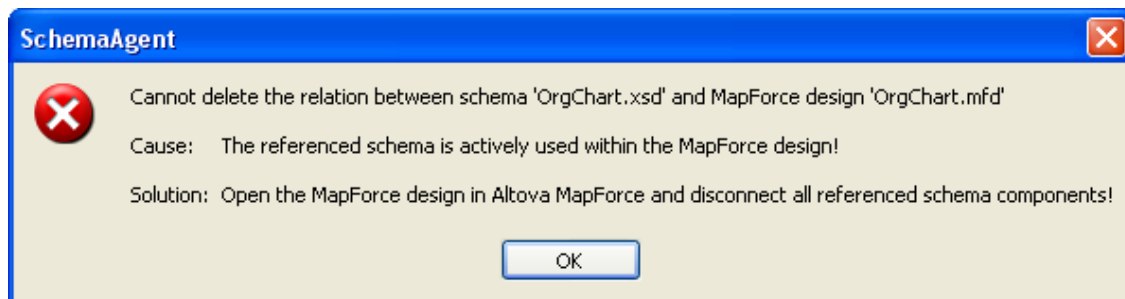
既存の IIR インクルード、インポート、と再定義をドラッグアンドドロップを使用して、1つのスキーマボックスから他のスキーマボックスに移動することができます。接続線をクリックして、異なるスキーマボックスの適切なセクションにドラッグするだけです。新規のスキーマを持つリレーションシップが向こうの場合、メッセージボックスがポップアップされますが、リレーションは変更されません。

既存の IIR リレーションシップを移動する方法:

1. 移動するスキーマ IIR リレーションの接続線をクリックし、IIR ステートメントが代わりに表示されるスキーマにカーソルをドラッグします。
最小化されると、ターゲットスキーマボックスが展開され、IIR エントリの上にコネクタをドロップできるようになります。
2. 必要とする IIR エントリにカーソルをポイントします。
3. 必要とする IIR エントリが太字で表示され、フレームが表示されると、コネクタをドロップします。
IIR コマンドがスキーマに挿入され、IIR エントリの横にドロップダウンシンボルが表示されます。

6.8.3 IIR リレーションの削除

希望しないインクルード、インポート、と再定義をデザインウィンドウから削除することができます。リレーションを削除できない場合、理由と失敗のためのソリューションを提示したメッセージボックスがポップアップされます。



IIR リレーションの削除:

1. 以下の内の1つを行ってください:
 - IIR 接続線を右クリックし、コンテキストメニューから「削除」を選択します。
 - IIR 接続線を選択し、「削除」ボタンを押します。
 - IIR 接続線を選択し、標準ツールバー内の「削除」 アイコンをクリックします。
選択されたオブジェクトを本当に削除するのを問うメッセージボックスが表示されます。
2. 削除を確認するために、「はい」をクリックします。

6.9 ユーザーレファレンス

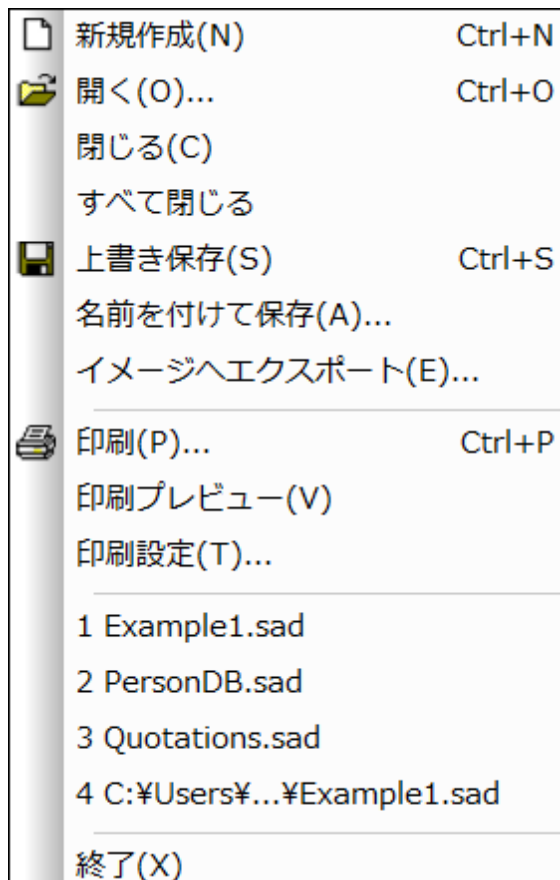
「ユーザーレファレンス」セクションには、すべての SchemaAgent Client メニューコマンドの記述が含まれています。このユーザーマニュアルは限りなく包括的になるように作成されていますが、ユーザーレファレンス内で取り上げられていない、または、このドキュメントの他の部分で説明されていない場合は、Altova Web サイトの良くなる質問とディスカッションフォーラムを参照してください。問題について満足する回答が得られない場合、Altova Web サイト上のサポートセンターに問い合わせてください。

ファイルと編集 メニュー内ですべての標準の Windows コマンドがサポートされています。

このユーザーマニュアルは限りなく包括的になるように作成されていますが、ユーザーレファレンス内で取り上げられていない、または、このドキュメントの他の部分で説明されていない場合は、Altova Web サイトの良くなる質問とディスカッションフォーラムを参照してください。問題について満足する回答が得られない場合、Altova Web サイト上のサポートセンターに問い合わせてください。

6.9.1 ファイルメニュー

ファイルメニューには、Windows ソフトウェア製品の多数で共有されているファイル进行操作する全てのコマンドが含まれています。



標準の新規作成、開く、保存、印刷、プリンタの設定、および終了 コマンドに加え、SchemaAgent Client はアプリケーション固有のコマンドを提供します。

新規作成



Ctrl+N

「新規作成」コマンドは新規のデザインウィンドウを開きます。

開く



Ctrl+O

「開く」コマンドは Windows 「開く」ダイアログボックスをポップアップし、デザインファイル (*.sad) を開きます。「開く」ダイアログボックス内で、1つ以上のファイルを開くことができます。ファイルの型コンボボックスを使用して、ダイアログボックス内で表示するファイルの種類を制限することができます。

閉じる

「閉じる」コマンドはアクティブなウィンドウを閉じます。ファイルが変更されると(タイトルバー内のファイル名の後のアスタリスク*で表示されています) ファイルを最初に保存するか問われます。

保存



Ctrl+S

「保存」コマンドは、開かれたアクティブなウィンドウのコンテンツをファイルに保存します。アクティブなウィンドウに新規のファイルが含まれる場合 「名前を付けて保存」ダイアログボックスが自動的に開かれます。

名前を付けて保存

「名前を付けて保存」コマンドは、アクティブなファイルとして保存するファイルの名前とロケーションを入力する Windows 「名前を付けて保存」ダイアログボックスをポップアップします。

イメージをエクスポートする

「イメージをエクスポートする」コマンドは、PNG イメージとしてエクスポートするアクティブなファイルの名前とロケーションを入力する Windows 「名前を付けて保存」ダイアログボックスをポップアップします。

印刷 ...



Ctrl+P

「印刷」コマンドはプリンターのオプションを選択しそしてアクティブなファイルを印刷することのできる「印刷」ダイアログボックスを開きます。

印刷プレビュー

「印刷プレビュー」コマンドは「印刷」ダイアログボックスを開きます。「プレビュー」ボタンをクリックし、現在アクティブなドキュメントの印刷プレビューを表示します。

プリンタの設定

「プリンタの設定」コマンドは、紙の書式、とページの向きなどのプリンタ設定を指定するプリンタ固有の「プリンタの設定」ダイアログボックスを表示しています。これらの設定は今後の全ての印刷ジョブに適用されます。

前回使用したファイル

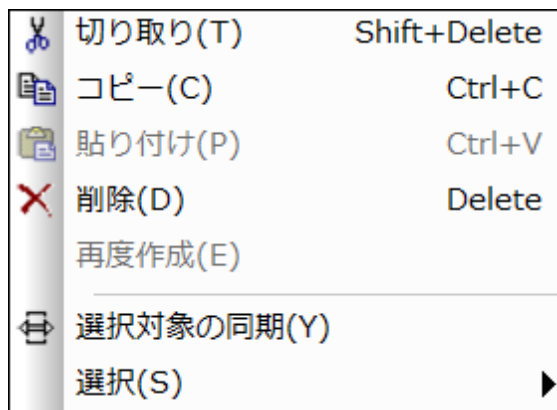
「ファイル」メニューは、前回使用した4つのファイルを最近使用されたファイル順に上から表示しています。これらのファイルを名前をクリックして開くことができます。キーボードを使用してリスト内のファイルを開くには、「Alt+F」を押して、「ファイル」メニューを開き、開くファイルの番号を押します。

終了

SchemaAgent Client を終了するために「終了」コマンドが使用されます。保存されていない変更を含むファイルが開かれている場合、これらの変更を保存するようにプロンプトされます。SchemaAgent Client は前回使用したファイルに関するプログラム設定と情報への変更も保存します。

6.9.2 編集メニュー

「編集」メニューには、デザインウィンドウ内ファイルボックスの編集のためのコマンドが含まれています。



切り取り



Shift+Delete

「切り取り」コマンドは、選択されたアイテムをクリップボードにコピーし、現在の場所から削除します。

コピー



Ctrl+C

「コピー」コマンドはクリップボードに選択されたアイテムをコピーします。SchemaAgent Client 内のデータを複製するため、またはデータを他のアプリケーションに移動するために使用することができます。

貼り付け



Ctrl+V

「貼り付け」コマンドは、現在のカーソルのポジションにクリップボードのコンテンツを挿入します。

削除



削除

「削除」コマンドの機能は選択されたファイルの存在する場所とフォーカスにより異なります:

- フォーカスがデザインウィンドウ内の場合、選択されたファイルはデザインから削除されます。
- フォーカスがエクスプローラー ウィンドウ内の場合、選択されたファイルはファイルシステムから削除されます。ファイルが実際に削除される前にコマンドを確認する必要があります。

再作成

「再作成」コマンドは、参照内で指定されたロケーションで基本的なスキーマとしてゴーストスキーマの名前を持つ新規のファイルを作成します。

エクスプローラー ウィンドウ、または、デザインウィンドウ内でゴーストスキーマが選択されている場合のみこのコマンドを使用することができます。

同期の選択

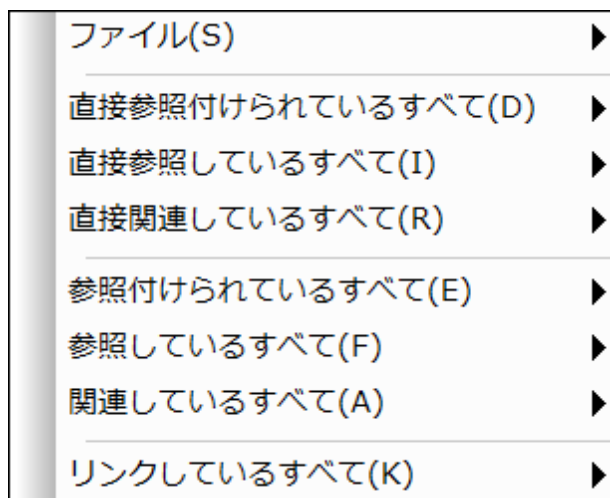


「同期の選択」コマンドはエクスプローラーとアクティブなデザインウィンドウ内の選択されたファイルを同期します。この機能は両方向に使用することができます。すなわち、エクスプローラー内でファイルを選択し、アクティブなデザインウィンドウ内の対応するファイルボックスを選択するためにコマンドを使用し、その逆を行うことができます。

注意点: 「同期の選択」コマンドはアクティブなデザインウィンドウのためにのみ使用することができます。現在アクティブではないデザインウィンドウ内に含まれているエクスプローラー内のファイルを選択すると、「同期の選択」コマンドには効果がありません。

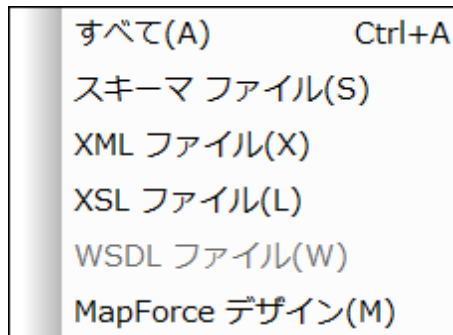
選択

「選択」サブメニューには、アクティブなデザインウィンドウ内のスキーマを選択するためのオプションが含まれています。



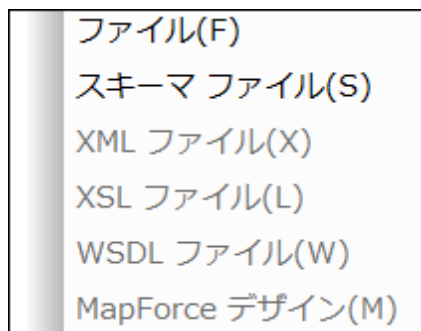
ファイル

アクティブなデザインウィンドウ (Ctrl+A) 内の全てのファイルを選択することのできる、または、特定のファイルの型に選択を制限することのできるサブメニューを開きます。



直接参照付けられているすべて

選択されたファイルにより直接参照付けられているすべてのファイルを選択することのできる、または、特定のファイル型に直接参照されているファイルの選択を制限することのできるサブメニューを開きます。



直接参照するすべて

(直接参照付けられているすべて サブメニューと同様) 選択されたファイルを直接選択する、または、特定のファイル型に選択を制限するサブメニューを開きます。

直接関連付しているすべて

(直接参照付けられているすべて サブメニューと同様)、選択されたファイルに直接関連した全てのファイル、または、特定のファイル型に選択を制限するサブメニューを開きます。

参照されるすべて

(直接参照付けられているすべて サブメニューと同様)、すべてのファイルを直接、または、(直接参照されているスキーマによりインポート、インクルード、再定義されているため) 間接的に選択されたファイルにより参照されたファイルを選択、または、特定のファイル型に選択が制限することのできるサブメニューを開きます。

参照しているすべて

(直接参照付けられているすべて サブメニューと同様)、すべてのファイルを直接、または、(直接参照するスキーマによりインポート、インクルード、再定義されているため) 間接的に選択されたファイルを参照するファイルを選択、または、特定のファイル型に選択を制限することのできるサブメニューを開きます。

関連しているすべて

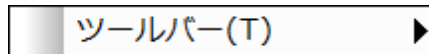
(直接参照付けられているすべて サブメニューと同様)、すべてのファイルを直接、または、(直接関連したスキーマによりインポート、インクルード、再定義されているため) 間接的に選択されたファイルに関連したファイルを選択、または、特定のファイル型に選択を制限することのできるサブメニューを開きます。

リンクされているすべて

MFD ファイルのための入力または出力ファイルとしての役割を参照されたファイルが果たすため、直接、または、間接的に選択されたファイルにリンクされているすべてのファイル、または、特定のファイル型のファイルをそれぞれ選択します。

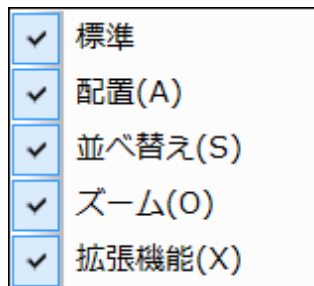
6.9.3 表示メニュー

「表示」メニューには、個別のツールバーとステータスバーの表示と非表示のためのコマンドが含まれています。



ツールバー

ツールバー サブメニューによりメニュー内の対応するエントリを有効化、または、無効化し個別のツールバーを表示、または、非表示にすることができます。



ツールバーの表示をオンとオフに切り替える方法:

1. メニューオプション「表示 | ツールバー」を選択します。
2. 切り替えをオンとオフするツールバーの名前をクリックします。

ステータスバー

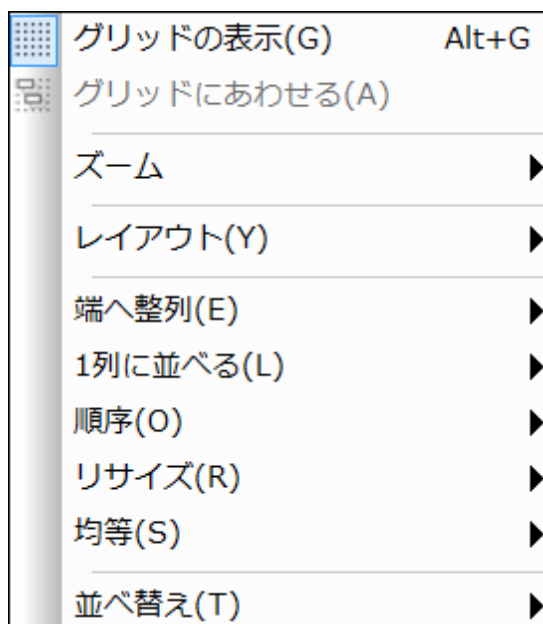
ステータスバー コマンドは SchemaAgent Client 内のステータスバーの表示をオンとオフに切り替えます。

ステータスバーの表示をオンとオフに切り替える方法:

- メニューオプション「表示 | ステータスバー」を選択します。

6.9.4 レイアウトメニュー

レイアウトメニューはデザインの外観を変更するための多種の機能を提供します。



グリッドの表示



Alt+G

「**グリッドの表示**」コマンドを使用して、アクティブなデザインウィンドウのためのグリッドの表示をオフとオンに切り替えることができます。各デザインウィンドウのためにグリッドを表示、または、非表示することができます。

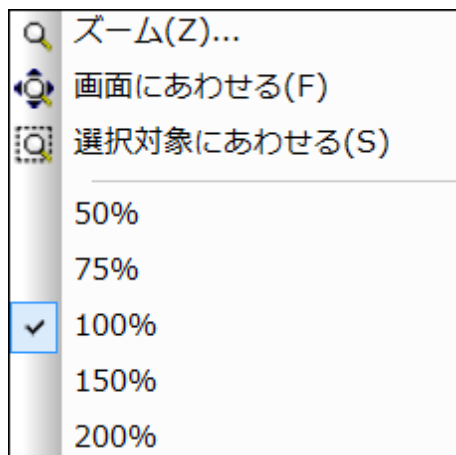
グリッドにあわせる



グリッドが表示されていると、「**グリッドにあわせる**」コマンドを使用して、スキーマの左上と左端をグリッド上の MFD ファイルボックスにあわせることができます。

ズーム

「**ズーム**」サブメニューは、デザインビューのズームインとアウトのためのコマンド、および、全てのファイルボックス、または、デザインウィンドウ内で表示される選択されたファイルボックスのズームを調整するコマンドを提供します。

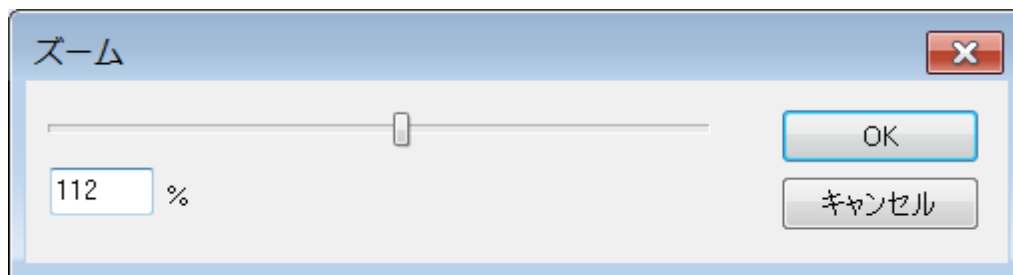


想定された値の1つにズームを調整する場合、メニューの下オプションの1つから選択します。



「ズーム」

ズームを調整、または、特定のズームの倍率にスライダーを使用できる箇所で「ズーム」ダイアログボックスを表示します。



画面にあわせる

スクロールすることなく、アクティブなデザイン内に存在する全てのファイルボックスがデザインウィンドウ内で表示されるようにズーム機能を調整します。

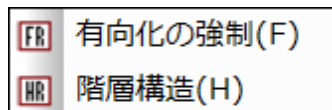


選択対象にあわせる

スクロールすることなく、デザイン内の選択された全てのファイルボックスがデザインウィンドウ内で表示されるようにズーム機能を調整します。

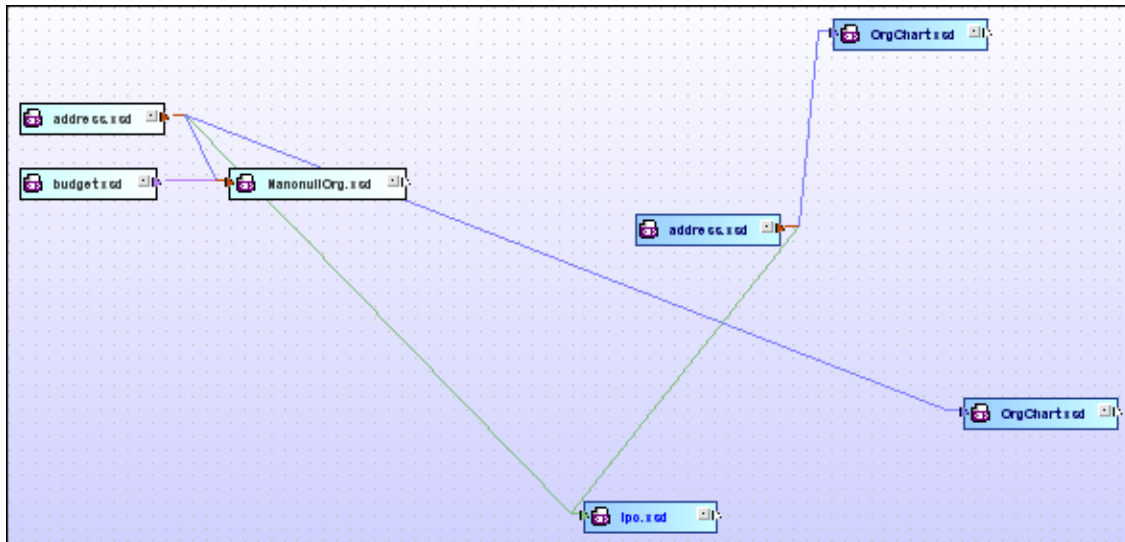
レイアウト

「レイアウト」サブメニューを使用して、デザインウィンドウ内のファイルボックスの自動的なレイアウトを促進するコマンドを提供します。



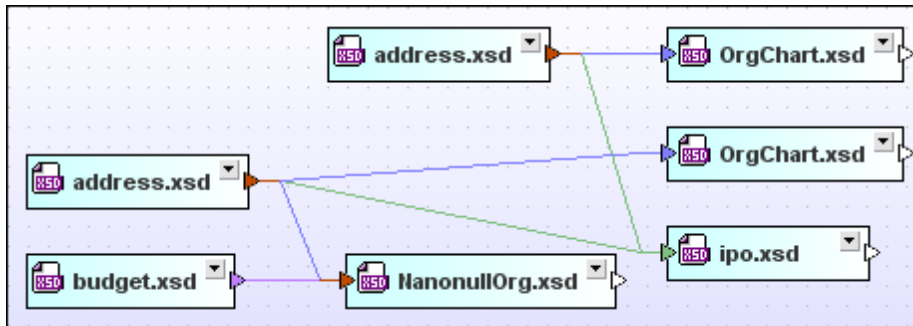
向きの強制

向きを強制したアルゴリズムを使用して、デザインウィンドウ内でファイルボックスを自動的にレイアウトします。すべてのファイルボックスを表示するには、**画面にあわせる** コマンドを使用します。



階層構造

階層型のファイルボックスがレイアウトされます。



端へ整列

「端を揃えて整列」サブメニューによりデザインウィンドウのグリッド上で選択されたファイルボックスを揃えることができます。

	左寄せ(L)	Ctrl+Left
	右寄せ(R)	Ctrl+Right
	上寄せ(T)	Ctrl+Up
	下寄せ(B)	Ctrl+Down
	垂直方向に中央に並べて配置	
	水平方向に中央に並べて配置	

揃えるためにファイルを選択するには、全てのファイルがフォーカスされるファイルボックスに揃えられるため、フォーカスがファイルボックスの右側に存在することを確認してください。



左寄せ (Ctrl+Left)

選択されたファイルボックスを左端に揃えます。選択されたファイルボックスは、フォーカスされるファイルボックスの位置で左端にそろえられます。



右寄せ (Ctrl+Right)

選択されたファイルボックスを右端に揃えます。選択されたファイルボックスは、フォーカスされるファイルボックスの位置で右端にそろえられます。



上寄せ (Ctrl+Up)

選択されたファイルボックスを上端に揃えます。選択されたファイルボックスは、フォーカスされるファイルボックスの位置で上端にそろえられます。



下寄せ (Ctrl+Down)

選択されたファイルボックスを下端に揃えます。選択されたファイルボックスは、フォーカスされるファイルボックスの位置で下端にそろえられます。



垂直方向に中央に並べて配置

選択されたファイルボックスを垂直方向に中央に揃えます。フォーカスされるファイルボックスの位置で選択されたファイルボックスのは垂直方向に中央に並べられます。



水平方向に中央に並べて配置

選択されたファイルボックスを垂直方向に中央に揃えます。フォーカスされるファイルボックスの位置で選択されたファイルボックスのは水平方向に中央に並べられます。

1列に並べる

「1列に並べる」サブメニューにより、することができます。選択されたファイルボックスを垂直方向、または、水平方向に、1列に並べることができます。フォーカスされたアイテムの右側に並べることができます。



垂直方向(V)

Alt+Down



水平方向(H)

Alt+Right



垂直方向 (Alt+Down)

フォーカスを持つファイルボックスの左下に選択されたファイルボックスを垂直方向の行に整理します。



水平方向 (Alt+Right)

フォーカスを持つファイルボックスの右上に選択されたファイルボックスを水平方向の行に整理します。

順序

「順序」サブメニューを使用して、選択されたファイルボックスをファイルボックスのスタックの最前面に、または、最背面に移動することができます。



最前面へ移動



最背面へ移動

**最前面へ移動**

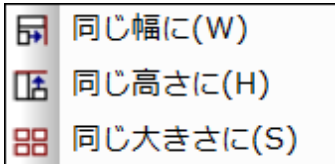
ファイルボックスのスタックの上に選択されたファイルボックスを表示します。

**最背面へ移動**

ファイルボックスのスタックの下に選択されたファイルボックスを表示します。

サイズ変更

「サイズ変更」サブメニューにて、デザインファイルの視覚的な外観を統一するオプションを使用することができます。



フォーカスを設定する際、右側のファイルが選択されていることを確認してください。すべての選択されたファイルは、フォーカスを持つファイルのディメンションを継承します。

**同じ幅に**

フォーカスされたファイルボックスの幅を全ての選択されたファイルボックスに適用します。

**同じ高さに**

フォーカスされたファイルボックスの高さを全ての選択されたファイルボックスに適用します。

**同じ大きさに**

フォーカスされたファイルボックスの幅と高さを全ての選択されたファイルボックスに適用します。

均等

「均等」サブメニューにより、選択された一連のファイルボックスを均等に選択範囲の端にあわせ上下左右にそれぞれ配置することができます。



コマンドを使用して、垂直方向と水平方向のバランスを作成することもできます。

**垂直方向 (Ctrl+Alt+Down)**

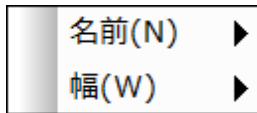
1番上と下のファイルボックス間にあるファイルが均等な距離に配置されるように、選択されたファイルを整理して配置します。

**水平方向 (Ctrl+Alt+Right)**

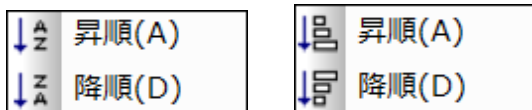
1番右端と左端のファイルボックス間にあるファイルが均等な距離に配置されるように、選択されたファイルを整理して配置します。

並べ替え

「並べ替え」サブメニューによりファイルボックスを名前、または、幅により並べ替えることができます。



オプションの1つを選択すると、他のサブメニューは昇順と降順の並べ替えを選択できる箇所で開くことができます。



選択されたファイルボックスのポジション (すなわち、上と左の端) は「昇順」、または、「降順」コマンドが使用される場合でも変更されません。

昇順



名前: 選択されたファイルボックスは、ファイル名別に A を最初にしてアルファベット順に並べ替えられます。



幅: 選択されたファイルボックスは、最も幅の狭いファイルボックスを上、最も幅の広いファイルボックスを下にして幅別に並べ替えられます。

降順



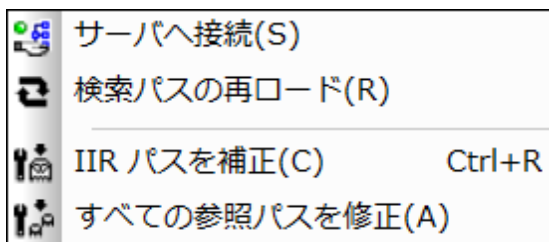
名前: 選択されたファイルボックスは、ファイル名別に Z を最初にしてアルファベット順に並べ替えられます。



幅: 選択されたファイルボックスは、最も幅の広いファイルボックスを上、最も幅の狭いファイルボックスを下にして幅別に並べ替えられます。

6.9.5 拡張機能

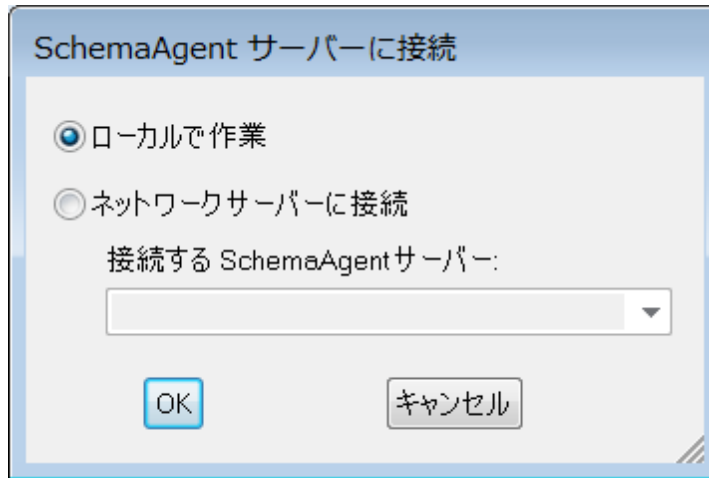
拡張機能内で、SchemaAgent Server に接続し、検索パスを再ロードし、選択された、または、すべてのスキーマボックスのためのゴーストスキーマへの参照パスを修正します。



サーバーへの接続



サーバーへの接続 コマンドは SchemaAgent サーバーに接続することのできる「SchemaAgent Server に接続」ダイアログボックスを開きます。



2つの接続 オプションをこのダイアログボックス内で使用することができます:

- **ローカルで作業**: ローカルサーバーへ接続を開始し、パスの構成タブをエクスプローラーウィンドウに追加します。
- **ネットワークサーバーへの接続**: SchemaAgent Server アプリケーションに接続がローカルマシン、または、ネットワークサーバーにインストールされます。SchemaAgent Server は接続する前に作動済みである必要があります。

検索パスの再ロード



エクスプローラー のパスの構成 タブまたは SchemaAgent Server 内で



検索パスの再ロード

を使用することができない場合でも、

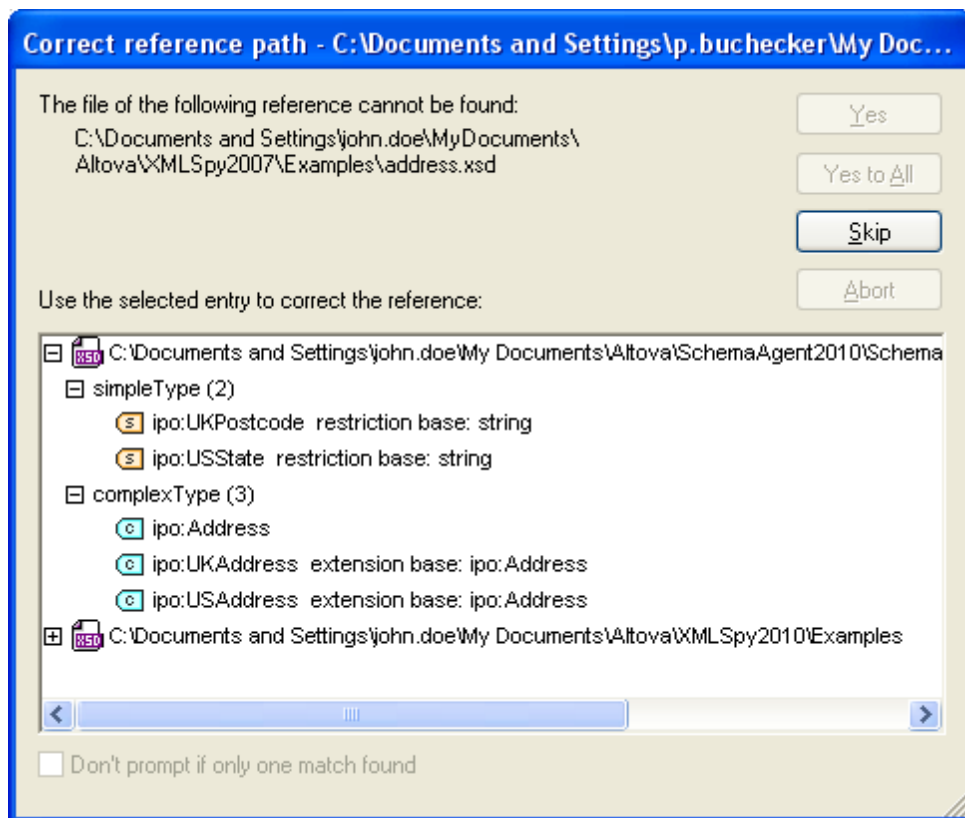
「検索パスの再ロード」コマンドにより検索パス内のファイルの表示を更新することができます。

正確な参照パス



Ctrl+R

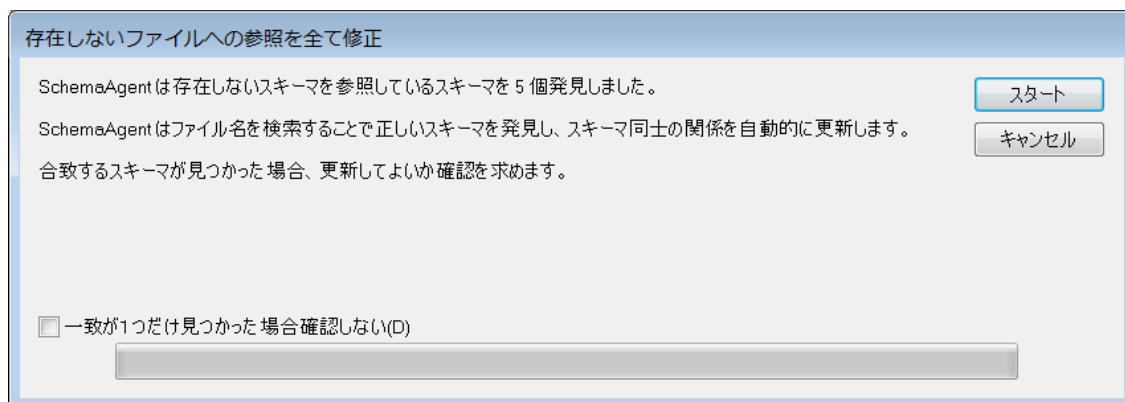
「参照パスの修正」コマンドは、選択されたスキーマボックスの IIR リレーション内で指定された場所に存在しない、参照されたファイルのために代わりの場所を検索しようと試みます。「拡張機能」メニュー内でこのコマンドを有効化するために、通知  アイコンをデザインウィンドウ、または、エクスプローラー内で表示されているスキーマボックスを選択する必要があります。「参照パスの修正」コマンドにより「参照パスの修正」ダイアログボックスが表示されます。



全ての参照パスを修正

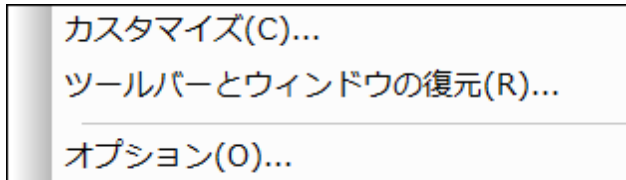


「**全ての参照パスの修正**」コマンドは、検索パス of SchemaAgent の検索パス内のスキーマ内の IIR リレーションで指定されている場所に存在しない全ての参照されたファイルのために 代替の場所を検索 しようと試みます。「**拡張機能**」メニュー内でこのコマンドを有効化するために、通知 アイコンを デザインウィンドウ、または、エクスプローラー内 でが表示 されているスキーマボックスを選択 する必要があります。このコマンドにより「**存在しないファイルへの参照を全て修正**」ダイアログボックスが表示 されます。



6.9.6 ツールメニュー

「ツール」メニューにより SchemaAgent Client のバージョンをカスタマイズし、グローバルなプログラム設定を定義することができます。

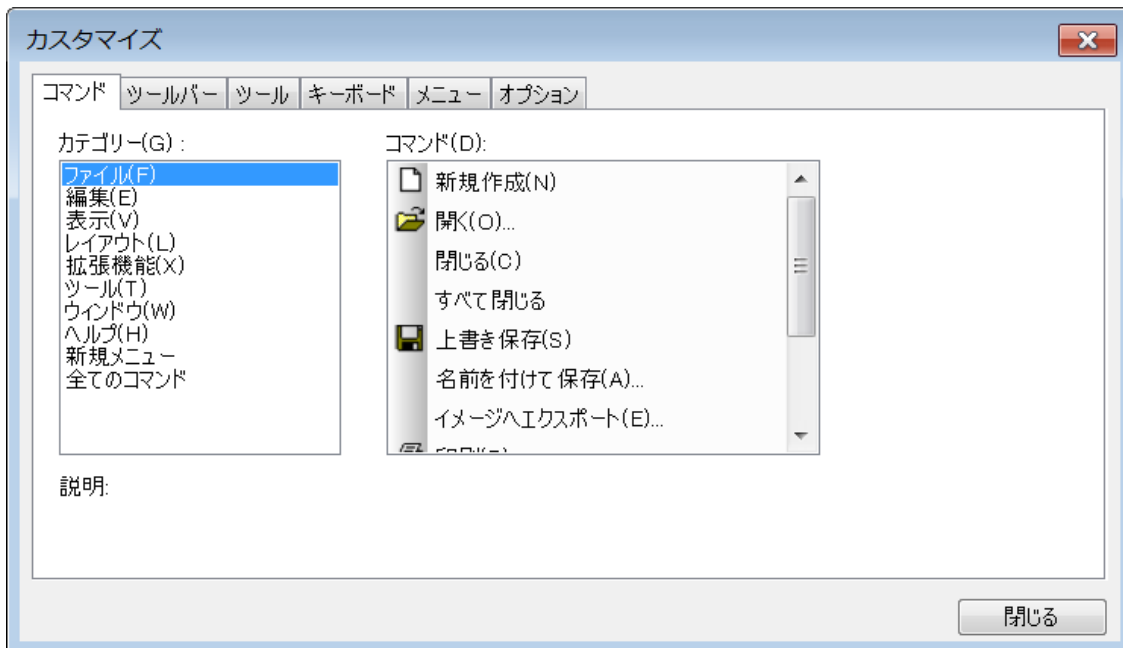


カスタマイズ

カスタマイズ コマンドを使用すると SchemaAgent Client を必要に応じてカスタマイズすることができます。

コマンド

「コマンド」タブを使用して、メニューまたはツールバーをカスタマイズすることができます。



ツールバー、または、メニューにコマンドを追加する方法:

1. メニューオプション「ツール | カスタマイズ」を選択します。
「カスタマイズ」ダイアログボックスが表示されます。
2. カテゴリリストボックス内で、全てのコマンドカテゴリを選択します。
使用することのできるコマンドは、コマンドリストボックス内に表示されます。
3. コマンドリストボックス内のコマンドをクリックして、既存のメニューまたはツールバーにドラッグします。
I-ビームは、コマンドをドロップするために有効なポジションにカーソルをポイントすると表示されます。
4. コマンドを挿入するポジションでマウスボタンをリリースします。

- 小さなボタンがコマンドをドラッグすると、マウスポインターの先に表示されます。ポインターの下に「x」はコマンドが現在のカーソルの位置にドロップできないことを意味します。
- (ツールバー、または、メニューを使用する際)「x」はコマンドをドロップできる箇所で非表示になります。
- ドラッグ中にメニューにカーソルをポイントすると開かれ、メニュー内にコマンドを挿入することができます。
- コマンドアイコンを使用して自身のツールバーを作成すると、コマンドをメニューまたはツールバーに配置することができます。

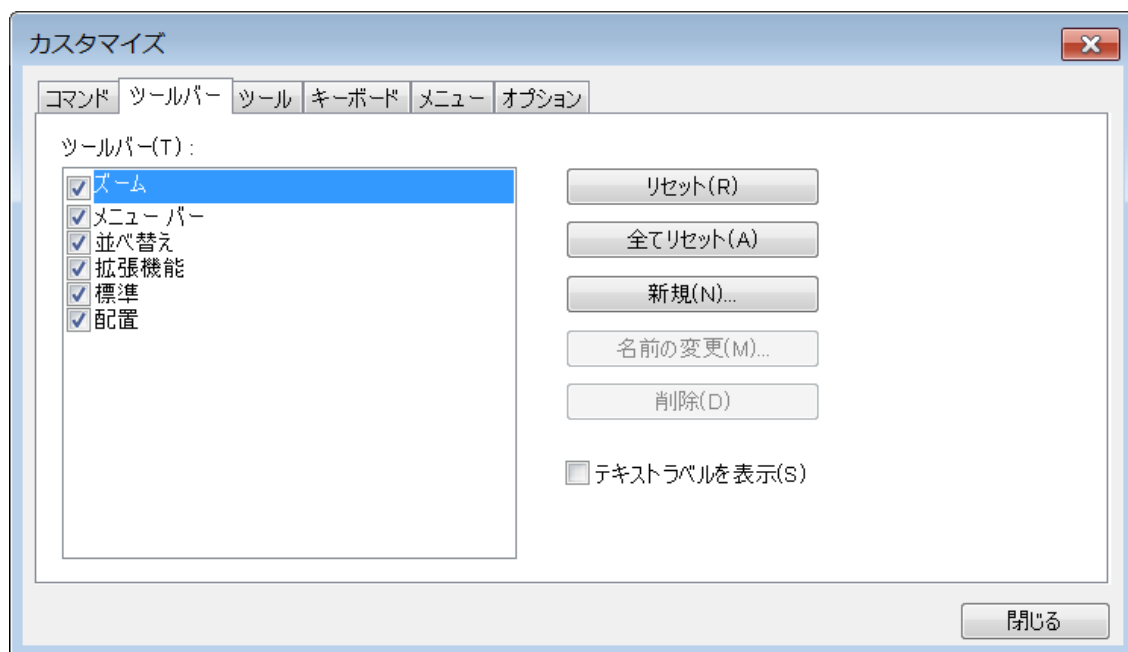
注意点: (コンテキストメニューを開くために右クリックして)同じメソッドを使用してコンテキストメニュー内のコマンドを編集することができます。メニュータブをクリックし、コンテキストメニューコンボボックス内で使用することのできる特定のコンテキストメニューを選択します。

ツールバー

ツールバー タブにより、特定のツールバーを有効化、または、無効化し、自身の特別なツールバーを作成することができます。

SchemaAgent Client ツールバーには、最も頻繁に使用されるメニューコマンドのためのシンボルが含まれています。取得される各シンボルには、短い説明が表示され、マウスのカーソルが直接アイテムとステータスバーにポイントされると、コマンドの更に詳細な記述が表示されます。

標準のポジションからツールバーをフロート状態のウィンドウとして表示されているスクリーン上のロケーションにドラッグすることができます。または、メインウィンドウの左側、または、右側の端に固定することができます。



テキストラベルの表示:

このオプションは有効化されるとツールバーアイコンの下に説明のテキストを表示します。各ツールバーのそれぞれに対してこのオプションを有効化、または、無効化することができます。

ツールバーを有効化、または、無効化する方法:

- 特定のツールバーを有効化 (、または、無効化) するためにチェックボックスをクリックします。

新規のツールバーの作成方法:

1. 「新規作成」ボタンをクリックし、「ツールバー名」ダイアログボックス内にツールバー名前を与えます。
2. 「カスタマイズ」ダイアログボックスのコマンドタブ内のツールバーにコマンドをドラッグします。

メニューバーのリセットの方法:

1. メニューバーエントリをクリックします。
2. 「リセット」ボタンをクリックし、SchemaAgent Client がインストールされた時の状態にメニューコマンドをリセットします。

全てのツールバーとメニューコマンドのリセット方法:

1. プログラムがインストールされると全てのツールバーコマンドをリセットする「全てをリセット」ボタンをクリックします。
全てのツールバーとメニューがリセットされることを通知するプロンプトが表示されます。
2. 「はい」をクリックしてリセットを確認します。

ツールバー名の変更方法:

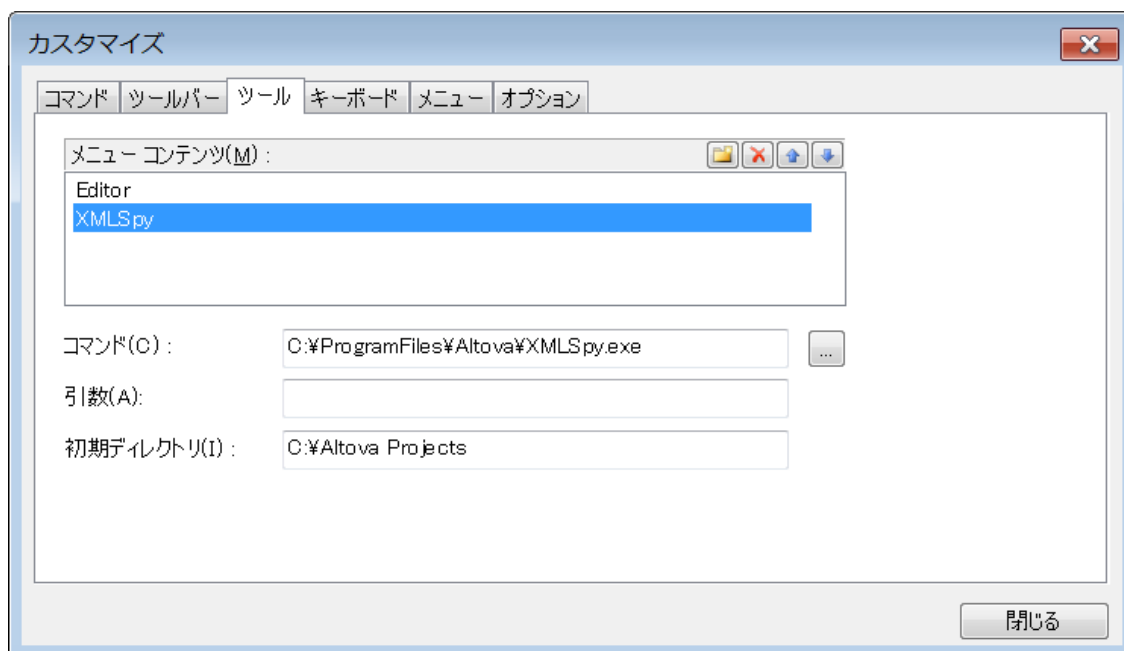
- 「名前の変更」ボタンをクリックし、ツールバーの名前を編集します。
このオプションはユーザー定義ツールバーのためにのみ使用することができます。

ツールバーの削除方法:

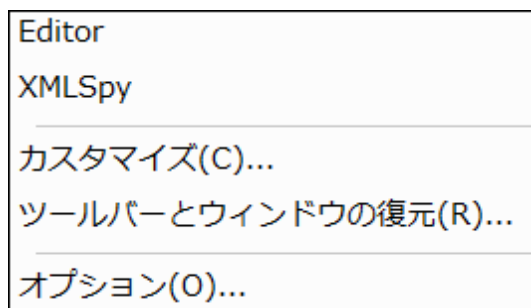
1. ツールバーリストボックス内から削除するツールバーを選択します。
2. 削除ボタンをクリックします。
ツールバーの削除を問うプロンプトが表示されます。
3. 「はい」をクリックして削除を確認します。
このオプションはユーザー定義ツールバーのためにのみ使用することができます。

ツール

「ツール」タブを使用して、例えば「ツール」メニューに他のアプリケーションをリンクするなど、パーソナルなメニューアイテムを追加することができます。



ユーザー定義 エントリは「ツール」メニュー内の標準のメニューアイテムの上に表示 されます。



ユーザー定義 ツールの追加方法:

1. 「新規作成」  アイコンをメニューコンテンツ タイトルバー内でクリックし、または、「挿入」キーを押します。
2. 表示されるテキストフィールド内で、メニューエントリとして表示される文字列を「ツール」メニューに入力します。
3. コマンドフィールド内で、アプリケーションの EXE ファイルにパスを入力し、または、「参照」  ボタンを使用してパスを選択します。
4. 適用できる場合、Arguments フィールド内にアプリケーションを開始するために必要な引数を入力します。
5. 必要な場合、最初のディレクトリにパスを入力します。

ユーザー定義 ツールのシーケンスを変更する方法:

- エントリを選択し、「アイテムを上 に移動」  と「アイテムを下 に移動」  ボタンを使用して、メニューアイテムを移動します。
または、エントリを移動するために、ショートカットキー「Alt+Up」と「Alt+Down」to を使用

することができます。

ユーザー定義 メニュー アイテムの名前の変更方法：

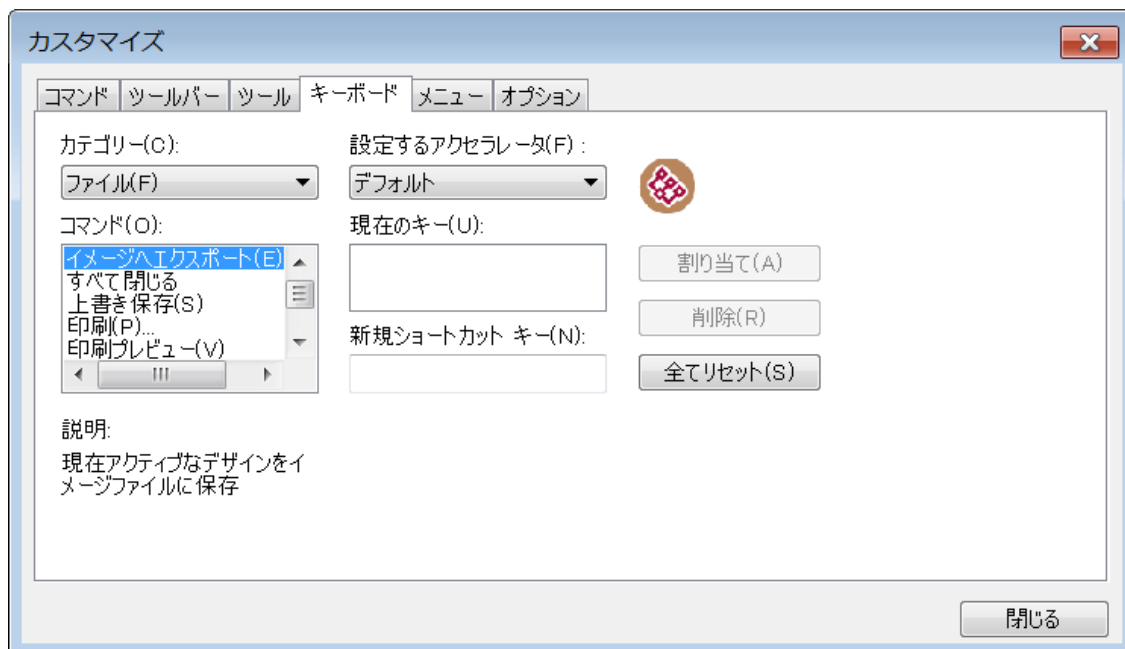
- メニューコンテンツ フィールド内のアイテムをダブルクリックし、エントリを編集します。

ユーザー定義 ツールの削除方法：

- 「ツール」メニューから削除するエントリを選択し、「削除」 アイコンをメニューコンテンツ タイトルバー内でクリック、または、「削除」キーを押します。

キーボード

「キーボード」タブにより SchemaAgent Client コマンドのためにキーボード ショートカットを定義 (または、変更) することができます。



「設定するアクセラレータ」ドロップダウンリスト内で、デフォルトのメニュー、または、SchemaAgent デザインメニュー内の異なるショートカットを区別することができます。

コマンドに新規のショートカットを割り当てる方法：

- カテゴリ コンボボックスを使用して全てのコマンド カテゴリを選択します。
- コマンドリストボックスから、新規のショートカットを割り当てるコマンドを選択します。
- 新規のショートカットキー テキストボックス内 を押し、コマンドを有効化するショートカットキーを押します
ショートカットがすぐにテキストボックス内に表示されます。ショートカットが前に割り当てられている場合、その機能がテキストボックスの下に表示されています。
- 「割り当て」ボタンをクリックし、ショートカットを割り当てます。
現在のキー リストボックス内でショートカットが表示されます。
(このテキストボックスをクリアするには、コントロールキー、CTRL、ALT または SHIFT を押します。)

ショートカットの割り当てを解除、または、削除する方法:

1. 現在のキーリストボックス内で削除するショートカットをクリックします。
2. 「削除」ボタンをクリックします。
3. 「閉じる」ボタンをクリックして確認します。

すべてのショートカットキーのリセットの方法:

1. 「全てをリセット」ボタンをクリックし、プログラムがインストールされた状態にすべてのショートカットキーをリセットします。
全てのツールバーとメニューがリセットされることを通知するプロンプトが表示され、リセットされます。
2. 「はい」をクリックしてリセットを確認します。

現在割り当てられているキーボードショートカット

キー別のホットキー

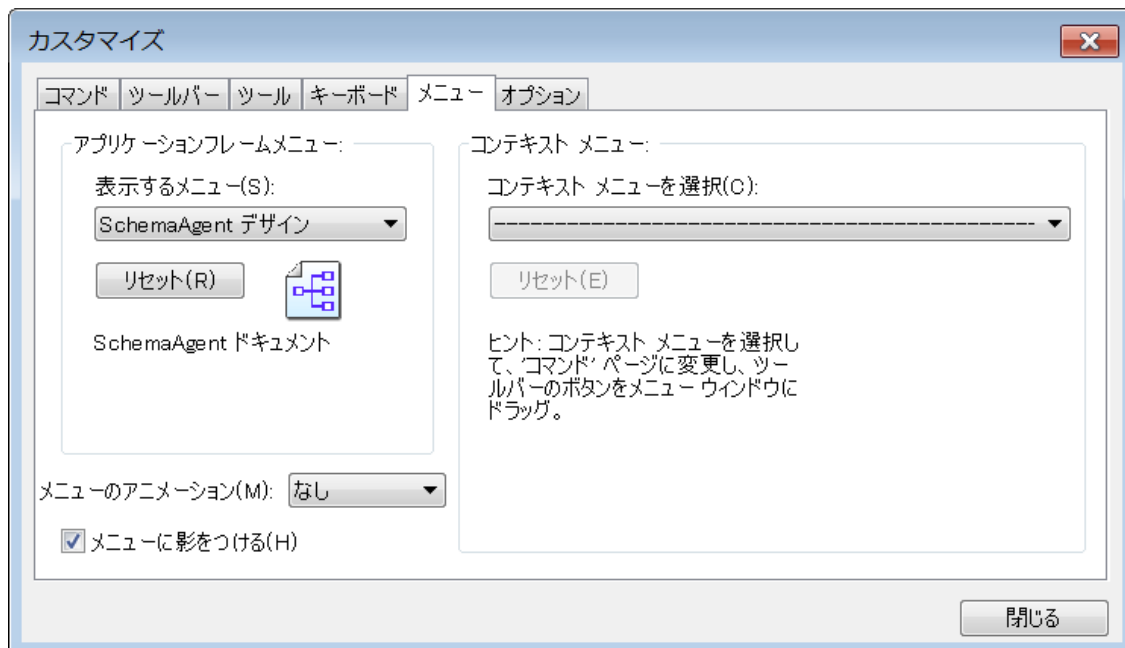
F1	ヘルプ
Delete	削除
Shift+Delete	切り取り
Ctrl+Insert	コピー
Shift+Insert	貼り付け
Ctrl+Down	下寄せ
Alt+Down	垂直方向に1列に並べる
Ctrl+Alt+Down	垂直方向に均等
Ctrl+Left	左寄せ
Ctrl+Right	右寄せ
Alt+Right	水平方向に並べる
Ctrl+Alt+Right	水平方向に均等に並べる
Ctrl+Up	上寄せ
Ctrl+A	すべて選択
Ctrl+C	コピー
Ctrl+N	新規作成
Ctrl+O	開く
Ctrl+P	印刷
Ctrl+R	参照パスの修正
Ctrl+S	保存
Ctrl+V	貼り付け
Ctrl+X	切り取り
Alt+G	グリッドの表示

機能別のホットキー

下寄せ	Ctrl+Down	
左寄せ	Ctrl+Left	
右寄せ	Ctrl+Right	
上寄せ	Ctrl+Up	
コピー	Ctrl+C	Ctrl+Insert
参照パスの修正	Ctrl+R	
切り取り	Ctrl+X	Shift+Delete
削除	Delete	
ヘルプ	F1	
水平方向に1列に並べる	Alt+Right	
垂直方向に1列に並べる	Alt+Down	
新規作成	Ctrl+N	
開く	Ctrl+O	
貼り付け	Ctrl+V	Shift+Insert
印刷	Ctrl+P	
保存	Ctrl+S	
すべて選択	Ctrl+A	
グリッドの表示	Alt+G	
水平方向に均等	Ctrl+Alt+Right	
垂直方向に均等	Ctrl+Alt+Down	

メニュー

「メニュー」タブにより、メインメニューバーとコンテキストメニューをカスタマイズすることができます。



SchemaAgent Design メニューバーをカスタマイズすることができます。

SchemaAgent Client 内でデザインウィンドウが開かれていない場合でも、デフォルトのメニューは表示されています。

ファイル(F) 表示(V) 拡張機能(X) ツール(T) ヘルプ(H)

SchemaAgent Design メニューは、少なくとも1つのデザインウィンドウが開かれていると表示されるメニューバーです。

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) レイアウト(L) 拡張機能(X) ツール(T) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

メニューのアニメーションとメニューの影

アニメーションされるメニューを希望する場合は、複数のメニューから選択することができます。「メニューのアニメーション」ドロップダウンボックスは次のオプションを提供します:

- なし(デフォルト)
- 展開
- スライド
- フェード

デフォルトでチェックされている「メニューに影をつける」チェックボックスは、全てのメニューに影を付ける場合、無効化されます。

メニューをカスタマイズする方法:

1. カスタマイズするメニューバーを「表示するメニュー」コンボボックスから選択します。
2. コマンド タブをクリックし、選択されたメニューバーにコマンドをドラッグします。

メニューからコマンドを削除する方法:

1. メニューオプション「ツール | カスタマイズ」を選択し、「カスタマイズ」ダイアログボックスを開きます。
2. 以下の内の1つを行ってください:
 - コマンド、または、コマンドを表すアイコンを右クリックし、コンテキストメニューから「削除」オプションを選択します。
 - コンテキストメニューからドラッグし、マウスポインターの下にマークアイコンがチェックされるとドロップします。

メニューバーをリセットする方法:

1. デフォルトのメニュー、または、「表示するメニュー」コンボボックス内の SchemaAgent Design エントリを選択します。
2. メニュー名のすぐ下の「リセット」ボタンをクリックします。
メニューバーを本当にリセットするかを問うプロンプトが表示されます。
3. 「はい」をクリックします。

コンテキストメニューをカスタマイズする方法 (メニューを右クリック):

1. 「コンテキストメニューを選択」コンボボックスから選択します。
選択したコンテキストメニューが表示されます。
2. コマンド タブをクリックし、コンテキストメニューにコマンドをドラッグします。

コンテキストメニューからコマンドを削除する方法:

1. メニューオプション「ツール | カスタマイズ」を選択して、「カスタマイズ」ダイアログボックスを開きます。

2. 以下の内の1つを行ってください:

- コマンド、または、コマンドを表すアイコンを右クリックし、コンテキストメニューから削除オプションを選択します。
- コンテキストメニューからドラッグし、マウスポインターの下にマークアイコンがチェックされるとドロップします。

コンテキストメニューをリセットする方法:

1. コンボボックスからコンテキストメニューを選択します。
2. コンテキストメニュー名のすぐ下の「リセット」ボタン
コンテキストメニューを本当にリセットするかを問うプロンプトが表示されます。

コンテキストメニュー ウィンドウを閉じる方法:

以下の内の1つを行ってください:

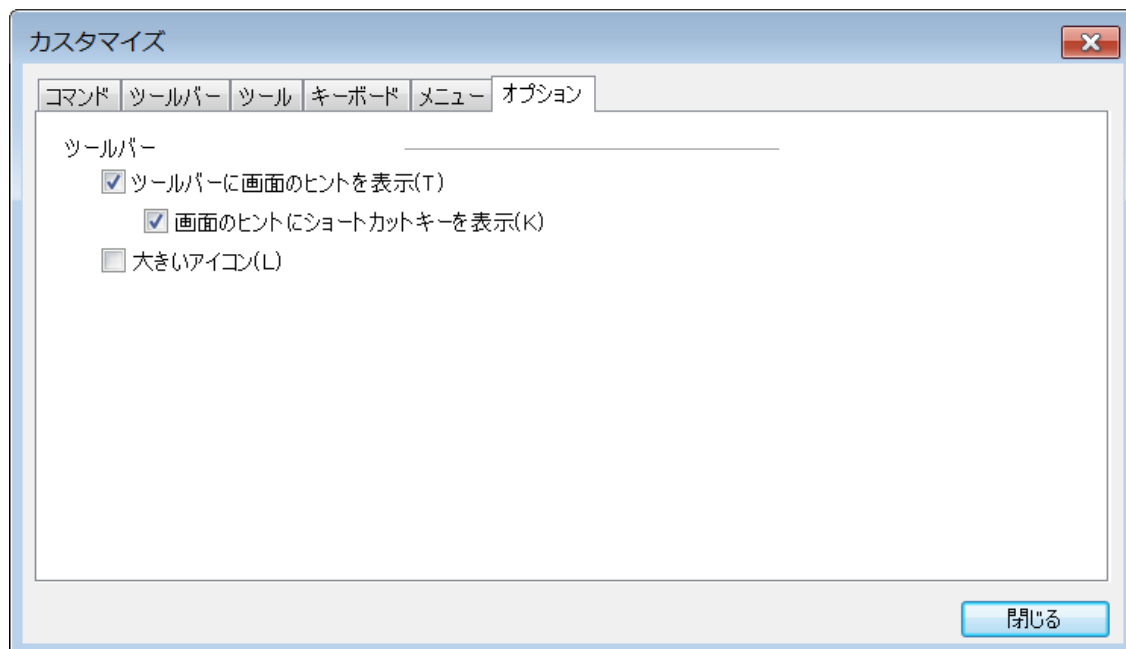
- タイトルバーの右上の「アイコンを閉じる」をクリックします。
- 「カスタマイズ」ダイアログボックスの「閉じる」ボタンをクリックします。

メニューの外観を変更する方法:

1. メニューにアニメーションをつける場合、適切なオプションを「メニューのアニメーション」ドロップダウンボックスから選択します。
2. 必要な場合、「メニューに影をつける」チェックボックスを無効化します。

オプション

オプション タブにより一般的な環境設定を設定することができます。



ツールバー

アクティブな場合、「ツールバーに画面のヒントを表示」チェックボックスは、アイコンバー内のアイコンにマウスポインターがポイントされるとヒントを表示します。ヒントには、アイコン機能の短い記述、存在する場合は関連付けられたキーボードショートカットが表示されます。

「画面のヒントにショートカットキーを表示」チェックボックスにより、ヒント内にショートカットの作成を決定することができます。

アクティブな場合、「大きいアイコン」チェックボックスにより、標準サイズのアイコンと大きなサイズのアイコンの間を切り替えることができます。

オプション

「ツール | オプション」コマンドによりグローバルなアプリケーション設定を定義することができます。これらの設定はタブされたダイアログボックス内で指定され、レジストリ内に保管されます。すべての現在と未来のドキュメントウィンドウに適用されます。in **オプション** ダイアログボックス内の「適用」ボタンは、現在開かれているドキュメント内の変更を表示し、現在の設定をフィックスします。変更は背景ウィンドウ内ですぐに確認することができます。

オプション ダイアログボックスの各タブはこのセクションで詳しく説明されています。

デザイン

デザイン タブにより、デザインウィンドウ内でファイルボックスの表示方法をカスタマイズすることができます。

移動とリサイズ

「リアルタイムのドラッグを有効化」チェックボックスが有効化されていると、ファイルボックスがドラッグされる限り、デザインは恒久的に描きなおされます。チェックボックスが無効化されると、ファイルボックスのドラッグ中、ファイルボックスは元の位置に留まり、マウスがリリースされた後にのみ新規の位置に移動されます。ドラッグ中に、ファイルボックスの新規の位置が概要に表示されます。

「しきい値（アイテム）」フィールド内に、ドラッグされる際にコンテンツと共に表示される選択されたファイルボックスの最大値を入力することができます。選択されたファイルボックスの数に制限がある場合、ドラッグ中に概要内で選択されたファイルボックスが表示されます。

グリッド

「グリッドの有効化」チェックボックスは、新規のデザインウィンドウのデフォルトの外観を設定します。グリッドサイズフィールドを使用して、グリッドの幅を定義します。オプションダイアログボックスにより既に開かれているデザインウィンドウの設定は変更することができず、配置ツールバー内の「グリッド

の有効化 無効化」 アイコンを使用して、または、ショートカットキー「Alt+G」を使用して、アクティブなデザインウィンドウのためのグリッドを表示、または、非表示します。

デフォルトの挿入アクション

デフォルトの「アクションの挿入」ドロップダウンボックスは、デザインウィンドウにドラッグされる際にデザインにファイルを挿入するためのデフォルトのアクションを設定します。次のオプションを使用することができます：

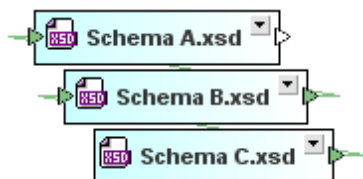
- 選択のみ
- 選択と直接参照付けられているすべてのファイル
- 選択と直接参照付けられているすべてのスキーマ
- 選択と直接参照付けられているすべての XML
- 選択と直接参照付けられているすべての MapForce
- 選択と直接参照しているすべてのファイル
- 選択と直接参照しているすべてのスキーマ
- 選択と直接参照しているすべての XML
- 選択と直接参照しているすべての MapForce
- 選択と直接関連しているすべてのファイル
- 選択と直接関連しているすべてのスキーマ
- 選択と直接関連しているすべての XML
- 選択と直接関連しているすべての MapForce
- 選択と直接参照付けられているすべてのファイル
- 選択と直接参照付けられているすべてのスキーマ
- 選択と直接参照付けられているすべての XML
- 選択と直接参照付けられているすべての MapForce
- 選択と参照しているすべてのファイル
- 選択と参照しているすべてのスキーマ
- 選択と参照しているすべての XML
- 選択と参照しているすべての MapForce
- 選択と関連しているすべてのファイル
- 選択と関連しているすべてのスキーマ
- 選択と関連しているすべての XML
- 選択と関連しているすべての MapForce
- 選択とリンクされているすべてのファイル
- 選択とリンクされているすべてのスキーマ
- 選択とリンクされているすべての XML
- 選択とリンクされているすべての MapForce

自動的なレイアウト

複数のファイル、または、フォルダー全体がデザインウィンドウにドラッグされると、次のレイアウトのオプションを使用することができます：

- デフォルトのレイアウト
- Force-directed レイアウト
- 階層型 レイアウト

デフォルトのレイアウト オプションは、デザイン内でファイルボックスをアルファベット順に整理します。



ラインアップと階層型 レイアウト

ラインアップと階層型 レイアウト グループボックス内で、それぞれ、ファイルボックスを整列、または、階層型 タブにレイアウトするためのデフォルトの水平方向と垂直方向のスペースを入力することができます。

サイズ

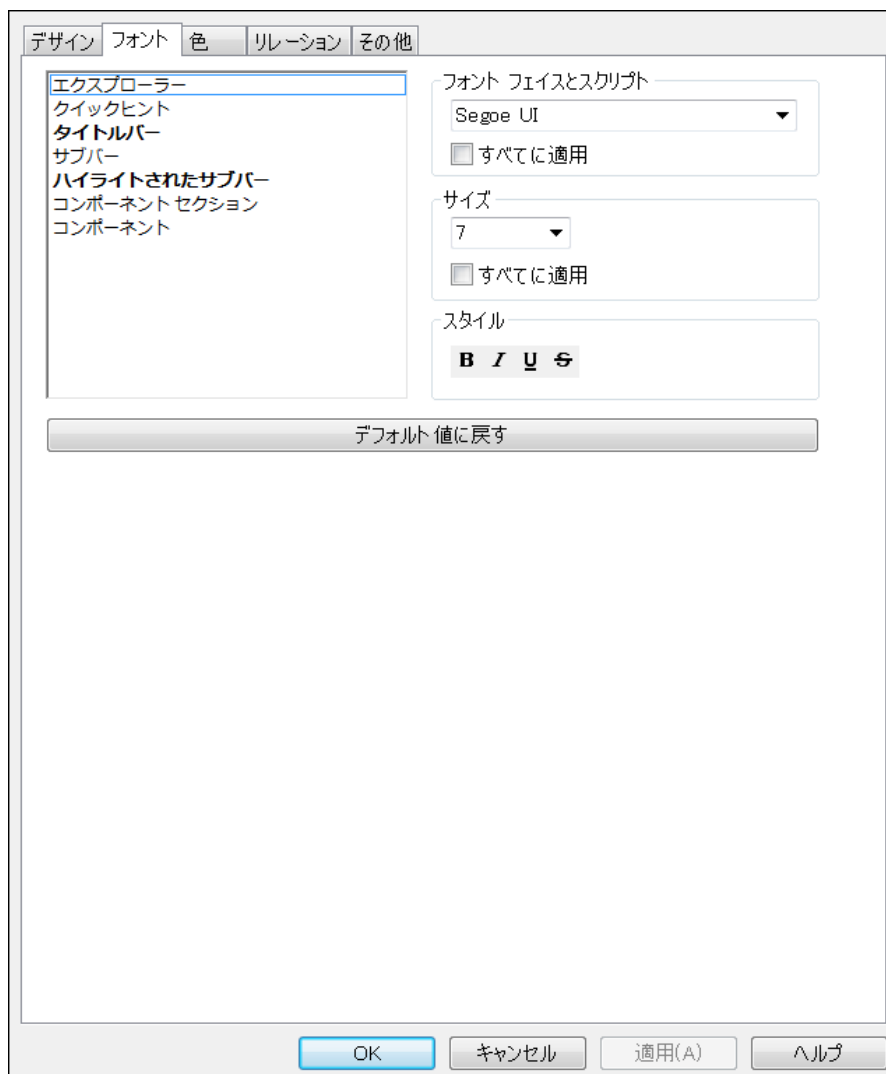
展開されると、デフォルトの展開された高さがファイルボックスの高さです。

コンポーネントのリレーション

自動的に展開 チェックボックスが有効化されていると、SchemaAgent は、コンポーネントリレーションをクリックするとソースとターゲットコンポーネントの詳細 ツリーを自動的に展開します。ソースとターゲットスキーマ内のグローバルなセクションは、コンポーネントのリレーションを確認するために展開される必要があります。

フォント

フォント タブにより SchemaAgent デザイン内でテキストの概観をカスタマイズすることができます。デフォルトの設定を「**デフォルトの値に戻す**」ボタンをクリックして元に戻すことができます。



フォント フェイスとスクリプト

デザインビュー内の多種のアイテムの表示のために使用されるフォントフェイスとサイズを選択することができます。同じフォントは印刷にも使用されるため、実際に使用することのできるフォントのみが選択される必要があります。すべてのアイテムのために同じフォントを使用する場合、「すべてに適用」

チェックボックスをクリックします。

サイズ

必要とされるサイズを選択します。すべてのアイテムのために同じフォントサイズを使用する場合、「すべてに適用」チェックボックスをクリックします。

スタイル

スタイルと色はこのグループボックス内のオプションを使用して設定することができます。現在の設定は左側のペイン内のリスト内ですぐに反映されるため、デザインをプレビューすることができます。

色

色タブにより、デザインウインドウ内で使用される色をカスタマイズすることができます。「**デフォルトの値に戻す**」ボタンをクリックするとデフォルトの設定を復元することができます。



背景色

このグループボックスにより、グラデーション背景とグラデーションの方向のための色を定義することができます。

コネクタの色

接続線の色 グループボックス内の色はファイルボックスの左右の矢印を指しています。からのコネクタと接続の複数の異なる型を組み合わせさせたコネクタのために異なる色を定義することができます。接続線の色 グループボックス内で接続線の色自身は定義されます。

フォント色

SchemaAgent Client 内のテキストの異なる型のためにフォントの色を定義することができます。フォント自身とフォントサイズとスタイルは、フォントタブ内で定義することができます。

配色

配色 グループボックスは、編集のために次を選択することのできるドロップダウンリストを提供します:

- XML スキーマ
- XML インスタンス
- スタイルシートの変換
- Web サービス 記述
- MapForce デザイン

個別のグループボックスはタイトルバーのための色を変更できる箇所でファイルボックスの個別のセクションのタイトルであるサブバーのための色が選択されていない、または、選択済みの場合使用することができます。

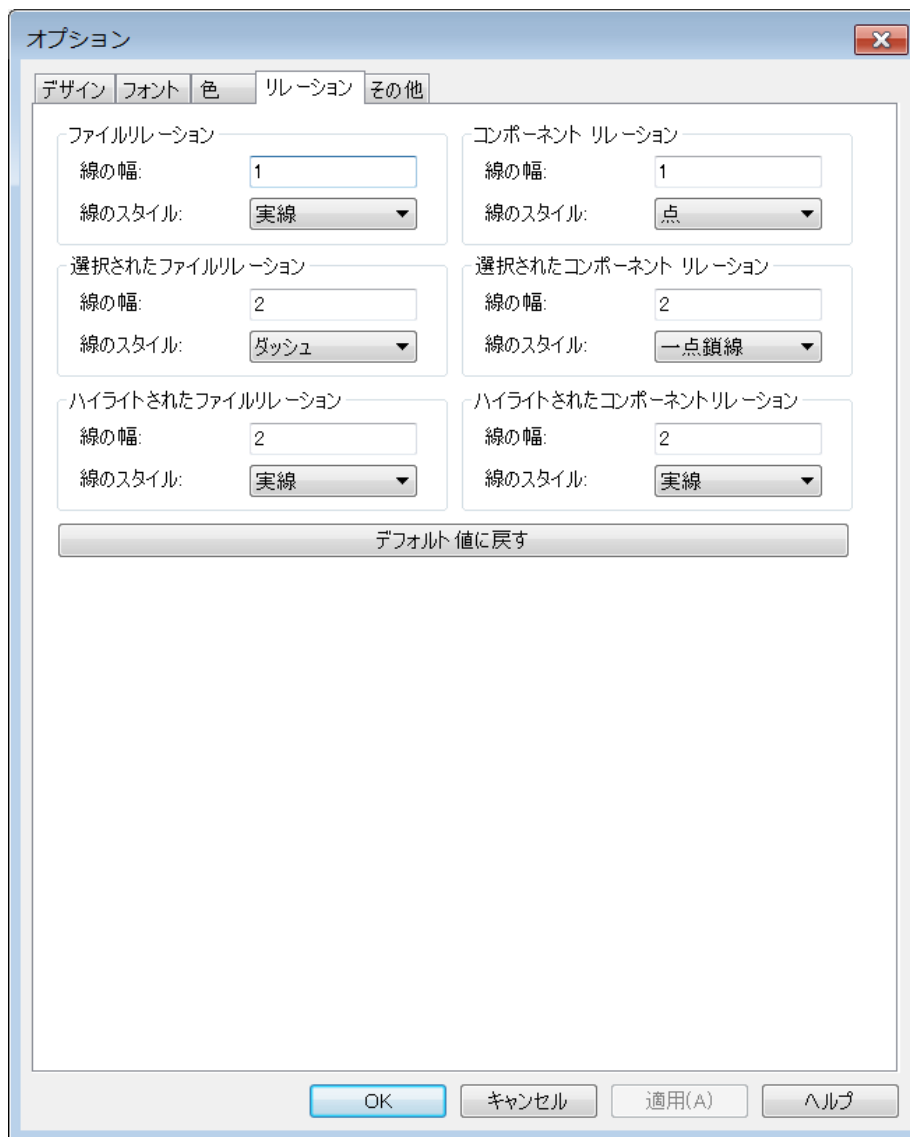
接続線の色

接続線の色 グループボックスは接続線自身を参照します。配色 ドロップダウンリスト内の選択により、異なるオプションを使用することができます:

- XML スキーマ: インクルード、インポート、再定義
- XML インスタンス: スキーマ、スタイルシート
- スタイルシートの変換: インクルード スタイルシート、スタイルシートのインポート、スキーマのインポート、インラインのスキーマ
- Web サービス 記述: WSDL のインポート、スキーマのインポート、インラインのスキーマ
- MapForce デザイン: スキーマ、インスタンス、WSDL

リレーション

リレーション タブにより SchemaAgent デザイン。内のファイルボックス間の接続線の外観をカスタム化することができます。「デフォルトの値に戻す」ボタンをクリックしてデフォルトの設定を復元することができます。



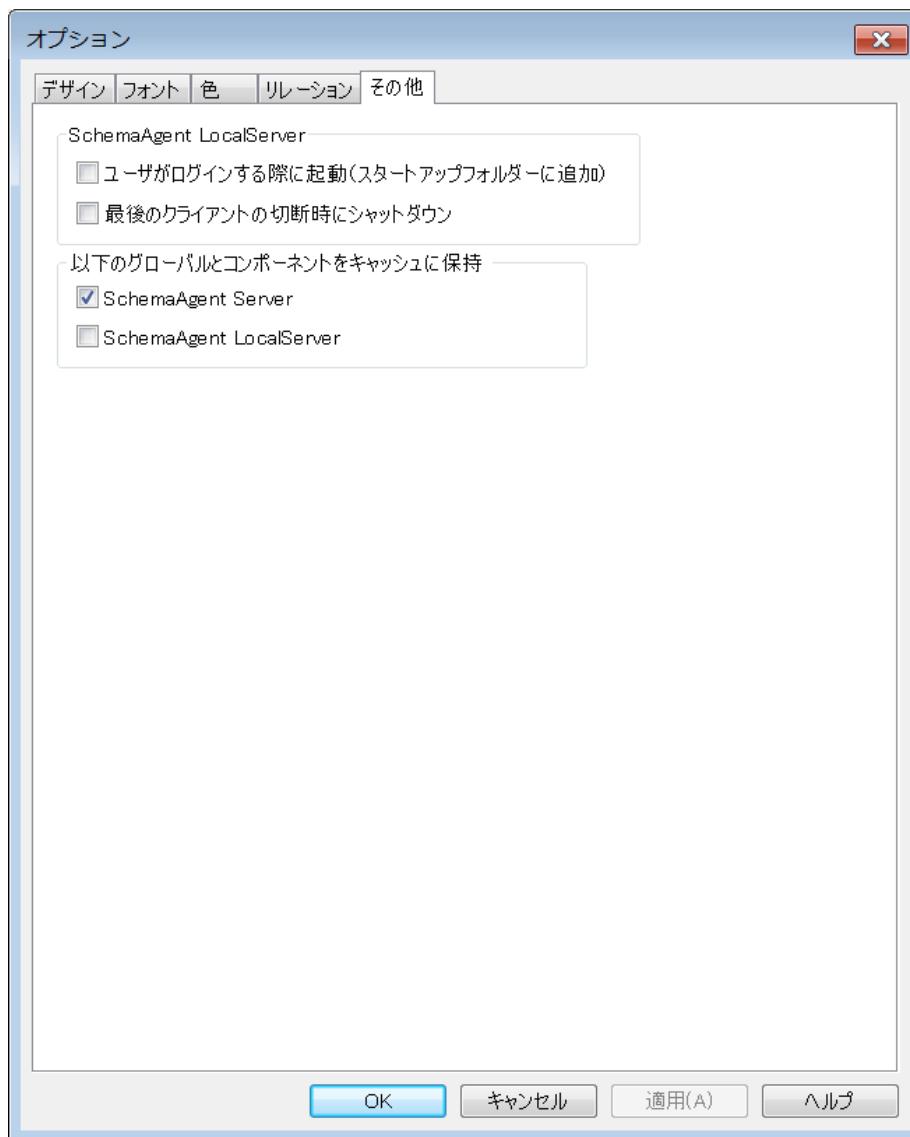
次の状態のファイルとコンポーネントのリレーションのために線の幅と線のスタイルを定義することができます:

- 通常の状態
- 選択された状態
- ハイライトされた状態

線の幅に関しては、1 から 10 の間の整数を使用することができます。

その他

その他のタブにより起動、シャットダウン、および、キャッシュのオプションを定義することができます。



SchemaAgent LocalServer

「ユーザーがログインする際に起動(スタートアップフォルダーに追加)」チェックボックスを有効化して、SchemaAgent LocalServer を Windows 起動 フォルダーに追加することができます。この場合、ユーザーが Windows にログインする都度、SchemaAgent LocalServer が開始されます。

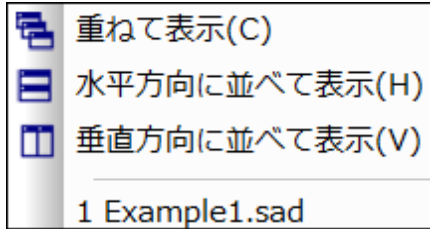
「最後のクライアントの切断時にシャットダウン」チェックボックスを有効化すると、SchemaAgent Client から最後のクライアントが切断されると、SchemaAgent LocalServer は自動的にシャットダウンされます。

SchemaAgent の グローバルとコンポーネントのキャッシュ

使用することのできるサーバーのそれぞれのために、データがキャッシュされるか定義することができます。データが SchemaAgent サーバー によりキャッシュされる場合、更に多くのメモリが使用され、通信周波数が低くなります。

6.9.7 ウィンドウ メニュー

SchemaAgent Client セッション内で個別のウィンドウを整理するには、Windows アプリケーションで頻繁に使用される標準のコマンドを含むウィンドウメニューを使用します。



開かれたウィンドウを重ねて表示、水平方向または垂直方向に並べて表示し、または、アイコンが縮小されるとドキュメントアイコンを整理することができます。メニューから直接開かれているデザインウィンドウに切り替えることもできます。

重ねて表示



「重ねて表示」コマンドは、開かれている全てのドキュメントウィンドウを(重ねて)整理します。

水平方向に並べて表示



「水平方向に並べて表示」コマンドは、開かれている全てのドキュメントウィンドウを「水平方向の分割」として整理し、同時に、視覚化します。

垂直方向に並べて表示



「垂直方向に並べて表示」コマンドは、開かれている全てのドキュメントウィンドウを「垂直方向の分割」として整理し、同時に、視覚化します。

現在開かれているウィンドウのリスト

このリストは、現在開かれている全てのデザインウィンドウを表示し、ウィンドウ間を素早く切り替えることができます。

「Ctrl+タブ」または「Ctrl+F6」キーボードショートカットを使用して、開かれているウィンドウを循環することができます。

6.9.8 ヘルプメニュー

▼ 目次

□ 説明

ヘルプウィンドウの左側のペインに目次を表示した、Application の画面上のヘルプマニュアルを開きます。目次はヘルプドキュメント全体の概要を表示しています。目次のエントリをクリックしてトピックに移動することができます。

▼ インデックス

□ 説明

ヘルプウィンドウの左側のペインにキーワード インデックスを表示したApplicationの画面上のヘルプマニュアルを開きます。目次はヘルプドキュメント全体の概要を表示しています。インデックスはキーワードをリストし、キーワードをダブルクリックすることでトピックへ移動することができます。キーワードが1つ以上のトピックにリンクされている場合は、トピックのリストが表示されます。

▼ 検索

□ 説明

ヘルプウィンドウの左側のペインに検索 ダイアログを表示したApplicationの画面上のヘルプマニュアルを開きます。単語を検索するには、入力フィールドに検索対象を入力して、「Return」を押します。ヘルプシステムは、ヘルプドキュメント全体で全文検索を行いヒットしたリストを返します。アイテムを表示するためにはアイテムをダブルクリックします。

▼ ソフトウェアのライセンス認証

□ 説明

Altova 製品 ソフトウェアをダウンロードすると、無料評価キーまたは購入されたライセンスキーを使用して、製品にライセンスを供与、または、ライセンスの認証を行うことができます。

- **無料評価キー**：初めて製品のダウンロードとインストールを行うと、ソフトウェアアクティベーションダイアログが表示されます。ダイアログでは無料評価キーコードをリクエストすることができます。ユーザーの名前、所属会社名、そして電子メールアドレスを入力して、無料評価キーを取得するボタンをクリックしてください。入力された電子メールアドレスに評価キーが送信されます。ソフトウェアアクティベーションのダイアログボックスにて送信されたキーコードを入力し、「OK」をクリックすることで、Altova 製品を使用することができるようになります。ソフトウェアは30日の間アンロックされます。
- **購入されたライセンスキー**：ソフトウェアアクティベーションダイアログにはライセンスキーのキーコードを購入するボタンが含まれています。このボタンをクリックするとAltova のオンラインショップが表示され、製品に対応したライセンスキーを購入することができます。ライセンスにはシングルユーザーとマルチユーザーという二種類のライセンスがあります。両種類のキーコードが電子メールにより送信されます。シングルユーザーライセンスにはライセンスデータや組織名、そしてキーコードが含まれています。ライセンス契約では、ライセンスされている数を超過して組織内のコンピューターにAltova 製品をインストールできないということに注意してください。電子メール内に含まれているライセンス情報を、登録ダイアログに正確に入力するように注意してください。

メモ: ソフトウェアアクティベーションダイアログにてライセンス情報を入力する際には、ライセンス電子メールに記された情報を正確に入力するようにしてください。マルチユーザーライセンスの場合、Name フィールドに、各ユーザーの名前を入力してください。

ライセンスの電子メールとAltova 製品へのライセンス供与(有効化) の異なる方法

Altova から受信するライセンス電子メール:

- ライセンスの詳細 (名前、企業、電子メール、キーコード)
- `.altova_licenses` ファイル拡張子を持つライセンスファイルを添付ファイルとして

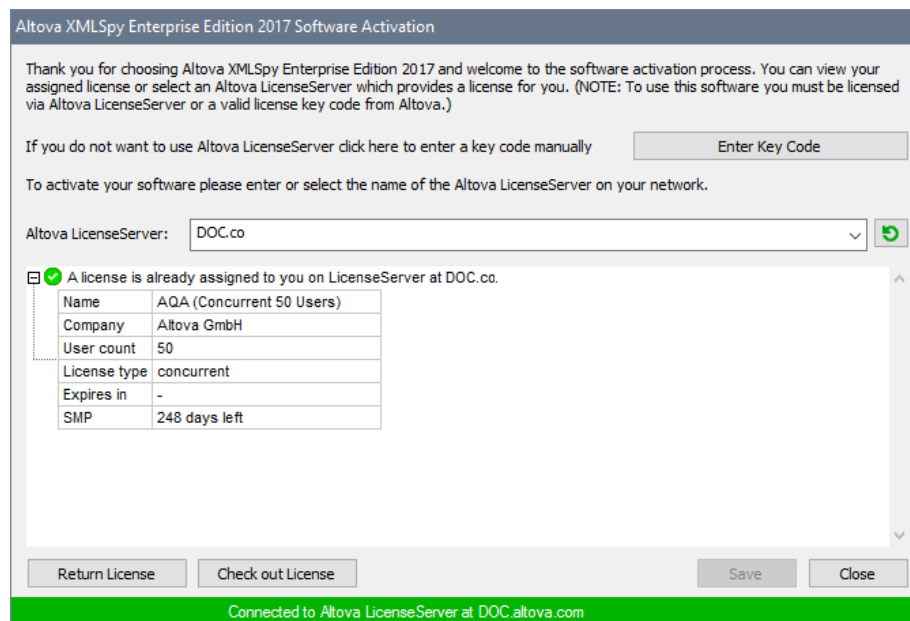
Altova 製品のライセンスを認証するには、以下のうち1つ行ってください:

- Altova 製品のソフトウェアのライセンス認証ダイアログ内に電子メールで受信したライセンスの詳細を入力し、「OK」をクリックします。
- 適切な場所にライセンスファイル (`.altova_licenses`) を保存し、ライセンスファイルをダブルクリックし、表示されるダイアログに必要な情報を入力し、「キーの適用」をクリックして完了します。
- 適切な場所にライセンスファイル (`.altova_licenses`) を保存し、Altova LicenseServer のライセンスプールにアップロードします。以下を行うことができます: (i) 製品のソフトウェアライセンス認証ダイアログから Altova 製品からライセンスを取得します。または (ii) Altova LicenseServer から製品へのライセンスを割り当てます。
LicenseServer の使用の詳細に関しては、下記のトピックを参照してください。

ソフトウェアアクティベーションダイアログ (下のスクリーンショット) は、「ヘルプ | ソフトウェアアクティベーション」をクリックすることにより常にアクセスすることができます。

以下の方法によりソフトウェアをアクティブ化することができます:

- (「新しいキーコードを入力する」をクリックして)ライセンスキーの情報を入力します。または、
- (「Altova LicenseServer を使用」をクリックして)ネットワーク上の Altova LicenseServer からライセンスを取得します。使用する LicenseServer がインストールされているマシンを選択します。License Servers の自動検知は LAN 上で配信が送信されることを意味します。これらの配信がサブネットに制限されているため、License Server は自動検知のためのクライアントマシンと同じサブネット上に存在する必要があります。自動検知が作動しない場合、サーバーの名前を入力します。Altova LicenseServer はライセンスプール内で Altova 製品のためのライセンスを有している必要があります。LicenseServer プール内に存在する場合、Software Activation ダイアログ内に表示されます (下のスクリーンショット)。「保存」をクリックしてライセンスを取得します。



マシン固有のライセンスが LicenseServer からインストールされると、7日間は、LicenseServer に戻すことができません。7日過ぎると（「**ライセンスを戻す**」をクリックして）マシンのライセンスを LicenseServer に戻すことができ、このライセンスは、他のクライアントにより LicenseServer から取得することができます。LicenseServer 管理者は、LicenseServer の Web UI を使用して、取得されたライセンスの割り当てを解除することができます。ライセンスの返却は、マシン固有のライセンスのみに適用され、現在使用中のライセンスには適用されないことに注意してください。

ライセンスのチェックアウト

ライセンスが製品マシン上に保管されるように、ライセンスをライセンスプールから 30 日間チェックアウトすることができます。これにより、オフラインで作業することが可能になります。これはとても役に立ちます。Altova LicenseServer にアクセスできない環境（例えば、旅行中に Altova 製品がインストールされたラップトップコンピューターで作業する場合）などが挙げられます。ライセンスはチェックアウトされていますが、LicenseServer は、ライセンスが使用中と表示し、ライセンスは他のマシンで使用することができません。ライセンスはチェックアウトの期間が終わると自動的にチェックインされた状態に戻します。または、チェックアウトされたライセンスはソフトウェアのライセンスの認証ダイアログのボタンを使用して「**チェックイン**」することができます。

ライセンスをチェックアウトするには以下をおこないます: (i) ソフトウェアのライセンスの認証ダイアログで「**ライセンスのチェックアウト**」をクリックします（上のスクリーンショット参照）。(ii) ライセンスのチェックアウトダイアログ内から、チェックアウトの期間を選択し、「**チェックアウト**」をクリックします。ライセンスがチェックアウトされます。ソフトウェアのライセンスの認証ダイアログは、チェックアウト期間の終わりを含みチェックアウトの情報を表示します。ダイアログ内の「**ライセンスのチェックアウト**」ボタンは、「**チェックイン**」ボタンに変わります。「**チェックイン**」ボタンをクリックして、ライセンスをチェックインすることができます。ライセンスは自動的にチェックイン状態に戻されるため、選択したチェックアウトの期間がオフラインで作業する期間をカバーするように確認してください。

メモ: ライセンスのチェックアウトを可能にするには、LicenseServer 上で有効化される必要があります。この機能が有効化されていない場合、エラーメッセージが表示されます。この場合、LicenseServer 管理者に連絡してください。

サポートコードのコピー

「サポートコードのコピー」をクリックして、ライセンスの詳細をクリップボードにコピーしてください。オンラインサポートフォームを使用してサポートをリクエストする際に必要なデータが負ライセンスの詳細に含まれています。

Altova LicenseServer を使用することにより、IT 管理者は、リアルタイムでネットワーク上の全てのライセンスの概要、および、クライアントの割り当てと、クライアントのライセンスの使用状況を確認することができます。LicenseServer を使用する利点は、ですから、多数の Altova ライセンスを管理することのできる管理機能です。Altova LicenseServer は、Altova Web サイトで無料で提供されています。Altova LicenseServer および Altova LicenseServer を使用したライセンスの供与に関する詳細は、Altova LicenseServer ドキュメントを参照してください。

▼ 注文フォーム

☐ 説明

ソフトウェア製品のライセンスを購入する準備が整った場合、ソフトウェアアクティベーションダイアログにて「キーコードを購入する」ボタンを選択するか、「ヘルプ | 注文フォーム」コマンドを選択して、Altova オンラインショップへアクセスすることができます。

▼ 登録

☐ 説明

Altova 製品登録ページをブラウザのタブに表示します。Altova ソフトウェアを登録することにより、最新の製品の情報が得られます。

▼ 更新のチェック

☐ 説明

Altova サーバーに接続して、より新しいバージョンの製品が利用可能かどうかチェックし、その結果を表示します。

▼ サポートセンター

☐ 説明

インターネット上にある Altova サポートセンターへのリンクとなっています。サポートセンターには FAQ やディスカッションフォーラムが含まれており、問題の解決方法を探し、Altova の技術サポートスタッフへアクセスすることができます (現在英語のみの提供となります)。

▼ WEB 上の FAQ

 説明

インターネット上にある Altova の FAQ へのリンクとなっています。FAQ データベースは Altova のサポートスタッフにより常時更新されています。

▼ コンポーネントのダウンロード

 説明

インターネット上にある Altova のコンポーネントダウンロードセンターへのリンクとなっています。このリンク先から様々なコンポーネントソフトウェアをダウンロードして、Altova 製品とともに使用することができます。ソフトウェアコンポーネントは XSLT や XSL-FO プロセッサからアプリケーションサービスプラットフォームまで、幅広く提供されています。コンポーネントダウンロードセンターにてご利用になれるソフトウェアは、通常無料でご利用になれます。

▼ インターネット上の Application

 説明

インターネット上にある Altova ウェブサイトへのリンクとなっています。Altova ウェブサイトでは、Application や関連するテクノロジーについて確認することができます。

▼ Application について

 説明

スプラッシュ画面と製品のバージョン番号が表示されます。Application の 64-ビットバージョンを使用している場合、アプリケーション名の後のサフィックス (x64) を示しています。32-ビットバージョンにはサフィックスはありません。

チャプター 7

XMLSpy と SchemaAgent

7 XMLSpy と SchemaAgent

Altova の XMLSpy 製品 (Enterprise または Professional Edition) は SchemaAgent テクノロジーを使用してパワフルなスキーマの編集機能を提供します。XMLSpy が SchemaAgent と作業するようにセットアップされると、スキーマ、XML ファイル、XSL と XSLT ファイル、および WSDL ファイルをネットワーク上の他のスキーマからのコンポーネントを使用して、XMLSpy 内で直接編集できるようになります。別のスキーマに属するコンポーネントのコンテンツモデルを確認し、このコンポーネントを変更と共に、または、変更無しで再利用することができます。スキーマ間のリレーションシップをビルドすることにより、XMLSpy 内から直接複雑なスキーマをモジュール化し管理することができます。

次も参照してください: SchemaAgent チュートリアル。

XMLSpy を SchemaAgent クライアントとして作動するには、以下をおこなう必要があります:

- Altova の SchemaAgent 2019 製品を Altova Web サイトの [SchemaAgent ダウンロードページ](#) からダウンロードし、XMLSpy と同じマシンインストールします。SchemaAgent Client は Altova から購入される必要があるライセンスを必要とします。Altova® MissionKit™ 2019 製品には、SchemaAgent Client 製品とライセンスキーが含まれています。(SchemaAgent Server アプリケーションは、Altova® MissionKit™ 2019 パッケージには含まれていません)。SchemaAgent のインストール時にインストールされる SchemaAgent パッケージ内に含まれている LocalServer を使用して直接作業することができます。
- 任意で、Altova Web サイトの [SchemaAgent ダウンロードページ](#) から SchemaAgent Server をダウンロードし、ネットワーク上の任意の場所にインストールします。SchemaAgent Server を無料で使用することができます。
- SchemaAgent サーバー(LocalServer、または、SchemaAgent Server のための検索パスの定義)。この操作を行うための詳細な記述はこの SchemaAgent ドキュメントの始めて説明されています。
- XMLSpy 内から SchemaAgent サーバー (LocalServer または SchemaAgent Server)への接続を開始します。

XMLSpy 内の SchemaAgent 機能の使用に関する詳細は、XMLSpy ドキュメント内で記述されています。

チャプター 8

ライセンス情報

8 ライセンス情報

このセクションには以下 の内容 が含まれています:

- ソフトウェアの配布 に関する情報
- ソフトウェアのアクティベーションとライセンスの計測
- ソフトウェアの使用に関する使用許諾契約書

本製品を使用する前に、上記の情報をよくお読みください。ソフトウェアのインストール時に上記のすべての条件に同意したとみなされ、お客様は上記の条件に拘束されることを同意したとみなされます。

Altova ライセンスの内容を確認するには、Altova Web サイト の Altova 法的な情報のページ に移動してください。

8.1 電子的なソフトウェアの配布

この製品は電子的なソフトウェアの配布により利用することが可能で、この配布方法により以下のユニークなメリットがあります：

- 購入を決定する前に、無料でソフトウェアを試用することができます。(Note: Altova MobileTogether Designer に対してライセンスを無料で割り当てることができます)。
- Once ソフトウェアの購入を決定した際には、Altova Web サイトにて注文を行います。すぐにライセンス登録された製品の使用を開始することができます。
- オンラインにて注文を行うと常に最新のソフトウェアをご利用いただけます。
- 製品パッケージには包括的なヘルプシステムが画面上に表示されます。最新バージョンのユーザーマニュアルは <https://www.altova.com/ja/> 上にあり (i) HTML フォーマットによる閲覧、ならびに (ii) PDF フォーマットのダウンロードと印刷に対応しております。

30日間の評価期間

この製品をダウンロードした後は、最大で30日の間無料で製品の評価を行うことができます。20日間を超えた頃から、製品がライセンス登録されていないことがソフトウェアにより表示されます。このメッセージはアプリケーションが起動されるたびに表示され、30日間を超えてプログラムを使用するには、キーコードとして送られるソフトウェア使用許諾契約書を購入し、ソフトウェアアクティベーションダイアログにて入力し、製品をアンロックする必要があります。ライセンスの購入はAltova Web サイトのオンラインショップにてお求めいただけます。

Altova オンラインショップでライセンスを購入することができます

組織内でソフトウェアの評価を行う

評価版のソフトウェアを組織内のネットワークにて配布したい場合、またはインターネットに接続されていないコンピューターにてソフトウェアを使用する場合、どのような状態でも変更されていないことを条件に、セットアッププログラムだけの配布を行うことが可能です。ソフトウェアインストーラーへアクセスした人は、例外なく30日間の評価ライセンスキーコードをリクエストして、試用期間が経過した後は、製品を使い続けるためにライセンスの購入を行う必要があります。

8.2 ソフトウェアのアクティベーションとライセンスの計測

Altova のソフトウェアアクティベーションの一部として、ソフトウェアにより内部ネットワークまたはインターネットへの接続を行い、インストール時、登録時、Altova により使用されるライセンスサーバーの更新やライセンスの正当性を検証することで、ソフトウェアの不正な使用を防ぎ、顧客サービスを向上するため、ライセンスに関する情報を送信することがあります。アクティベーションにより、オペレーティングシステムや IP アドレス、日付時刻、ソフトウェアのバージョン、コンピュータ名などのライセンスに関する情報が、お使いのコンピュータと Altova ライセンスサーバー間にてやり取りされます。

お使いの Altova 製品にはライセンス計測モジュールが内蔵されており、エンドユーザー使用許諾契約書の意図しない違反を防ぎます。お使いの製品はシングルユーザーまたはマルチユーザーとしてインストールされており、ライセンス計測モジュールにより、ライセンスされている数を超えたユーザーが同時に製品を使用することが無いことが保証されます。

このライセンス計測技術により、ローカルエリア接続 (LAN) において、別々のコンピュータ間で動作しているアプリケーションインスタンス間の通信が行われます。

シングルライセンス

ライセンス計測プロセスの一部としてアプリケーションが起動すると、ソフトウェアにより短いデータグラムがブロードキャストにより送信され、同一のネットワークセグメントにある他のコンピュータにてプログラムが動作していないかのチェックが行われます。応答が無い場合は、アプリケーションの他インスタンスから送信される信号に応えるため、ポートが開かれます。

マルチユーザーライセンス

同一の LAN 内に2つ以上のアプリケーションインスタンスが使用された場合、スタートアップ時に、これらインスタンス間において通信が行われます。これらのインスタンス間にてキーコードのやりとりが行われ、購入された数のライセンスを超えてインスタンスが起動しないように保証することができます。このようなライセンス計測システムは UNIX やデータベース開発ツールにて広く使用されているもので、Altova ユーザーはリーズナブルな価格にて同時使用マルチユーザーライセンスを購入することができます。

弊社はアプリケーションのデザインも行っており、少数の小さなネットワークパケットを送信することで、ネットワークに対する負荷を最小限に抑えております。Altova により使用される2799番 TCP/IP ポートは IANA により公式登録されており(詳細は (IANA Web サイト(<http://www.iana.org/>) を参照ください)、弊社のライセンス計測モジュールも既にテストされたものです。

ファイヤーウォールを使用している場合、2799番ポートにて Altova 製品が動作しているコンピュータ同士が通信しているのに気づかれるかも知れません。その他の手段によりライセンス使用許諾書の内容が守られることを保証できる限り、組織間の異なるグループにおいてこのようなトラフィックをブロックすることは勿論可能です。

お使いのコンピュータがオンラインの場合、ライセンス計測技術とは関係の無い数々の便利な機能を利用することができますようになります。

8.3 エンドユーザー使用許諾契約書

- Altova エンドユーザー使用許諾契約書: <http://www.altova.com/ja/legal/eula>
- Altova プライバシーポリシー: <http://www.altova.com/ja/privacy>

インデックス

<

<%LOCAL- サーバー %> ,
接続 ,74

G

GUI ,
SchemaAgent Client, 67
SchemaAgent Server, 55
エクスプローラー (SchemaAgent Client), 67
ツールバー (SchemaAgent Client), 70
デザイン ウィンドウ (SchemaAgent Client), 70
メニュー バー (SchemaAgent Client), 70
ログ ウィンドウ (SchemaAgent Server), 56
概要 ウィンドウ (SchemaAgent Client), 69
環境 ウィンドウ (SchemaAgent Server), 55

I

IIR リレーション ,
デザイン ,129
移動 ,131
更新を表示 (チュートリアル), 42
作成 ,129
削除 ,131
表示 ,94
IIR リレーションの作成 ,
チュートリアル ,25

M

MapForce デザイン ,
リレーションの表示 ,100
入力 /出力インスタンスの切り替え ,100
MapForce デザイン ファイル ,
クイック情報 ,105

再ロード ,116
作成 ,76
削除 ,78
挿入 ,83
編集 ,79
名前の変更 ,78

MFD ファイル ,
クイック情報 ,105
リレーションの表示 ,100
再ロード ,116
作成 ,76
削除 ,78
挿入 ,83
入力 /出力インスタンスの切り替え ,100
編集 ,79
名前の変更 ,78

MFD ファイル ボックス ,
グリッド上で整列 ,80
サイズの変更 ,121
ラインアップ ,121
構造の折りたたみ ,87
構造の展開 ,87
自動的なサイズ調整 ,87
順序の変更 ,121
整理 ,87
整列 ,121

S

SAD ファイル ,
開く ,82
作成 ,82
閉じる ,82
保存 ,82

SchemaAgent ,
SchemaAgent Server, 48
クライアントドキュメント ,64
チュートリアル ,20
はじめに ,8
ユーザー 参照 ,132
ユーザーマニュアル ,3
主な機能 ,10

SchemaAgent Client ,
<%LOCAL- サーバー %> に接続 ,74
GUI, 67
SchemaAgent Serverに接続 ,74

SchemaAgent Client,

- インストール 65
- インターフェイス 67
- ウィンドウ 64
- カスタム化 146
- サーバーに接続 73
- ユーザー インターフェイス 67
- 起動 66
- 視覚的な ユーザー インターフェイス 67

SchemaAgent Server,

- GUI 55
- インターフェイス 55
- シャットダウン 60
- ユーザー インターフェイス 55
- 概要 48
- 既存の 53, 60
- 起動 52
- 視覚的な ユーザー インターフェイス 55
- 接続 74
- 非表示 53
- 表示 53

W

WDSL ファイル ,

- リレーションの表示 99

X

XML インスタンス ,

- MFD 内の入力 出力の切り替え 100
- リレーションの表示 97

XMLSpy,

- (チュートリアル) へ接続 29
- SchemaAgent クライアントとして 172
- クライアントとして (チュートリアル), 29

XSLT スタイルシート ,

- リレーションの表示 98
- 順序の変更 98

Z

インクルード ,

XMLSpy のみを使用した型(チュートリアル), 38

XMLSpy を使用した型(チュートリアル), 31

インストール ,

- SchemaAgent Client, 65
- SchemaAgent Server, 49
- コマンドラインの使用 49

インターフェイス ,

- SchemaAgent Client, 67
- SchemaAgent Server, 55
- エクスプローラー (SchemaAgent Client), 67
- ツールバー (SchemaAgent Client), 70
- デザイン ウィンドウ (SchemaAgent Client), 70
- メニュー バー (SchemaAgent Client), 70
- ログ ウィンドウ (SchemaAgent Server), 56
- 概要 ウィンドウ (SchemaAgent Client), 69
- 環境 ウィンドウ (SchemaAgent Server), 55

インポート ,

XMLSpy を使用した型(チュートリアル), 37

ウィンドウ ,

- エクスプローラー 67
- デザイン 70
- 概要 69
- 整理 71

ウィンドウの整理 ,

- 重ねて表示 164
- 垂直方向に並べて表示 164
- 水平方向に並べて表示 164

エクスプローラーウィンドウ ,

- オプション 75
- コンテキストオプション 75
- ディレクトリの作成 76
- フラットタブ 67
- 階層構造タブ 67
- 新規のファイルの作成 76

エクスポート ,

- イメージとしてデザイン 128
- デザインからイメージへ 133

エンドユーザー使用許諾契約書 174, 177**オプション ,**

- カスタム化 154
- コネクタのための 125
- その他 162
- デザイン 155
- フォント 158
- リレーション 161
- ログ 60
- 色 159

カスタム化 ,

カスタム化 ,

- SchemaAgent Client, 146
- SchemaAgent Design メニュー ,152
- オプション ,154
- キーボード ,150
- コマンド ,146
- コンテキストメニュー ,152
- ショートカット ,150
- ツール ,148
- ツールバー ,147, 154
- デフォルトのメニュー ,152
- メニュー ,152

キーボードショートカット ,

- すべてリセット ,150
- 割り当て ,150
- 割り当ての解除 ,150

クイック情報 ,

- MapForce デザイン ファイルのための ,105
- MFD ファイルのための ,105
- コンポーネントリレーションのための ,105
- スキーマのための ,105
- リレーションのための ,105
- 表示 ,105

グリッド ,

- 整列 MFD ボックス ,138
- 整列 スキーマ ボックス ,138
- 非表示 ,80
- 表示 ,80, 138

ゴーストスキーマ ,

- 再作成 ,116, 135
- 定義 ,112

コピー ,

- 選択 ,110, 134

コンテキストオプション ,

- エクスプローラー ,75
- コネクタのための ,125
- デザイン ウィンドウ ,116

コンポーネントのオリジン ,

- 表示 ,102

コンポーネントの使用法 ,

- 表示 ,102

サーバー ,

- SchemaAgent Server, 74
- ネットワーク サーバー ,74
- ローカルで作業 ,74
- 接続 ,73

サイズの変更 ,

- MFD ファイル ボックス ,121

- スキーマ ボックス ,121

- ファイル ボックス ,121

- 同じサイズに ,142

- 同じ高さに ,142

- 同じ幅に ,142

シャットダウン ,

- SchemaAgent Server, 60

ショートカット ,

- すべてリセット ,150
- 割り当て ,150
- 割り当ての解除 ,150

ズーム ,80, 138**スキーマ ,78**

- クイック情報 ,105
- ゴーストスキーマ ,112
- ゴーストスキーマの再作成 ,135
- リレーションの表示 ,97
- 再ロード ,116
- 作成 ,76
- 削除 ,78
- 選択 ,135
- 挿入 ,83
- 表示 ,88
- 表示 (チュートリアル), 25
- 編集 ,79
- 未知のスキーマ ,78
- 名前の変更 ,78

スキーマ ボックス ,

- グリッド上で整列 ,80
- サイズの変更 ,121
- 構造の折りたたみ ,87
- 構造の展開 ,87
- 自動的なサイズ調整 ,87
- 順序の変更 ,121
- 整理 ,87
- 整列 ,121

スタイルシート ,

- リレーションの表示 ,98

スペース ,

- 垂直方向に均等に ,142
- 水平方向に均等に ,142

セットアップ ,21**セットアップ SchemaAgent Client, 21****ソフトウェア製品ライセンス ,177****チュートリアル ,**

- IIR リレーションの作成 ,25
- MapForce デザイン ファイルの表示 ,44
- MFD ファイルの表示 ,44

チュートリアル ,

- XMLSpy のみを使用したインクルード型 38
- XMLSpy へ接続 29
- インクルードの作成 25
- インクルード型 31
- インストール 20
- インポート型 37
- クライアントとして XMLSpy を使用する 29
- サーバーへ接続 21
- サンプル ファイル 20
- セットアップ 21
- デザイン ウィンドウを開く 25
- ライセンス 20
- 概要 20
- 起動 SchemaAgent Client, 21
- 検索パス 22
- 検索パスの構成 22
- 更新されたリレーションを表示 42
- 構成 20
- 再定義型 32
- 再定義型の使用 35
- 作成 インポート 28
- 作成 再定義 27
- 表示 スキーマ 25
- 要素をグローバルにする 30

ツール ,

- カスタム化 148
- ユーザー定義を追加する 148
- 削除 ユーザー定義 148
- 変更 the sequence, 148
- 名前の変更 ユーザー定義 148

ツールバー ,

- SchemaAgent Client, 70
- オンとオフの切り替え 60, 137
- カスタム化 147
- ライセンス認証 147
- リセット 147
- 作成 147
- 削除 147
- 名前の変更 147

ディレクトリ ,

- 作成 76
- 削除 78
- 名前の変更 78

デザイン ,

- IR リレーション 129
- イメージとしてエクスポート 128
- リレーション 129

印刷 126

開く 82

作成 82

閉じる 82

保存 82

デザイン ウィンドウ 70

- MapForce デザイン ファイルから削除 112
- MapForce デザイン ファイルの挿入 83
- MapForce デザイン ファイルの表示 80
- MFD ファイル ボックスから削除 112
- MFD ファイル ボックスの整列 121
- MFD ファイルから削除 112
- MFD ファイルの挿入 83
- MFD ファイルの表示 80
- オプション 116
- コンテキストオプション 116
- サイズの変更 MFD ファイル ボックス 121
- サイズの変更 スキーマ ボックス 121
- サイズの変更 ファイル ボックス 121
- ズームインとアウト 80
- スキーマ ボックスから削除 112
- スキーマ ボックスの整列 121
- スキーマから削除 112
- スキーマの挿入 83
- ナビゲート 87
- ファイル ボックスから削除 112
- ファイル ボックスの整列 121
- ファイルから削除 112
- フォルダー コンテンツの挿入 83
- レイアウト 121
- 開く(チュートリアル), 25
- 階層的な 121
- 順序の変更 of MFD ファイル ボックス 121
- 順序の変更 of スキーマ ボックス 121
- 順序の変更 of ファイル ボックス 121
- 整理 ファイル ボックス 87
- 整列 MFD ファイル ボックス 121
- 整列 スキーマ ボックス 121
- 整列 ファイル ボックス 121
- 挿入 ファイル 83
- 表示 スキーマ 80
- 表示 ファイル 80
- 有向化の強制 121

ドキュメント ,

概要 6

ナビゲート ,

デザイン ウィンドウ内 87

ハイライト ,

ハイライト,

- III リレーション 94
- コンポーネントリレーション 94
- リレーション 94
- 接続線 94

ビュー,

- 構成 ファイル 17

ファイル,

- 再ロード 116
- 作成 76
- 削除 78
- 整列 121
- 名前の変更 78

ファイル ボックス,

- グリッド上で整列 80
- 整理 87
- 並び替え 幅別 125
- 並び替え 名前別 125

ファイル拡張子,

- 検索パス内での考慮 16

フォーカス,

- 設定 110
- 変更 110

フォルダー,

- 作成 76
- 削除 78
- 名前の変更 78

プレビュー,

- アクティブな ファイル 133
- デザイン 126

ヘルプを得る方法,

- インデックス タブ 61
- 検索タブ 61
- 目次タブ 61

ホットキー,

- すべてリセット 150
- 割り当て 150
- 割り当ての解除 150

メニュー,

- View, 137
- ウインドウ 164
- サブメニューのサイズの変更 142
- サブメニューのズーム 138
- サブメニューの順序 141
- サブメニューの整列 141
- サブメニューの選択 135
- サブメニューの端を整列する 140
- サブメニューの並び替え 143

サブメニューを均等に配置する 142

ツール 146

ファイル 60, 132

ヘルプ 60, 164

レイアウト 137

レイアウトサブメニュー 139

拡張機能 143

設定 60

表示 60

編集 134

メニュー バー,

SchemaAgent Client, 70

ユーザー インターフェイス,

SchemaAgent Client, 67

SchemaAgent Server, 55

エクスプローラー (SchemaAgent Client), 67

ツールバー (SchemaAgent Client), 70

デザイン ウインドウ (SchemaAgent Client), 70

メニュー バー (SchemaAgent Client), 70

ログ ウインドウ (SchemaAgent Server), 56

概要 ウインドウ (SchemaAgent Client), 69

環境 ウインドウ (SchemaAgent Server), 55

ユーザー レファレンス,

SchemaAgent Server, 60

ユーザー 参照,

SchemaAgent Client, 132

ライセンス 177

情報 174

ライセンス計測,

Altova 製品にて 176

ライセンス認証,

ツールバー 147

リセット,

キーボードショートカット 150

コンテキストメニュー 152

ショートカット 150

すべてのツールバー 147

ツールバー 147

ホットキー 150

メニュー バー 152

検索パス 17

リレーション,

MapForce デザイン リレーション 100

MFD ファイル リレーション 100

WSDL ファイル 99

XML インスタンス 97

XML スキーマ 97

XSLT スタイルシート 98

リレーション ,

インクルード(チュートリアル), 25

インポート(チュートリアル), 28

スキーマ 97

スタイルシート 98

デザイン 129

リンクされている 87

間接的に参照された 86

間接的に参照する 86

更新を表示 (チュートリアル), 42

再定義 (チュートリアル), 27

作成 (チュートリアル), 25

直接参照された 85

直接参照する 85

表示 94

リンクされている ファイル 87**ログ ウィンドウ** 56**移動** ,

IIR リレーション 131

リレーション 131

印刷 ,

アクティブな ファイル 133

デザイン 126

開く ,

SAD ファイル 82, 133

デザイン 82

デザイン ウィンドウ (チュートリアル), 25

デザイン ファイル 133

概要 ,

ログ 56

環境 55

概要 ウィンドウ 69**割り当て** ,

キーボードショートカット 150

ショートカット 150

ホットキー 150

割り当ての解除 ,

キーボードショートカット 150

ショートカット 150

ホットキー 150

環境 ウィンドウ ,

クライアントタブ 55

パスタブの構成 (SchemaAgent Server), 55

関連したコンポーネント ,

表示 102

既存の 134

SchemaAgent Server, 53, 60

起動 ,

SchemaAgent Client, 66

SchemaAgent Server, 52

検索パス ,

チュートリアル 22

リセット 17

構成 12

再ロード 17, 144

追加 14

編集 14

構成 ,

SchemaAgent Server GUI, 58

ファイル拡張子 16

ログ オプション 58, 60

検索パス 12

構成 ファイル ,

ビュー 17

ロケーション 17

再ロード ,

MapForce デザイン ファイル 116

MFD ファイル 116

スキーマ 116

ファイル 116

検索パス 17, 144

再作成 ,

ゴーストスキーマ 116, 135

再定義 ,

XMLSpy を使用した型(チュートリアル), 32

作成 ,

IIR (チュートリアル), 25

IIR リレーション 129

MapForce デザイン ファイル 76

MFD ファイル 76

SAD ファイル 82

インクルード(チュートリアル), 25

インポート(チュートリアル), 28

スキーマ 76

ツールバー 147

ディレクトリ 76

デザイン 82

ファイル 76

フォルダー 76

リレーション 129

リレーションシップ (チュートリアル), 25

再定義 (チュートリアル), 27

新規のデザイン 133

作成 IIR リレーション ,

インクルード(チュートリアル), 25

インポート(チュートリアル), 28

作成 IIR リレーション ,

再定義 (チュートリアル), 27

削除 ,112

IIR リレーション ,125, 131

MapForce デザイン ファイル ,78, 112

MapForce デザイン ファイル from デザイン ,112

MFD ファイル ,78, 112

MFD ファイル ボックス ,112

コネクタのライン ,125

コンテキストメニューからのコマンド ,152

スキーマ ,78, 112

スキーマ ボックス ,112

ツールバー ,147

ディレクトリ ,78

デザインから MFD ファイル ,112

デザインからスキーマ ,112

デザインからファイル ,112

ファイル ,78, 112

ファイル ボックス ,112

フォルダー ,78

メニューからのコマンド ,152

ユーザー定義ツール ,148

リレーション ,131

リレーションシップ ,125

選択 ,135

参照された ファイル ,

間接的に ,86

直接 ,85

参照するファイル ,

間接的に ,86

参照するファイル ,

直接 ,85

参照パス ,

すべて修正 ,145

修正 ,144

視覚的な ユーザー インターフェイス ,

SchemaAgent Client, 67

SchemaAgent Server, 55

エクスプローラー (SchemaAgent Client), 67

ツールバー (SchemaAgent Client), 70

デザイン ウィンドウ (SchemaAgent Client), 70

メニュー バー (SchemaAgent Client), 70

ログ ウィンドウ (SchemaAgent Server), 56

概要 ウィンドウ (SchemaAgent Client), 69

環境 ウィンドウ (SchemaAgent Server), 55

試用期間 ,

Altova ソフトウェア製品の試用 ,175

修正 ,

すべての参照パス ,145

参照パス ,114, 144

正確ではないパス ,114

順序 ,

関連した XSLT, 98

順序の変更 ,

最高面に移動 ,141

最前面へ移動 ,141

状態バー ,

オンとオフの切り替え ,137

整理 ,

ウィンドウ ,71

ファイル ボックス in デザイン ,87

整列 ,

MFD ファイル ボックス ,121

グリッド上の MFD ファイル ボックス ,138

グリッド上のスキーマ ボックス ,138

スキーマ ボックス ,121

デザイン内のファイル ,121

ファイル ボックス on グリッド ,80

右寄せ ,140

下寄せ ,140

左寄せ ,140

上寄せ ,140

垂直方向 ,141

垂直方向の中央に並べる ,140

水平方向 ,141

水平方向の中央に並べる ,140

正確では内パス ,112**切り取り ,**

選択 ,134

切り替え ,

ツールバー ,60, 137

状態バー ,137

接続 ,

<%LOCAL- サーバー%, 74

SchemaAgent Server, 74

XMLSpy (チュートリアル), 29

サーバー ,73

サーバーへ ,143

選択 ,110

IIR リレーション ,94

MapForce デザイン ファイル ,110

MFD ファイル ,110

コピー ,110, 134

コンポーネントリレーション ,94

スキーマ ,110, 135

ソース ,125

選択 ,110

- ターゲット ,125
- ファイル ,110
- リレーション ,94
- 関連した ファイル ,110
- 削除 ,135
- 切り取り ,134
- 接続線 ,94
- 貼り付け ,110
- 同期化 ,110, 135
- 複数の ファイル ,110

挿入 ,

- MapForce デザイン ファイル ,83
- MFD ファイル ,83
- スキーマ ,83
- ファイル ,83
- フォルダー コンテンツ ,83
- リンクされている ファイル ,84
- 関連した MapForce デザイン ファイル ,84
- 関連した MFD ファイル ,84
- 関連した スキーマ ,84
- 関連した ファイル ,84
- 参照された ファイル ,84
- 直接 参照された ファイル ,84

著作権に関する情報 ,174**追加 ,**

- コマンド ,146
- ユーザー定義ツール ,148
- 検索パス ,14

貼り付け ,

- クリップボードのコンテンツ ,134
- 選択 ,110

同期 選択 ,110**同期化 ,**

- 選択 ,135

配布 ,

- Altova ソフトウェア製品 ,174
- Altova ソフトウェア製品の配布 ,175

非表示 ,

- SchemaAgent Server, 53
- グリッド ,80

表示 ,80, 94, 97, 98, 99, 100, 102, 104, 105, 125, 138, 164

- IIR リレーション ,94
- MapForce デザイン ファイル ,80, 104
- MapForce デザイン ファイル (チュートリアル), 44
- MapForce デザイン リレーション ,100
- MFD ファイル ,80, 104

- MFD ファイル (チュートリアル), 44
- MFD ファイル リレーション ,100
- SchemaAgent Server, 53
- WSDL リレーション ,99
- XML インスタンス リレーション ,97
- XML スキーマ リレーション ,97
- XSLT スタイルシートリレーション ,98
- XSLT リレーション ,98
- クイック情報 ,105
- グリッド ,80, 138
- コンポーネントのオリジン ,102
- コンポーネントの使用方法 ,102
- スキーマ ,80, 88
- スキーマ (チュートリアル), 25
- スキーマ リレーション ,97
- スタイルシートリレーション ,98
- デザイン ファイル (チュートリアル), 44
- ファイル ,80
- リレーション ,94
- リレーション パス ,125
- 関連したコンポーネント ,102
- 現在開かれている ウィンドウ ,164
- 更新されたリレーション (チュートリアル), 42

評価機関 ,

- Altova ソフトウェア製品 ,174

並び替え ,

- 降順 ,143
- 昇順 ,143
- 幅別 ,143
- 名前別 ,143

並べ替え ,

- ファイル ボックス ,125
- 幅別 ,125
- 名前別 ,125

閉じる ,

- SAD ファイル ,82
- アクティブな ウィンドウ ,133
- コンテキストメニュー ウィンドウ ,152
- デザイン ,82

変更 ,

- MFD ファイル ボックスの順序 ,121
- スキーマ ボックスの順序 ,121
- ツールバーの名前 ,147
- ファイル ボックスの順序 ,121
- フォーカス ,110
- メニューの外観 ,152
- 関連した XSLT の順序 ,98

編集 ,

編集 ,

MapForce デザイン ファイル ,79

MFD ファイル ,79

スキーマ ,79

ファイル ,79

検索パス ,14

保存 ,

SAD ファイル ,82

アクティブな ウィンドウのコンテンツ ,133

デザイン ,82

デザインからイメージへ ,133

新規のファイルへ ,133

法的な情報 ,174**未知のスキーマ ,78****名前の変更 ,**

MapForce デザイン ファイル ,78

MFD ファイル ,78

スキーマ ,78

ツールバー ,147

ディレクトリ ,78

ファイル ,78

フォルダー ,78

ユーザー定義ツール ,148

良くある質問 ,62**連絡 ,**

Altova サポートセンター ,62